

資料編

目 次

1 教育・放送関係

【1】開設授業科目および放送番組表	6
(1) 2023(令和5)年度開設授業科目	6
(2) 2023(令和5)年度第1学期放送番組表	13
【2】2023(令和5)年度生涯学習支援番組	16
(1) 特別講義(テレビ)	16
(2) 特別講義(ラジオ)	16
(3) 生涯学習支援番組	17
【3】2023(令和5)年度字幕番組	29
(1) 授業番組	29
(2) 特別講義	29
(3) 生涯学習支援番組	29
【4】2023(令和5)年度教務スケジュール	30
(1) 学部	30
(2) 大学院修士課程	31
(3) 大学院博士後期課程	32
【5】入学生・在学生数の年度別推移	33
(1) 入学生	33
(2) 在学生	35
【6】学習者数の推移	37
(1) 入学者数の推移(年間)	37
(2) 在学者数の推移(第1学期)	38
【7】2023(令和5)年度在学生の属性(第1学期)	39
(1) 学部	39
(2) 大学院	39
【8】卒業生・修了生の状況	40
(1) 卒業生・修了生数の推移	40
(2) 卒業生の属性	41
(3) 修了生の属性	41

【9】教員数の推移	42
(1) 専任教員数の推移	42
(2) 客員教員数の推移	42
(3) 非常勤講師数の推移	42
【10】単位互換協定締結等の状況	43
(1) 単位互換協定締結大学（大学院を含む）・短期大学・高等専門学校	43
(2) 連携協力関係学校	50
【11】放送教材貸出状況	52
【12】図書受入冊数（累計）	53
【13】奨学寄附金および科学研究費補助金の受入れ状況	54
(1) 奨学寄附金の受入れ実績	54
(2) 科学研究費補助金の交付状況	54
【14】放送システム概要	55
【15】放送番組基準	56
【16】視聴状況調査	57
【17】アジア公開大学連合（AAOU）関係	61
(1) 理事校一覧	61
(2) 年次会議の開催状況	61
【18】国際遠隔教育会議（ICDE）	62
(1) 理事校一覧	62
(2) 国際遠隔教育会議（ICDE）関係の開催状況	62
【19】Web通信指導実施科目数および利用率等の推移	63
【20】授業形態別科目数（放送授業を除く）	64
(1) 面接授業科目数	64
(2) オンライン授業科目数	64
(3) ライブWeb授業科目数	64
【21】公開講演会開催回数（学習センター・本部主催）	64

2 大学院博士後期課程設置関係	
【1】大学院博士後期課程設置許可書	65
3 組織・運営関係	
【1】機構の変遷	66
【2】役員・教職員数の推移	71
【3】予算額の推移	71
【4】施設概要	72
【5】本部建物配置図	73
【6】学習センター等施設整備状況	74
4 放送大学学園関係	
【1】放送大学学園法	75
【2】放送大学学園法施行令	93
【3】放送大学学園法施行規則	94
【4】放送大学学園寄附行為	96
5 政府の計画および本学のビジョン	
【1】第1期教育振興基本計画	104
【2】第2期教育振興基本計画	104
【3】第3期教育振興基本計画	105
【4】アクションプランの変遷	106
6 名簿	
【1】歴代役員	107
【2】歴代学長・副学長	109

1 教育・放送関係

[1] 開設授業科目および放送番組表

(1) 2023 (令和5) 年度開設授業科目

① 学部

TV：BSテレビで放送する科目 R：BSラジオで放送する科目
 OL：オンラインで配信する科目
 TV※：インターネット配信限定で視聴する科目

区分	科目名	(主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
基盤科目	運動と健康('22)	(関根 紀子)	TV	2
	小学校外国語教育教授基礎論('17) —新学習指導要領に向けた外国語活動・外国語への対応— (粕谷 恭子、直山 木綿子)		OL	2
	市民自治の知識と実践('21)	(山岡 龍一、岡崎 晴輝)	R	2
	問題解決の進め方('19)	(秋光 淳生、柴山 盛生)	TV	2
	国際理解のために('19)	(高橋 和夫)	R	2
	自然科学はじめの一步('22)	(岸根 順一郎、大森 聡一)	TV	2
	子育て支援—法と政策を学ぶ('20)	(大曾根 寛、倉田 賀世)	OL	1
	社会と産業の倫理('21)	(松原 隆一郎、山岡 龍一)	R	2
	より良い思考の技法('23) —クリティカル・シンキングへの招待— (菊池 聡)		TV	2
	日本語リテラシー('21)	(滝浦 真人)	TV	2
	日本語リテラシー演習('18)	(滝浦 真人)	OL	1
	日本語アカデミックライティング('22)	(滝浦 真人)	TV※	2
	遠隔学習のためのパソコン活用('21) (秋光 淳生、三輪 真木子)		TV	2
	地理空間情報の基礎と活用('22)	(川原 靖弘、関本 義秀)	TV	2
	情報学へのとびら('22)	(加藤 浩、大西 仁)	TV	2
	データサイエンス・リテラシー導入('22)	(中谷 多哉子)	OL	1
	データサイエンス・リテラシー基礎('22)	(加藤 浩)	OL	1
	データサイエンス・リテラシー心得('22)	(辰己 丈夫)	OL	1
	初歩からの数学('18)	(隈部 正博)	TV	2
	身近な統計('18)	(石崎 克也、渡辺 美智子)	TV	2
演習初歩からの数学('20)	(隈部 正博)	OL	1	
外国語	ビートルズ de 英文法('21)	(佐藤 良明)	R	2
	英語で「道」を語る('21)	(大橋 理枝、斎藤 兆史)	TV	2
	グローバル時代の英語('22) (宮本 陽一郎、大橋 理枝、クリスティ コリンズ)		R	2
	英語で読む大統領演説('20)	(宮本 陽一郎)	TV	2
	教養で読む英語('19)	(大橋 理枝)	OL	2
	看護・医療の英語('19)	(三品 由紀子、大石 和欣)	OL	1
	ドイツ語Ⅰ('23)	(井出 万秀)	TV	2
	ドイツ語Ⅱ('23)	(井出 万秀)	R	2
	フランス語Ⅰ('18)	(パトリック・ドゥヴォス、桑田 光平)	TV	2
	フランス語Ⅱ('18)	(パトリック・ドゥヴォス、森元 庸介)	R	2
中国語Ⅰ('23)—夏目漱歩東京— (宮本 徹)		TV	2	
中国語Ⅱ('23)—劉汀「舅爺」他— (宮本 徹)		R	2	
韓国語Ⅰ('20)	(永原 歩、生越 直樹)	TV	2	
韓国語Ⅱ('20)	(生越 直樹、永原 歩)	R	2	
初歩のロシア語('22)	(沼野 恭子)	R	2	
保健体育	体育実技		—	1
生活と福祉	生活経済学('20)	(重川 純子)	R	2
	暮らしに活かす不動産学('22)	(齊藤 広子、中城 康彦)	TV	2
	生活環境情報の表現—GIS入門('20) (川原 靖弘、瀬戸 寿一※)		OL	1
	健康と社会('23)	(戸ヶ里 泰典)	R	2
	健康への力の探究('19)	(戸ヶ里 泰典、中山 和弘)	R	2
	疾病の成立と回復促進('21) —人体の構造と機能及び疾病B— (岡田 忍、佐伯 由香)		TV	2
	疾病の回復を促進する薬('21)	(櫻井 隆、服部 信孝)	TV	2
	人体の構造と機能('22)—人体の構造と機能及び疾病A— (坂井 建雄、岡田 隆夫)		TV	2
	睡眠と健康('21)	(宮崎 総一郎、林 光緒)	R	2
	がんを知る('16)	(田城 孝雄、渡邊 清高)	OL	2
	感染症と生体防御('18)	(田城 孝雄、北村 聖)	R	2
	がんとともに生きる('18)	(田城 孝雄、渡邊 清高)	OL	1
	健康長寿のためのスポーツロジ—('19) (田城 孝雄、内藤 久士)		TV	2
	循環器の健康科学('20)	(田城 孝雄、佐藤 真治※)	OL	1
	社会福祉—新しい地帯を拓く('22)	(山田 知子)	TV	2
	貧困の諸相('23)	(駒村 康平、渡辺 久里子)	R	2

区分	科目名	(主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
導入科目	社会統計学入門('18) 【社会と産業コースと共用】	(林 拓也)	R	2
	社会調査の基礎('19) 【社会と産業コースと共用】	(北川 由紀彦、山口 恵子)	TV	2
	かたちの化学—化学の考え方入門('23) 【自然と環境コースと共用】	(橋本 健朗)	TV	2
	分子の変化からみた世界('23) 【自然と環境コースと共用】	(安池 智一)	TV	2
	生活環境と情報認知('20)	(川原 靖弘、片桐 祥雅)	TV	2
	持続可能な社会と生活('23)	(関 正雄)	TV	2
	ソーシャルシティ('23)	(川原 靖弘、鈴木 淳一)	TV	2
	食と健康('18)	(吉村 悦郎、佐藤 隆一郎)	TV	2
	リスクコミュニケーションの探究('23)	(奈良 由美子)	R	2
	コミュニティがつなぐ安全・安心('20)	(林 春男)	TV	2
生活と福祉	リスク社会の家族変動('20)	(田間 泰子)	R	2
	家族問題と家族支援('20)	(下夷 美幸)	R	2
	食の安全('21)	(吉村 悦郎、関崎 勉)	TV	2
	公衆衛生('19)	(田城 孝雄、横山 和仁)	R	2
	認知症と生きる('21)	(井出 訓、山川 みやえ)	TV	2
	リハビリテーション('19)	(金田 嘉清、大塚 圭)	R	2
	今日のメンタルヘルス('23) —健康・医療心理学の実践的展開— (石丸 昌彦)		TV	2
	看護学概説('22)	(山内 豊明)	R	2
	基礎看護学('16)	(戸ヶ里 泰典、井上 智子)	TV	2
	地域・在宅看護論('23)	(永田 智子、小野 若菜子)	TV	2
	災害看護学・国際看護学('20)	(神崎 初美、西上 あゆみ)	TV	2
	看護管理と医療安全('18)	(大島 弓子、飯島 佐知子)	R	2
	精神疾患とその治療('20)	(石丸 昌彦)	R	2
	高齢期を支える('23) —高齢者が社会を支える時代に向け— (板本 一三郎)		R	2
	地域福祉の課題と展望('22)	(斉藤 弥生、小松 理佐子)	TV	2
	社会福祉実践とは何か('22)	(横山 登志子)	R	2
	社会政策の国際動向と日本の位置('23)	(居神 浩)	TV	2
	ライフステージと社会保障('20)	(丸谷 浩介)	R	2
	子どもの人権をどうまもるのか('21) —福祉施策と実践を学ぶ— (山縣 文治)		TV	2
	生物の進化と多様化の科学('17) 【自然と環境コースと共用】	(二河 成男)	TV	2
環境を可視化する技術と応用('23) 【社会と産業コースと共用】	(中村 恭志、浅崎 貴史)	TV	2	
ヒューマンインタフェース('23) 【情報コースと共用】	(増井 俊之、小池 英樹)	TV※	2	
感覚と応答の生物学('23) 【自然と環境コースと共用】	(二河 成男)	TV	2	
卒業研究		—	6	
総合科目	社会福祉と法('20)	(大曾根 寛、原田 欣宏)	R	2
	レジリエンスの諸相('18) —人類史的視点からの挑戦— (奈良 由美子、稲村 哲也)		TV	2
	死生学のフィールド('18)	(石丸 昌彦、山崎 浩司)	R	2
	地域包括ケアシステムと在宅医療('18) (田城 孝雄、服部 真治)		OL	1
	住まいの環境論('23) 【社会と産業コースと共用】	(田中 稲子)	TV	2
心理と教育	教育社会学概論('19)	(岩永 雅也)	TV	2
	戦後日本教育史('18)	(貝塚 茂樹)	R	2
	発達科学の先人たち('16)	(岩永 雅也、星 薫)	R	2
	学校と社会を考える('17)	(田中 統治)	OL	2
	キャリアコンサルティング概説('20) (岩永 雅也、藤田 真也※、原田 順子※、中井 智子※、 小杉 礼子※、末廣 啓子※、石丸 昌彦※、岡崎 淳一※)		OL	1
	現代教育入門('21)	(岩永 雅也、岩崎 久美子)	R	2
	心理と教育へのいざない('18) (田中 統治、向田 久美子、佐藤 仁美)		R	2
	発達心理学概論('17)	(向田 久美子)	R	2

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
導入科目	心理学概論('18) (森 津太子、向田 久美子)	TV	2
	教育・学校心理学('20) (進藤 聡彦、谷口 明子)	TV	2
	社会統計学入門('18) 【社会と産業コースと共用】 (林 拓也)	R	2
	総合人類学としてのヒト学('18) 【人間と文化コースと共用】 (高倉 浩樹)	R	2
	社会調査の基礎('19) 【社会と産業コースと共用】 (北川 由紀彦、山口 恵子)	TV	2
	コミュニケーション学入門('19) 【人間と文化コースと共用】 (大橋 理枝、根橋 玲子)	R	2
	博物館で学ぶ文化人類学の基礎('20) 【人間と文化コースと共用】 (稲村 哲也)	OL	2
	疾病の成立と回復促進('21) -人体の構造と機能及び疾病B- 【生活と福祉コースと共用】 (岡田 忍、佐伯 由香)	TV	2
	睡眠と健康('21) 【生活と福祉コースと共用】 (宮崎 総一郎、林 光緒)	R	2
	社会学概論('21) 【社会と産業コースと共用】 (北川 由紀彦)	TV	2
	Rで学ぶ確率統計('21) 【情報コースと共用】 (秋光 淳生)	OL	1
	社会福祉-新しい地平を拓く('22) 【生活と福祉コースと共用】 (山田 知子)	TV	2
	人体の構造と機能('22) -人体の構造と機能及び疾病A- 【生活と福祉コースと共用】 (坂井 建雄、岡田 隆夫)	TV	2
	日常生活のデジタルメディア('22) 【情報コースと共用】 (青木 久美子、高橋 秀明)	TV	2
	博物館概論('23) 【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成)	TV	2
	貧困の諸相('23) 【生活と福祉コースと共用】 (駒村 康平、渡辺 久里子)	R	2
	教育調査の基礎('20) (藤田 武志、西島 央)	TV	2
	生涯学習を考える('17) (岩永 雅也、岩崎 久美子)	OL	2
	地域コミュニティと教育('18) (玉井 康之、夏秋 英房)	TV	2
	現代の家庭教育('18) (田中 理絵)	R	2
新時代の生徒指導('23) (東 宏行、伊東 毅)	TV	2	
乳幼児の保育・教育('21) (野口 隆子)	R	2	
学校と法('20) (坂田 仰)	R	2	
教育の行政・政治・経営('23) (青木 栄一、川上 泰彦)	R	2	
日本の文化と教育('23) (矢口 徹也、辻 智子)	R	2	
カリキュラムと学習過程('16) (浅沼 茂、奈須 正裕)	R	2	
道徳教育論('21) (貝塚 茂樹、林 泰成)	R	2	
肢体不自由児の教育('20) (川間 健之介、長沼 俊夫)	TV	2	
特別支援教育基礎論('20) (安藤 隆男)	R	2	
特別支援教育総論('19) (加瀬 進、高橋 智)	R	2	
知的障害教育総論('20) (太田 俊己、佐藤 慎二)	R	2	
日本の教職論('22) (大野 裕己、露口 健司)	TV※	2	
幼児教育の指導法('22) (師岡 章)	R	2	
教育課程の意義及び編成の方法('15) (福元 真由美)	OL	1	
幼児理解の理論及び方法('15) (中澤 潤、砂上 史子)	OL	1	
学校図書館サービス論('21) (前田 稔、堀川 照代)	TV※	2	
学校リスク論('22) (内田 良)	TV	2	
社会教育経営実践論('22) (佐藤 晴雄、佐々木 英和)	TV※	2	
生涯学習支援の理論と実践('22) (赤尾 勝己、吉田 敦也)	TV※	2	
SDGsと教育('22) (及川 幸彦、鈴木 克徳※、中澤 静男※)	OL	2	
神経・生理心理学('22) (高瀬 堅吉)	TV	2	
錯覚の科学('20) (菊池 聡)	TV	2	
知覚・認知心理学('23) (石口 彰)	TV	2	
進化心理学('23) (大坪 庸介)	TV	2	
心理学統計法('21) (清水 裕士)	TV	2	
心理学研究法('20) (三浦 麻子)	TV	2	
社会・集団・家族心理学('20) (森 津太子)	TV	2	
産業・組織心理学('20) (山口 裕幸)	R	2	
学習・言語心理学('21) (高橋 秀明)	TV	2	
心理臨床と身体の病('16) (小林 真理子)	TV	2	
乳幼児・児童の心理臨床('17) (小林 真理子、塩崎 尚美)	TV	2	

心理と教育

専門科目

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
心理と教育 専門科目	思春期・青年期の心理臨床('19) (大山 泰宏)	R	2
	中高年の心理臨床('20) (宇都宮 博、大川 一郎)	R	2
	認知行動療法('20) (下山 晴彦、神村 栄一)	TV	2
	臨床心理学概論('20) (倉光 修)	TV	2
	心理職の専門性('20) -公認心理師の職責- (吉川 眞理、平野 直己)	R	2
	心理的アセスメント('20) (森田 美弥子、永田 雅子)	R	2
	司法・犯罪心理学('20) (廣井 亮一)	R	2
	心理カウンセリング序説('21) -心理学的支援法- (大山 泰宏)	TV	2
	感情・人格心理学('21) (大山 泰宏、佐々木 玲仁)	R	2
	心理臨床における法・倫理・制度('21) -関係行政論- (津川 律子、元永 拓郎)	R	2
	福祉心理学('21) (村松 健司、坪井 裕子)	R	2
	障害者・障害児心理学('21) (古賀 精治)	R	2
	精神分析とユング心理学('23) (吉川 眞理、田中 健夫)	R	2
	都市と地域の社会学('18) 【社会と産業コースと共用】 (森岡 清志、北川 由紀彦)	R	2
	博物館情報・メディア論('18) 【人間と文化コースと共用】 (稲村 哲也、近藤 智嗣)	TV	2
	情報社会のユニバーサルデザイン('19) 【情報コースと共用】 (広瀬 洋子、関根 千佳)	TV	2
	Webのしくみと応用('19) 【情報コースと共用】 (森本 容介、伊藤 一成)	TV	2
	統計学('19) 【自然と環境コースと共用】 (藤井 良宜)	R	2
	家族問題と家族支援('20) 【生活と福祉コースと共用】 (下夷 美幸)	R	2
	精神疾患とその治療('20) 【生活と福祉コースと共用】 (石丸 昌彦)	R	2
	大学マネジメント論('20) 【社会と産業コースと共用】 (小方 直幸)	R	2
	データの分析と知識発見('20) 【情報コースと共用】 (秋光 淳生)	TV	2
	ユーザ調査法('20) 【情報コースと共用】 (高橋 秀明)	TV	2
	情報化社会におけるメディア教育('20) 【情報コースと共用】 (苑 復傑、中川 一史)	R	2
	認知症と生きる('21) 【生活と福祉コースと共用】 (井出 訓、山川 みやえ)	TV	2
	子どもの人権をどうまもるのか('21) -福祉施策と実践を学ぶ- 【生活と福祉コースと共用】 (山縣 文治)	TV	2
	マーケティング('21) 【社会と産業コースと共用】 (井上 淳子、石田 大典)	TV	2
	NPO・NGOの世界('21) 【社会と産業コースと共用】 (大橋 正明、利根川 佳子)	R	2
	小学校プログラミング教育概論('21) 【情報コースと共用】 (中川 一史、小林 祐紀※)	OL	1
	博物館教育論('22) 【人間と文化コースと共用】 (大高 幸、寺島 洋子)	R	2
	教育のためのICT活用('22) 【情報コースと共用】 (中川 一史、苑 復傑)	TV	2
	メディア論('22) 【情報コースと共用】 (水越 伸)	TV	2
	ソーシャルシティ('23) 【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、鈴木 淳一)	TV	2
	リスクコミュニケーションの探究('23) 【生活と福祉コースと共用】 (奈良 由美子)	R	2
今日のメンタルヘルス('23) -健康・医療心理学の実践的展開- 【生活と福祉コースと共用】 (石丸 昌彦)	TV	2	
博物館経営論('23) 【人間と文化コースと共用】 (佐々木 亨、今村 信隆)	R	2	
ヒューマンインタフェース('23) 【情報コースと共用】 (増井 俊之、小池 英樹)	TV※	2	
情報セキュリティの理論と基盤('23) 【情報コースと共用】 (菊池 浩明、上原 哲太郎※)	OL	1	
情報セキュリティの現状と展望('23) 【情報コースと共用】 (上原 哲太郎、菊池 浩明※)	OL	1	

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
心理と教育	専門科目	高齢期を支える('23) －高齢者が社会を支える時代に向け－ 【生活と福祉コースと共用】 (栃本 一三郎)	R 2
		現代に生きる現象学('23)－意味・身体・ケア－ 【人間と文化コースと共用】 (榊原 哲也、本郷 均)	R 2
		持続可能な社会と生活('23) 【生活と福祉コースと共用】 (関 正雄)	TV 2
		サービスサイエンス('23) 【社会と産業コースと共用】 (岡田 幸彦、原 辰徳)	R 2
		卒業研究	－ 6
	総合科目	色を探究する('23) (佐藤 仁美、二河 成男)	TV 2
		死生学のフィールド('18) 【生活と福祉コースと共用】 (石丸 昌彦、山崎 浩司)	R 2
		レジリエンスの諸相('18) －人類史的視点からの挑戦－ 【生活と福祉コースと共用】 (奈良 由美子、稲村 哲也)	TV 2
		情報化社会と国際ボランティア('19) 【情報コースと共用】 (山田 恒夫)	TV 2
		情報技術が拓く人間理解('20) 【情報コースと共用】 (仁科 エミ、辰己 丈夫)	TV 2
時間を究める('23) 【人間と文化コースと共用】 (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)	OL 1		
社会と産業	導入科目	経済社会を考える('19) (坂井 素思、間々田 孝夫)	R 2
		社会調査の基礎('19) (北川 由紀彦、山口 恵子)	TV 2
		社会統計学入門('18) (林 拓也)	R 2
		社会学概論('21) (北川 由紀彦)	TV 2
		一般市民のための法学入門('23) (李 鳴)	R 2
		グローバル化時代の日本国憲法('19) (山元 一)	TV 2
		政治学入門('22) (山岡 龍一、待鳥 聡史)	R 2
		経営学概論('18) (山田 幸三)	R 2
		現代の会計('20) (齋藤 真哉)	TV 2
		新しい時代の技術者倫理('15) (札幌 順)	TV 2
		環境問題のとらえ方と解決方法('17) (岡田 光正、藤江 幸一)	R 2
		教育社会学概論('19) 【心理と教育コースと共用】 (岩永 雅也)	TV 2
		生活経済学('20) 【生活と福祉コースと共用】 (重川 純子)	R 2
		生活環境情報の表現－GIS入門('20) 【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、瀬戸 寿一※)	OL 1
		日本近現代史('21) 【人間と文化コースと共用】 (季武 嘉也)	R 2
	暮らしに活かす不動産学('22) 【生活と福祉コースと共用】 (齊藤 広子、中城 康彦)	TV 2	
	専門科目	西洋哲学の根源('22) 【人間と文化コースと共用】 (納富 信留)	R 2
		健康と社会('23) 【生活と福祉コースと共用】 (戸ヶ里 泰典)	R 2
		貧困の諸相('23) 【生活と福祉コースと共用】 (駒村 康平、渡辺 久里子)	R 2
		哲学・思想を今考える('23)－歴史の中で－ 【人間と文化コースと共用】 (魚住 孝至)	R 2
		情報と法('23) 【情報コースと共用】 (児玉 晴男)	R 2
		都市と地域の社会学('18) (森岡 清志、北川 由紀彦)	R 2
		現代経済学('19) (依田 高典)	TV 2
		現代国際社会と有機農業('23) (中西 徹)	R 2
		グローバル経済史('18) (水島 司、島田 竜登)	TV 2
		財政と現代の経済社会('19) (諸富 徹)	TV 2
		災害社会学('20) (金菱 清)	TV 2
		金融と社会('20) (野間 敏克)	TV 2
		大学マネジメント論('20) (小方 直幸)	R 2
		椅子クラフツ文化の社会経済学('20) (坂井 素思)	OL 1
市民生活と裁判('22) (川島 清嘉、川島 志保)		TV 2	
刑法と生命('21) (和田 俊憲)	R 2		
民法('22) (武川 幸嗣)	R 2		
行政法('22) (高橋 信行)	R 2		

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
社会と産業	専門科目	人生100年時代の家族と法('23) (本山 敦、岩井 勝弘)	TV 2
		日本政治思想史('21) (原 武史)	R 2
		国際法('19) (柳原 正治)	R 2
		著作権法('22) (作花 文雄)	R 2
		雇用社会と法('21) (國武 英生)	TV 2
		全体主義と新自由主義のあいだ('23) (山岡 龍一)	OL 2
		日本政治外交史('19) (五百旗頭 薫、奈良岡 聡智)	TV 2
		現代の国際政治('22) (白鳥 潤一郎、高橋 和夫)	TV 2
		中東の政治('20) (高橋 和夫)	TV 2
		ヨーロッパ政治史('20) (中山 洋平、水島 治郎)	R 2
		現代東アジアの政治と社会('20) (家近 亮子)	R 2
		行政学概説('20) (金井 利之)	R 2
		マーケティング('21) (井上 淳子、石田 大典)	TV 2
		国際経営('19) (原田 順子、洞口 治夫)	R 2
		管理会計('22) (齋藤 正章)	R 2
		簿記入門('22) (齋藤 正章)	R 2
		ファイナンス入門('23) (齋藤 正章、阿部 圭司)	TV 2
		経営情報学入門('23) (岸 真理子、佐藤 亮)	TV 2
		現代の内部監査('22) (齋藤 正章、蟹江 章)	TV 2
		フードシステムと日本農業('22) (新山 陽子)	R 2
		SDGs下のアジア産業論('23) (古橋 元)	R 2
		サプライチェーン・マネジメント('21) (松井 美樹)	TV 2
		NPO・NGOの世界('21) (大橋 正明、利根川 佳子)	R 2
		サービスサイエンス('23) (岡田 幸彦、原 辰徳)	R 2
		イノベーション・マネジメント('23) (伊藤 宗彦)	R 2
	地球温暖化と社会イノベーション('18) (六川 修一、向井 人史)	TV 2	
	環境を可視化する技術と応用('23) (中村 恭志、浅崎 貴史)	TV 2	
	緑地環境の計画('21) (宮城 俊作)	OL 2	
	地域コミュニティと教育('18) 【心理と教育コースと共用】 (玉井 康之、夏秋 英房)	TV 2	
	コミュニティがつなぐ安全・安心('20) 【生活と福祉コースと共用】 (林 春男)	TV 2	
	リスク社会の家族変動('20) 【生活と福祉コースと共用】 (田間 泰子)	R 2	
	ライフステージと社会保障('20) 【生活と福祉コースと共用】 (丸谷 浩介)	R 2	
	社会・集団・家族心理学('20) 【心理と教育コースと共用】 (森 津太子)	TV 2	
	産業・組織心理学('20) 【心理と教育コースと共用】 (山口 裕幸)	R 2	
	日本の近世('20) 【人間と文化コースと共用】 (杉森 哲也)	R 2	
	データの分析と知識発見('20) 【情報コースと共用】 (秋光 淳生)	TV 2	
	近現代ヨーロッパの歴史('22)－人の移動から見る－ 【人間と文化コースと共用】 (北村 暁夫、中嶋 毅)	TV 2	
	メディア論('22) 【情報コースと共用】 (水越 伸)	TV 2	
	持続可能な社会と生活('23) 【生活と福祉コースと共用】 (関 正雄)	TV 2	
	社会政策の国際動向と日本の位置('23) 【生活と福祉コースと共用】 (居神 浩)	TV 2	
	ソーシャルシティ('23) 【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、鈴木 淳一)	TV 2	
	卒業研究	－ 6	
	総合科目	海からみた産業と日本('22) (原田 順子、篠原 正治)	R 2
		エネルギーと社会('19) (迫田 章義、堤 敦司)	TV 2
		新時代の組織経営と働き方('20) (原田 順子、若林 直樹)	TV 2
開発経済学：アジアの農村から('20) (大野 昭彦)		TV 2	
世界の中の日本外交('21) (白鳥 潤一郎、高橋 和夫)		TV 2	
環境と社会('21) (大塚 直)		R 2	
空間と政治('22) (原 武史)		TV 2	
住まいの環境論('23) (田中 稲子)		TV 2	

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
社会と産業	時間を究める('23)【人間と文化コースと共用】 (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)	OL	1
	社会福祉と法('20) 【生活と福祉コースと共用】 (大曾根 寛、原田 欣宏)	R	2
人間と文化	哲学・思想を今考える('23) —歴史の中で— (魚住 孝至)	R	2
	西洋哲学の根源('22) (納富 信留)	R	2
	歴史のなかの人間('22) (近藤 成一、杉森 哲也)	TV	2
	日本近現代史('21) (季武 嘉也)	R	2
	日本文学における古典と近代('18) (島内 裕子)	R	2
	日本文学と和歌('21) (渡部 泰明)	R	2
	世界文学への招待('22) (野崎 歎、阿部 公彦)	TV	2
	漢文の読み方('19) (宮本 徹、松江 崇)	R	2
	新しい言語学('18) —心理と社会から見る人間の学— (滝浦 真人)	R	2
	日本語学入門('20) (滝浦 真人)	TV	2
	コミュニケーション学入門('19) (大橋 理枝、根橋 玲子)	R	2
	人文地理学からみる世界('22) (佐藤 廉也、宮澤 仁)	TV	2
	総合人類学としてのヒト学('18) (高倉 浩樹)	R	2
	博物館で学ぶ文化人類学の基礎('20) (稲村 哲也)	OL	2
	博物館概論('23) (鶴見 英成)	TV	2
	政治学入門('22) 【社会と産業コースと共用】 (山岡 龍一、待鳥 聡史)	R	2
	文学・芸術・武道にみる日本文化('19) (魚住 孝至)	TV	2
	日本仏教を捉え直す('18) (末木 文美士、頼住 光子)	R	2
	原初から／への思索('22) —西田幾多郎とハイデッガー— (秋富 克哉)	R	2
	現代に生きる現象学('23) —意味・身体・ケア— (榎原 哲也、本郷 均)	R	2
	英米哲学の挑戦('23) —文学と懐疑— (勢力 尚雅、古田 徹也)	R	2
	西洋芸術の歴史と理論('16) (青山 昌文)	TV	2
	アメリカの芸術と文化('19) (宮本 陽一郎、佐藤 良明)	TV	2
	日本美術史の近代とその外部('18) (稲賀 繁美)	TV	2
	西洋音楽史('21) (津上 英輔、赤塚 健太郎)	R	2
	舞台芸術の魅力('17) (青山 昌文)	TV	2
	古代中世の日本('23) (近藤 成一、坂上 康俊)	TV	2
	日本の近世('20) (杉森 哲也)	R	2
	韓国朝鮮の歴史と文化('21) (須川 英徳、三ツ井 崇)	R	2
	中国と東部ユーラシアの歴史('20) (佐川 英治、杉山 清彦)	TV	2
	東南アジアの歴史('18) (古田 元夫)	R	2
	都市から見るヨーロッパ史('21) (河原 温、池上 俊一)	TV	2
	近現代ヨーロッパの歴史('22) —人の移動から見る— (北村 暁夫、中嶋 毅)	TV	2
	考古学('18) (早乙女 雅博、設楽 博己)	TV	2
	樋口一葉の世界('23) (島内 裕子)	R	2
	『方丈記』と『徒然草』('18) (島内 裕子)	TV	2
文学批評への招待('18) (丹治 愛、山田 広昭)	R	2	
世界文学の古典を読む('20) (村松 真理子、横山 安由美)	R	2	
ヨーロッパ文学の読み方—近代篇('19) (沼野 充義、野崎 歎)	R	2	
言語研究法('19) (滝浦 真人)	OL	2	
フィールドワークと民族誌('17) (稲村 哲也、池谷 和信)	OL	2	
「人新世」時代の文化人類学('20) (大村 敬一、湖中 真哉)	TV	2	
博物館教育論('22) (大高 幸、寺島 洋子)	R	2	
博物館資料論('18) (稲村 哲也、近藤 智嗣)	OL	2	
博物館資料保存論('19) (稲村 哲也、本田 光子)	TV	2	
博物館展示論('16) (稲村 哲也)	TV	2	
博物館情報・メディア論('18) (稲村 哲也、近藤 智嗣)	TV	2	
博物館経営論('23) (佐々木 亨、今村 信隆)	R	2	
生涯学習を考える('17) 【心理と教育コースと共用】 (岩永 雅也、岩崎 久美子)	OL	2	
学習・言語心理学('21) 【心理と教育コースと共用】 (高橋 秀明)	TV	2	

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位	
人間と文化	日本の文化と教育('23) 【心理と教育コースと共用】 (矢口 徹也、辻 智子)	R	2	
	全体主義と新自由主義のあいだ('23) 【社会と産業コースと共用】 (山岡 龍一)	OL	2	
	都市と地域の社会学('18) 【社会と産業コースと共用】 (森岡 清志、北川 由紀彦)	R	2	
	グローバル経済史('18) 【社会と産業コースと共用】 (水島 司、島田 竜登)	TV	2	
	日本政治思想史('21) 【社会と産業コースと共用】 (原 武史)	R	2	
	日本政治外交史('19) 【社会と産業コースと共用】 (五百旗頭 薫、奈良岡 聡智)	TV	2	
	現代東アジアの政治と社会('20) 【社会と産業コースと共用】 (家近 亮子)	R	2	
	中東の政治('20) 【社会と産業コースと共用】 (高橋 和夫)	TV	2	
	ヨーロッパ政治史('20) 【社会と産業コースと共用】 (中山 洋平、水島 治郎)	R	2	
	現代の国際政治('22) 【社会と産業コースと共用】 (白鳥 潤一郎、高橋 和夫)	TV	2	
	情報化社会におけるメディア教育('20) 【情報コースと共用】 (苑 復傑、中川 一史)	R	2	
	メディア論('22)【情報コースと共用】 (水越 伸)	TV	2	
	卒業研究	—	6	
	総合科目	時間を究める('23) (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)	OL	1
		色を探究する('23) 【心理と教育コースと共用】 (佐藤 仁美、二河 成男)	TV	2
		レジリエンスの諸相('18) —人類学的視点からの挑戦— 【生活と福祉コースと共用】 (奈良 由美子、稲村 哲也)	TV	2
		開発経済学：アジアの農村から('20) 【社会と産業コースと共用】 (大野 昭彦)	TV	2
	導入科目	計算の科学と手引き('19) (辰己 丈夫、高岡 詠子)	TV	2
		表計算プログラミングの基礎('21) —業務効率化をめざして— (辻 靖彦)	OL	1
		情報理論とデジタル表現('19) (加藤 浩、浅井 紀久夫)	TV	2
		Rで学ぶ確率統計('21) (秋光 淳生)	OL	1
		日常生活のデジタルメディア('22) (青木 久美子、高橋 秀明)	TV	2
		情報ネットワーク('18) (芝崎 順司)	OL	2
		情報と法('23) (児玉 晴男)	R	2
		社会統計学入門('18) 【社会と産業コースと共用】 (林 拓也)	R	2
		生活環境情報の表現—GIS入門('20) 【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、瀬戸 寿一※)	OL	1
		入門微分積分('22) 【自然と環境コースと共用】 (石崎 克也)	TV	2
		データ構造とプログラミング('18) (鈴木 一史)	TV	2
		コンピュータの動作と管理('17) (葉田 善章)	TV	2
	情報	コンピュータとソフトウェア('18) (辰己 丈夫、中谷 多哉子)	TV	2
		Javaプログラミングの基礎('16) (柳沼 良知)	OL	1
		C言語基礎演習('20) (森本 容介)	OL	1
		続・C言語基礎演習('23) (森本 容介)	OL	1
		問題解決の数理('21) (大西 仁)	TV※	2
		データの分析と知識発見('20) (秋光 淳生)	TV	2
		記号論理学('14) (加藤 浩、土屋 俊)	TV	2
数値の処理と数値解析('22) (櫻井 鉄也)		R	2	
数理最適化法演習('20) (大西 仁)		OL	1	
コンピュータグラフィックス('22) (浅井 紀久夫)		OL	2	
映像コンテンツの制作技術('20) (近藤 智嗣)		TV	2	
デジタル情報の処理と認識('22) (柳沼 良知)		OL	2	
専門科目	自然言語処理('23) (黒橋 禎夫)	R	2	
	情報デザイン('21) (伏見 清香、茂登山 清文)	TV	2	
	コンピュータビジョン('22) —画像処理による情報抽出の技法— (浅井 紀久夫)	OL	2	
	教育のためのICT活用('22) (中川 一史、苑 復傑)	TV	2	
	ユーザ調査法('20) (高橋 秀明)	TV	2	

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位	
情報	専門科目	情報社会のユニバーサルデザイン('19) (広瀬 洋子、関根 千佳)	TV 2	
		メディアと知的財産('16) (児玉 晴男)	OL 2	
		メディア論('22) (水越 伸)	TV 2	
		情報化社会におけるメディア教育('20) (苑 復傑、中川 一史)	R 2	
		小学校プログラミング教育概論('21) (中川 一史、小林 祐紀※)	OL 1	
		ヒューマンインタフェース('23) (増井 俊之、小池 英樹)	TV※ 2	
		身近なネットワークサービス('20) (葉田 善章)	TV 2	
		情報セキュリティ概論('22) (山田 恒夫、辰己 丈夫)	TV 2	
		Webのしくみと応用('19) (森本 容介、伊藤 一成)	TV 2	
		データベース('23) (辻 靖彦、芝崎 順司)	TV 2	
		情報セキュリティの理論と基盤('23) (菊池 浩明、上原 哲太郎※)	OL 1	
		情報セキュリティの現状と展望('23) (上原 哲太郎、菊池 浩明※)	OL 1	
		アルゴリズムとプログラミング('20) (鈴木 一史)	R 2	
		コンピュータ通信概論('20) (葉田 善章)	R 2	
		博物館情報・メディア論('18) 【人間と文化コースと共用】 (稲村 哲也、近藤 智嗣)	TV 2	
		解析入門('18) 【自然と環境コースと共用】 (河添 健)	R 2	
		統計学('19) 【自然と環境コースと共用】 (藤井 良宜)	R 2	
		教育調査の基礎('20) 【心理と教育コースと共用】 (藤田 武志、西島 央)	TV 2	
		心理学統計法('21) 【心理と教育コースと共用】 (清水 裕士)	TV 2	
		マーケティング('21) 【社会と産業コースと共用】 (井上 淳子、石田 大典)	TV 2	
		著作権法('22) 【社会と産業コースと共用】 (作花 文雄)	R 2	
		経営情報学入門('23) 【社会と産業コースと共用】 (岸 眞理子、佐藤 亮)	TV 2	
		ソーシャルシティ('23) 【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、鈴木 淳一)	TV 2	
		環境を可視化する技術と応用('23) 【社会と産業コースと共用】 (中村 恭志、浅輪 貴史)	TV 2	
		卒業研究	- 6	
		総合科目	情報化社会と国際ボランティア('19) (山田 恒夫)	TV 2
			AIシステムと人・社会との関係('20) (山口 高平、中谷 多哉子)	R 2
	情報技術が拓く人間理解('20) (仁科 エミ、辰己 丈夫)		TV 2	
	自然と環境	導入科目	初歩からの生物学('18) (二河 成男、加藤 和弘)	TV 2
			生物環境の科学('16) (加藤 和弘)	TV 2
			初歩からの物理('22) (岸根 順一郎、松井 哲男)	TV 2
			初歩からの化学('18) (安池 智一、鈴木 啓介)	TV 2
			物理の世界('17) (岸根 順一郎、松井 哲男)	TV 2
かたちの化学-化学の考え方入門('23) (橋本 健朗)			TV 2	
現代を生きるための化学('22) (橋本 健朗)			R 2	
物理と化学のための数学('21) (橋本 健朗、松井 哲男※、岸根 順一郎※、安池 智一※)			OL 1	
分子の変化からみた世界('23) (安池 智一)			TV 2	
初歩からの宇宙の科学('17) (吉岡 一男)			TV 2	
ダイナミックな地球('21) (大森 聡一)			TV 2	
入門線型代数('19) (隈部 正博)			TV 2	
入門微分積分('22) (石崎 克也)			TV 2	
演習微分積分('19) (石崎 克也)			OL 1	
環境問題のとりえ方と解決方法('17) 【社会と産業コースと共用】 (岡田 光正、藤江 幸一)			R 2	
感染症と生体防御('18) 【生活と福祉コースと共用】 (田城 孝雄、北村 聖)			R 2	
社会統計学入門('18) 【社会と産業コースと共用】 (林 拓也)			R 2	
計算の科学と手引き('19) 【情報コースと共用】 (辰己 丈夫、高岡 詠子)			TV 2	

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位	
自然と環境	導入科目	人体の構造と機能('22) -人体の構造と機能及び疾病A- 【生活と福祉コースと共用】 (坂井 建雄、岡田 隆夫)	TV 2	
		博物館概論('23) 【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成)	TV 2	
		生命分子と細胞の科学('19) (二河 成男)	TV 2	
		生物の進化と多様化の科学('17) (二河 成男)	TV 2	
		植物の科学('21) (塚谷 裕一、荒木 崇)	TV 2	
		感覚と応答の生物学('23) (二河 成男)	TV 2	
		力と運動の物理('19) (岸根 順一郎、松井 哲男)	TV 2	
		場と時間空間の物理('20) (松井 哲男、岸根 順一郎)	TV 2	
		量子物理学('21) (松井 哲男、岸根 順一郎)	TV 2	
		量子化学('19) (橋本 健朗、安池 智一)	TV 2	
		エントロピーからはじめる熱力学('20) (安池 智一、秋山 良)	R 2	
		物理演習('16) (岸根 順一郎、齋藤 雅子)	OL 1	
		力と運動の物理演習('21) (岸根 順一郎、松井 哲男※)	OL 1	
		宇宙の誕生と進化('19) (谷口 義明)	TV 2	
		太陽と太陽系の科学('18) (谷口 義明)	TV 2	
		地球と環境の探究('20) (大森 聡一)	OL 2	
		はじめての気象学('21) (田中 博、伊賀 啓太)	TV 2	
		正多面体と素数('21) (橋本 義武)	TV 2	
		微分方程式('23) (石崎 克也)	TV※ 2	
		統計学('19) (藤井 良宜)	R 2	
		数学の歴史('19) (三浦 伸夫)	TV 2	
		線型代数('17) (隈部 正博)	R 2	
		解析入門('18) (河添 健)	R 2	
	専門科目	食と健康('18) 【生活と福祉コースと共用】 (吉村 悦郎、佐藤 隆一郎)	TV 2	
		地球温暖化と社会イノベーション('18) 【社会と産業コースと共用】 (六川 修一、向井 人史)	TV 2	
		データ構造とプログラミング('18) 【情報コースと共用】 (鈴木 一史)	TV 2	
		コンピュータとソフトウェア('18) 【情報コースと共用】 (辰己 丈夫、中谷 多哉子)	TV 2	
		錯覚の科学('20) 【心理と教育コースと共用】 (菊池 聡)	TV 2	
		数値の処理と数値解析('22) 【情報コースと共用】 (櫻井 鉄也)	R 2	
		環境を可視化する技術と応用('23) 【社会と産業コースと共用】 (中村 恭志、浅輪 貴史)	TV 2	
		データベース('23) 【情報コースと共用】 (辻 靖彦、芝崎 順司)	TV 2	
		卒業研究	- 6	
		総合科目	暮らしに役立つバイオサイエンス('21) (岩橋 均、重松 亨)	TV 2
			エネルギーと社会('19) 【社会と産業コースと共用】 (泊田 章義、堤 敦司)	TV 2
			情報技術が拓く人間理解('20) 【情報コースと共用】 (仁科 エミ、辰己 丈夫)	TV 2
			時間を究める('23) 【人間と文化コースと共用】 (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)	OL 1
			色を探究する('23) 【心理と教育コースと共用】 (佐藤 仁美、二河 成男)	TV 2
			学校経営と学校図書館('23) (野口 武悟、前田 稔)	TV※ 2
			学校図書館メディアの構成('22) (米谷 優子、香海 沙織)	TV※ 2
			学習指導と学校図書館('22) (塩谷 京子、鎌田 和宏)	TV 2
			読書と豊かな人間性('20) (米谷 茂則、岩崎 れい)	R 2
			情報メディアの活用('22) (高嶽 裕樹、田嶋 知宏)	TV 2
		資格取得等に資する科目	成人看護学('18) (林 直子、佐藤 まゆみ)	R 2
			老年看護学('19) (井出 訓)	R 2
小児看護学('22) (江本 リナ)	TV 2			
母性看護学('20) (齋藤 いずみ)	TV 2			
精神看護学('19) (松下 年子、田辺 有理子)	TV 2			
司書教諭資格取得に資する科目				
学校経営と学校図書館('23) (野口 武悟、前田 稔)	TV※ 2			
学校図書館メディアの構成('22) (米谷 優子、香海 沙織)	TV※ 2			
学習指導と学校図書館('22) (塩谷 京子、鎌田 和宏)	TV 2			
読書と豊かな人間性('20) (米谷 茂則、岩崎 れい)	R 2			
情報メディアの活用('22) (高嶽 裕樹、田嶋 知宏)	TV 2			
成人看護学('18) (林 直子、佐藤 まゆみ)	R 2			
老年看護学('19) (井出 訓)	R 2			
小児看護学('22) (江本 リナ)	TV 2			
母性看護学('20) (齋藤 いずみ)	TV 2			
精神看護学('19) (松下 年子、田辺 有理子)	TV 2			

② 大学院修士

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位	
生活健康科学	家族政策研究('21) (下夷 美幸)	R	2	
	リスク社会における市民参加('21) (八木 絵香、三上 直之)	R	2	
	食健康科学('21) 【自然環境科学プログラムと共通】 (佐藤 隆一郎、三浦 豊※、下条 直樹※)	OL	1	
	コミュニティヘルスケア研究('19) (田城 孝雄、星 旦二)	R	2	
	生活リスクマネジメント('17) (奈良 由美子)	R	2	
	精神医学特論('22) 【臨床心理学プログラムと共通】 (石丸 昌彦)	R	2	
	ヘルスリサーチの方法論('19) (井上 洋士)	R	2	
	スポーツ・健康医学('19) (河合 祥雄)	R	2	
	健康・スポーツ科学研究('21) (関根 紀子)	R	2	
	福祉政策と人権('22) (金川 めぐみ)	R	2	
	生活変動と社会福祉('18)ー福祉研究の道標ー (山田 知子)	R	2	
	臨床推論('16) (北村 聖、山脇 正永)	OL	1	
	フィジカルアセスメント特論('16) (山内 豊明)	OL	1	
	臨床病態生理学特論('17) (小川 真、東本 恭幸)	OL	1	
	疾病・臨床病態概論('17) (小川 薫)	OL	2	
	臨床薬理学特論('17) (柳田 俊彦)	OL	1	
	特定行為実践特論('17) (石井 邦子、木澤 晃代)	OL	1	
	特定行為共通科目統合演習('17) (山内 豊明)	OL	1	
	統合臨床病態生理学・疾病概論('19) (東本 恭幸、小川 薫)	OL	2	
	統合医療安全・特定行為実践特論('19) (石井 邦子、木澤 晃代、山本 武志)	OL	1	
	生活環境情報学基礎演習('18) (川原 靖弘、ロベズ ギョーム)	OL	2	
	アカデミック・スキルズ('20) 【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、三輪 眞木子※、各プログラム教員※)	OL	1	
	研究指導	—	8	
	人間発達科学	教育文化の社会学('17) (稲垣 恭子)	R	2
		海外の教育改革('21) (坂野 慎二、藤田 晃之)	R	2
		教育行政と学校経営('20) (勝野 正章、村上 祐介)	R	2
		カリキュラムの理論と実践('21) (田中 統治、根津 朋美)	R	2
		道徳教育の理念と実践('20) (西野 真由美)	R	2
		成人の発達と学習('19) (岩崎 久美子)	R	2
		教育老年学('22) (堀 薫夫)	R	2
		現代社会心理学特論('15) 【臨床心理学プログラムと共通】 (森 津太子)	R	2
		教育心理学特論('18) 【臨床心理学プログラムと共通】 (三宅 芳雄、白水 始)	R	2
		学校臨床心理学特論('21) 【臨床心理学プログラムと共通】 (倉光 修)	TV	2
発達心理学特論('21) 【臨床心理学プログラムと共通】 (荻野 美佐子)		TV	2	
心理・教育統計法特論('21) 【臨床心理学プログラムと共通】 (小野寺 孝義)		R	2	
アカデミック・スキルズ('20) 【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、三輪 眞木子※、各プログラム教員※)		OL	1	
研究指導		—	8	
臨床心理学		臨床心理学特論('23) (橋本 朋広、大山 泰宏)	R	4
		臨床心理面接特論I('19)ー心理支援に関する理論と実践ー (大山 泰宏、小林 真理子)	R	2
		臨床心理面接特論II('19)ー心理療法の世界ー (大山 泰宏、佐藤 仁美)	R	2
		臨床心理基礎実習 (面接授業)	—	2
		臨床心理査定演習 (面接授業)	—	4
		臨床心理実習 (実習)	—	2
		臨床心理学研究法特論('23) (石原 宏、川部 哲也)	R	2
	心理・教育統計法特論('21) 【人間発達科学プログラムと共通】 (小野寺 孝義)	R	2	
	発達心理学特論('21) 【人間発達科学プログラムと共通】 (荻野 美佐子)	TV	2	
	教育心理学特論('18) 【人間発達科学プログラムと共通】 (三宅 芳雄、白水 始)	R	2	
	現代社会心理学特論('15) 【人間発達科学プログラムと共通】 (森 津太子)	R	2	
	司法矯正・犯罪心理学特論('20) ー司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開ー (橋本 和明)	R	2	
	精神医学特論('22) 【生活健康科学プログラムと共通】 (石丸 昌彦)	R	2	
	保健医療心理学特論('22) ー保健医療分野における理論と支援の展開ー (小林 真理子)	TV	2	
	障害児・障害者心理学特論('19) ー福祉分野に関する理論と支援の展開ー (大六 一志、山中 克夫)	R	2	
	学校臨床心理学特論('21) 【人間発達科学プログラムと共通】 (倉光 修)	TV	2	
	臨床心理地域援助特論('21) (伊藤 亜矢子)	R	2	
	研究指導	—	8	

区分	科目名 (主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位	
社会経営科学	経済政策('22) (松原 隆一郎)	R	2	
	知財制度論('20) 【情報学プログラムと共通】 (児玉 晴男)	R	2	
	公共政策('22) (砂原 庸介、手塚 洋輔)	R	2	
	都市社会構造論('23) (北川 由紀彦)	OL	2	
	環境工学('19) 【自然環境科学プログラムと共通】 (迫田 章義)	OL	2	
	社会的協力論('20) ーいかに近代的協力の限界を超えるかー (坂井 素思)	R	2	
	実践的都市景観形成論('19) (宮城 俊作)	OL	2	
	地域産業の発展と主体形成('20) (北川 太一)	R	2	
	統合イノベーション制度研究('21) (児玉 晴男)	OL	1	
	「貨幣・勤労・代理人」文献講読('21)ー近代経済社会の文明的・反文明的特性を読むー (坂井 素思)	OL	1	
	法律学文献講読('21) (李 鳴)	OL	1	
	現実と向き合う政治理論('22) (山岡 龍一、大澤 津)	R	2	
	人的資源管理('22) (原田 順子、平野 光俊)	R	2	
	保険法('22) (李 鳴)	OL	2	
	アカデミック・スキルズ('20) 【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、三輪 眞木子※、各プログラム教員※)	OL	1	
	研究指導	—	8	
	人文学	日本文化と思想の展開ー内と外と('22) (魚住 孝至)	R	2
		美学・芸術学研究('19) (青山 昌文)	R	2
		日本史料を読む('21) (近藤 成一、杉森 哲也)	R	2
		朝鮮の歴史と社会ー近世近代('20) (須川 英徳、三ツ井 崇)	R	2
		西洋中世史('21) (河原 温、堀越 宏一)	R	2
日本文学の研究史('21) (島内 裕子)		R	2	
モダニズムの文学と文化('21) (宮本 陽一郎)		R	2	
異文化との出会い('22) (滝浦 真人、野崎 欽)		R	2	
文化人類学の最前線('21) (大村 敬一)		OL	2	
アカデミック・スキルズ('20) 【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、三輪 眞木子※、各プログラム教員※)		OL	1	
研究指導	—	8		
情報学	知能システム論('18) (大西 仁)	OL	2	
	音楽・情報・脳('23) (仁科 エミ、河合 徳枝)	R	2	
	ソフトウェア工学('19) (中谷 多哉子、中島 震)	R	2	
	研究のためのICT活用('21) (高橋 秀明)	OL	2	
	情報学の技術('18) (中谷 多哉子、辰己 丈夫)	R	2	
	eラーニングの理論と実践('20) (青木 久美子、高橋 秀明※、加藤 浩※、辻 靖彦※、山田 恒夫※)	OL	2	
	コンピューティング('19)ー原理とその展開ー 【自然環境科学プログラムと共通】 (萩谷 昌己)	R	2	
	データの科学('17) (浅井 紀久夫、辰己 丈夫)	OL	2	
	サイバーボランティア論('22) ーボランティア活動におけるICT活用ー (山田 恒夫)	OL	2	
	情報とコミュニケーション('23) (青木 久美子、高橋 秀明※)	OL	2	
知財制度論('20) 【社会経営科学プログラムと共通】 (児玉 晴男)	R	2		
マルチメディア情報処理('20) (柳沼 良知)	R	2		
情報デザイン特論('22) (伏見 清香、須永 剛司)	TV	2		
教育情報システム設計('23)ー学習教育データとデジタルエコシステムー (山田 恒夫、常盤 祐司※、緒方 広明※)	OL	1		
アカデミック・スキルズ('20) 【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、三輪 眞木子※、各プログラム教員※)	OL	1		
研究指導	—	8		
自然環境科学	現代生物学('18) (加藤 和弘、二河 成男)	OL	2	
	生物の種組成データの分析法('16) (加藤 和弘)	OL	2	
	野外生物調査法('19) (加藤 和弘)	OL	2	
	生態学における情報リテラシー('23) (加藤 和弘)	OL	2	
	現代物理の展望('19) (岸根 順一郎、松井 哲男)	R	2	
	先端技術のための現代物理学('18) (岸根 順一郎)	OL	2	
	計算で紐解く物質科学・環境科学('18) (橋本 健朗、安池 智一)	OL	2	
	宇宙、地球、そして人類('18) (谷口 義明、大森 聡一)	OL	2	
	地球を読み解く('19) (大森 聡一、谷口 義明)	OL	2	
	数理学('21)ー離散数理モデルー (石崎 克也、諸澤 俊介)	TV	2	
	計算論('16) (隈部 正博)	R	2	
	コンピューティング('19)ー原理とその展開ー 【情報学プログラムと共通】 (萩谷 昌己)	R	2	
	食健康科学('21) 【生活健康科学プログラムと共通】 (佐藤 隆一郎、三浦 豊※、下条 直樹※)	OL	1	
	環境工学('19) 【社会経営科学プログラムと共通】 (迫田 章義)	OL	2	
	アカデミック・スキルズ('20) 【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、三輪 眞木子※、各プログラム教員※)	OL	1	
	研究指導	—	8	

③ 大学院博士

区分	科目名	(担当教員)	単位
生活健康科学	生活健康科学特論	(所属プログラム教員)	2
	生活環境情報学・家族関係学研究法(下夷 美幸、川原 靖弘)		1
	食品科学・リスク学研究法 (朝倉 富子、奈良 由美子)		1
	医科学・公衆衛生学研究法 (石丸 昌彦、関根 紀子、田城 孝雄)		1
	看護学・健康社会学研究法 (井出 訓、戸ヶ里 泰典、山内 豊明)		1
	社会福祉学研究法A (山田 知子)		1
	社会福祉学研究法B (川島 聡)		1
	人間科学特論	(所属プログラム教員)	2
	生涯学習研究法 (岩崎 久美子)		1
	教育社会学研究法 (岩永 雅也)		1
	高等教育研究法 (苑 復傑)		1
	教育心理学研究法 (進藤 聡彦)		1
	社会心理学研究法 (森 津太子)		1
	認知心理学研究法 (高橋 秀明)		1
	発達心理学研究法 (向田 久美子)		1
	心理臨床学研究法 (大山 泰宏)		1
	深層心理学研究法 (橋本 朋広)		1
	福祉心理学研究法 (村松 健司)		1
	芸術療法学研究法 (佐藤 仁美)		1
教育臨床心理学研究法 (波田野 茂幸)		1	
学校臨床学研究法 (丸山 広人)		1	
高等教育論研究法 (橋本 鉦市)		1	
教育行財政学研究法 (櫻井 直輝)		1	
社会経営科学	社会経営科学特論	(所属プログラム教員)	2
	知的財産学研究法 (児玉 晴男)		1
	国際法研究法 (柳原 正治)		1
	民法学研究法 (李 鳴)		1
	公共政策(政治学・国際政治学)研究法 (白鳥 潤一郎)		1
	公共政策(政治学・政治思想)研究法 (原 武士)		1
	公共政策(政治理論)研究法 (山岡 龍一)		1
	社会経済学研究法 (松原 隆一郎)		1
	社会学研究法 (北川 由紀彦)		1
	企業会計研究法 (齋藤 正章)		1
	人的資源管理研究法 (原田 順子)		1
	オペレーションズ・マネジメント研究法 (松井 美樹)		1
	環境・エネルギー研究法 (迫田 章義)		1
	建築設計研究法 (堀部 安嗣)		1
	地域産業学研究法 (古橋 元)		1
	都市研究法 (玉野 和志)		1
	経済思想史研究法 (桑田 学)		1
	人文学特論	(所属プログラム教員)	2
	哲学・日本思想研究法 (魚住 孝至)		1
	美学研究法 (青山 昌文)		1
	日本古代・中世史研究法 (近藤 成一)		1
	日本近世・近代史研究法 (杉森 哲也)		1
	西洋史学研究法 (河原 温)		1
フランス語圏文学研究法 (野崎 歎)		1	
英語圏文学研究法 (宮本 陽一郎)		1	
言語学研究法 (滝浦 真人)		1	
コミュニケーション学研究法 (大橋 理枝)		1	
中国語学研究法 (宮本 徹)		1	
社会人類学研究法 (大村 敬一)		1	
博物館学研究法 (鶴見 英成)		1	
情報学	情報学特論	(所属プログラム教員)	2
	人間社会情報学研究法 (青木 久美子)		1
	生体情報処理研究法 (秋光 淳生)		1
	知識情報処理研究法 (浅井 紀久夫)		1
	認知情報科学研究法 (大西 仁)		1
	学習環境デザイン学研究法 (加藤 浩)		1
	学習コンテンツ評価研究法 (近藤 智嗣)		1
	メディアリテラシー研究法 (芝崎 順司)		1
	計算機システム研究法 (鈴木 一史)		1
	情報教育研究法 (辰己 丈夫)		1

区分	科目名	(担当教員)	単位	
情報学	教育・学習システム工学研究法 (辻 靖彦)		1	
	メディア教育研究法 (中川 一史)		1	
	ソフトウェア工学研究法 (中谷 多哉子)		1	
	メディア情報質評価研究法 (仁科 エミ)		1	
	情報環境応用研究法 (葉田 善章)		1	
	デザイン研究法 (伏見 清香)		1	
	学習支援システム研究法 (森本 容介)		1	
	マルチメディア情報処理研究法 (柳沼 良知)		1	
	教育・学習データ分析研究法 (山田 恒夫)		1	
	教授システム研究法 (平岡 育士)		1	
	自然科学	自然科学特論	(所属プログラム教員)	2
		生態環境研究法 (加藤 和弘)		1
		生物科学研究法 (二河 成男)		1
		分子科学研究法 (橋本 健朗)		1
		化学研究法 (安池 智一)		1
凝縮系物理学研究法 (岸根 順一郎)			1	
原子核物理学研究法 (松井 哲男)			1	
宇宙物理学研究法 (谷口 義明)			1	
数理解析学研究法 (石崎 克也)			1	
数理論理学研究法 (隈部 正博)			1	
地球惑星科学研究法 (大森 聡一)		1		
特定研究科目	生活健康科学	生活健康科学特定研究 (各主研究指導教員)	12	
	人間科学	人間科学特定研究 (各主研究指導教員)	12	
	社会経営科学	社会経営科学特定研究 (各主研究指導教員)	12	
	人文学	人文学特定研究 (各主研究指導教員)	12	
	情報学	情報学特定研究 (各主研究指導教員)	12	
	自然科学	自然科学特定研究 (各主研究指導教員)	12	

(2) 2023 (令和5) 年度第1学期放送番組表

① 2023年度第1学期 授業期間テレビ番組表 (BS231ch)

●2023年4月1日(土)～2023年7月14日(金)

時	分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	分	時
6	00	自然科学はじめの一步 (22) (学)	問題解決の進め方 (19) (学)	初歩からの数学 (18) (学)	遠隔学習のためのパソコン活用 (21) (学)	身近な統計 (18) (学)	情報技術が拓く人間理解 (20) (学)	情報化社会と国際ボランティア (19) (学)	00	6
7	45	かたちの化学～化学の考え方入門 (23)	分子の変化からみた世界 (19) (学)	量子化学 (19) (学)	力と運動の物理 (19) (学)	ダイナミックな地球 (22) (学)	世界文学への招待 (22) (学)	人文地理学からみる世界 (22) (学)	45	
7	30	環境を可視化する技術と応用 (23)	中東の政治 (20) (学)	日本政治外交史 (19) (学)	グローバル化時代の日本国憲法 (19) (学)	現代の国際政治 (22) (学)	小児看護学 (22) (学)	精神看護学 (19)	30	7
8	15	乳幼児・児童の心理臨床 (17) (学)	心理臨床と身体の病 (16) (学)	心理学統計法 (21) (学)	心理カウンセリング序説 (21) (学)	臨床心理学概論 (20) (学)	心理学研究法 (20) (学)	認知行動療法 (20) (学)	15	8
9	00				生涯学習支援番組(キャリアアップなど)				00	9
9	45	持続可能な社会と生活 (23)	生活環境と情報認知 (20) (学)	コミュニケーションがなぐ安全・安心 (20) (学)	社会政策の国際動向と日本の位置 (23)	暮らしに活かす不動産学 (22) (学)	暮らしに活かす不動産学 (22) (学)	ソーシャルシティ (23)	45	
10	30	情報理論とデジタル表現 (19) (学)	Webのしくみと応用 (19) (学)	身近なネットワーキングサービス (20) (学)	計算の科学と手引き (19) (学)	コンピュータとソフトウェア (18) (学)	コンピュータとソフトウェア (18) (学)	教育のためのICT活用 (22) (学)	30	10
11	15	はじめての気象学 (21) (学)	植物の科学 (21) (学)	初歩からの化学 (18) (学)	初歩からの生物学 (18) (学)	物理の世界 (17) (学)	初歩からの物理 (22) (学)	感覚と応答の生物学 (23)	15	11
12	00				告知番組など				00	12
12	45	健康長寿のためのスポーツロジック (19) (学)	子どもの人権をどうまもるのか (21) (学)	食と健康 (18) (学)	食の安全 (21) (学)	食の安全 (21) (学)	食の安全 (21) (学)	今日のメンタルヘルス (23)	45	
13	30	文学・芸術・武術にみる日本文化 (22) (学)	日本語学入門 (20) (学)	アメリカの芸術と文化 (19) (学)	舞台芸術の魅力 (17) (学)	西洋芸術の歴史と理論 (16) (学)	西洋芸術の歴史と理論 (16) (学)	日本美術史の近代とその外部 (18) (学)	30	13
14	15	発達心理学特論 (21) (学)	保健医療心理学特論 (22) (学)	学校臨床心理学特論 (21) (学)	進化心理学 (23)	神経・生心理心理学 (22) (学)	神経・生心理心理学 (22) (学)	錯覚の科学 (20) (学)	15	14
15	00	フランス語 I (18)	英語で道を語る (21) (学)	英語で読む大統領演説 (23)	中国語 I (23)	韓国語 I (20)	韓国語 I (20)	ドイツ語 I (23)	00	15
15	45	情報セキュリティ概論 (22) (学)	データの分析と知識発見 (20) (学)	ユーザ調査法 (20) (学)	記号論理学 (14)	データベース (23)	データベース (23)	データ構造とプログラミング (18) (学)	45	
16	30	認知症と生きる (21) (学)	母性看護学 (20) (学)	基礎看護学 (16) (学)	災害看護学・国際看護学 (20) (学)	疾病の成立と回復促進 (21) (学)	災害看護学 (21) (学)	疾病の回復を促進する薬 (20) (学)	30	16
17	15	人生100年時代の家族と法 (23)	社会学概論 (21) (学)	社会調査の基礎 (19) (学)	雇用社会と法 (22) (学)	市民生活と裁判 (21) (学)	災害社会学 (20) (学)	災害社会学 (20) (学)	15	17
18	00	生命分子と細胞の科学 (19) (学)	生物環境の科学 (16) (学)	生物の進化と多様性の科学 (17) (学)	初歩からの宇宙の科学 (17) (学)	宇宙の誕生と進化 (19) (学)	太陽と太陽系の科学 (18) (学)	太陽と太陽系の科学 (18) (学)	00	18
19	30				告知番組など				30	19
20	15				生涯学習支援番組				15	20
21	00								00	21
21	45	色を探究する (23)	住まいの環境論 (23)	空間と政治 (22) (学)	暮らしに役立つバイオサイエンス (21) (学)	エネルギーと社会 (19) (学)	世界の中の日本外交 (21) (学)		45	
22	30	より良い思考の技法 (23)	情報学へのとびら (22) (学)	学習・言語心理学 (21) (学)	知覚・認知心理学 (23)	教育・学校心理学 (20) (学)	地域コミュニティと教育 (18) (学)	社会・集団・家族心理学 (20) (学)	30	22
23	15	映像コンテンツの制作技術 (20) (学)	情報社会のユニバーサルデザイン (19) (学)	情報デザイン (21) (学)	開発経済学：アジアの農村から (20) (学)	新時代の組織経営と働き方 (20) (学)	メディア論 (22) (学)	日常生活のデジタルメディア (22) (学)	15	23
翌0	00								00	翌0
翌0	45	放送大学イマージング・学歌 (16) (学)	ファイナンス入門 (23)	グローバリゼーション (18) (学)	現代経済学 (19) (学)	マーケティング (21) (学)	財政と現代の経済社会 (19) (学)	経営情報学入門 (23)	45	
翌1	30	博物館展示論 (16) (学)	博物館展示論 (16) (学)	博物館情報・メディア論 (18) (学)	博物館保存論 (19) (学)	「人新世」時代の文化人類学 (20) (学)	考古学 (18) (学)	考古学 (18) (学)	30	翌1
翌2	15	入門級代数 (19) (学)	数学の歴史 (19) (学)	数論入門 (22) (学)	入門級積分 (22) (学)	量子物理学 (19) (学)	場と時間空間の物理 (20) (学)	正多面体と素数 (21) (学)	15	翌2
翌3	00								00	翌3
翌3	45	歴史のなかの人間 (22) (学)	近現代ヨーロッパの歴史 (22) (学)	中国と東部ヨーロッパの歴史 (20) (学)	都市から見るヨーロッパ史 (21) (学)	古代中世の日本 (18) (学)	運動と健康 (22) (学)	「方丈記」と「徒然草」 (18) (学)	45	翌3
翌4	30	地球・在宅看護論 (23)	地域福祉の課題と展望 (22) (学)	地域空間情報の基礎と活用 (22) (学)	レジリエンスの諸相 (18) (学)	運動と健康 (22) (学)	日本語リテラシー (21) (学)	日本語リテラシー (21) (学)	30	翌4
翌5	15	現代の内閣監査 (22) (学)	新しい時代の技術者倫理 (15)	地球温暖化と社会イノベーション (18) (学)	金融と社会 (20) (学)	現代の会計 (20) (学)	サブライテーション・マネジメント (21) (学)	サブライテーション・マネジメント (21) (学)	15	翌5

② 2023年度第1学期 授業期間テレビ番組表 (BS2322ch)

●2023年4月1日(土)~2023年7月14日(金)

時	分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	時
6	00								00
	45								45
7	30								30
8	15								15
9	00								00
	45								45
10	30								30
11	15								15
12	00	色を探究する (23)	住まいの環境論 (23)	空間と政治 (22)(学)	暮らしに役立つバイオサイエンス (21)(学)	エネルギーと社会 (19)(学)	世界の中の日本外交 (21)(学)		00
	45	より良い思考の技法 (23)	情報学へのとびら (22)(学)	学習・言語心理学 (21)(学)	知覚・認知心理学 (23)	教育・学校心理学 (20)(学)	地域コミュニティと教育 (18)(学)	社会・集団・家族心理学 (20)(学)	45
13	30	映像コンテンツの制作技術 (20)(学)	情報社会のユニバーサルデザイン (19)(学)	情報デザイン (21)(学)	開発経済学：アジアの農村から (20)(学)	新時代の組織経営と働き方 (20)(学)	メディア論 (22)(学)	日常生活のデジタルメディア (22)(学)	30
14	15		ファイナンス入門 (23)	グローバル経済史 (18)(学)	現代経済学 (19)(学)	マーケティング (21)(学)	財政と現代の経済社会 (19)(学)	経営情報学入門 (23)	15
15	00		博物館展示論 (16)(学)	博物館情報・メディア論 (18)(学)	博物館概論 (23)	博物館資料保存論 (19)(学)	「人新世」時代の文化人類学 (20)(学)	考古学 (18)(学)	00
	45		入門線型代数 (19)(学)	数学の歴史 (19)(学)	入門微分積分 (22)(学)	量子物理学 (21)(学)	場と時間空間の物理 (20)(学)	正多面体と素数 (21)(学)	45
16	30		教育調査の基礎 (20)(学)	学校リスク論 (22)(学)	肢体不自由児の教育 (20)(学)	心理学概論 (18)(学)	教育社会学概論 (19)(学)	新時代の生徒指導 (23)	30
17	15		歴史のなかの人間 (22)(学)	近現代ヨーロッパの歴史 (22)(学)	中国と東部ユーラシアの歴史 (20)(学)	都市から見るヨーロッパ史 (21)(学)	古代中世の日本 (23)	「方丈記」と『徒然草』 (18)(学)	15
18	00		地域・在宅看護論 (23)	地域福祉の課題と展望 (22)(学)	地理空間情報の基礎と活用 (22)(学)	レジリエンスの諸相 (18)(学)	運動と健康 (22)(学)	日本語リテラシー (21)(学)	00
	45		現代の内部監査 (22)(学)	新しい時代の技術者倫理 (15)	地球温暖化と社会イノベーション (18)(学)	金融と社会 (20)(学)	現代の会計 (20)(学)	サブライチエーン・マネジメント (21)(学)	45
19	30								30
20	15								15
21	00								00
	45								45
22	30								30
23	15								15
翌0	00								00
	45								45
翌1	30								30
翌2	15								15
翌3	00								00
	45								45
翌4	30								30
翌5	15								15
	時	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	時

③ 2023年度第1学期 授業期間ラジオ番組表 (BS531ch)

●2023年4月1日(土)~2023年7月14日(金)

時	分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	水曜日	金曜日	土曜日	分	時
6	00	ビートルズの英文法	初歩のロシア語	グローバル時代の英語	中国語Ⅱ	韓国語Ⅱ	ドイツ語Ⅱ	フランス語Ⅱ		00	6
	45	睡眠と健康	看護学概説	社会福祉実践とは何か	看護管理と医療安全	高齢期を支える	リハビリテーション	リスクコミュニケーションの探究		45	
7	30	教育心理学特論	障害児・障害者心理学特論	心理・教育統計法特論	異文化との出会い	臨床心理地域援助特論	臨床心理面接特論Ⅰ	臨床心理面接特論Ⅱ		30	7
8	15	コンピュータ通信概論	数値の処理と数値解析	アルゴリズムとプログラミング	自然言語処理	情報と法	音楽・情報・脳	情報化社会におけるメディア教育		15	8
9	00	NPO・NGOの世界	大学マネジメント論	フードシステムと日本農業	経済社会を考える	都市と地域の社会学	経営学概論	国際経営		00	9
	45	日本仏教を捉え直す	文学批評への招待	日本文学における古典と近代	世界文学の古典を読む	漢文の読み方	日本文学と和歌	ヨーロッパ文学の読み方—近代篇		45	
10	30	臨床心理学特論	哲学・思想を今考える	臨床心理学研究法特論	発達心理学概論	知的障害教育概論	精神分析とユング心理学	特別支援教育基礎論		30	10
	15	臨床心理学特論	コミュニケーション学入門	原初からへの思索	現代に生きている現象学	博物館経営論	総合人類学としてのヒト学	新しい言語学		15	11
	00	桶口一葉の世界	民法	著作権法	国際法	簿記入門	社会統計学入門	英米哲学の挑戦		00	12
	45	現代社会心理学特論	ヘルスリサーチの方法論	司法矯正・犯罪心理学特論	日本文化と思想の展開—内と外と	家族政策研究	美学・芸術学研究	モダニズムの文学と文化		45	
13	30	産業・組織心理学	幼児教育の指導法	現代の家庭教育	社会と産業の倫理	国際理解のために	現代物理の展望	計算論		30	13
	15	現代教育入門	線型代数学	現代を生きるための化学	市民自治の知識と実践	解析入門	アントロピから始める熱力学	統計学		15	14
	00	中高年の心理臨床	心理と教育へのいざない	心理職の専門性	心理臨床における法・倫理・制度	乳幼児の保育・教育	道徳教育論	思春期・青年期の心理臨床		00	15
	45	行政学概説	障害者・障害者心理学	発達科学の先人たち	管理会計	日本の文化と教育	特別支援教育総論	司法・犯罪心理学		45	
16	30	刑法と生命	環境問題のとらえ方と解決方法	ヨーロッパ政治史	政治学入門	行政法	日本政治思想史	現代東アジアの政治と社会		30	16
	15	死生学のフィールド	AIシステムと人・社会との関係	マルチメディア情報処理	コンピューティング	社会福祉と法	環境と社会	海からみた産業と日本		15	17
	00	東南アジアの歴史	博物館教育論	日本近現代史	韓国朝鮮の歴史と文化	西洋哲学の根源	日本の近世	西洋音楽史		00	18
	45	授業科目案内など	ソフトウェア工学	健康と社会	リスク社会の家族変動	老年看護学	成人看護学	貧困の諸相		45	
19	30	カリキュラムの理論と実践	リスク社会における市民参加	健康・スポーツ科学研究	生活変動と社会福祉	生活リスクマネジメント	教育行政と学校経営	海外の教育改革		30	19
	15	健康への力の探究	家族問題と家族支援	精神疾患と心の治療	公衆衛生	感染症と生体防御	生活経済学	ライフステージと社会保障		15	20
	00	戦後日本教育史	感情・人格心理学	カリキュラムと学習過程	福祉心理学	教育の行政・政治・経営	心理的アセスメント	学校と法		00	21
	45	経済政策	地域産業の発展と主体形成	現実と向き合う政治理論	知財制度論	公共政策	人的資源管理	社会的協力論		45	
22	30	コミュニケーションスケアア研究	スポーツ・健康医科学	福祉政策と人権	成人の発達と学習	教育老年学	道徳教育の理念と実践	教育文化の社会学		30	22
	15	現代国際社会と有機農業	SDGs下のアジア産業論	サービスサイエンス	イノベーション・マネジメント	一般市民のための法学入門	日本史史料を読む	日本文学の研究史		15	23
翌0	00	放送大学イメージング・学歌	朝鮮の歴史と社会—近代	西洋中世史	情報学の技術	精神医学特論				00	翌0
時	45	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	時	45	

【2】2023（令和5）年度生涯学習支援番組

（1）特別講義（テレビ）

2024年2月現在

講義題目	講師	肩書	開設年度
エンジニアが映像で挑む！～トップアスリート強化～	三浦 智和	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部 専門研究員	2016
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会～東京藝術大学奏楽堂～	山本 純ノ介 茂木 一衛	千葉大学教授・作曲家 横浜国立大学名誉教授	2017
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅰ 私が感化された教育とは	益川 敏英 梶田 隆章	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長	2017
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅱ どう鍛えられ研究を深めたか	益川 敏英 梶田 隆章	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長	2017
『おくのほそ道』の真髄 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	魚住 孝至	放送大学特任教授	2018
共に生きる社会を目指して ～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	高橋 昭彦	ひばりクリニック院長・NPO法人うりげん理事長	2018
年縞が語る地球環境史	安田 喜憲	国際日本文化研究センター名誉教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長	2018
ブラックホール ～ばく大なエネルギーの発生源～	牧島 一夫 梶田 隆章 横沢 正芳	東京大学教授 東京大学特別栄誉教授 放送大学茨城学習センター元所長	2018
笑いの哲学 ～コントで分析～	森下 伸也	日本笑い学会会長、関西大学人間健康学部教授	2018
気仙沼ESDの軌跡：持続可能な社会の創造をめざして	及川 幸彦	奈良教育大学准教授	2019
摩擦の世界	松川 宏 氏家 恒太郎 川勝 英樹	青山学院大学教授 筑波大学准教授 東京大学生産技術研究所教授	2019
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	跡見 順子 森 常好 高松 祥子	東京大学名誉教授 音楽師 フリーアナウンサー	2020
手本をはなれて ～“想画”を生んだ奥出雲の地から～	佐々 有生 青木 宗一 加藤 沙織 宮林 康強 青木 強	前島根学習センター所長 農業 声優、ナレーター 声優 声優	2020
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	大村 智 黒田 有彩	北里大学特別栄誉教授 女優、科学番組プログラム アシスタント	2020
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アインストポマー～	吉田 尚弘 岩田 まこ都	東京工業大学地球生命研究所 特任教授 フリーアナウンサー	2020
レゲット教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	アンソニー・レゲット 松井 哲男 佐藤 文隆 福山 寛 青谷 優子	イリノイ大学名誉教授 放送大学特任教授 京都大学名誉教授 前東京大学教授 アナウンサー	2020

（2）特別講義（ラジオ）

2024年2月現在

講義題目	講師	肩書	開設年度
江戸農書からみる現代農業と日本社会	徳永 光俊	大阪経済大学学長	2016
終活学 満足して人生を終える	長尾 和宏	関西国際大学客員教授	2016
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	佐藤 洋	内閣府食品安全委員会委員長	2016
脳と心 一分子生物学者がみた精神医学― ①部品の科学と全体としての脳	糸川 昌成	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長	2016
脳と心 一分子生物学者がみた精神医学― ②家族の旅から回復を体験すること	糸川 昌成	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長	2016
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	黒須 正明	放送大学名誉教授	2016
編集者漱石 ①編集者子規	長谷川 郁夫 草光 俊雄	大阪芸術大学教授 東京大学名誉教授	2016
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	長谷川 郁夫 草光 俊雄	大阪芸術大学教授 東京大学名誉教授	2016
医療・健康で地域をつなぐ	佐藤 真治	帝京大学教授	2017
現代社会におけるイノベーションの意味	吉川 智教	元早稲田大学大学院教授	2017
困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに私たちができること～	森山 誉恵	NPO法人3keys代表理事	2017
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	安藤 政輝	元東京藝術大学教授・学術博士	2017
通信教育で人生が変わった ～女優・作家 中江有里～	中江 有里	女優・作家	2018
天文学を魅力的に伝えたい	縣 秀彦	国立天文台准教授	2018
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	白石 弘巳	東洋大学名誉教授	2018
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	白石 弘巳	東洋大学名誉教授	2018
DV被害者の声～求められる支援のありかたとは～	須藤 八千代	愛知県立大学名誉教授	2019
科学は文化だ ―科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会―	富田 知宏 奈良 由美子 石橋 一郎	日本科学未来館 広報・普及課長 放送大学教授 文部科学省人材政策課課長補佐	2019
研究不正と研究倫理	児玉 晴男	放送大学特任教授	2019
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	河合 薫 安田 雅彦	健康社会学者・文藝家 ラッシュジャパン人事部長	2020
脳脊髄液減少症と児童・生徒	篠永 正道	国際医療福祉大学熱海病院教授	2020
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	丸山 茂徳 高比良 一道	東京工業大学地球生命研究所 特命教授 放送大学プロデューサー	2020

(3) 生涯学習支援番組

2024年2月現在

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
データサイエンス革命	1～6	和泉 志津恵(滋賀大学データサイエンス学部 教授) 松井 秀俊(滋賀大学データサイエンス学部 准教授) 倉橋 節也(筑波大学大学院ビジネス科学研究科 教授) 佐藤 忠彦(筑波大学大学院ビジネス科学研究科 教授) 中野 純司(統計数理研究所教授) 南 和宏(統計数理研究所教授)	2018
数理・データサイエンス・AI 専門講座	AIプロデューサー～人とAIの連携～ 第1回～第8回	山口 高平(神奈川大学教授) 中谷 多哉子(放送大学教授) 伊藤 重隆(情報システム学会 元会長) 森川 幸治(人工知能学会 前副会長) 森田 武史(青山学院大学准教授) 佐藤 友康(グローリー ロボット事業推進総括部長) 手嶋 英之(中日本高速道路 専門主幹) 高橋 正樹(慶応義塾大学教授) 萬 礼応(筑波大学助教) 柘原 礼士(慶應義塾幼稚舎教諭) 伊勢 明子(杉並区立浜田山小学校 校長) 小野寺 峻真(慶應義塾大学大学院修士課程) 松原 仁(東京大学教授) 栗生 賢一郎(慶應義塾大学理工学部事務室事務次長) 野原 諭(経済産業省 商務情報政策局長) 村上 敬亮(デジタル庁 デジタル統括官) 板倉 寛(文部科学省大臣官房文部科学戦略官) 保科 学世(アクセンチュア AIグループ日本統括)	2021
データサイエンスの技術	機械学習概論Ⅰ 第1回～第4回	赤穂 昭太郎(産業技術総合研究所上級主任研究員)	2021
数理・データサイエンス・AI リテラシー講座	基礎 第1回～第8回	山本 章博(放送大学客員教授[京都大学大学院教授]) 林 和則(放送大学客員教授[京都大学大学院教授]) 中野 直人(放送大学非常勤講師[京都大学特定講師]) 鹿島 久嗣(放送大学客員教授[京都大学大学院教授]) 木村 真之(放送大学非常勤講師[京都大学特定講師]) 關戸 啓人(放送大学非常勤講師[京都大学特定講師]) 田村 寛(放送大学客員教授[京都大学大学院教授])	2021
数理・データサイエンス・AI リテラシー講座	心得 第1回～第8回	村上 祐子(立教大学大学院教授) 加藤 尚徳(KDDI総合研究所) 森下 壮一郎(株式会社サイバーエージェント) 久木田 水生(名古屋大学大学院准教授) 辰己 丈夫(放送大学教授) 大西 可奈子(AI評論家)	2021
数理・データサイエンス・AI リテラシー講座	導入 第1回～第8回	竹村 彰通(放送大学客員教授[滋賀大学学長]) 齋藤 邦彦(放送大学客員教授[滋賀大学教授]) 笛田 薫(放送大学客員教授[滋賀大学教授]) 久野 遼平(放送大学非常勤講師[東京大学大学院講師]) 高野 渉(放送大学客員教授[大阪大学特任教授]) 宮西 吉久(放送大学非常勤講師[大阪大学特任講師]) 杉本 知之(放送大学客員教授[滋賀大学教授]) 市川 治(放送大学客員教授[滋賀大学教授]) 佐藤 智和(放送大学客員教授[滋賀大学教授]) 内田 誠一(放送大学客員教授[九州大学主幹教授])	2021
データサイエンスの技術	ニューラルネットワーク概論 第1回～第4回	庄野 逸(電気通信大学教授)	2021
数理・データサイエンス・AI 応用基礎講座	AI基礎 第1回～第9回	西田 豊明(福知山公立大学教授) 松原 繁夫(大阪大学特任教授) 松井 秀俊(滋賀大学データサイエンス学部准教授) 内田 誠一(放送大学客員教授[九州大学主幹教授]) 飯山 将晃(滋賀大学教授) 岩山 幸治(滋賀大学准教授) 市川 治(放送大学客員教授[滋賀大学教授]) 高野 渉(放送大学客員教授[大阪大学特任教授])	2022
データサイエンスの技術	機械学習概論Ⅱ 第1回～第4回	赤穂 昭太郎(産業技術総合研究所上級主任研究員)	2022
数理・データサイエンス・AI 専門講座	ソフトウェア開発への応用 第1回～第8回	小笠原 秀人(千葉工業大学教授) 片峯 恵一(九州工業大学准教授) 阿萬 裕久(愛媛大学特任教授)	2022

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
数理・データサイエンス・AI 専門講座	多変量データ分析実践の基礎 第1回～第5回	渡辺 美智子(立正大学教授) 竹村 尚大(SAS Japan) 橋本 武彦(GAテクノロジーズ) 三田 匡能(GAテクノロジーズ) 藤井 良宜(宮崎大学教授) 黒木 透(川崎フロンターレ) 菅 由紀子(Rejoui社長) 木村 敦(統計センター理事) 長藤 洋明(総務省統計局) 朝日 弓未(東京理科大学教授) 黒田 正博(岡山理科大学教授) 米倉 裕之(True Date 代表取締役社長) 越尾 由紀(True Data) 野村 幸志郎(True Data)	2022
数理・データサイエンス・AI 応用基礎講座	データエンジニアリング基礎 第1回～第7回	齋藤 邦彦(放送大学客員教授(滋賀大学教授)) 梅津 高朗(放送大学客員准教授(滋賀大学准教授)) 杉山 一成(放送大学客員准教授(京都大学特定准教授)) 辰己 丈夫(放送大学教授) 川井 明(放送大学客員准教授(滋賀大学准教授))	2022
数理・データサイエンス・AI 応用基礎講座	データサイエンス基礎 第1回～第9回	竹村 彰通(放送大学客員教授(滋賀大学学長)) 島田 尚(放送大学客員准教授(東京大学准教授)) 關戸 啓人(放送大学非常勤講師(京都大学特定講師)) 和泉 志津恵(放送大学客員教授(滋賀大学教授)) 清 智也(放送大学客員教授(東京大学教授)) 姫野 哲人(放送大学客員准教授(滋賀大学准教授)) 椎名 洋(放送大学客員教授(滋賀大学教授)) 川井 明(放送大学客員准教授(滋賀大学准教授))	2022
数理・データサイエンス・AI 専門講座	企業経営における実際 第1回～第4回	佐々木 宏(立教大学教授) 船生 幸宏(横河電機常務執行役員) 藤原 秀樹(横河電機課長) 柿原 正郎(東京理科大学教授) 生田目 崇(中央大学教授) 小木 しのぶ(NTTデータ数理システム取締役) 北中 英明(拓殖大学教授) 栗野 聡(ザワークーズギルドCEO) 山崎 健太郎(声優・ナレーター)	2023
数理・データサイエンス・AI 専門講座	コミュニケーション学への応用	高井 次郎(名古屋大学大学院 教授)	2023
数理・データサイエンス・AI 専門講座	心理学研究への応用 第1回～第9回	清水 裕士(放送大学客員教授(関西学院大学)) 高橋 秀明(放送大学教授) 武藤 拓之(放送大学非常勤講師(京都大学)) 難波 修史(放送大学非常勤講師(理化学研究所)) 小杉 考司(放送大学客員教授(専修大学)) 紀ノ定 保礼(放送大学客員准教授(静岡理工科大学)) 国里 愛彦(放送大学客員教授(専修大学)) 横谷 謙次(放送大学客員准教授(徳島大学)) 山本 哲也(放送大学客員准教授(徳島大学)) 竹林 由武(放送大学非常勤講師(福島県立医科大学)) 高橋 春菜(放送大学アナウンサー)	2023
数理・データサイエンス・AI 専門講座	地理空間情報とデータサイエンス 第1回～第4回	山田 育穂(放送大学客員教授(東京大学)) 沖 拓弥(放送大学客員准教授(東京工業大学))	2023
数理・データサイエンス・AI 専門講座	データ科学としての言語研究の可能性	滝浦 真人(放送大学教授) 李 在鎬(早稲田大学大学院教授) 木山 幸子(東北大学大学院准教授)	2023
数理・データサイエンス・AI 専門講座	リハビリテーション科学のDX 第1回～第3回	片桐 祥雅(東京大学大学院上席研究員) 中谷 多哉子(放送大学教授) 川原 靖弘(放送大学准教授) 古和 久朋(放送大学客員教授(神戸大学)) 柏木 敦子(放送大学客員教授(武庫川女子大学)) 一ノ瀬 智子(放送大学客員教授(武庫川女子大学)) 石川 朗(放送大学客員教授(神戸大学)) 大谷 啓尊(放送大学非常勤講師(神戸国際大学)) 今井 絵美子(放送大学客員准教授(神戸総合医療専門学校)) 秋末 敏広(放送大学客員教授(神戸大学)) 塩田 清二(放送大学客員教授(湘南医療大学))	2023
BSキャンパスex特集	生きた日本語と格闘する 日本語研究70年 第1回、第2回	滝浦 真人(放送大学教授) 前田 直子(学習院大学教授) 田窪 行則(国立国語研究所所長)	2018

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
BSキャンパスex特集	縄文文化からのメッセージ ～北日本の考古学～	上條 信彦(弘前大学准教授) 會田 容弘(郡山女子大学短期大学部教授) 小杉 康(北海道大学大学院教授) 岡田 康博(青森県世界文化遺産登録専門監) 野口 香織(きき手)	2018
BSキャンパスex特集	シリーズ 海と日本	來生 新(前放送大学学長) 池田 龍彦(放送大学名誉教授) 岡田 光正(放送大学名誉教授) 中原 裕幸(一般社団法人海洋産業研究会常務理事) 柳 哲雄(九州大学名誉教授) 竹口 秀夫(元神奈川県理事、横浜創造まちづくり学会会長) 道田 豊(東京大学 大気海洋研究所 教授)	2018
BSキャンパスex特集	デジタル技術で甦る幕末・維新の風景東京 大学史料編纂所 古写真プロジェクト ①、②	杉森 哲也(放送大学教授) 保谷 徹(東京大学史料編纂所所長) 近藤 成一(放送大学教授) 谷 昭佳(東京大学史料編纂所技術専門職)	2018
BSキャンパスex特集	環境研究 最新の成果 ～SDGsの地域実装に関する研究～	川久保 俊(法政大学准教授) 岡田 光正(放送大学名誉教授)	2019
BSキャンパスex特集	大学は歌う 学習センターをつなぐ歓喜の歌	宮野 モモ子(前千葉学習センター所長)	2019
BSキャンパスex特集	妊娠中に見つかるがん ～2つの命をつなぐために～	北野 敦子(聖路加国際病院腫瘍内科医幹) 小林 真理子(聖心女子大学教授)	2019
BSキャンパスex特集	発展するデザイン ～"情報デザイン"が切り拓いた世界～	伏見 清香(放送大学教授) 須永 剛司(東京藝術大学名誉教授) 松本 和己(日立製作所・デザイナー)	2019
BSキャンパスex特集	フランス高校生のニッポン体験 ～移民の街から"コンニチハ"～	岩崎 久美子(放送大学教授) ジャン・フランソワ・サブレ(教育研究者) ポール・エリチュアル高校生 鈴木 麻里子(声優)	2019
BSキャンパスex特集	ようこそ！情報デザインの世界へ 公開講座IN名古屋	伏見 清香(放送大学教授) 茂登 山清文(元名古屋芸術大学特任教授)	2019
BSキャンパスex特集	歴史から地震を考える(前編)、(後編)	杉森 玲子(東京大学史料編纂所准教授) 榎原 雅治(東京大学地震火山史料連携研究機構教授) 近藤 成一(放送大学教授) 佐竹 健治(東京大学地震研究所所長) 大森 聡一(放送大学教授)	2019
BSキャンパスex特集	インストラクショナルデザイン入門 大学 授業の効果・効率・魅力を高めるヒント！ 第1回～第4回	村上 正行(大阪大学 教授) 根本 淳子(明治学院大学 准教授) 加藤 浩(放送大学 教授) 岩崎 千晶(関西大学 准教授) 高橋 暁子(徳島大学 准教授) 渡辺 雄貴(東京理科大学 准教授)	2020
BSキャンパスex特集	鏡の中のミステリー ～なぜ左右が反対に見えるのか？～	高野 陽太郎(東京大学名誉教授) 森 津太子(放送大学教授)	2020
BSキャンパスex特集	就学前教育への誘い ～子どもの健全な発育のために～	無藤 隆(白梅学園大学名誉教授) 神長 美津子(國學院大学名誉教授) 大曾根 寛(元放送大学特任教授) 佐治 真規子(アナウンサー)	2020
BSキャンパスex特集	転換するまちづくりの仕組み ～エリアマネジメント～ 第1回～第3回	小林 重敬(横浜国立大学名誉教授) 田城 孝雄(放送大学教授) 中嶋 美年子(エリアマネージャー)	2020
BSキャンパスex特集	人を対象とする研究の倫理 第1回、第2回	大北 全俊(東北大学 准教授) 高松 祥子(フリーアナウンサー)	2020
BSキャンパスex特集	保育の学びへの招待	岩崎 久美子(放送大学教授) 大方 美香(大阪総合保育大学学長) 矢藤 誠慈郎(和洋女子大学教授) 佐治 真規子(アナウンサー)	2020
BSキャンパスex特集	読みたいに応える図書館 第1回、第2回	三輪 眞木子(放送大学客員教授) 野口 武悟(専修大学 教授) 田村 俊作(慶應義塾大学 名誉教授) 松戸 宏予(佛教大学 教授)	2020
BSキャンパスex特集	感染症と人類～パンデミックを考える～ 第1回～第4回	坂井 建雄(順天堂大学特任教授) 北村 義浩(日本医科大学特任教授) 矢野 晴美(国際医療福祉大学教授) 高橋 優三(岐阜大学名誉教授) 北 潔(長崎大学大学院教授) 田城 孝雄(放送大学教授)	2021

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
BSキャンパスex特集	現代的課題とレジリエンス～人類の進化と多様性から考える～(前編)、(後編)	稲村 哲也(放送大学名誉教授) 山極 壽一(総合地球環境学研究所所長) 関野 吉晴(武蔵野美術大学名誉教授)	2021
BSキャンパスex特集	考古・歴史・文化の今昔～蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ペルー編①、②	稲村 哲也(放送大学名誉教授) 大貫 良夫(東京大学名誉教授)	2021
BSキャンパスex特集	大学の遠隔教育はどこへ向かうのか 1、2	青木 久美子(放送大学教授) Tony Bates(ICDE研究者(カナダ)) Curt Bonk(インディアナ大学教授(米国)) Antonio Moreira Teixeira (ポルトガル公開大学教授(ポルトガル)) Cengiz Haken Aydin(アナドル大学教授(トルコ)) Avgoustos Tsinakos(国際ヘレニック大学教授(ギリシャ))	2021
BSキャンパスex特集	デジタル社会の課題と展望～DXへの道～	有川 節夫(前放送大学学園理事長) 喜連川 優(国立情報学研究所所長) 中川 八穂子(日立製作所研究開発グループ) 岩永 雅也(放送大学長)	2021
BSキャンパスex特集	トップアスリートと学ぶ 人生との向き合い方	田中ウルヴェ 京 (スポーツメンタルトレーニング上級指導士) 大山 泰宏(放送大学教授)	2021
BSキャンパスex特集	日本人は疫病とどう闘ってきたのか 前編、後編	近藤 成一(放送大学教授) 本郷 和人(東京大学教授) 本庄 総子(京都府立大学文学部講師) 海原 亮(住友史料館首席研究員)	2021
BSキャンパスex特集	オール・ヒストリーへのいざない 第1回～第3回	御厨 貴(東京大学名誉教授) 白鳥 潤一郎(放送大学准教授)	2022
BSキャンパスex特集	オンライン授業における障がいのある学生 への配慮 ～聴覚障がい編～、～視覚障がい編～	広瀬 洋子(放送大学教授) 白澤 麻弓(筑波技術大学教授) 中野 泰志(慶應義塾大学教授)	2022
BSキャンパスex特集	生活設計とリスクへの備え ～知っておきたい生命保険の基礎知識～ 前編、後編	李 鳴(放送大学教授) 堀田 一吉(慶應義塾大学商学部教授) 斎藤 数弘(公財)生命保険文化センター生活情報室)	2022
BSキャンパスex特集	トランスジェンダーとして生きる ～性ホルモンがもたらすからだへの影響～	関根 紀子(放送大学教授) 須永 美歌子(日本体育大学教授)	2022
BSキャンパスex特集	日本人にとってジャズとは何か 第1回、第2回	山下 洋輔(ピアニスト) 森山 威男(ジャズドラマー) 坂田 明(サクソフーン・クラリネットプレイヤー) 松原 隆一郎(放送大学教授) 永武 幹子(ジャズピアニスト)	2022
BSキャンパスex特集	権利擁護と意思決定支援 第1回、第2回	鳴本 翼(弁護士) 大曾根 寛(元放送大学特任教授) 石丸 昌彦(放送大学教授) 井出 訓(放送大学教授) 伊藤 友希(ディレクター)	2023
BSキャンパスex特集	考古・歴史・文化の今昔～蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～メキシコ編①～④	稲村 哲也(放送大学名誉教授) 伊藤 伸幸(名古屋大学助教) 杉山 三郎(アリゾナ州立大学研究教授、岡山大学特任教授)	2023
BSキャンパスex特集	情報をデザインする ～ミュージアムの役割と可能性～	伏見 清香(放送大学教授) 真鍋 真(国立科学博物館副館長) 熊谷 賢(陸前高田市立博物館主任学芸員) 前川 さおり(遠野文化研究センター学芸員) 山内 宏泰(リアス・アーク美術館館長) 古川 健(アクアマリンふくしま館長) 籾本 美孝(北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員)	2023
BSキャンパスex特集	デジタルアーカイブから広がる近現代史 ～アジア歴史資料センターの挑戦～	波多野 澄雄(筑波大学名誉教授) 白鳥 潤一郎(放送大学准教授)	2023
BSキャンパスex特集	現代の学校教育と教師～教科教育と学級経営編～、～課外活動と生徒指導編～	岩永 雅也(放送大学長) 中川 一史(放送大学教授) 西島 央(青山学院大学教授) 近 紀子(臨床心理士・公認心理師)	2023
“科学”からの招待状	回転の不思議：コマからスピニングまで	岸根 順一郎(放送大学教授)	2018
“科学”からの招待状	人類につながる生命進化	丸山 茂徳(東京工業大学地球生命研究所 特命教授) 大森 聡一(放送大学教授)	2018
“科学”からの招待状	地球と生命の誕生	丸山 茂徳(東京工業大学地球生命研究所 特命教授) 大森 聡一(放送大学教授)	2018
“科学”からの招待状	“チバニアン”でジオロジー ～地層を見ると地球がわかる？～	大森 聡一(放送大学教授) 大栗 麻未(アナウンサー)	2018
“科学”からの招待状	アカデミックカフェ 「錯覚」で知る人の心	菊池 聡(信州大学教授)	2019

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
"科学"からの招待状	新世代の有機合成 ～歴史と現状～、～有機触媒の最先端～	清水 真(三重学習センター所長) 秋山 隆彦(学習院大学理学部 教授) 寺田 眞浩(東北大学理学部教授)	2019
"科学"からの招待状	電気と磁気の不思議な相関： 鏡の国のサッカーゲーム	播磨 尚朝(神戸大学教授) 網塚 浩(北海道大学教授) 岸根 順一郎(放送大学教授) 柳澤 達也(北海道大学准教授)	2020
"科学"からの招待状	回すと立ち上がりジャンプするゆで卵の不思議	下村 裕(慶應義塾大学教授) 黒田 有彩(女優、科学番組・プログラム アシスタント)	2020
"科学"からの招待状	熊本地震 6年目の真実と教訓(前編)(後編)	鈴木 康弘(名古屋大学教授) 藤原 広行(防災科学技術研究所部門長) 竹内 裕希子(熊本大学准教授) 奈良 由美子(放送大学教授)	2021
"科学"からの招待状	新世代の有機合成～生命の起源に迫る! 不斉自己触媒反応～、～環境調和型有機触媒が拓くグリーンケミストリー～	碓合 憲三(東京理科大学教授) 丸岡 啓二(京都大学教授) 清水 真(三重学習センター所長)	2021
"科学"からの招待状	大統合自然史 第1回～第6回	岸根 順一郎(放送大学教授) 鎌田 進(高エネルギー加速器研究機構名誉教授) 七田 麻美子(埼玉大学基盤教育研究センター准教授) 魚住 孝至(放送大学特任教授) 北野 龍一郎(高エネルギー加速器研究機構教授) 大石 雅寿(国立天文台天文情報センター特任教授) 立松 健一(国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 所長) 安池 智一(放送大学教授) 菅原 正(神奈川大学総合理学研究所 客員教授) 山岸 明彦(東京薬科大学生命科学部 名誉教授) 稲村 哲也(放送大学名誉教授) 阿部 健一(総合地球環境学研究所 教授) 山極 壽一(総合地球環境学研究所 所長)	2021
"科学"からの招待状	アインシュタイン旋風が駆け抜けた日本	松井 哲男(放送大学特任教授) 岡本 拓司(東京大学大学院教授) 佐藤 文隆(京都大学名誉教授)	2022
"科学"からの招待状	質量とは何か この宇宙に存在する物質の根本的性質とその起源を考える 第1回～第4回	松井 哲男(放送大学特任教授) 矢崎 紘一(東京大学名誉教授) ゴードン・ベイム(イリノイ大学名誉教授) 初田 哲男(理化学研究所 数理創造プログラム PD) 黒田 有彩(女優、科学番組・プログラム アシスタント)	2022
"科学"からの招待状	ネコのマタタビ反応の謎	安池 智一(放送大学教授) 宮崎 雅雄(岩手大学教授) 西川 俊夫(名古屋大学大学院教授) 上野山 怜子(岩手大学大学院生)	2022
"科学"からの招待状	生命にまつわる"常識"を疑う!? 第1回、第2回	安池 智一(放送大学教授) 市橋 伯一(東京大学教授) 成田 憲保(東京大学教授) 柳澤 実穂(東京大学准教授) 豊田 太郎(東京大学准教授)	2023
"科学"からの招待状	大統合自然史第二部 地球を知る	佐藤 毅彦(JAXA宇宙科学研究所教授) 阿部 健一(総合地球環境学研究所 教授) 伊村 智(国立極地研究所 副所長・教授) 尾崎 和(東京工業大学 理学院 准教授) 中塚 武(名古屋大学大学院 環境学研究科 教授)	2023
"科学"からの招待状	惑星と生命の普遍性と多様性を探る ～第1回、第2回～	須藤 靖(東京大学教授) 藤井 友香(総合研究大学院大学准教授)	2023
公開講座セレクション	祈りと音にあふれた古代中南米	森下 矢須之(BIZEN中南米美術館館長)	2018
公開講座セレクション	北の縄文世界 ～青森・三内丸山遺跡と豊かな文化～	岡田 康博(青森県世界文化遺産登録専門監)	2018
公開講座セレクション	鉱物が語る地球の履歴書	有馬 眞(放送大学客員教授)	2018
公開講座セレクション	第九を学ぶ 初演から100年 ドイツ俘虜たちと第九	石川 榮作(徳島学習センター所長)	2018
公開講座セレクション	第九を学ぶ 「ドイツ語の詩・歌唱の発声演習」	ヘルマン・ゴチェフスキ(東京大学大学院教授)	2018
公開講座セレクション	第九を学ぶ 日本人と第九	山本 純ノ介(千葉大学教授、作曲家) 茂木 一衛(横浜国立大学名誉教授) 岩井 正浩(神戸大学名誉教授) 安田 寛(奈良教育大学名誉教授) 宮野 モモ子(前千葉学習センター所長)	2018

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
公開講座セレクション	第九を学ぶ ベートーヴェンからのメッセージ	茂木 一衛(横浜国立大学名誉教授)	2018
公開講座セレクション	体験！サイコドラマ 心理劇がひらく心の扉	浦木 恵子(放送大学非常勤講師[臨床心理士])	2018
公開講座セレクション	発酵王国・愛知が誇る発酵食の魅力	加藤 雅士(名城大学農学部教授)	2018
公開講座セレクション	北海道の縄文文化 ～遺跡で読み解く 縄文の生活～	小杉 康(北海道大学大学院教授)	2018
公開講座セレクション	先端技術を支える宝石	熊田 伸弘(山梨大学教授)	2019
公開講座セレクション	大好きなこと誰かの役に立つ ～地方活性化を目指したアイドルたちの実践～	樋川 新一(弘前アクターズスクール代表)	2019
公開講座セレクション	占領期社会教育とナトコ映画	長澤 成次(千葉学習センター所長) 松原 由季(ナレーター)	2020
公開講座セレクション	「無意識」の世界の不思議	渡邊 孝憲(放送大学客員教授) 松原 由季(ナレーター)	2020
クロス討論	アメリカの芸術と文化 第1部、第2部	佐藤 良明(東京大学名誉教授) 宮本 陽一郎(放送大学教授) 生井 英考(立教大学教授) 棚木 玲子(法政大学教授) 大和田 俊之(慶應義塾大学教授)	2018
クロス討論	“縄文”を思索する 考古学×哲学×アート 前編、後編	山田 康弘(国立歴史民族博物館教授) 魚住 孝至(放送大学特任教授) 石井 匠(岡本太郎記念館客員研究員) 譽田 亜紀子(ライター) 近藤 成一(放送大学教授)	2018
クロス討論	“人新世”時代の人類と地球の未来 ～人類学からの問い～前編、後編	本多 俊和(元放送大学教授) 篠田 謙一(国立科学博物館人類研究部長) 湖中 真哉(静岡県立大学教授) 棚橋 訓(お茶の水女子大学教授) 大村 敬一(放送大学教授)	2019
スペシャル講演	安心・安全のための地域マネジメント ～ゆいま～る精神の再興で減災を～	奈良 由美子(放送大学教授) 等々力 英美(放送大学沖縄学習センター客員教授) 市井 雅哉(兵庫教育大学教授) 斎藤 綾乃(気象キャスター) 司会: 仲座 栄三(琉球大学教授)	2018
スペシャル講演	宇宙線・年輪・C14	櫻井 敬久(前放送大学山形学習センター所長)	2018
スペシャル講演	エネルギー 環境問題を解決するパワーエレクトロニクス技術	大西 徳生(元放送大学徳島学習センター所長)	2018
スペシャル講演	外交官・裁判官・そして国際法学者 安達 峰一郎	柳原 正治(放送大学特任教授)	2018
スペシャル講演	機械は“考える”ことができるか	村上 研二(前愛媛学習センター所長)	2018
スペシャル講演	銀河を蘇らせるブラックホール	横沢 正芳(放送大学茨城学習センター元所長)	2018
スペシャル講演	サツマイモは世界を救う	菅沼 俊彦(放送大学鹿児島学習センター元所長)	2018
スペシャル講演	自然災害とくらしのレジリエンス ～多様な主体で高める地域の安全・安心～	奈良 由美子(放送大学教授)	2018
スペシャル講演	出会いが学びを生み 学びが出会いを生む	岡田 雅夫(前放送大学岡山学習センター所長)	2018
スペシャル講演	憎しみではなく寛容と共生を ～ルネサンスの名著に学ぶ～	宮下 志朗(フランス文学者)	2018
スペシャル講演	“リキミ&ブルース”の誕生 ～黒人R&Bと昭和三連符演歌～	佐藤 良明(東京大学名誉教授)	2018
スペシャル講演	利休の逸話「茶話指月集」を読む	生形 貴重(京都学習センター客員教授)	2018
スペシャル講演	わたしの刑法学研究を顧みて	上野 達彦(前放送大学三重学習センター所長)	2018
スペシャル講演	私の「若者研究」前編、後編	宮本 みち子(放送大学名誉教授)	2018
スペシャル講演	1910年ハレー彗星接近と青森ゆかりの天文学者の観測	倉又 秀一(前青森学習センター所長) 松原 由季(ナレーター)	2019
スペシャル講演	音楽教育の魅力 ～主体的な歌唱表現を求めて～	宮野 モモ子(前千葉学習センター所長)	2019
スペシャル講演	地元学・地域研究の実践 ～バン格拉デシュとブータンを通して～	河合 明宣(放送大学名誉教授)	2019
スペシャル講演	情報学 公共図書館の課題解決支援サービス	三輪 眞木子(放送大学客員教授)	2019
スペシャル講演	心理学への誘い ～自分と他者理解の座標軸・性格の話～	小野 けい子(放送大学名誉教授) 松原 由季(ナレーター)	2019
スペシャル講演	鉄と生命	吉村 悦郎(東京大学名誉教授) 松原 由季(ナレーター)	2019
スペシャル講演	明治時代の“交通革命”と三菱財閥の発生	東條 正(前長崎学習センター所長) 松原 由季(ナレーター)	2019

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
スペシャル講演	リア王と疎外	渋谷 治美(前埼玉学習センター所長) 松原 由季(ナレーター)	2019
スペシャル講演	ロートレックの面影を追って	佐々 有生(前島根学習センター所長) 松原 由季(ナレーター)	2019
スペシャル講演	化学結合を考える	井本 英夫(宇都宮大学名誉教授)	2021
スペシャル講演	カミュ「ペスト」を読む	三野 博司(奈良女子大学名誉教授)	2021
スペシャル講演	暮らしの中の「面積」と数学	佐藤 圓治(山形大学名誉教授)	2021
スペシャル講演	健康寿命と身体活動 ～生涯を自立して過ごすために～	北村 潔和(富山大学名誉教授)	2021
スペシャル講演	「現代社会」と子どもの遊び	前田 明(大分大学名誉教授)	2021
スペシャル講演	これからの日本農業を考える —農業経営研究の視点から—	小林 一(元鳥取学習センター所長)	2021
スペシャル講演	心理学と脳科学から人の生涯発達を学ぶ	富永 大介(琉球大学名誉教授)	2021
スペシャル講演	正義と公正の心理学	大淵 憲一(元宮城学習センター所長)	2021
スペシャル講演	哲学とは何か？ ～プラトン「国家」の問いと答え～	岡部 勉(熊本大学 名誉教授)	2021
スペシャル講演	マイクロ・ナノデバイス研究と社会貢献	大平 文和(香川大学名誉教授)	2021
スペシャル講演	イノベーションと知識創造	平田 透(前石川学習センター所長)	2022
スペシャル講演	英語多読における流暢性獲得への認知科学 からのアプローチ	小野里 好邦(元群馬学習センター所長)	2022
スペシャル講演	エーリヒ・ケストナーとその時代 —二つの世界大戦を越えて—	佐藤 和夫(元茨城学習センター所長)	2022
スペシャル講演	実例に基づく画像情報応用の可能性	西田 眞(元秋田学習センター所長)	2022
スペシャル講演	ベーターヴェンの人生哲学 —苦悩を超えて歓喜へ—	石川 榮作(元徳島学習センター所長)	2022
スペシャル講演	マルクス理論の背後仮説と社会学的人間論 の領野	藤井 史朗(前静岡学習センター所長)	2022
スペシャル講演	河川の水質調査が語るもの	平山 公明(元山梨学習センター所長)	2023
スペシャル講演	社会教育・生涯学習入門	長澤 成次(元千葉学習センター所長)	2023
スペシャル講演	未来をあきらめない化学 —地球という青いビー玉を守ろう—	大野 隆(元兵庫学習センター所長)	2023
16番目の授業	英語で描いた日本&コミュニケーション学 入門 多様性と共に生きる社会で	大橋 理枝(放送大学教授) 根橋 玲子(明治大学教授)	2018
16番目の授業	がんを知る	田城 孝雄(放送大学教授) 渡邊 清高(帝京大学医学部内科学講座病院教授)	2018
16番目の授業	死生学のフィールド	石丸 昌彦(放送大学教授) 山崎 浩司(静岡社会健康医学大学院大学教授)	2018
16番目の授業	法学入門 日本における法学の誕生	柳原 正治(放送大学特任教授) 内田 貴(東京大学名誉教授)	2018
16番目の授業	身近な統計 ～データ活用が拓く新しい社会～	石崎 克也(放送大学教授) 渡辺 美智子(立正大学教授)	2019
16番目の授業	データ構造とプログラミング	鈴木 一史(放送大学教授) 松下 孝太郎(東京情報大学教授) 山本 光(横浜国立大学教授)	2020
16番目の授業	「古い」の創造性～くるる即興劇団の挑戦～	園部 友里恵(三重大学准教授) 堀 薫夫(大阪教育大学名誉教授) 荻野 亮吾(佐賀大学大学院准教授) 岩崎 久美子(放送大学教授)	2021
16番目の授業	考古学・日本の古代中世 —世界遺産・北の縄文文化を読み解く	近藤 成一(放送大学教授) 早乙女 雅博(放送大学客員教授) 岡田 康博(青森県世界文化遺産登録専門監)	2021
16番目の授業	心理学概論～その先に広がる世界～	森 津太子(放送大学教授) 向田 久美子(放送大学准教授) 高瀬 堅吉(中央大学教授) 池田 琴世(認定心理士)	2021
16番目の授業	「日本語リテラシー」と「日本語学入門」のあいだ	滝浦 真人(放送大学教授) 石黒 圭(国立国語研究所教授) 澤村 美幸(和歌山大学准教授)	2021
16番目の授業	ユーザ調査法	高橋 秀明(放送大学教授) 須藤 智(静岡大学准教授) 原田 悦子(筑波大学教授)	2021
16番目の授業	危機の心理学(17) ～新型コロナウイルス感染症という危機～	森 津太子(放送大学教授) 三浦 麻子(大阪大学大学院教授)	2022
16番目の授業	健康長寿のためのスポーツロジック(19)	田城 孝雄(放送大学教授) 内藤 久士(順天堂大学教授) 田村 好史(順天堂大学教授)	2022

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
16番目の授業	現代教育入門 どんとこい、イチャモン ～学校と保護者のトラブルを考える～	小野田 正利(大阪大学名誉教授) 岩崎 久美子(放送大学教授) 岩永 雅也(放送大学長) 田中 章貴(ナレーター)	2022
16番目の授業	現代の国際政治('22) ～ロシアのウクライナ侵攻を考える～	高橋 和夫(放送大学名誉教授、国際政治学者) 鈴木 一人(東京大学教授) 白鳥 潤一郎(放送大学准教授) 合六 強(二松学舎大学准教授) 小泉 悠(東京大学専任講師)	2022
16番目の授業	コロナの時代 心理臨床の現場では今 第1回	佐藤 仁美(放送大学准教授) 瀧口 俊子(放送大学名誉教授) 大村 哲夫(東北大学大学院准教授) 木村 佐枝子(臨床心理士) 宮原 亮子(臨床心理士) 岡本 大助(臨床心理士) 菅原 恵(臨床心理士) 宗田 美名子(臨床心理士) 桜井 亮平(臨床心理士)	2022
16番目の授業	社会福祉と法('20) ～求められる「合理的配慮」とは～	大曾根 寛(元放送大学特任教授) 高橋 春菜(放送大学アナウンサー)	2022
16番目の授業	日本史史料を読む 北条義時の手紙	近藤 成一(放送大学教授) 本郷 和人(東京大学教授)	2022
16番目の授業	はじめての気象学 異常気象	田中 博(筑波大学名誉教授) 大森 聡一(放送大学教授) 宮園 美海(俳優・ナレーター)	2022
16番目の授業	ダイナミックな地球 ジオストーリー 私たちの暮らしと地球の営み	山崎 晴雄(東京都立大学名誉教授) 大森 聡一(放送大学教授) 宮園 美海(俳優・ナレーター)	2023
16番目の授業 特別編	がんを知る～オンライン授業への誘い～ 1～3	田城 孝雄(放送大学教授) 渡邊 清高(帝京大学医学部内科学講座病院教授)	2019
放送大学アーカイブス・知の扉	安全・安心と地域マネジメント('14)	堀井 秀之(東京大学教授) 奈良 由美子(放送大学教授) 片田 敏孝(東京大学特任教授) 多々納 裕一(京都大学防災研究所教授)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	音楽・情報・脳('13)	仁科 エミ(放送大学教授) 本田 学(国立精神・神経医療研究センター部長) 中村 明一(桐朋学園芸術短期大学講師) 八木 玲子(東京成徳短期大学准教授) 河合 徳枝(国立精神・神経医療研究センター研究員) 麻倉 怜士(オーディオ評論家)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	官民の人的資源論('09)	原田 順子(放送大学教授) 奥林 康司(神戸大学名誉教授)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	グローバル化の人類学('11)	大村 敬一(放送大学教授) 本多 俊和(元放送大学教授) 湖中 真哉(静岡県立大学教授) 竹沢 泰子(京都大学教授) 中谷 文美(岡山大学教授・副学長) 謝 黎(東北芸術工科大学准教授) 西崎 伸子(福島大学教授) 佐川 徹(慶応義塾大学准教授) 山崎 吾郎(大阪大学准教授)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	才能と教育～個性と才能の新たな地平へ～ ('10)	岩永 雅也(放送大学学長) 松村 暢隆(関西大学教授) 本田 泰洋(帝京短期大学客員教授) 平野 裕一(法政大学大学院教授)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	初歩のアラビア語('11)	鷲見 朗子(京都ノートルダム女子大学教授) 高橋 和夫(放送大学名誉教授、国際政治学者)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	生活知と科学知('09)	奈良 由美子(放送大学教授) 伊勢田 哲治(京都大学大学院教授) 内田 麻里香(東京大学特任講師) 平川 秀幸(大阪大学教授) 札野 順(早稲田大学教授)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	生命と環境の倫理('10)	清水 哲郎(岩手保健医療大学学長) 魚住 孝至(放送大学特任教授) 霜田 求(京都女子大学教授) 小林 睦(東北学院大学教授)	2018

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
放送大学アーカイブス・知の扉	和歌文学の世界('14)	渡部 泰明(国文学研究資料館館長) 島内 景二(電気通信大学教授) 島内 裕子(放送大学教授)	2018
放送大学アーカイブス・知の扉	アジアと漢字文化('09)	大西 克也(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 松丸 道雄(東京大学名誉教授) 平勢 隆郎(東京大学東洋文化研究所) 横田 恭三(跡見学園女子大学教授) 岩月 純一(東京大学大学院准教授) 福井 玲(東京大学大学院教授) 陳 力衛(東京大学大学院准教授)	2019
放送大学アーカイブス・知の扉	イスラーム世界の歴史的展開('11)	三浦 徹(お茶の水女子大学副学長) 吉田 光男(放送大学名誉教授) 近藤 信彰(東京外国語大学教授) 江川 ひかり(明治大学教授) 私市 正年(上智大学教授) 山下 王世(立教大学教授)	2019
放送大学アーカイブス・知の扉	色を探究する('13)	佐藤 仁美(放送大学准教授) 二河 成男(放送大学教授) 大橋 理枝(放送大学教授)	2019
放送大学アーカイブス・知の扉	日本語とコミュニケーション('15)	滝浦 真人(放送大学教授) 大橋 理枝(放送大学教授)	2019
放送大学アーカイブス・知の扉	認知心理学('13)	高野 陽太郎(東京大学名誉教授) 森 津太子(放送大学教授)	2019
放送大学アーカイブス・知の扉	Walking with Writers A Literary Journey around England('16)	井口 篤(慶応義塾大学准教授) 大橋 理枝(放送大学教授) ステュウット・ヴァーナム-アットキン(ナレーター・役者・作家)	2020
放送大学アーカイブス・知の扉	実践英語—映画とドラマで学ぶ('10)	大石 和欣(東京大学教授) 井口 篤(慶応義塾大学准教授) 大橋 理枝(放送大学教授) ステュウット・ヴァーナム-アットキン(役者・作家)	2020
放送大学アーカイブス・知の扉	発音をめぐる冒険('12)	井口 篤(慶応義塾大学准教授) 大橋 理枝(放送大学教授) ステュウット・ヴァーナム-アットキン(ナレーター・役者・作家)	2020
放送大学アーカイブス・知の扉	学力と学習支援の心理学('14)	進藤 聡彦(放送大学教授) 市川 伸一(東京大学名誉教授) 犬塚 美輪(東京学芸大学准教授) 瀬尾 美紀子(日本女子大学教授) 植阪 友理(東京大学大学院助教) 小林 寛子(東京未来大学准教授) 斎藤 兆史(東京大学名誉教授) 村川 雅弘(甲南女子大学教授)	2021
放送大学アーカイブス・知の扉	日本語からたどる文化('11)	ダニエル・ロング(東京都立大学教授) 大橋 理枝(放送大学教授)	2021
放送大学アーカイブス・知の扉	権力の館を考える('16)	御厨 貴(東京大学名誉教授) 井上 章一(国際日本文化研究センター所長) 五十嵐 太郎(東北大学教授) 白鳥 潤一郎(放送大学准教授) 高橋 和夫(放送大学名誉教授)	2022
放送大学アーカイブス・知の扉	少子社会の子ども家庭福祉('15)	山縣 文治(関西大学教授) 福田 公教(関西大学准教授) 小池 由佳(新潟県立大学教授) 林 浩康(日本女子大学教授) 汐見 和恵(新渡戸文化短期大学教授)	2022
放送大学アーカイブス・知の扉	スクールカウンセリング('10)	佐藤 仁美(放送大学准教授) 瀧口 俊子(放送大学名誉教授) 大村 哲夫(東北大学大学院准教授)	2022
放送大学アーカイブス・知の扉	危機の心理学('17)	森 津太子(放送大学教授) 星 薫(放送大学客員准教授)	2023
アーカイブス 初歩のイタリア語('17)	おいしいイタリア	村松 真理子(東京大学教授) ルドヴィーコ・チフェッリ(放送大学客員准教授)	2022
放送大学クラシックス	生きている鏡像('86)	大森 莊蔵(東京大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	宇宙の始まり～創造の種～('94)	スティーブン・W・ホーキング(ケンブリッジ大学教授)(当時) 佐藤 勝彦(東京大学教授(当時))	2023

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
放送大学クラシックス	オペラを語る('00)	遠山 一行(音楽評論家)	2023
放送大学クラシックス	海上都市のロマン('85)	菊竹 清訓(建築家)	2023
放送大学クラシックス	加速器科学('90)	西川 哲治(高エネルギー物理学研究所所長名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	狂言～笑いの芸術論～('93)	茂山 千五郎(狂言師)	2023
放送大学クラシックス	鬼来迎～農村信仰と鬼舞～('96)	三隅 治雄(元実践女子大学教授)	2023
放送大学クラシックス	五十音図の歴史('95)	馬淵 和夫(筑波大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	酒造りの歴史と技術①('91)	柚木 学(関西学院大学教授(当時))	2023
放送大学クラシックス	酒造りの歴史と技術②('91)	柚木 学(関西学院大学教授(当時))	2023
放送大学クラシックス	失敗と発明の構造('86)	菊池 誠(ソニー中央研究所所長(当時))	2023
放送大学クラシックス	情報通信技術のあゆみ(1) ～のろしから再び光へ～('91)	熊谷 信昭(大阪大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	情報通信技術のあゆみ(2) ～光・衛星・デジタル～('91)	熊谷 信昭(大阪大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	清朝末期の事件帖～画報を読む～('00)	武田 雅哉(北海道大学助教授)(当時)	2023
放送大学クラシックス	数学の不思議('89)	小平 邦彦(東京大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	生物の耐凍性～植物は北の冬をどのように 過ごすのか～('97)	吉田 静夫(北海道大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	[生・老・死]；日本人の人生観 ～内からの眼・外からの眼～('99)	新谷 尚紀(國學院大学大学院客員教授) 宮田 登(筑波大学名誉教授) ジャン・ノエル・ロベール(宗教学者) アラン・ロシエ(宗教学者) ハートムット・O・ロータモンド(宗教学者) トム・ギル(文化人類学者) 関沢 まゆみ(国立歴史民俗博物館教授)	2023
放送大学クラシックス	瀬戸内寂聴が語る 待賢門院と西行('01)	瀬戸内 寂聴(作家)	2023
放送大学クラシックス	戦乱と子どもたち('95)	サージ・レボヴィシ(児童精神科医)	2023
放送大学クラシックス	日本海域の古代史像('88)	門脇 禎二(京都府立大学学長(当時))	2023
放送大学クラシックス	日本語ワードプロセッサの開発('00)	森 健一(東芝テック取締役社長)(当時)	2023
放送大学クラシックス	日本の高等教育を展望する('86)	ロナルド・P・ドーア(社会学者)	2023
放送大学クラシックス	日本の木工具('87)	村松 貞次郎(東京大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	年輪は歴史年表('99)	光谷 拓実(京都大学大学院客員教授)	2023
放送大学クラシックス	ハレー彗星がやってくる('85)	小尾 信彌(東京大学名誉教授(元放送大学学長))	2023
放送大学クラシックス	文学の受容～ゲーテの場合～('85)	辻 理(東京大学名誉教授) 轡田 収(学習院大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	文化の多様性の認識へその1、2('87)	クロード レビ・ストロース(社会人類学者)	2023
放送大学クラシックス	蒔絵～漆黒と黄金の日本美～('97)	灰野 昭郎(漆芸史研究者)	2023
放送大学クラシックス	民謡の伝播と変容('92)	内 勉(民謡研究者)	2023
放送大学クラシックス	諸橋大漢和辞典の六十年('87)	鎌田 正(東京教育大学名誉教授)	2023
放送大学クラシックス	量子化学の発展とコンピューター('90)	大野 公男(学術情報センター教授(当時))	2023
放送大学クラシックス	私の発見した日本('87)	ダニエル・ブーアスティン(歴史家)	2023
キャリアアップ講座 データサイエンス基礎から応用	第1回～第8回	渡辺 美智子(立正大学教授) 中谷 多哉子(放送大学教授) 岡本 寛志(声優) 長谷山 美紀(北海道大学教授) 南 和宏(統計数理研究所教授) 北川 由紀彦(放送大学教授) 吉田 健一(東京大学名誉教授) 内田 匠(筑波大学院生) 平田 俊明(筑波大学院生) 倉橋 節也(筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授) 村田 忠彦(関西大学教授) 北村 章(大和大学教授) 青山 幹雄(元南山大学教授) ジェームス・カフナー(TRI-AD CEO)	2020
231オーディトリウム	～米仏映画黄金期への招待～ 「キング・コング」	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2021
231オーディトリウム	～米仏映画黄金期への招待～ 「素晴らしき哉、人生！」	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2021
231オーディトリウム	～米仏映画黄金期への招待～ 「天井桟敷の人々(第一部、第二部)」	野崎 敏(放送大学教授)	2021
231オーディトリウム	～米仏映画黄金期への招待～ 「大いなる幻影」	野崎 敏(放送大学教授)	2022
231オーディトリウム	～米仏映画黄金期への招待～「オルフェ」	野崎 敏(放送大学教授)	2022
231オーディトリウム	～米仏映画黄金期への招待～ 「カサブランカ」	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2022

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
231 オーディオリアム	～米仏映画黄金期への招待～ 「極北のナヌーク」	宮本 陽一郎(放送大学教授) 大村 敬一(放送大学教授)	2022
231 オーディオリアム	～米仏映画黄金期への招待～「霧の波止場」	野崎 敏(放送大学教授)	2022
231 オーディオリアム	～米仏映画黄金期への招待～「シェーン」	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2022
231 オーディオリアム	～米仏映画黄金期への招待～「美女と野獣」	野崎 敏(放送大学教授)	2022
231 オーディオリアム	～米仏映画黄金期への招待～ 「我等の生涯の最良の年」講義	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2022
231 オーディオリアム	～米仏映画黄金期への招待～ 「我等の生涯の最良の年」本編	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2022
231 オーディオリアム	～米欧映画黄金期への招待～「怒りの葡萄」	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2023
231 オーディオリアム	～米欧映画黄金期への招待～「駅馬車」	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2023
231 オーディオリアム	～米欧映画黄金期への招待～「河」	野崎 敏(放送大学教授)	2023
231 オーディオリアム	～米欧映画黄金期への招待～「第三の男」	野崎 敏(放送大学教授)	2023
高度学術番組 ACCELシンポジウム	第1回～第4回	松本 洋一郎(東京理科大学学長) 岡田 光正(放送大学名誉教授)	2019
筋トレ アカデミア	第1回～第15回	都竹 茂樹(熊本大学教授) 都竹 茂樹(熊本大学教授)	2019
筋トレ アカデミアⅡ	第1回～第15回	みうら 学(俳優) 舟津 汐里(女優) 芦田 もえな(声優・ナレーター)	2022
サイバーセキュリティⅡ	第1回～第5回	辰己 丈夫(放送大学教授) 井上 大介(NICTサイバーセキュリティ研究室室長) 菊池 浩明(明治大学教授) 上原 哲太郎(立命館大学教授)	2020
小学校プログラミング教育(導入編)	第1回～第3回	中川 一史(放送大学教授) 折笠 史典(文部科学省 情報教育振興室長) 佐和 伸明(千葉県柏市立手賀東小学校校長) 秋元 大輔(千葉県総合教育センター所長)	2018
小学校プログラミング教育(実践編)	第1回～第3回	倉澤 昭(放送大学客員准教授) 佐藤 幸江(放送大学客員教授)	2021
中学校・高等学校プログラミング教育(導入編)	第1回～第3回	中川 一史(放送大学教授) 大西 有(茨城大学准教授) 鹿野 利春(文部科学省教科調査官)	2021
シリーズ 日本の近代化を知る 7章	プロローグ、第1章～第7章	北岡 伸一(JICA理事長) 五百旗頭 薫(東京大学大学院教授) 田中 明彦(政策研究大学院大学学長) 伊丹 敬之(国際大学学長) 董島 信子(国際協力機構理事) 白石 隆(熊本県立大学理事長) 加藤 宏(前国際協力機構理事) 白鳥 潤一郎(放送大学准教授)	2019
続・日本の近代化を知る	ガイダンス (※第8～15章のガイダンス)	白鳥 潤一郎(放送大学准教授) 佐治 真規子(アナウンサー)	2022
続・日本の近代化を知る	第8章～第15章	松田 宏一郎(立教大学教授) 北岡 伸一(JICA理事長) 兼原 敦子(上智大学教授) 牧原 出(東京大学教授) 岡崎 哲二(東京大学教授) 渡辺 博史(国際通貨研究所理事長) 長谷川 真理子(総合研究大学院大学 学長) 青山 温子(名古屋大学名誉教授) 白鳥 潤一郎(放送大学准教授)	2022
特別番組	グローバル時代の英語苦手意識	宮本 陽一郎(放送大学教授)	2021
特別番組	社会的距離をとるとのことコロナ禍の社会心理学 ～放送大学オンライン講演会～	森 津太子(放送大学教授)	2021
特別番組	放送大学情報コース 学びはじめ	中谷 多哉子(放送大学教授) 青木 久美子(放送大学教授) 大西 仁(放送大学教授) 伏見 清香(放送大学教授) 山田 恒夫(放送大学教授)	2021
特別番組	ますます充実 放送大学のオンライン授業	高橋 春菜(放送大学アナウンサー) 中谷 多哉子(放送大学教授)	2021
特別番組	ビートルズde英文法・ライブ!	佐藤 良明(東京大学名誉教授) 中野 学而(中央大学准教授) 大橋 理枝(放送大学教授)	2022

シリーズ名	番組名	出演者	開始年度
特別番組	放送大学 自然と環境コース 学びはじめ	石崎 克也(放送大学教授) 大森 聡一(放送大学教授) 岸根 順一郎(放送大学教授) 二河 成男(放送大学教授) 橋本 健朗(放送大学教授) 大輪 香菊(アナウンサー)	2022
統計的因果推論の考え方と技術	第1回～第8回	岩崎 学(横浜市立大学 教授)	2020
日本語基礎A	いま、日本語教育を考える ～日本語基礎A ガイダンス編～	伊東 祐郎(国際教養大学特任教授) 滝浦 真人(放送大学教授)	2019
日本語基礎A	第1回～第15回	姫野 昌子(放送大学教授) 伊東 祐郎(国際教養大学特任教授)	2019
豊かな就学前教育を目指して	～保育・幼児教育スキルアップ講座～ 前編、後編	無藤 隆(白梅学園大学名誉教授) 神長 美津子(國學院大學名誉教授) 大曾根 寛(元放送大学特任教授) 佐治 真規子(アナウンサー)	2020
放送大学の新たな姿 ～教学Vision2027～	前編、後編	岩永 雅也(放送大学学長) 近藤 智嗣(放送大学副学長) 菊川 律子(元放送大学副学長) 隈部 正博(放送大学教授)	2022
学位記授与式	2022年度放送大学学位記授与式		2022

[3] 2023 (令和5) 年度字幕番組

(1) 授業番組 140科目 2100本 (45分番組)

No.	■授業科目
1	生物環境の科学(16)
2	心理臨床と身体の病(16)
3	西洋美術の歴史と理論(16)
4	博物館展示論(16)
5	基礎看護学(16)
6	乳幼児・児童の心理臨床(17)
7	コンピュータの動作と管理(17)
8	舞台芸術の魅力(17)
9	物理の世界(17)
10	初歩からの宇宙の科学(17)
11	生物の進化と多様化の科学(17)
12	食と健康(18)
13	コンピュータとソフトウェア(18)
14	日本美術史の近代とその外部(18)
15	心理学概論(18)
16	データ構造とプログラミング(18)
17	地域コミュニティと教育(18)
18	考古学(18)
19	初歩からの生物学(18)
20	「方丈記」と「徒然草」(18)
21	初歩からの化学(18)
22	太陽と太陽系の科学(18)
23	グローバル経済史(18)
24	地球温暖化と社会イノベーション(18)
25	博物館情報・メディア論(18)
26	レジリエンスの諸相(18)
27	初歩からの数学(18)
28	身近な統計(18)
29	問題解決の進め方(19)
30	健康長寿のためのスポーツロジック(19)
31	教育社会学概論(19)
32	社会調査の基礎(19)
33	グローバル化時代の日本国憲法(19)
34	計算の科学と手引き(19)
35	情報理論とデジタル表現(19)
36	入門線型代数(19)
37	現代経済学(19)
38	財政と現代の経済社会(19)
39	日本政治外交史(19)
40	文学・芸術・武道にみる日本文化(19)
41	アメリカの芸術と文化(19)
42	博物館資料保存論(19)
43	生命分子と細胞の科学(19)
44	力と運動の物理(19)
45	量子化学(19)
46	宇宙の誕生と進化(19)
47	数学の歴史(19)
48	エネルギーと社会(19)
49	情報化社会と国際ボランティア(19)
50	情報社会のユニバーサルデザイン(19)
51	Webのしくみと応用(19)
52	教育・学校心理学(20)
53	日本語学入門(20)
54	生活環境と情報認知(20)
55	災害看護学・国際看護学(20)
56	心理学研究法(20)
57	錯覚の科学(20)
58	中東の政治(20)
59	現代の会計(20)
60	認知行動療法(20)
61	肢体不自由児の教育(20)
62	英語で読む大統領演説(20)
63	コミュニティがつなぐ安全・安心(20)
64	教育調査の基礎(20)
65	社会・集団・家族心理学(20)
66	臨床心理学概論(20)
67	災害社会学(20)
68	金融と社会(20)
69	中国と東部ユーラシアの歴史(20)
70	「人新世」時代の文化人類学(20)
71	場と時間空間の物理(20)
72	データの分析と知識発見(20)
73	映像コンテンツの制作技術(20)
74	ユーザ調査法(20)
75	身近なネットワークサービス(20)
76	母性看護学(20)
77	開発経済学：アジアの農村から(20)
78	新時代の組織経営と働き方(20)
79	情報技術が拓く人間理解(20)
80	日本語リテラシー(21)
81	遠隔学習のためのパソコン活用(21)
82	疾病の回復を促進する薬(21)
83	疾病の成立と回復促進(21)
84	社会学概論(21)
85	ダイナミックな地球(21)
86	子どもの人権をどうまもるのか(21)
87	食の安全(21)
88	認知症と生きる(21)
89	心理カウンセリング序説(21)
90	英語で「道」を語る(21)
91	心理学統計法(21)
92	学習・言語心理学(21)
93	雇用社会と法(21)
94	サプライチェーン・マネジメント(21)

No.	■授業科目
95	マーケティング(21)
96	都市から見るヨーロッパ史(21)
97	植物の科学(21)
98	はじめての気象学(21)
99	量子物理学(21)
100	情報デザイン(21)
101	世界の中の日本外交(21)
102	暮らしに役立つバイオサイエンス(21)
103	学校臨床心理学特論(21)
104	発達心理学特論(21)
105	正多面体と素数(21)
106	運動と健康(22)
107	情報学のとびら(22)
108	世界文学への招待(22)
109	社会福祉-新しい地平を拓く(22)
110	暮らしに活かす不動産学(22)
111	学校リスク論(22)
112	現代の国際政治(22)
113	メディア論(22)
114	小児看護学(22)
115	入門微積分(22)
116	人体の構造と機能(22)
117	地域福祉の課題と展望(22)
118	神経・生理心理学(22)
119	市民生活と裁判(22)
120	近現代ヨーロッパの歴史(22)
121	教育のためのICT活用(22)
122	情報セキュリティ概論(22)
123	現代の内部監査(22)
124	空間と政治(22)
125	保健医療心理学特論(22)
126	自然科学はじめての一步(22)
127	地理空間情報の基礎と応用(22)
128	人文地理学からみる世界(22)
129	歴史のなかの人間(22)
130	日常生活のデジタルメディア(22)
131	初歩からの物理(22)
132	より良い思考の技法(23)
133	博物館概論(23)
134	分子の変化からみた世界(23)
135	かたちの化学-化学の考え方入門(23)
136	持続可能な社会と生活(23)
137	ソーシャルシティ(23)
138	地域・在宅看護論(23)
139	社会政策の国際動向と日本の位置(23)
140	今日のメンタルヘルス(23)
141	ドイツ語I(23)
142	新時代の生徒指導(23)
143	知覚・認知心理学(23)
144	進化心理学(23)
145	人生100年時代の家族と法(23)
146	経営情報学入門(23)
147	ファイナンス入門(23)
148	環境を可視化する技術と応用(23)
149	古代中世の日本(23)
150	感覚と応答の生物学(23)
151	データベース(23)
152	色を探究する(23)
153	住まいの環境論(23)

(140~153については、2024年度第1学期から字幕放送を行う)
2023年度 字幕番組
テレビ授業科目数 163科目※
うち字幕付科目数 139科目(2023年10月時点)
付与率85.3%

(2) 特別講義 17番組 (45分番組)

No.	■特別講義
1	エンジニアが映像で挑む！～トップアスリート強化～
2	第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会～東京藝術大学奏楽堂～
3	ノーベル賞科学者の軌跡Ⅰ 私が感化された教育とは
4	ノーベル賞科学者の軌跡Ⅱ どう鍛えられ研究を深めたか
5	「おくのほそ道」の真髄～芭蕉自筆本に基づく新研究～
6	笑いの哲学～コト・道化の社会的役割とは～
7	「年縞」が語る地球環境史
8	共に生きる社会を目指して～「医療的ケア児」をどう支えるのか～
9	ブラックホール-莫大なエネルギーの発生源-
10	「風狂を生きる精神 ～一休、蕭白、秋成からアラーキーまで～ もうひとつのクール・ジャパン」
11	気仙沼 ESDの軌跡：持続可能な社会の創造をめざして
12	摩擦の世界
13	身心一体科学からの健康寿命延伸～日本文化を先導科学につなぐ～
14	手本をはなれて～「相画」を生んだ奥出雲の地から～
15	微生物が作る究極の薬を求めて 大村 智博士が語るノーベル賞への歩み
16	分子の履歴を読み解く～地球環境の指標・アイソトマー～
17	レゲット教授が見た日本：ノーベル賞科学者による異文化交流

(3) 生涯学習支援番組

49本 (45分番組)、5本 (135分番組)

No.	■特別講義セレクション 22番組 22本 (45分番組)
1	和紙彫塑の美を究める
2	近代小説の誕生～バルザック「人間喜劇」をめぐる
3	広がる工芸の世界
4	藁の文化：欠かせない日本の意匠
5	アディクション～その現実と回復への支援～
6	薬物治療に貢献する～病院薬剤師の役割～
7	日本漫画と文化多様性～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～
8	江戸に咲いた和算の夢～数学者・関孝和物語～
9	渡り鳥の旅を追う
10	生命起源の謎に迫るGADV仮説
11	チャンマー インレー湖 周辺の水環境
12	日本海の生い立ちを探る～山陰海岸ジオパーク～
13	外邦国～軍事事情から近代資料へ～
14	自然災害では死なせない～ある災害社会工学者の格闘～
15	災害に安全なまちとすまい
16	自分自分分かる細胞健康科学～細胞・身体連携力応答機構とスロークササイズ効果～
17	謎の石塔「薩摩塔」
18	「紛争予防学」とはなにか
19	細胞の声を聞く
20	江戸時代からくり文化～座敷からくりに見る日本のエンジニアの源流～
21	屏風絵から見える近世の日本～泰西王侯騎馬図屏風～

No.	■BSキャンパスex特集 6番組 6本 (45分番組)
1	大学の遠隔教育はどこへ向かうのか1(講演編)
2	大学の遠隔教育はどこへ向かうのか2(討論編)
3	生活設計とリスクへの備え～知っておきたい生命保険の基礎知識～前編 生活設計とリスク管理
4	生活設計とリスクへの備え～知っておきたい生命保険の基礎知識～後編 私的保険としての生命保険
5	オンライン授業における障がいのある学生への配慮～聴覚障害編
6	オンライン授業における障がいのある学生への配慮～視覚障害編

No.	■16番目の授業 4番組 4本 (45分番組)
1	健康長寿のためのスポーツロジック
2	英語で描いた日本&コミュニケーション学入門 多様性と共に生きる社会で
3	日本史料を読む 北条義時の手紙
4	はじめての気象学 異常気象

No.	■スペシャル講演 4番組 4本 (45分番組)
1	これからの日本農業を考える～農業経営研究の視点から～
2	正義と公正の心理学
3	マルクス理論の背後仮説と社会学的人間論の領野
4	イノベーションと知識創造

No.	■科学からの招待状 4番組 4本 (45分番組)
1	新世代の有機合成～生命の起源に迫る！不斉自己触媒反応～
2	新世代の有機合成～環境調和型有機触媒が拓くグリーンケミストリー～
3	熊本地震6年目の真実と教訓(前編)
4	熊本地震6年目の真実と教訓(後編)

No.	■特別番組 1番組 1本 (45分番組)
1	放送大学の修学支援～障害のある学生の学びのために～

No.	■続・日本の近代化を知る Japanese Modernization Lecture Series 9番組 9本 (45分番組)
1	Chapter 8 Intellectual and Social Aspects of Modernization in Japan
2	Chapter 9 Modern in Japan and the Wars Part 1
3	Chapter 9 Modern in Japan and the Wars Part 2
4	Chapter 10 Japan and Modern International Law
5	Chapter 11 Modernization of Japan's Administrative System
6	Chapter 12 Development of Industries and Industrial Policy
7	Chapter 13 Modernization in Japan - The Fiscal and Monetary Field
8	Chapter 14 The Road to a Nation of Science and Technology
9	Chapter 15 Public Health and Health Systems in Japan - Historical Review

No.	■放送大学アーカイブス・知の扉 5番組 5本 (135分番組)
1	障害を知り共生社会を生きる(17)第1回～第3回
2	障害を知り共生社会を生きる(17)第4回～第6回
3	障害を知り共生社会を生きる(17)第7回～第9回
4	障害を知り共生社会を生きる(17)第10回～第12回
5	障害を知り共生社会を生きる(17)第13回～第15回

【4】2023（令和5）年度教務スケジュール
（1）学部

	第1学期	第2学期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
授業	(放送授業) 1日~															
成績管理	1日~															
履修事務	1日~															
学生募集	1日~															
司書教諭	1日~															
集中小目録修生	1日~															
講義生	1日~															
公認心理師	1日~															
選考試験	1日~															
心理実習	1日~															

(2) 大学院修士課程

		第1学期		第2学期		第3学期		第4学期							
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
授業	(夜送授業)	1日~5日	14日~15日	30日											
	(オンライン授業)	5日~	14日~	15日~	14日~										
成績管理	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日
	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日
履修事務	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日
	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日	16日~30日
学生募集	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~
	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~	10日~
大学院入試	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日
	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日	8日~9日
第1年次 薬学専攻	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日
	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日	9日~10日
第1年次 西薬専攻(臨床)	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日
	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日	11日~14日
第1年次 薬学専攻	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~
	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~	1日~

(3) 大学院博士後期課程

		第1学期					第2学期							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
授業	第1年次	15日16日 [特論]集中講義(前半) 15日16日 入学時オリエンテーション	中旬 [特論]集中講義(後半)	中旬 レポ-ト提出期限	中旬 レポ-ト提出期限	17日 ◎成績認定 18日 ◎成績通知発送	1日 [研究法]	1日 [研究法]	13日 ◎成績認定 16日 ◎成績通知発送	13日 ◎成績認定 16日 ◎成績通知発送	13日 ◎成績認定 16日 ◎成績通知発送	13日 ◎成績認定 16日 ◎成績通知発送		
	第2年次	1日 [研究法]	1日 [研究法]	3日 [研究法]										
研究指導	第1年次	(研究計画書の作成及び事例研究等) 15日 入学時オリエンテーション												
	第2年次	(博士論文の中心的主題となる論文作成等)												
	第3年次	(博士論文の作成)												
科目登録														
学生募集														
入試														

【5】入学生・在学生数の年度別推移
(1) 入学生

学期単位最高値
年間最高値

(単位：人)

区 分	学 部							大 学 院					合計		
	全 科 履 修 生	選 科 履 修 生	科 目 履 修 生	特 修 生	研 究 生	特 別 聴 講 学 生	小 計	修 士 全 科 生	修 士 選 科 生	修 士 科 目 生	特 別 聴 講 学 生	博 士 全 科 生		小 計	
1985 昭和60年	第1学期	8,157	5,891	1,768	1,222	…	…	17,038	…	…	…	…	…	…	17,038
	第2学期	—	—	863	104	…	…	967	…	…	…	…	…	…	967
	第3学期	—	—	790	57	…	…	847	…	…	…	…	…	…	847
	計	8,157	5,891	3,421	1,383	…	…	18,852	…	…	…	…	…	…	18,852
1986 昭和61年	第1学期	3,086	4,039	1,290	453	…	…	8,868	…	…	…	…	…	…	8,868
	第2学期	217	214	277	56	…	…	767	…	…	…	…	…	…	767
	第3学期	152	136	222	31	…	…	545	…	…	…	…	…	…	545
	計	3,455	4,389	1,789	540	…	…	10,180	…	…	…	…	…	…	10,180
1987 昭和62年	第1学期	2,814	3,845	2,451	534	…	…	9,724	…	…	…	…	…	…	9,724
	第2学期	318	261	424	63	…	…	1,118	…	…	…	…	…	…	1,118
	第3学期	231	182	361	43	…	…	820	…	…	…	…	…	…	820
	計	3,363	4,288	3,236	640	…	…	11,662	…	…	…	…	…	…	11,662
1988 昭和63年	第1学期	2,963	3,281	2,310	363	…	…	9,041	…	…	…	…	…	…	9,041
	第2学期	504	315	559	62	…	…	1,594	…	…	…	…	…	…	1,594
	第3学期	313	191	423	52	…	…	1,077	…	…	…	…	…	…	1,077
	計	3,780	3,787	3,292	477	…	…	11,712	…	…	…	…	…	…	11,712
1989 平成元年	第1学期	3,753	3,272	2,961	461	51	643	11,141	…	…	…	…	…	…	11,141
	第2学期	941	453	844	93	…	…	2,533	…	…	…	…	…	…	2,533
	計	4,694	3,725	3,805	554	51	845	13,674	…	…	…	…	…	…	13,674
1990 平成2年	第1学期	4,337	3,382	3,066	381	77	867	12,110	…	…	…	…	…	…	12,110
	第2学期	946	1,547	2,000	120	…	…	5,380	…	…	…	…	…	…	5,380
	計	5,283	4,929	5,066	501	77	1,634	17,490	…	…	…	…	…	…	17,490
1991 平成3年	第1学期	4,165	4,139	3,849	371	63	944	13,531	…	…	…	…	…	…	13,531
	第2学期	945	2,675	3,814	104	…	…	10,853	…	…	…	…	…	…	10,853
	計	5,110	6,814	7,663	475	63	4,259	24,384	…	…	…	…	…	…	24,384
1992 平成4年	第1学期	3,836	5,849	5,757	…	67	1,814	17,323	…	…	…	…	…	…	17,323
	第2学期	1,051	3,562	4,914	…	…	…	3,912	13,439	…	…	…	…	…	13,439
	計	4,887	9,411	10,671	…	67	5,726	30,762	…	…	…	…	…	…	30,762
1993 平成5年	第1学期	3,705	7,917	7,067	…	88	2,046	20,823	…	…	…	…	…	…	20,823
	第2学期	1,154	4,175	5,878	…	…	…	4,364	15,571	…	…	…	…	…	15,571
	計	4,859	12,092	12,945	…	88	6,410	36,394	…	…	…	…	…	…	36,394
1994 平成6年	第1学期	3,698	10,505	8,660	…	59	2,145	25,067	…	…	…	…	…	…	25,067
	第2学期	1,131	5,521	7,107	…	…	…	5,012	18,771	…	…	…	…	…	18,771
	計	4,829	16,026	15,767	…	59	7,157	43,838	…	…	…	…	…	…	43,838
1995 平成7年	第1学期	5,039	14,232	9,742	…	37	1,896	30,946	…	…	…	…	…	…	30,946
	第2学期	1,430	6,828	7,863	…	…	…	4,800	20,921	…	…	…	…	…	20,921
	計	6,469	21,060	17,605	…	37	6,696	51,867	…	…	…	…	…	…	51,867
1996 平成8年	第1学期	4,012	16,763	10,736	…	34	1,906	33,451	…	…	…	…	…	…	33,451
	第2学期	1,517	8,389	9,797	…	—	…	4,225	23,928	…	…	…	…	…	23,928
	計	5,529	25,152	20,533	…	34	6,131	57,379	…	…	…	…	…	…	57,379
1997 平成9年	第1学期	4,245	17,851	12,058	…	37	1,166	35,357	…	…	…	…	…	…	35,357
	第2学期	1,555	8,567	10,105	…	…	…	4,320	24,547	…	…	…	…	…	24,547
	計	5,800	26,418	22,163	…	37	5,486	59,904	…	…	…	…	…	…	59,904
1998 平成10年	第1学期	4,238	17,256	13,691	…	45	1,476	36,706	…	…	…	…	…	…	36,706
	第2学期	5,870	7,076	10,553	…	…	…	4,550	28,049	…	…	…	…	…	28,049
	計	10,108	24,332	24,244	…	45	6,026	64,755	…	…	…	…	…	…	64,755
1999 平成11年	第1学期	10,964	16,228	11,166	…	39	1,640	40,037	…	…	…	…	…	…	40,037
	第2学期	4,704	6,517	9,837	…	…	…	4,183	25,241	…	…	…	…	…	25,241
	計	15,668	22,745	21,003	…	39	5,823	65,278	…	…	…	…	…	…	65,278
2000 平成12年	第1学期	9,392	16,029	11,635	…	37	1,145	38,238	…	…	…	…	…	…	38,238
	第2学期	4,026	6,051	10,404	…	…	…	4,094	24,575	…	…	…	…	…	24,575
	計	13,418	22,080	22,039	…	37	5,239	62,813	…	…	…	…	…	…	62,813
2001 平成13年	第1学期	9,282	15,738	11,766	…	34	1,040	37,860	…	…	…	…	…	…	37,860
	第2学期	4,283	5,845	10,910	…	…	…	3,861	24,899	…	…	…	…	…	24,899
	計	13,565	21,583	22,676	…	34	4,901	62,759	…	…	…	…	…	…	62,759
2002 平成14年	第1学期	7,184	12,831	11,046	…	…	…	1,101	32,162	549	…	9,224	—	…	9,773
	第2学期	3,713	5,248	11,650	…	…	…	3,832	24,443	…	…	9,357	2	…	9,359
	計	10,897	18,079	22,696	…	…	…	4,933	56,605	549	…	18,581	2	…	19,132

区分		学部							大学院						合計
		全科履修生	選科履修生	科目履修生	特修生	研究生	特別聴講学生	小計	修士全科生	修士選科生	修士科目生	特別聴講学生	博士全科生	小計	
2003 平成15年	第1学期	6,488	11,601	10,900	…	…	1,065	30,054	498	…	11,428	4	…	11,930	41,984
	第2学期	3,989	5,580	11,074	…	…	3,723	24,366	…	…	10,108	3	…	10,111	34,477
	計	10,477	17,181	21,974	…	…	4,788	54,420	498	…	21,536	7	…	22,041	76,461
2004 平成16年	第1学期	7,694	12,240	9,474	…	…	1,067	30,475	530	…	6,557	1	…	7,088	37,563
	第2学期	3,909	5,425	10,116	…	…	3,424	22,874	…	…	5,870	1	…	5,871	28,745
	計	11,603	17,665	19,590	…	…	4,491	53,349	530	…	12,427	2	…	12,959	66,308
2005 平成17年	第1学期	7,535	13,369	8,306	…	…	1,513	30,723	524	3,949	2,106	—	…	6,579	37,302
	第2学期	3,570	5,483	9,496	…	…	4,011	22,560	…	824	1,768	—	…	2,592	25,152
	計	11,105	18,852	17,802	…	…	5,524	53,283	524	4,773	3,874	—	…	9,171	62,454
2006 平成18年	第1学期	6,689	12,319	7,744	…	…	2,002	28,754	502	3,643	1,194	—	…	5,339	34,093
	第2学期	3,311	5,191	8,795	…	…	4,182	21,479	…	902	1,208	1	…	2,111	23,590
	計	10,000	17,510	16,539	…	…	6,184	50,233	502	4,545	2,402	1	…	7,450	57,683
2007 平成19年	第1学期	7,092	12,623	6,249	…	…	1,793	27,757	472	3,148	827	—	…	4,447	32,204
	第2学期	3,248	5,505	7,916	…	…	4,054	20,723	…	864	941	1	…	1,806	22,529
	計	10,340	18,128	14,165	…	…	5,847	48,480	472	4,012	1,768	1	…	6,253	54,733
2008 平成20年	第1学期	6,395	11,935	5,574	…	…	1,908	25,812	475	2,743	969	—	…	4,187	29,999
	第2学期	3,244	5,323	6,641	…	…	4,292	19,500	…	823	992	3	…	1,818	21,318
	計	9,639	17,258	12,215	…	…	6,200	45,312	475	3,566	1,961	3	…	6,005	51,317
2009 平成21年	第1学期	6,909	11,498	6,094	…	…	1,909	26,410	428	2,692	830	—	…	3,950	30,360
	第2学期	3,554	5,735	7,407	…	…	3,758	20,454	…	895	993	—	…	1,888	22,342
	計	10,463	17,233	13,501	…	…	5,667	46,864	428	3,587	1,823	—	…	5,838	52,702
2010 平成22年	第1学期	7,790	11,826	7,071	…	…	1,558	28,245	407	2,674	798	—	…	3,879	32,124
	第2学期	3,948	5,621	8,326	…	…	3,560	21,455	…	879	932	2	…	1,813	23,268
	計	11,738	17,447	15,397	…	…	5,118	49,700	407	3,553	1,730	2	…	5,692	55,392
2011 平成23年	第1学期	7,739	11,241	7,350	…	…	1,360	27,690	403	2,543	666	—	…	3,612	31,302
	第2学期	4,159	5,779	8,636	…	…	3,762	22,336	…	982	875	—	…	1,857	24,193
	計	11,898	17,020	15,986	…	…	5,122	50,026	403	3,525	1,541	—	…	5,469	55,495
2012 平成24年	第1学期	7,963	11,866	7,290	…	…	1,520	28,639	394	2,632	706	—	…	3,732	32,371
	第2学期	4,448	6,228	7,838	…	…	3,626	22,140	…	1,062	890	—	…	1,952	24,092
	計	12,411	18,094	15,128	…	…	5,146	50,779	394	3,694	1,596	—	…	5,684	56,463
2013 平成25年	第1学期	7,765	11,496	6,504	…	…	1,189	26,954	440	2,651	655	—	…	3,746	30,700
	第2学期	4,093	5,963	7,525	…	…	3,459	21,040	…	1,114	956	—	…	2,070	23,110
	計	11,858	17,459	14,029	…	…	4,648	47,994	440	3,765	1,611	—	…	5,816	53,810
2014 平成26年	第1学期	6,670	10,869	6,916	…	…	1,304	25,759	402	2,597	490	—	…	3,489	29,248
	第2学期	4,249	5,940	7,559	…	…	3,317	21,065	…	1,104	688	—	12	1,804	22,869
	計	10,919	16,809	14,475	…	…	4,621	46,824	402	3,701	1,178	—	12	5,293	52,117
2015 平成27年	第1学期	7,763	11,864	6,691	…	…	1,217	27,535	374	2,600	504	1	12	3,491	31,026
	第2学期	4,205	6,250	7,603	…	…	3,395	21,453	…	1,085	672	1	—	1,758	23,211
	計	11,968	18,114	14,294	…	…	4,612	48,988	374	3,685	1,176	2	12	5,249	54,237
2016 平成28年	第1学期	7,402	11,628	6,306	…	…	1,248	26,584	386	2,448	515	1	13	3,363	29,947
	第2学期	4,135	6,145	7,158	…	…	3,410	20,848	…	1,063	636	1	—	1,700	22,548
	計	11,537	17,773	13,464	…	…	4,658	47,432	386	3,511	1,151	2	13	5,063	52,495
2017 平成29年	第1学期	7,061	11,474	6,225	…	…	1,285	26,045	385	2,514	451	—	10	3,360	29,405
	第2学期	3,902	6,149	7,118	…	…	3,385	20,554	…	1,047	669	—	—	1,716	22,270
	計	10,963	17,623	13,343	…	…	4,670	46,599	385	3,561	1,120	—	10	5,076	51,675
2018 平成30年	第1学期	6,917	11,067	6,167	…	…	1,248	25,399	359	2,334	464	7	16	3,180	28,579
	第2学期	3,775	6,137	6,826	…	…	3,448	20,186	…	935	579	11	—	1,525	21,711
	計	10,692	17,204	12,993	…	…	4,696	45,585	359	3,269	1,043	18	16	4,705	50,290
2019 令和元年	第1学期	7,546	10,479	5,241	…	…	1,164	24,430	307	2,079	417	2	11	2,816	27,246
	第2学期	4,210	5,473	6,342	…	…	3,260	19,285	…	817	479	2	—	1,298	20,583
	計	11,756	15,952	11,583	…	…	4,424	43,715	307	2,896	896	4	11	4,114	47,829
2020 令和2年	第1学期	7,410	10,285	4,729	…	…	989	23,413	287	1,873	371	8	14	2,553	25,966
	第2学期	4,855	5,590	6,735	…	…	3,214	20,394	…	872	525	5	0	1,402	21,796
	計	12,265	15,875	11,464	…	…	4,203	43,807	287	2,745	896	13	14	3,955	47,762
2021 令和3年	第1学期	8,944	10,576	5,320	…	…	1,065	25,905	281	1,913	404	6	10	2,614	28,519
	第2学期	5,294	5,576	7,112	…	…	3,093	21,075	…	810	527	3	—	1,340	22,415
	計	14,238	16,152	12,432	…	…	4,158	46,980	281	2,723	931	9	10	3,954	50,934
2022 令和4年	第1学期	8,806	9,985	5,053	…	…	980	24,824	265	1,677	370	17	18	2,347	27,171
	第2学期	4,954	4,909	5,995	…	…	3,083	18,941	…	731	506	8	—	1,245	20,186
	計	13,760	14,894	11,048	…	…	4,063	43,765	265	2,408	876	25	18	3,592	47,357
2023 令和5年	第1学期	7,910	9,541	4,877	…	…	941	23,269	234	1,777	380	24	16	2,431	25,700
	第2学期	4,123	4,545	5,855	…	…	2,905	17,428	…	696	499	15	—	1,210	18,638
	計	12,033	14,086	10,732	…	…	3,846	40,697	234	2,473	879	39	16	3,641	44,338
累計		371,534	611,130	542,768	4,570	668	174,470	1,705,140	8,902	65,992	80,996	130	132	156,152	1,861,292

※夏季集中科目生は含まない。

(2) 在学生

過去最高値

(単位：人)

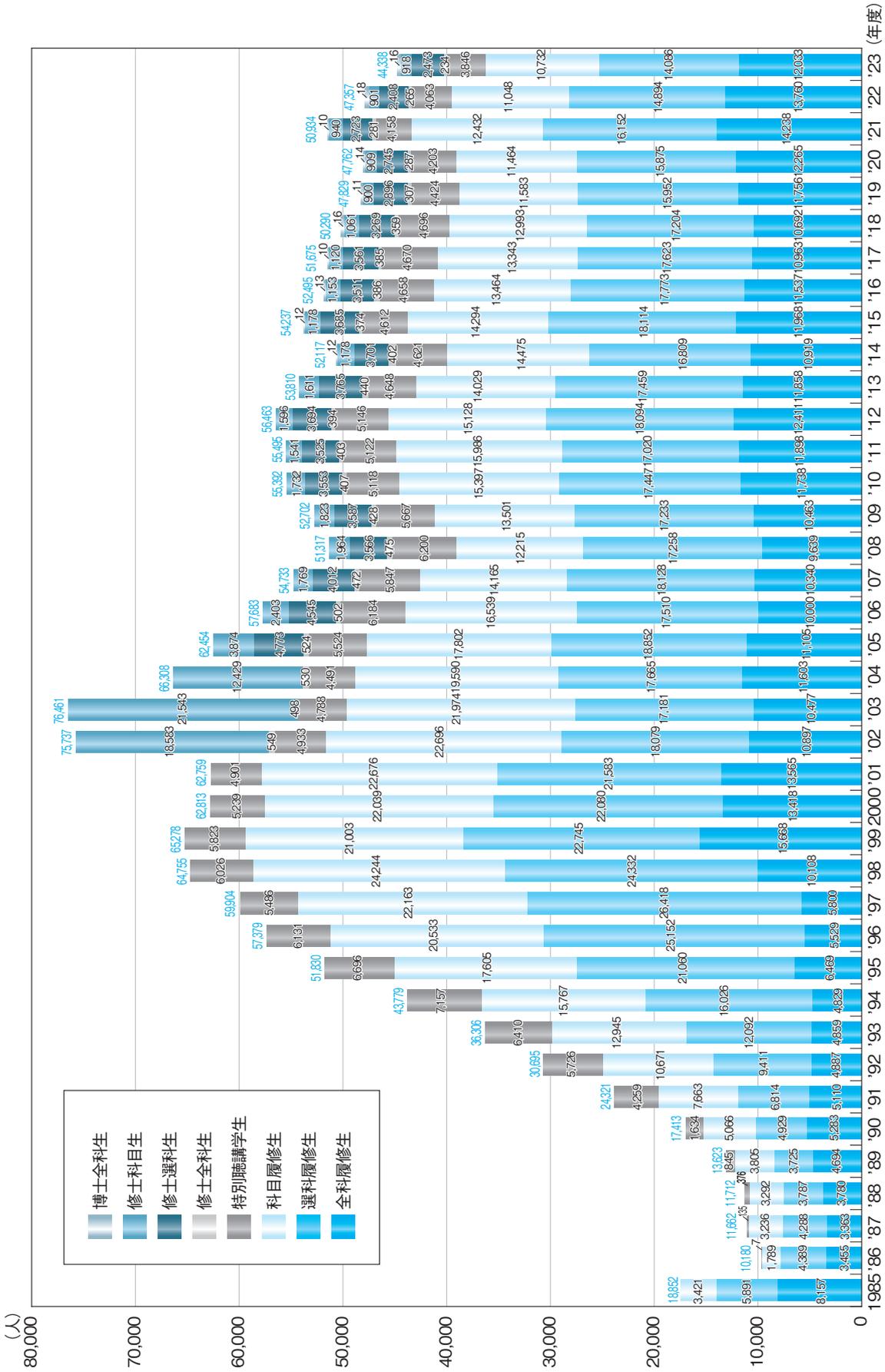
区 分		学 部						大 学 院						合 計	
		全 科 履修生	選 科 履修生	科 目 履修生	特修生	研究生	特別聴 講学生	小計	修 士 全科生	修 士 選科生	修 士 科目生	特別聴 講学生	博 士 全科生		小計
1985 昭和60年	第1学期	8,157	5,891	1,768	1,222	17,038	17,038
	第2学期	8,136	5,860	863	1,310	16,169	16,169
	第3学期	8,143	5,839	790	1,295	16,067	16,067
1986 昭和61年	第1学期	10,455	4,115	1,290	1,352	17,212	17,212
	第2学期	10,202	4,263	277	1,145	...	3	15,890	15,890
	第3学期	10,412	4,368	222	1,082	...	4	16,088	16,088
1987 昭和62年	第1学期	13,229	4,234	2,451	1,065	...	80	21,059	21,059
	第2学期	13,230	4,243	424	963	...	52	18,912	18,912
	第3学期	12,961	4,265	361	819	...	3	18,409	18,409
1988 昭和63年	第1学期	15,467	3,746	2,310	857	...	124	22,504	22,504
	第2学期	15,516	3,785	559	836	...	154	20,850	20,850
	第3学期	15,122	3,789	423	730	...	98	20,162	20,162
1989 平成元年	第1学期	17,719	3,798	2,961	904	51	643	26,076	26,076
	第2学期	18,065	3,919	844	891	50	202	23,971	23,971
1990 平成2年	第1学期	20,912	3,856	3,066	923	77	867	29,701	29,701
	第2学期	21,092	4,926	2,000	932	77	767	29,794	29,794
1991 平成3年	第1学期	23,481	5,699	3,849	873	63	944	34,909	34,909
	第2学期	24,157	6,811	3,814	846	63	3,315	39,006	39,006
1992 平成4年	第1学期	24,799	8,522	5,757	509	67	1,814	41,468	41,468
	第2学期	24,493	9,400	4,914	365	67	3,912	43,151	43,151
1993 平成5年	第1学期	25,784	11,479	7,067	73	88	2,046	46,537	46,537
	第2学期	25,290	12,077	5,878	...	88	4,364	47,697	47,697
1994 平成6年	第1学期	26,050	14,697	8,660	...	59	2,145	51,611	51,611
	第2学期	25,615	16,029	7,107	...	58	5,012	53,821	53,821
1995 平成7年	第1学期	25,763	20,163	10,120	...	37	1,896	57,979	57,979
	第2学期	25,269	21,330	7,863	...	37	4,800	59,299	59,299
1996 平成8年	第1学期	25,744	23,611	10,736	...	34	1,906	62,031	62,031
	第2学期	25,227	25,165	9,797	...	34	4,225	64,448	64,448
1997 平成9年	第1学期	26,449	26,271	12,058	...	37	1,166	65,981	65,981
	第2学期	25,826	26,442	10,105	...	37	4,320	66,730	66,730
1998 平成10年	第1学期	26,892	25,886	13,691	...	45	1,476	67,990	67,990
	第2学期	30,408	24,219	10,553	...	45	4,550	69,775	69,775
1999 平成11年	第1学期	37,322	23,279	11,166	...	39	1,640	73,446	73,446
	第2学期	39,464	22,706	9,837	...	39	4,183	76,229	76,229
2000 平成12年	第1学期	45,848	22,593	11,635	...	37	1,145	81,258	81,258
	第2学期	47,497	22,054	10,404	...	37	4,094	84,086	84,086
2001 平成13年	第1学期	52,427	21,798	11,766	...	34	1,040	87,065	87,065
	第2学期	53,415	21,550	10,910	...	34	3,861	89,770	89,770
2002 平成14年	第1学期	56,332	18,690	11,046	1,101	87,169	549	...	9,224	9,773	96,942
	第2学期	55,832	18,060	11,650	3,832	89,374	548	...	9,357	2	...	9,907	99,281
2003 平成15年	第1学期	57,214	16,857	10,900	1,065	86,036	1,043	...	11,428	4	...	12,475	98,511
	第2学期	56,411	17,144	11,074	3,723	88,352	1,041	...	10,108	3	...	11,152	99,504
2004 平成16年	第1学期	58,774	17,830	9,474	1,067	87,145	1,220	...	6,557	1	...	7,778	94,923
	第2学期	57,723	17,614	10,116	3,424	88,877	1,202	...	5,870	1	...	7,073	95,950
2005 平成17年	第1学期 ※1	58,783	18,787	8,308	1,513	87,391	1,352	3,949	2,112	7,413	94,804
	第2学期	57,068	18,814	9,496	4,011	89,389	1,335	4,754	1,768	7,857	97,246
2006 平成18年	第1学期	57,021	17,786	7,744	2,002	84,553	1,393	4,488	1,194	7,075	91,628
	第2学期	54,630	17,484	8,795	4,182	85,091	1,371	4,561	1,208	1	...	7,141	92,232
2007 平成19年	第1学期	54,951	17,806	6,249	1,793	80,799	1,352	4,066	827	6,245	87,044
	第2学期	53,055	18,101	7,916	4,054	83,126	1,325	4,029	941	1	...	6,296	89,422
2008 平成20年	第1学期	53,018	17,426	5,574	1,908	77,926	1,351	3,624	969	5,944	83,870
	第2学期	50,888	17,235	6,641	4,292	79,056	1,329	3,589	992	3	...	5,913	84,969
2009 平成21年	第1学期	51,061	16,830	6,094	1,909	75,894	1,261	3,536	830	5,627	81,521
	第2学期	49,697	17,207	7,407	3,758	78,069	1,239	3,600	993	5,832	83,901
2010 平成22年	第1学期	51,040	17,600	7,071	1,558	77,269	1,195	3,594	798	5,587	82,856
	第2学期	50,131	17,437	8,326	3,560	79,454	1,175	3,579	932	2	...	5,688	85,142
2011 平成23年	第1学期 ※2	51,414	16,889	7,350	1,360	77,013	1,157	3,438	666	1	...	5,262	82,275
	第2学期	51,300	17,070	8,636	3,762	80,768	1,136	3,540	875	5,551	86,319
2012 平成24年	第1学期	53,334	17,688	7,290	1,520	79,832	1,107	3,629	706	5,442	85,274
	第2学期	53,599	18,131	7,838	3,626	83,194	1,096	3,721	890	5,707	88,901

区 分		学 部							大 学 院						合 計
		全 科 履 修 生	選 科 履 修 生	科 目 履 修 生	特 修 生	研 究 生	特 別 聴 講 学 生	小 計	修 士 全 科 生	修 士 選 科 生	修 士 科 目 生	特 別 聴 講 学 生	博 士 全 科 生	小 計	
2013 平成25年	第1学期	55,636	17,817	6,504	…	…	1,189	81,146	1,172	3,745	655	—	…	5,572	86,718
	第2学期	55,717	17,533	7,525	…	…	3,459	84,234	1,159	3,805	956	—	…	5,920	90,154
2014 平成26年	第1学期	56,475	16,921	6,916	…	…	1,304	81,616	1,189	3,742	490	—	…	5,421	87,037
	第2学期	56,123	16,893	7,559	…	…	3,317	83,892	1,176	3,742	688	—	12	5,618	89,510
2015 平成27年	第1学期	57,850	17,884	6,691	…	…	1,217	83,642	1,131	3,733	504	1	24	5,393	89,035
	第2学期	57,264	18,177	7,603	…	…	3,395	86,439	1,123	3,719	672	1	24	5,539	91,978
2016 平成28年	第1学期	58,434	18,012	6,306	…	…	1,248	84,000	1,105	3,560	515	1	37	5,218	89,218
	第2学期	57,671	17,846	7,158	…	…	3,410	86,085	1,098	3,548	636	1	37	5,320	91,405
2017 平成29年	第1学期	58,270	17,739	6,225	…	…	1,285	83,519	1,099	3,611	451	—	46	5,207	88,726
	第2学期	57,222	17,695	7,118	…	…	3,385	85,420	1,076	3,600	669	—	42	5,387	90,807
2018 平成30年	第1学期	57,433	17,323	6,167	…	…	1,248	82,171	1,063	3,408	464	7	54	4,996	87,167
	第2学期	56,084	17,252	6,826	…	…	3,448	83,610	1,046	3,315	579	11	54	5,005	88,615
2019 令和元年	第1学期	56,993	16,667	5,241	…	…	1,164	80,065	968	3,060	417	2	58	4,505	84,570
	第2学期	56,353	16,011	6,342	…	…	3,260	81,966	950	2,917	479	2	58	4,406	86,372
2020 令和2年	第1学期	57,250	15,840	4,729	…	…	989	78,808	870	2,746	371	8	68	4,063	82,871
	第2学期	56,882	15,977	6,735	…	…	3,214	82,808	861	2,786	525	5	68	4,245	87,053
2021 令和3年	第1学期	58,533	16,264	5,320	…	…	1,065	81,182	821	2,819	404	6	64	4,114	85,296
	第2学期	58,329	16,217	7,112	…	…	3,093	84,751	812	2,765	527	3	64	4,171	88,922
2022 令和4年	第1学期	59,817	15,688	5,053	…	…	980	81,538	799	2,532	370	17	71	3,789	85,327
	第2学期	59,892	14,981	5,995	…	…	3,083	83,951	789	2,451	506	8	71	3,825	87,776
2023 令和5年	第1学期	60,931	14,564	4,877	…	…	941	81,313	722	2,540	380	24	78	3,744	85,057
	第2学期	60,204	14,162	5,855	…	…	2,905	83,126	704	2,508	499	15	78	3,804	86,930

※1 2005年度第1学期科目履修生の入学者と在学者が2名一致していないのは、中越地震で被災された方を2004年度第2学期から継続して在学させる特別措置を取ったためである。

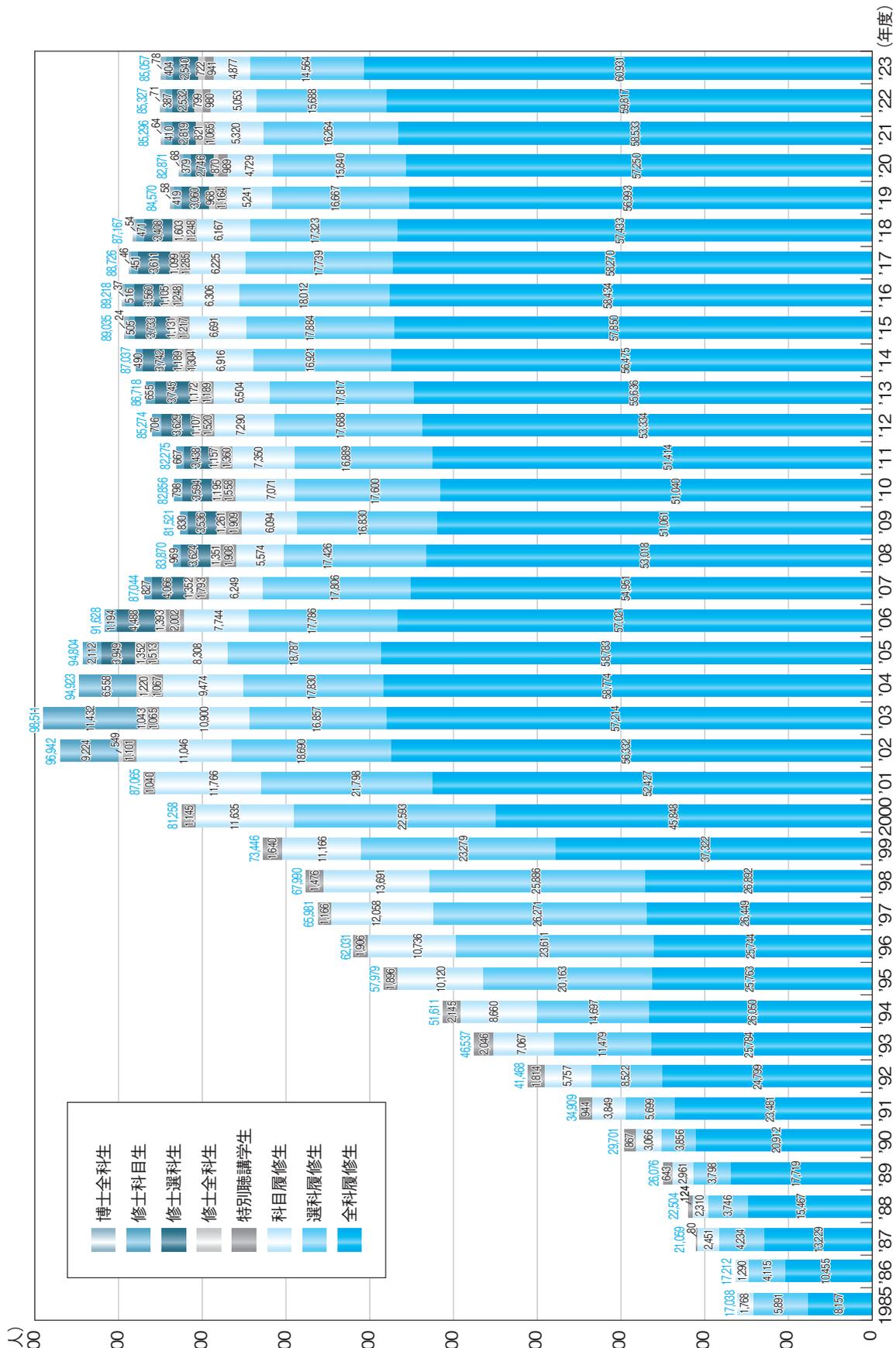
※2 2011年度第1学期入学者のうち選科履修生1名の入金が、期日までに間に合わなかったため入学者数には反映されていない。

【6】学習者数の推移 (1) 入学者数の推移 (年間)



※特修生(1985~1993)及び研究生(1989~2001)を除く。修士特別聴講学生は修士科目生に含まれる。

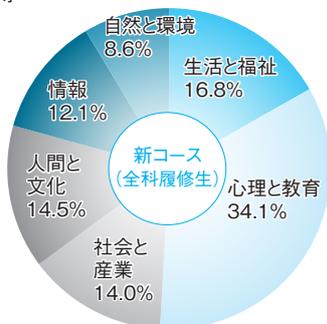
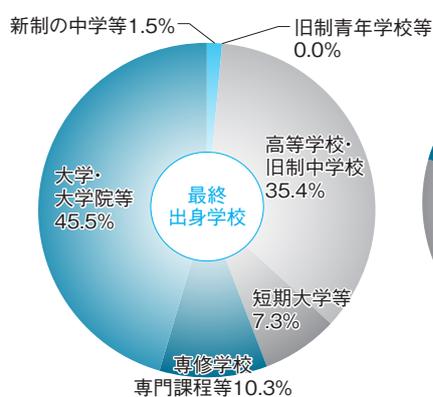
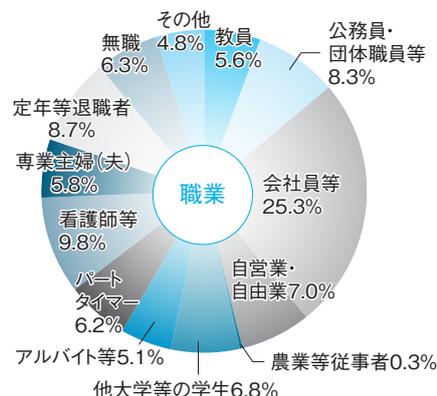
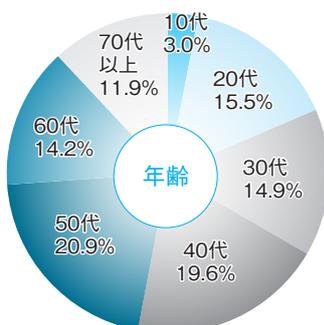
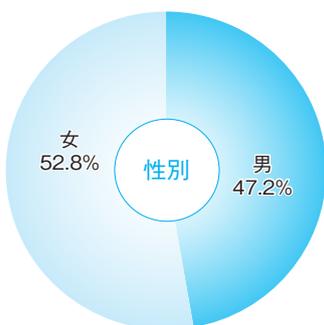
(2) 在学者数の推移 (第1学期)



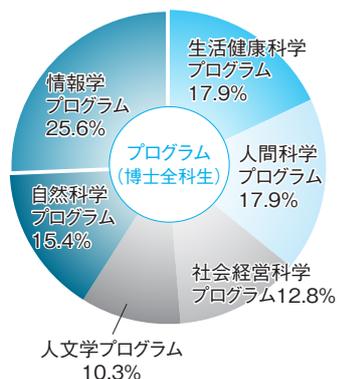
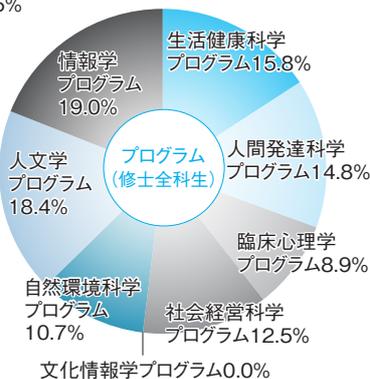
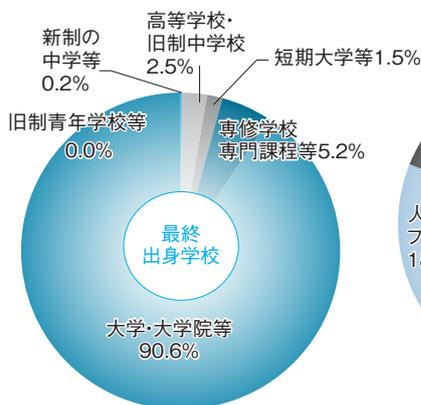
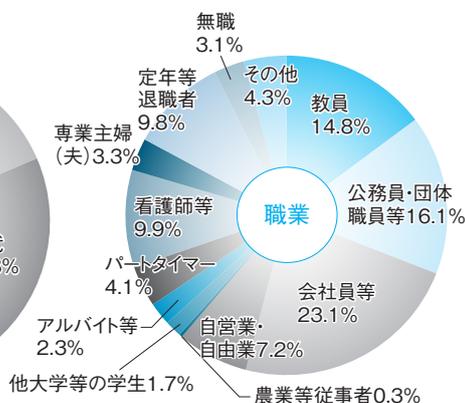
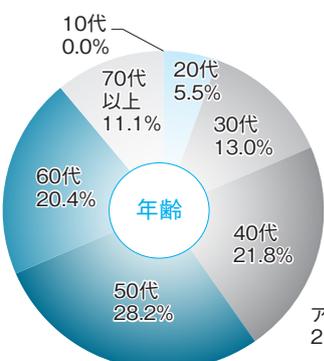
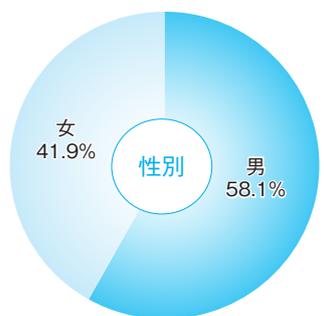
※特修生(1985~1993)及び研究生(1989~2001)を除く。修士特別聴講学生は修士科目生に含まれる。

【7】2023（令和5）年度在学生の属性（第1学期）

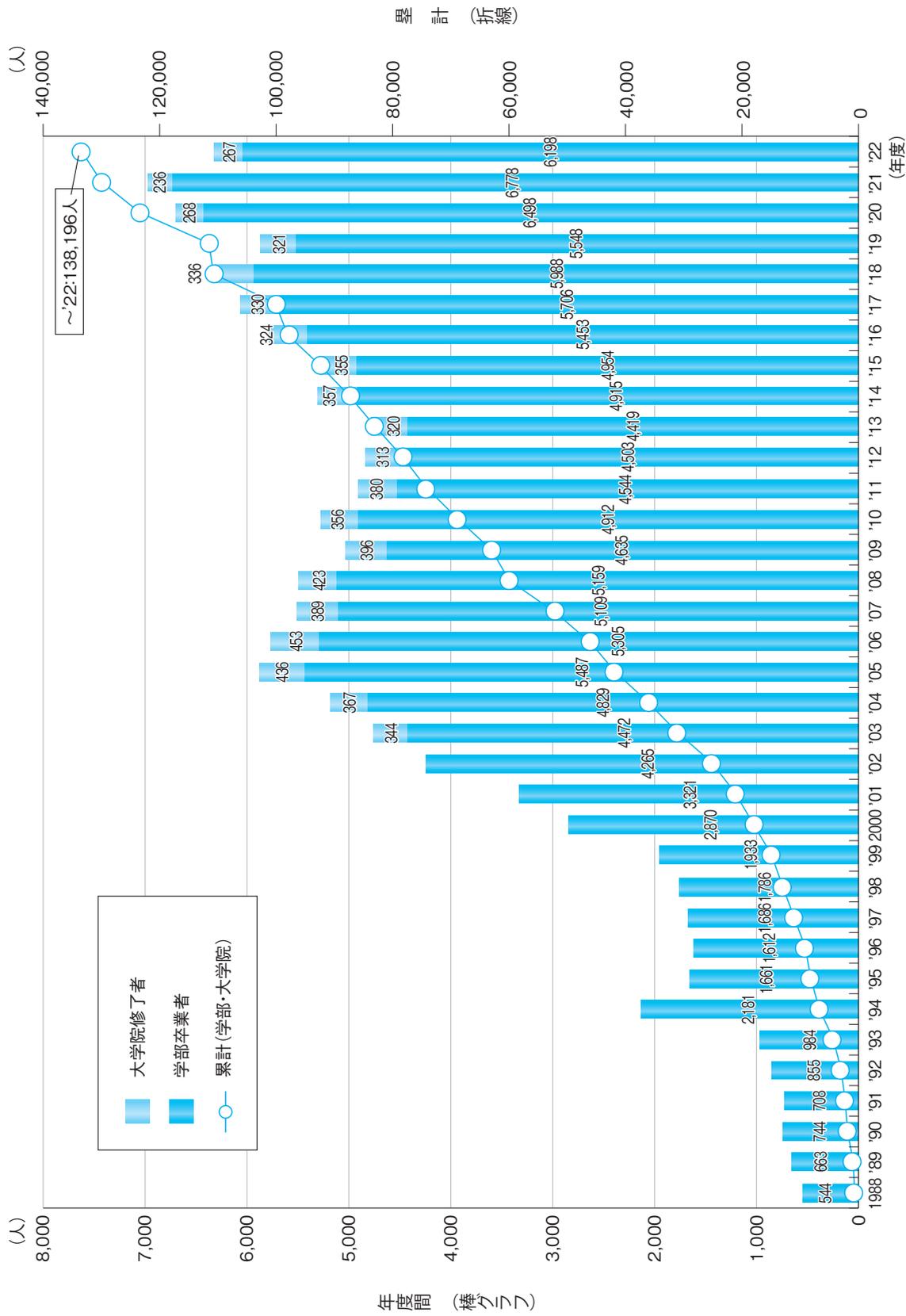
(1) 学部



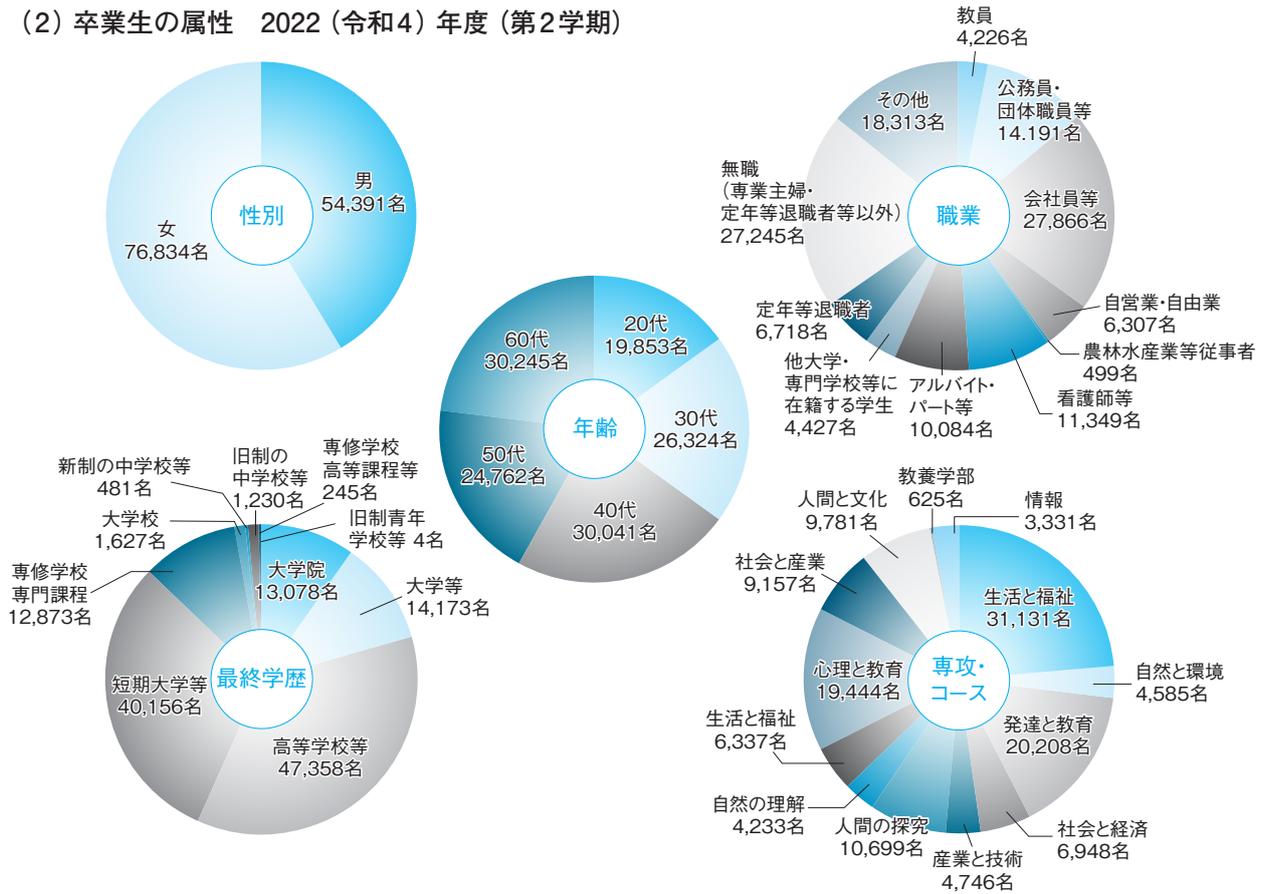
(2) 大学院



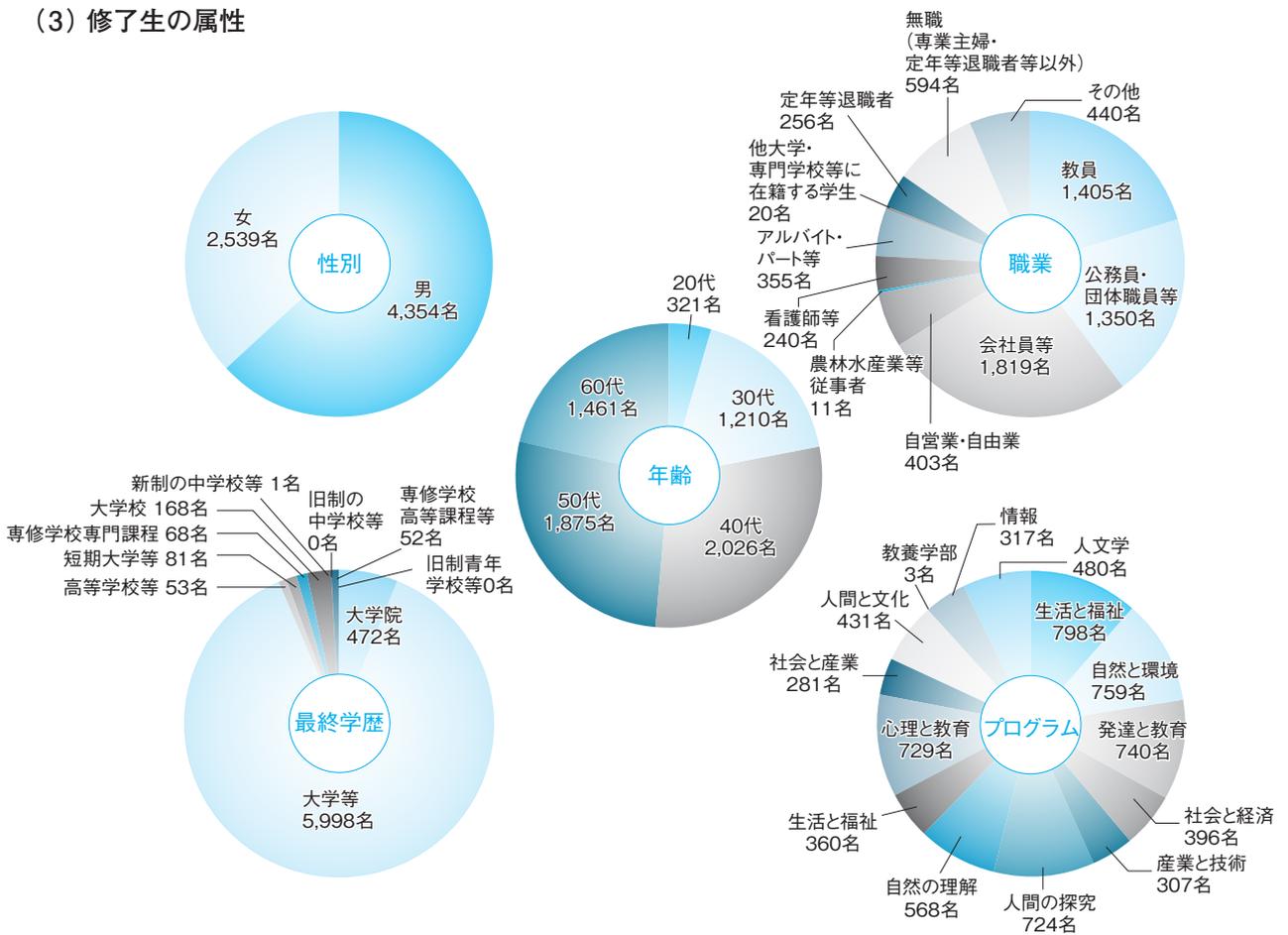
【8】卒業生・修了生の状況
 (1) 卒業生・修了生の推移



(2) 卒業生の属性 2022 (令和4) 年度 (第2学期)



(3) 修了生の属性



【9】教員数の推移

(1) 専任教員数の推移

(定員、単位：人)

年度	教授	准教授(助教授)	助教	合計
1983(昭和58)	12	—	—	12
1984(59)	27	10	—	37
1985(60)	32	23	—	55
1986(61)	36	33	—	69
1987(62)	40	35	—	75
1988(63)	40	35	—	75
1989(平成元)	40	35	—	75
1990(2)	40	35	—	75
1991(3)	40	35	—	75
1992(4)	40	35	—	75
1993(5)	40	35	—	75
1994(6)	40	35	—	75
1995(7)	40	35	—	75
1996(8)	40	35	—	75
1997(9)	40	35	—	75
1998(10)	44	35	—	79
1999(11)	47	35	—	82
2000(12)	52	35	—	87
2001(13)	59	29	—	88
2002(14)	59	29	—	88
2003(15)	59	29	—	88
2004(16)	54	24	—	78
2005(17)	53	24	—	77
2006(18)	51	21	—	72
2007(19)	49	22	—	71
2008(20)	47	23	—	70
2009(21)	55	31	2	88
2010(22)	59	25	1	85
2011(23)	59	27	1	87
2012(24)	59	27	1	87
2013(25)	63	26	1	90
2014(26)	61	25	1	87
2015(27)	59	24	1	84
2016(28)	64	19	1	84
2017(29)	61	18	1	80
2018(30)	66	18	0	84
2019(令和元)	67	15	0	82
2020(2)	65	16	0	81
2021(3)	59	15	0	74
2022(4)	62	15	0	77
2023(5)	62	16	0	78

※2003までは予算上の定員を記入(予算参照書より)
 ※学長、副学長を除く
 ※特任教授、特定特任教授、客員教授・准教授を除く

(2) 客員教員数の推移

(単位：人)

年度	客員教授・准教授(助教授)数
1985(昭和60)	117
1986(61)	156
1987(62)	180
1988(63)	197
1989(平成元)	231
1990(2)	250
1991(3)	275
1992(4)	290
1993(5)	297
1994(6)	345
1995(7)	344
1996(8)	349
1997(9)	368
1998(10)	373
1999(11)	475
2000(12)	532
2001(13)	662
2002(14)	852
2003(15)	959
2004(16)	892
2005(17)	963
2006(18)	979
2007(19)	1,022
2008(20)	975
2009(21)	917
2010(22)	873
2011(23)	883
2012(24)	900
2013(25)	888
2014(26)	872
2015(27)	855
2016(28)	809
2017(29)	853
2018(30)	857
2019(令和元)	849
2020(2)	851
2021(3)	858
2022(4)	858
2023(5)	947

(3) 非常勤講師数の推移

(定員、単位：人)

年度	面接授業担当		ライブWeb 授業担当	卒業研究 指導教員	身障者体育 実技指導教員
	通常	集中			
1985(昭和60)	286	—	—	—	1
1986(61)	363	—	—	—	2
1987(62)	359	—	—	—	4
1988(63)	469	—	—	51	4
1989(平成元)	491	68	—	55	6
1990(2)	530	98	—	89	6
1991(3)	544	139	—	95	6
1992(4)	573	199	—	100	6
1993(5)	637	274	—	105	6
1994(6)	663	372	—	108	6
1995(7)	638	408	—	92	6
1996(8)	616	454	—	54	6
1997(9)	563	534	—	62	6
1998(10)	556	697	—	63	6
1999(11)	912	683	—	66	6
2000(12)	1,128	765	—	91	6
2001(13)	1,241	815	—	94	6
2002(14)	1,419	798	—	153	6
2003(15)	1,497	922	—	147	6
2004(16)	1,554	920	—	98	6
2005(17)	1,931	910	—	69	6

年度	面接授業担当		ライブWeb 授業担当	卒業研究 指導教員	身障者体育 実技指導教員
	通常	集中			
2006(18)	1,695	747	—	60	6
2007(19)	1,953	987	—	104	5
2008(20)	2,028	963	—	132	5
2009(21)	2,066	—	—	142	5
2010(22)	2,113	—	—	103	5
2011(23)	2,298	—	—	118	5
2012(24)	2,358	—	—	140	5
2013(25)	2,812	—	—	153	4
2014(26)	2,798	—	—	122	3
2015(27)	2,963	—	—	125	2
2016(28)	2,978	—	—	122	3
2017(29)	3,075	—	—	147	3
2018(30)	3,109	—	—	147	2
2019(令和元)	2,849	—	—	117	2
2020(2)	1,147	—	—	92	2
2021(3)	2,619	—	—	67	3
2022(4)	2,578	—	3	70	3
2023(5)	2,595	—	28	61	2

※2009(平成21)年度以降は実人数で算出している。
 ※2020(令和2)年度第1学期は、COVID-19の感染拡大防止措置として全面閉講したため、協定締結校で開講の5人とWebで開講の10人。

【10】単位互換協定締結等の状況

(1) 単位互換協定締結大学(大学院を含む)・短期大学・高等専門学校

◎は国立、○は公立

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考
1985(昭和60)年度	1	自由が丘産能短期大学	旧校名：産能短期大学
	2	桜美林大学	
1986(昭和61)年度	3	文化学園大学	旧校名：文化女子大学
	4	文化学園大学短期大学部	旧校名：文化女子大学短期大学部
	5	聖徳大学短期大学部	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	6	帝京平成大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	7	上野学園大学短期大学部	
1987(昭和62)年度	8	千葉敬愛短期大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	9	東海大学	(本部 東京都)
1988(昭和63)年度	10	武蔵野大学	旧校名：武蔵野女子大学
	11	山梨学院大学	
	12	山梨学院短期大学	
1989(平成元)年度	13	新島学園短期大学	旧校名：新島学園女子短期大学
	14	◎千葉大学	双方向単位互換(1999年7月23日再締結)
1991(平成3)年度	15	帝京科学大学	
	16	多摩大学	
	17	崇城大学	
	18	金沢工業大学	教育協力型(2学期のみ)石川包括協定(2003年7月20日再締結)
	19	北海道科学大学短期大学部	旧校名：北海道自動車短期大学(2014年4月変更)
	20	淑徳大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	21	安田女子大学	教育ネットワーク中国包括協定(2020年4月1日再締結)
	22	安田女子短期大学	教育ネットワーク中国包括協定(2020年4月1日再締結)
1992(平成4)年度	23	愛知産業大学短期大学	
	24	正眼短期大学	
	25	熊本学園大学	
	26	千葉工業大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	27	愛知淑徳大学	
	28	広島文教大学	旧校名：広島文教女子大学(2007年4月変更)教育ネットワーク中国包括協定(2020年4月再締結)
	29	別府大学	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日再締結)旧)とよのまなびコンソーシアム(2014年3月31日再締結)
	30	別府大学短期大学部	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日)旧)とよのまなびコンソーシアムおおいた(2014年3月31日再締結)
	31	秀明大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	32	愛知みずほ大学	
	33	東京成徳大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
1993(平成5)年度	34	順天堂大学	
	35	北海学園大学	
	36	いわき短期大学	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定(2011年11月1日再締結)
	37	大阪学院大学(通信教育部)	
	38	愛知みずほ大学短期大学部	
	39	桐蔭横浜大学	
	40	郡山女子大学	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定(2011年11月1日再締結)
	41	郡山女子大学短期大学部	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定(2011年11月1日再締結)
	42	立命館大学	
	43	沖繩キリスト教短期大学	
	44	◎東京海洋大学	東京商船大学と東京水産大学が統合
	45	麻布大学	
	46	九州産業大学	
47	静岡産業大学		
48	鹿児島純心女子大学		
49	長崎純心大学		
50	○名桜大学	2010年4月私立から公立化	
51	目白大学	(本部 東京都)	
52	北海道情報大学(通信教育部)	2単位/年	
1994(平成6)年度	53	鈴鹿大学	旧校名：鈴鹿国際大学(2015年4月変更)
	54	大東文化大学	
	55	九州共立大学	
	56	九州女子大学	
	57	九州女子短期大学	
	58	国際学院埼玉短期大学	
59	敬愛大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)	

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考
1994(平成6)年度	60	産業能率大学	旧校名：産能大学
	61	北翔大学短期大学部	旧校名：北海道浅井学園大学短期大学部
	62	東海学園大学	
	63	至学館大学短期大学部	旧校名：中京女子大学短期大学部
	64	甲子園短期大学	
	65	東京工科大学	
1995(平成7)年度	66	金沢学院大学	石川包括協定(2003年7月20日再締結)
	67	国際医療福祉大学	栃木包括協定(2007年10月1日再締結)2016年4月本部成田キャンパスへ移転 千葉私立大学・短期大学包括協定(2018年4月1日)栃木・東京・神奈川・福岡キャンパスあり
	68	中国短期大学	
	69	◎琉球大学	教育協力型(2学期のみ)
	70	高松大学	香川県内5大学協定(1999年7月28日、2005年3月28日再締結)
	71	東京経営短期大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	72	東京情報大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	73	二松学舎大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
1996(平成8)年度	74	江戸川大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	75	岡山理科大学	
	76	吉備国際大学	
	77	神田外語大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(1999年1月19日再締結)
	78	名古屋商科大学	
	79	田園調布学園大学	旧校名：調布学園短期大学
	80	沖縄女子短期大学	
	81	沖縄大学	
	82	沖縄国際大学	
	83	東洋大学	群馬包括協定(2002年7月30日、2006年7月28日再締結)(本部 東京都)
1997(平成9)年度	84	◎高知大学	高知県内4大学協定 高知医科大学と統合
	85	○高知県立大学	高知県内4大学協定 旧校名：高知女子大学
	86	○高知工科大学	教育協力型(2学期のみ)高知県内4大学協定、2009年4月私立から公立化
	87	鶴見大学	
	88	東北芸術工科大学	山形包括協定(2006年2月15日再締結)学都仙台包括協定(2008年3月4日再締結)
	89	龍谷大学	
	90	白鷲大学	栃木包括協定(2007年10月1日再締結)
	91	中部学院大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定(2010年6月25日再締結)
	92	中部学院大学短期大学部	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定
	93	鳥取短期大学	2001年4月1日再締結 旧校名：鳥取女子短期大学(2001年4月1日変更)
	94	◎広島大学	教育ネットワーク中国包括協定(2020年4月1日再締結)
	95	高知学園短期大学	
	96	◎愛媛大学	
	97	富山福祉短期大学	
1998(平成10)年度	98	◎岡山大学	
	99	神戸教育短期大学	旧校名：夙川学院短期大学(2019年4月変更)
	100	◎秋田大学	
	101	◎宮崎大学	宮崎包括協定(2006年12月4日、2010年4月1日再締結)
	102	◎鹿屋体育大学	
	103	南九州大学短期大学部	宮崎包括協定(2006年12月4日再締結、2010年4月1日再締結)旧校名：南九州短期大学
	104	奈良佐保短期大学	
	105	敬和学園大学	
	106	福岡工業大学	
	107	八戸学院大学	
	108	愛知大学	
	109	◎弘前大学	
	110	◎岩手大学	教育協力型
	111	◎鳥取大学	
	112	フェリス学院大学	
	113	福岡工業大学短期大学部	旧校名：福岡工業短期大学
114	◎大分大学	大分医科大学と統合 おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日再締結)旧)とよのまなびコンソーシアム(2014年3月31日再締結)	
115	仙台大学	教育協力型 学都仙台包括協定(2008年3月4日再締結)	
116	愛国学園大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	
117	川村学園女子大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	
118	国際武道大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	
119	城西国際大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	
120	聖徳大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	
121	清和大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	
122	千葉経済大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考
1998(平成10)年度	123	千葉商科大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
	124	中央学院大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
	125	麗澤大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
	126	和洋女子大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
	127	明海大学	千葉私立大学・短期大学包括協定(本部 埼玉県)
	128	東洋学園大学	本部東京へ変更(2018年4月1日再締結)元 千葉私立大学・短期大学包括協定
	129	昭和学院短期大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
	130	清和大学短期大学部	千葉私立大学・短期大学包括協定 旧校名：清和女子短期大学
	131	千葉経済大学短期大学部	千葉私立大学・短期大学包括協定
	132	千葉明德短期大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
	133	酪農学園大学	
	134	◎ 茨城大学	
	135	獨協大学	
1999(平成11)年度	136	金沢学院短期大学	石川県内短期大学包括協定 石川包括協定(2003年7月20日再締結)
	137	金城大学短期大学部	石川県内短期大学包括協定 石川包括協定(2003年7月20日再締結)
	138	金沢星稜大学女子短期大学部	石川県内短期大学包括協定 石川包括協定(2003年7月20日再締結)2012年4月校名変更 旧校名：星稜女子短期大学
	139	北陸学院大学短期大学部	石川県内短期大学包括協定 石川包括協定(2003年7月20日再締結)旧校名：北陸学院短期大学
	140	豊田工業大学	
	141	共愛学園前橋国際大学	群馬包括協定(2006年7月28日再締結)
	142	実践女子大学	
	143	奈良大学	
	144	○ 秋田県立大学	教育協力型
	145	◎ 香川大学	双方向単位互換 香川県内5大学協定(2005年3月28日再締結)香川医科大学と統合(2006年1月25日覚書再締結)包括的連携協力協定(2009年12月14日締結)
	146	四国学院大学	香川県内5大学協定(2005年3月28日再締結)
	147	徳島文理大学(香川キャンパス)	香川県内5大学協定(2005年3月28日再締結)(本部 徳島県)
	148	◎ 群馬大学	群馬包括協定(2002年7月30日、2006年7月28日再締結)
	149	桜の聖母短期大学	アカデミア・コンソーシアムふくしま 加盟大学等間単位互換に関する協定(2011年11月1日再締結)
	150	京都文教短期大学	
	151	◎ 岐阜大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定(2010年6月25日再締結)
	152	西九州大学短期大学部	双方向単位互換 大学コンソーシアム佐賀、旧校名：佐賀短期大学
	153	◎ 信州大学	
	154	神奈川工科大学	
	155	◎ 徳島大学	
	156	◎ 島根大学	教育協力型(2023年利用なし) 双方向単位互換 島根医科大学と統合
	157	◎ 帯広畜産大学	
	158	倉敷芸術科学大学	
159	◎ 筑波技術大学	旧校名：筑波技術短期大学	
160	同志社女子大学		
161	○ 周南公立大学	2022年4月から公立化、旧校名：徳山大学(2022年4月変更)	
162	◎ 宇都宮大学	栃木包括協定(2007年10月1日再締結)	
2000(平成12)年度	163	足利大学	栃木包括協定(2007年10月1日再締結)旧校名：足利工業大学
	164	佐賀女子短期大学	双方向単位互換 大学コンソーシアム佐賀
	165	文京学院大学	旧校名：文京女子大学(本部 東京都)
	166	◎ 和歌山大学	
	167	大阪千代田短期大学	
	168	○ 宮崎県立看護大学	宮崎包括協定(2006年12月4日、2010年4月2日再締結)
	169	◎ 奈良女子大学	教育協力型、年間18単位
	170	◎ 佐賀大学	教育協力型(2018年-2のみ) 双方向単位互換 大学コンソーシアム佐賀
	171	◎ 鳴門教育大学	
	172	九州龍谷短期大学	双方向単位互換大学コンソーシアム佐賀
	173	川崎医療福祉大学	
	174	◎ 静岡大学	
	175	西武文理大学	
	176	盛岡大学	
	177	◎ 北海道教育大学	旭川校
	178	◎ 福井大学	福井大学と福井医科大学が統合(2007年3月23日覚書再締結)(2011年11月30日覚書変更/学部制限なし)
	179	◎ 旭川医科大学	
2001(平成13)年度	180	東京基督教大学	千葉包括協定
	181	開智国際大学	千葉包括協定 2015年4月1日校名変更 旧校名：日本橋学館大学
	182	高岡法科大学	
	183	◎ 山口大学	双方向単位互換(2009年3月17日覚書再締結)包括的連携協力協定(2010年11月15日締結)2013年までプロジェクト 2014年のみ教育協力型

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考	
2001(平成13)年度	184	兵庫大学		
	185	西九州大学	双方向単位互換大学コンソーシアム佐賀	
	186	共栄大学		
	187	◎ 熊本大学	教育協力型 双方向単位互換(2学期のみ)	
	188	◎ 新潟大学		
	189	嘉悦大学		
	190	美作大学	旧校名：美作女子大学	
	191	美作大学短期大学部	旧校名：美作女子大学短期大学部	
	192	立命館アジア太平洋大学	2012年-1より再試験で修得した単位は認定しない取扱いになった(再試験の受験は可としている)おおい地域連携プラットフォーム(2021年10月1日再締結)旧)とよのまびコンソーシアム(2014年3月31日再締結)	
	193	ものづくり大学		
	194	湘南工科大学		
	195	九州保健福祉大学	宮崎包括協定(2006年12月4日、2010年4月2日再締結)	
	196	大阪産業大学		
	197	◎ 奈良教育大学		
198	松山大学			
199	◎ 長崎大学	教育協力型		
200	◎ 兵庫教育大学			
201	◎ 金沢大学	石川包括協定(2003年7月20日再締結)		
202	◎ 北陸先端科学技術大学院大学			
2002(平成14)年度	203	東京工芸大学		
	204	○ 鳥取環境大学	2012年4月私立から公立化	
	205	◎ 上越教育大学		
	206	○ 群馬県立女子大学	群馬包括協定(2006年7月28日再締結)	
	207	関東学園大学	群馬包括協定(2006年7月28日再締結)	
	208	上武大学	群馬包括協定(2006年7月28日再締結)	
	209	◎ 北見工業大学		
	210	追手門学院大学		
	211	◎ 神戸大学		
	212	埼玉学園大学		
	213	横浜商科大学		
	214	中京大学大学院		
	2003(平成15)年度	215	植草学園短期大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
		216	神戸女子短期大学	
217		○ 長野県看護大学		
218		◎ 三重大学		
219		龍谷大学大学院		
220		金沢医科大学	石川包括協定	
221		金沢星稜大学	石川包括協定	
222		金城大学	石川包括協定	
223		北陸大学	石川包括協定	
224		◎ 石川工業高等専門学校	石川包括協定	
225		◎ 山梨大学		
2004(平成16)年度	226	○ 金沢美術工芸大学	石川包括協定	
	227	◎ 滋賀大学	双方向単位互換	
	228	千葉科学大学		
	229	兵庫大学短期大学部		
	230	日本女子大学		
	231	◎ 滋賀医科大学		
	232	○ 香川県立保健医療大学	香川県内5大学協定	
2005(平成17)年度	233	○ 石川県立大学	石川包括協定	
	234	◎ 鹿児島大学	教育協力型、双方向単位互換、学部のカリキュラムによって異なる 4単位から6単位	
	235	◎ 九州大学	双方向単位互換(2学期のみ)(2006年6月28日再締結)	
	236	◎ 埼玉大学	教育協力型(経済学部のみ)	
	237	○ 長岡造形大学	2014年4月私立から公立化	
	238	松本大学		
	239	松本大学松商短期大学部		
	240	函館大学		
	241	◎ 山形大学	山形包括協定	
	242	○ 山形県立保健医療大学	山形包括協定教育協力型	
	243	◎ 鶴岡工業高等専門学校	山形包括協定	
	244	○ 山形県立米沢女子短期大学	山形包括協定	
	245	東北公益文科大学	山形包括協定	
	246	羽陽学園短期大学	山形包括協定	
	247	東北文教大学短期大学部	山形包括協定 旧校名：山形短期大学	
	248	広島工業大学	教育ネットワーク中国包括協定(2020年4月1日再締結)	
	249	○ 埼玉県立大学		

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考
2006(平成18)年度	250	人間総合科学大学	(通信課程)
	251	関西福祉科学大学	
	252	東京聖栄大学	旧校名：聖徳栄養短期大学(1986年10月8日締結)
	253	美作大学大学院	
	254	聖隷クリストファー大学	
	255	奈良学園大学	旧校名：奈良産業大学(2014年4月変更)
	256	創価大学	
	257	○宮崎公立大学	宮崎包括協定(2010年4月1日再締結)
	258	南九州大学	宮崎包括協定(2010年4月1日再締結)
	259	宮崎国際大学	宮崎包括協定(2010年4月1日再締結)
	260	宮崎産業経営大学	宮崎包括協定(2010年4月1日再締結)
	261	◎都城工業高等専門学校	宮崎包括協定(2010年4月1日再締結)
	262	宮崎学園短期大学	宮崎包括協定(2010年4月1日再締結)旧校名：宮崎女子短期大学
	263	◎大阪教育大学	双方向単位互換(2学期のみ)※年間8単位が上限
	264	◎鈴鹿工業高等専門学校	学科30単位以内／専攻科20単位以内
	265	札幌国際大学	
	266	札幌国際大学短期大学部	
	267	広島国際大学	教育ネットワーク中国包括協定(2020年4月1日再締結)
	268	◎明石工業高等専門学校	
269	清泉女学院大学		
2007(平成19)年度	270	○島根県立大学	教育ネットワーク中国包括協定(2020年4月1日再締結)双方校単位互換として再締結(2022年1月21日)
	271	◎仙台高等専門学校	学都仙台包括協定(2008年3月4日再締結)旧校名：仙台電波工業高等専門学校(広瀬キャンパス)、宮城工業高等専門学校(名取キャンパス)学科10単位以内／専攻科12単位以内
	272	◎茨城工業高等専門学校	学科10単位以内／専攻科8単位以内
	273	宇都宮共和大学	栃木包括協定 留意事項文書送付(2010年6月15日)
	274	作新学院大学	栃木包括協定
	275	自治医科大学	栃木包括協定
	276	獨協医科大学	栃木包括協定
	277	文星芸術大学	栃木包括協定
	278	◎小山工業高等専門学校	栃木包括協定
	279	足利短期大学	栃木包括協定
	280	宇都宮短期大学	栃木包括協定
	281	宇都宮文星短期大学	栃木包括協定
	282	國學院大學栃木短期大学	栃木包括協定
	283	作新学院大学女子短期大学部	栃木包括協定
	284	佐野日本大学短期大学	栃木包括協定 旧校名：佐野短期大学(2017年4月変更)
	285	◎東北大学	学都仙台包括協定
	286	◎宮城教育大学	学都仙台包括協定
	287	○宮城大学	学都仙台包括協定
	288	石巻専修大学	学都仙台包括協定
	289	尚綱学院大学	教育協力型 学都仙台包括協定(2017年7月12日覚書再締結)大学が一部負担(大学負担額：3,500円)を原則とし、かつ、本学科目への読み替え対象科目の単位を修得した場合には大学が全額負担としている
	290	仙台北百合女子大学	学都仙台包括協定
	291	東北学院大学	学都仙台包括協定
	292	東北工業大学	学都仙台包括協定
	293	東北生活文化大学	学都仙台包括協定
	294	東北福祉大学	学都仙台包括協定
	295	東北文化学園大学	学都仙台包括協定
	296	東北医科薬科大学	学都仙台包括協定
	297	宮城学院女子大学	学都仙台包括協定
	298	◎浜松医科大学	
	299	聖和学園短期大学	学都仙台包括協定
	300	東北生活文化大学短期大学部	学都仙台包括協定
301	◎大阪大学	双方向単位互換 大阪外国語大学と統合	
2008(平成20)年度	302	京都女子大学	
	303	畿央大学	
	304	◎横浜国立大学	教育協力型(~2018年-2) 双方向単位互換 互換単位数は学部により異なる
	305	松山東雲女子大学	
306	松山東雲短期大学		
2009(平成21)年度	307	◎東京医科歯科大学	
	308	広島文化学園大学大学院	
2010(平成22)年度	309	東北文教大学	山形包括協定
	310	◎電気通信大学	
	311	○岐阜県立看護大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定
	312	○岐阜薬科大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考	
2010(平成22)年度	313	朝日大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	314	岐阜医療科学大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	315	岐阜協立大学	旧校名:岐阜経済大学(2007年4月変更)双方向単位互換 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	316	岐阜女子大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	317	岐阜聖徳学園大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	318	中京学院大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	319	東海学院大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	320	◎岐阜工業高等専門学校	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	321	○岐阜市立女子短期大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	322	大垣女子短期大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	323	岐阜聖徳学園大学短期大学部	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	324	岐阜保健大学短期大学部	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	325	東海学院大学短期大学部	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	326	中日本自動車短期大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定	
	327	岐阜女子大学大学院		
	328	聖学院大学		
	329	○愛媛県立医療技術大学		
	330	◎東京農工大学		
	331	洗足学園音楽大学		
	332	○新潟県立大学		
	333	○長崎県立大学	互換単位数は学部により異なる 経済学部/8単位 国際情報学部国際交流学科/12単位 情報メディア学科/8単位 看護栄養学部/8単位	
	334	北陸学院大学		
	335	高山自動車短期大学	双方向単位互換 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定(2011年3月28日改正時に加盟)	
	2011(平成23)年度	336	志学館大学	教育協力型 人間関係学部 心理臨床学科/18単位まで 人間文化学科/16単位まで 法学部/32単位まで
		337	鹿児島女子短期大学	
338		熊本保健科学大学		
339		宇部フロンティア大学		
340		◎福島大学	教育協力型 アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定(2017年10月25日覚書締結)現代教養コース:制限なし行政政策学類 夜間主:60単位	
341		○会津大学	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
342		○福島県立医科大学	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
343		医療創生大学	旧校名:いわき明星大学(2007年4月変更)アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
344		東日本国際大学	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
345		福島学院大学	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
346		日本大学工学部	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
347		◎福島工業高等専門学校	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
348		○会津大学短期大学部	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
349		福島学院大学短期大学部	アカデミア・コンソーシアムふくしま加盟大学等間単位互換に関する協定	
350		◎福井工業高等専門学校		
351		北里大学		
352		東京家政大学		
353	東京家政大学短期大学部			
2012(平成24)年度	354	植草学園大学	千葉私立大学・短期大学包括協定	
	355	○札幌市立大学	何らかの理由で再履修科目や読み替え科目を用意できない場合のように、学生本人の責によらない履修上の不都合を解消するための放送大学利用の場合は大学負担	
	356	○千葉県立保健医療大学		
	357	○富山県立大学		
	358	○富山県立大学大学院	※単位数は富山県立大学大学院履修規程に定める範囲内とする	
	359	○福井県立大学	双方向単位互換	
360	○福岡県立大学			
361	◎福岡教育大学			
2013(平成25)年度	362	◎宇部工業高等専門学校		
	363	大手前大学		
	364	鈴鹿医療科学大学		
	365	仁愛女子短期大学		
	366	○大分県立芸術文化短期大学	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日)旧)とよのまなびコンソーシアムおおいた(2014年3月31日再締結)	
	367	◎大分工業高等専門学校	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日再締結)旧)とよのまなびコンソーシアムおおいた 本科30単位以内/専攻科16単位以内	
	368	日本文理大学	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日再締結)旧)とよのまなびコンソーシアム	
	369	別府溝部学園短期大学		

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考
2014(平成26)年度	370	◎群馬工業高等専門学校	
	371	◎一関工業高等専門学校	
	372	新潟リハビリテーション大学	
2015(平成27)年度	373	○石川県立看護大学	石川包括協定
	374	筑波学院大学	
	375	○山形県立米沢栄養大学	山形包括協定
	376	東京未来大学	
	377	十文字学園女子大学	
	378	京都美術工芸大学	
2016(平成28)年度	379	東京電機大学	
	380	新潟工業短期大学	
	381	茨城キリスト教大学	双方向単位互換
	382	松山短期大学	双方向単位互換
	383	釧路短期大学	
2017(平成29)年度	384	平成医療短期大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定
	385	三育学院大学	千葉私立大学・短期大学包括協定
	386	青森明の星短期大学	
	387	佐久大学大学院	
	388	福井医療大学	
	389	聖泉大学	
	390	森ノ宮医療大学	再試験不可
	391	京都ノートルダム女子大学	
2018(平成30)年度	392	健康科学大学	
	393	佛教大学	
	394	○福岡女子大学	双方向単位互換
	395	文教大学	(本部 埼玉県) 再試験不可
2019(令和1)年度	396	○公立諏訪東京理科大学	
	397	岐阜保健大学	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定
	398	中京学院大学短期大学部	双方向単位互換ネットワーク大学コンソーシアム岐阜包括協定
	399	松蔭大学	双方向単位互換
	400	青森大学	
	401	鹿児島国際大学	再試験不可
2020(令和2)年度	402	○鳥根県立大学大学院	
	403	○県立広島大学	教育ネットワーク中国包括協定
	404	○広島市立大学	教育ネットワーク中国包括協定
	405	エリザベト音楽大学	教育ネットワーク中国包括協定
	406	近畿大学工学部	教育ネットワーク中国包括協定
	407	比治山大学	教育ネットワーク中国包括協定
	408	比治山大学短期大学部	教育ネットワーク中国包括協定
	409	広島経済大学	教育ネットワーク中国包括協定再試験不可
	410	広島修道大学	教育ネットワーク中国包括協定再試験不可
	411	広島女学院大学	教育ネットワーク中国包括協定再試験不可
	412	広島文化学園大学	教育ネットワーク中国包括協定
	413	広島文化学園短期大学	教育ネットワーク中国包括協定
	414	広島都市学園大学	教育ネットワーク中国包括協定
	415	山陽女子短期大学	教育ネットワーク中国包括協定
	416	◎呉工業高等専門学校	教育ネットワーク中国包括協定
	417	京都先端科学大学	
	418	嵯峨美術大学	再試験不可
	419	嵯峨美術短期大学	再試験不可
	420	聖カタリナ大学	再試験不可
	421	聖カタリナ大学短期大学部	再試験不可
	422	東京音楽大学	
	423	豊橋創造大学大学院	
	424	帝京大学	帝京大学(理工学部)は、栃木包括協定で2007年10月1日に締結 受入学生数:100、修得できる単位数は10 学費は個人負担
	425	◎富山大学	
426	太成学院大学	双方向単位互換	
427	帝塚山大学		
428	名古屋芸術大学		
2021(令和3)年度	429	森ノ宮医療大学大学院	
	430	○大分県立看護科学大学	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日再締結)旧)とよのまなびコンソーシアム
	431	大分短期大学	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日)旧)とよのまなびコンソーシアムおおいた(2014年3月31日再締結)
	432	東九州短期大学	おおいた地域連携プラットフォーム(2021年10月1日)旧)とよのまなびコンソーシアムおおいた(2014年3月31日再締結)

実施開始年度	No.	学校名	備考
2021(令和3)年度	433	清泉女学院短期大学	
	434	岡山商科大学	
	435	星城大学大学院	
	436	大阪女学院大学	
	437	大阪女学院短期大学	
	438	◎久留米工業高等専門学校	
2022(令和4)年度	439	東京医療保健大学大学院	
	440	人間環境大学	
	441	社会構想大学院大学	
	442	鳥取看護大学	

(2) 連携協力関係学校

① 専修学校

実施開始年度	No.	学校名	備考
1999(平成11)年度	1	静岡医療科学専門学校	※当初4年制学科で、ダブルスクールを行っていたが、入学数の減により、2007年度より3年制に移行、放送大学とのダブルスクールは休止状態。
	2	読売理工医療福祉専門学校	旧校名：読売東京理工専門学校
2002(平成14)年度	3	京都建築大学校(KASD)	旧校名：京都国際建築技術専門学校
2004(平成16)年度	4	京都伝統工芸大学校(TASK)	旧校名：京都伝統工芸専門学校
	5	東京法律公務員専門学校	旧校名：東京法律専門学校(2021年度4月変更)
2005(平成17)年度	6	日本航空大学校	旧校名：日本航空専門学校石川
	7	日本外国語専門学校	
2006(平成18)年度	8	大阪総合デザイン専門学校	
	9	甲府市立甲府商科専門学校	2010年度より科目履修型に加えて希望者に編入学型を実施
2007(平成19)年度	10	国際医療福祉専門学校	
	11	辻調理師専門学校	
2008(平成20)年度	12	辻製菓専門学校	
	13	京都医療福祉専門学校	
2009(平成21)年度	14	新潟工科専門学校	
	15	YICリハビリテーション大学校	旧校名：山口医療福祉専門学校(2009年度4月変更)
2010(平成22)年度	16	帯広コア専門学校	コア学園／秋田コア、秋田リハ、出雲コア、都城リハ、山口コ・メディカルと同法人
	17	秋田コア ビジネスカレッジ	旧校名：秋田経理情報専門学校(2015年度4月変更)
2011(平成23)年度	18	日本工学院専門学校	
	19	日本工学院八王子専門学校	
	20	新潟農業・バイオ専門学校	
2012(平成24)年度	21	神戸電子専門学校	
	22	専門学校 愛知保健看護大学校	(1年次後期又は2年次から放送大学へ入学する変則型)旧校名 愛知総合看護福祉専門学校(2021年度4月変更)
2014(平成26)年度	23	出雲コアカレッジ	旧校名：出雲コンピュータ専門学校(2015年4月変更)コア学園／帯広コア、秋田リハ、秋田コア、都城リハ、山口コ・メディカルと同法人
	24	長野医療衛生専門学校	
2015(平成27)年度	25	早稲田文理専門学校	
	26	秋田リハビリテーション学院	コア学園／帯広コア、秋田コア、出雲コア、都城リハ、山口コ・メディカルと同法人
2016(平成28)年度	27	弘前市医師会看護専門学校	注：看護学科は准看護師が入学し2年制であるが、夜間定時制のため3年間在学する。
	28	茨城県立中央看護専門学校	
2017(平成29)年度	29	日産栃木自動車大学校	
	30	日産横浜自動車大学校	
	31	日産愛知自動車大学校	
	32	日産京都自動車大学校	
	33	日産愛媛自動車大学校	
	34	茨城県結城看護専門学校	
2018(平成30)年度	35	浦添看護学校	
	36	東京メディカルスポーツ専門学校	
	37	湘央医学技術専門学校	
	38	湘央生命科学技術専門学校	
	39	都城リハビリテーション学院	コア学園／帯広コア、秋田リハ、秋田コア、出雲コア、山口コ・メディカルと同法人
	40	静岡工科自動車大学校	
	41	那覇看護専門学校	
	42	新潟看護医療専門学校	
	43	お茶の水はりきゅう専門学校	
	44	大阪医療技術学園専門学校	
2020(令和2)年度	45	鹿児島医療福祉専門学校	
	46	山口コ・メディカル学院	コア学園／帯広コア、秋田リハ、秋田コア、出雲コア、都城リハと同法人
	47	ぐしかわ看護専門学校	

2021(令和3)年度	48	専門学校国際理工カレッジ	旧校名：国際理工情報デザイン専門学校(2021年10月変更)
	49	鹿児島中央看護専門学校	
	50	唐津ビジネスカレッジ	コア学園／帯広コア、秋田リハ、秋田コア、出雲コア、都城リハ、山口コ・メディカルと同法人
	51	神戸リハビリテーション衛生専門学校	
	52	鹿児島県医療法人協会立看護専門学校	
	53	東京栄養食糧専門学校	
	54	京都製菓製パン技術専門学校	
	55	京都調理師専門学校	
2022(令和4)年度	56	日本工科大学校	
	57	厚木看護専門学校	
	58	北部看護学校	

② 高等専門学校

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考
1992(平成4)年度	1	奈良工業高等専門学校	
	2	新居浜工業高等専門学校	
1993(平成5)年度	3	富山高等専門学校	旧校名：富山工業高等専門学校(2009年10月変更)
1994(平成6)年度	4	秋田工業高等専門学校	
	5	豊田工業高等専門学校	
	6	熊本高等専門学校	2009年10月 再編により名称変更(旧校名：八代工業高等専門学校(1994年度から)・旧校名：熊本電波工業高等専門学校(2000年度から))
1996(平成8)年度	7	沼津工業高等専門学校	
	8	阿南工業高等専門学校	
	9	北九州工業高等専門学校	
1997(平成9)年度	10	津山工業高等専門学校	
	11	佐世保工業高等専門学校	
1998(平成10)年度	12	神戸市立工業高等専門学校	
1999(平成11)年度	13	旭川工業高等専門学校	
	14	香川高等専門学校	旧校名：高松工業高等専門学校(2009年10月変更)
2000(平成12)年度	15	長岡工業高等専門学校	
	16	舞鶴工業高等専門学校	
	17	高知工業高等専門学校	
	18	鹿児島工業高等専門学校	
2001(平成13)年度	19	有明工業高等専門学校	
	20	サレジオ工業高等専門学校	旧校名：育英工業高等専門学校(2005年4月変更)

③ 高等学校

実施開始年度	No.	学 校 名	備 考
2001(平成13)年度	1	鴨川令徳高等学校	旧校名：文理開成高等学校
	2	鹿児島県立武岡台高等学校	
2002(平成14)年度	3	福岡県立博多青松高等学校	(通信制・定時制課程)
	4	東京都立八潮高等学校	(定時制課程)
	5	広島県立祇園北高等学校	
2003(平成15)年度	6	千葉県立成田西陵高等学校	
	7	神奈川県立神奈川総合高等学校	
	8	宮城県立本吉響高等学校	
2004(平成16)年度	9	兵庫県立神戸工業高等学校	
	10	東京都立葛西南高等学校	(定時制課程)
2005(平成17)年度	11	広島県立広島高等学校	
2007(平成19)年度	12	高知県立大方高等学校	(通信制課程)
2010(平成22)年度	13	日本放送協会学園高等学校 (NHK学園高等学校)	(通信制課程) 2010年高大連携プラン
2012(平成24)年度	14	太平洋学園高等学校	(通信制課程)(定時制課程)

【11】放送教材貸出状況

項目 年度	大学		短期大学		高等専門学校		専門課程を置く 専修学校		その他		合計	
	貸出先数	延貸出 科目数	貸出先数	延貸出 科目数	貸出先数	延貸出 科目数	貸出先数	延貸出 科目数	貸出先数	延貸出 科目数	貸出先数	延貸出 科目数
1987	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0	4	15
1988	18	39	1	11	1	5	0	0	1	6	21	61
1989	24	76	6	30	0	0	1	3	4	52	35	161
1990	29	115	5	9	1	2	3	7	3	23	41	156
1991	25	96	7	22	4	9	3	19	0	0	39	146
1992	34	107	13	60	5	24	5	38	0	0	57	229
1993	41	171	27	205	6	55	6	34	0	0	80	465
1994	65	238	27	278	9	100	5	32	0	0	106	648
1995	57	287	27	235	12	141	5	25	0	0	101	688
1996	70	427	34	384	17	212	5	27	1	21	127	1,071
1997	71	486	41	529	22	266	4	22	3	30	141	1,333
1998	79	653	45	605	26	342	3	20	3	20	156	1,640
1999	73	682	37	600	31	425	5	135	0	0	146	1,842
2000	75	795	33	604	35	475	5	67	3	17	151	1,958
2001	79	946	27	400	35	457	5	53	5	32	151	1,888
2002	77	984	19	303	24	328	6	54	6	41	132	1,710
2003	75	895	21	285	19	166	6	137	7	43	128	1,526
2004	68	911	18	234	13	140	6	291	5	41	110	1,617
2005	69	741	14	166	7	71	13	493	4	12	107	1,483
2006	69	784	14	109	8	56	26	653	2	19	119	1,621
2007	77	765	11	70	8	48	22	587	2	3	120	1,473
2008	76	766	9	50	7	55	20	514	2	12	114	1,397
2009	65	691	7	70	4	28	26	500	1	1	103	1,290
2010	57	636	4	53	4	14	16	477	4	17	85	1,197
2011	59	669	4	33	2	10	18	432	2	5	85	1,149
2012	62	693	3	42	4	15	18	436	2	17	89	1,203
2013	81	604	3	23	9	134	21	285	2	17	116	1,063
2014	66	551	2	7	1	6	24	513	1	14	94	1,091
2015	65	622	1	2	0	0	31	348	0	0	97	972
2016	59	598	3	4	0	0	28	384	2	52	92	1,038
2017	57	583	5	69	0	0	24	360	5	73	91	1,085
2018	43	663	2	4	0	0	32	414	7	97	84	1,178
2019	39	394	0	0	0	0	32	438	7	82	78	914
2020	28	242	0	0	0	0	29	576	9	111	66	929
2021	20	210	0	0	0	0	28	535	8	108	56	853
2022	18	225	0	0	0	0	30	573	7	95	55	893

【12】図書受入冊数(累計)

()は洋書で内数 単位：冊

区 分	附属図書館		学習センター		合 計		備 考
1981(昭和56)年度	282	(0)			282	(0)	
1982(57)年度	200	(0)			200	(0)	
1983(58)年度	6,419	(0)			6,419	(0)	
1984(59)年度	6,537	(4,449)	48,450	(444)	54,987	(4,893)	
1985(60)年度	12,218	(6,228)	43,928	(402)	56,146	(6,630)	
1986(61)年度	21,424	(12,590)	37,389	(192)	58,813	(12,782)	
1987(62)年度	16,978	(12,027)	17,116	(48)	34,094	(12,075)	
1988(63)年度	15,267	(5,671)	14,733	(495)	30,000	(6,166)	
1989(平成元)年度	10,725	(4,750)	9,060	(847)	19,785	(5,597)	
1990(2)年度	8,031	(3,090)	13,450	(370)	21,481	(3,460)	
1991(3)年度	7,532	(1,763)	14,183	(492)	21,715	(2,255)	
1992(4)年度	10,021	(3,584)	23,826	(137)	33,847	(3,721)	
1993(5)年度	7,745	(2,303)	16,050	(80)	23,795	(2,383)	
1994(6)年度	16,135	(2,965)	16,528	(195)	32,663	(3,160)	
1995(7)年度	27,771	(6,681)	15,759	(268)	43,530	(6,949)	
1996(8)年度	22,141	(4,879)	19,251	(217)	41,392	(5,096)	
1997(9)年度	9,944	(2,858)	18,531	(41)	28,475	(2,899)	
1998(10)年度	8,106	(2,866)	21,165	(183)	29,271	(3,049)	
1999(11)年度	0	(0)	-1,004	(0)	-1,004	(0)	△山口SC台風被害
	6,927	(2,689)	14,834	(64)	21,761	(2,753)	
2000(12)年度	8,039	(1,008)	30,561	(4)	38,600	(1,012)	
2001(13)年度	9,765	(1,997)	24,626	(341)	34,391	(2,338)	
2002(14)年度	15,569	(2,625)	15,493	(448)	31,062	(3,073)	
2003(15)年度 前期	-2,042	(-431)	-3,811	(-45)	-5,853	(-476)	△蔵書点検
	3,296	(241)	2,019	(0)	5,315	(241)	
2003(15)年度 後期	0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	9,377	(1,489)	14,639	(142)	24,016	(1,631)	
2004(16)年度	0	(0)	-120	(0)	-120	(0)	△紛失等
	8,126	(2,455)	17,436	(162)	25,562	(2,617)	
2005(17)年度	-386	(-123)	-1,999	(-52)	-2,385	(-175)	△蔵書点検・不用決定
	6,159	(1,538)	13,507	(256)	19,666	(1,794)	
2006(18)年度	-4,275	(-2,073)	-2,619	(-66)	-6,894	(-2,139)	△不用決定
	6,565	(1,237)	8,698	(84)	15,263	(1,321)	
2007(19)年度	-11,261	(-82)	-2,439	(-38)	-13,700	(-120)	△不用決定
	36,564	(2,710)	-36,564	(-279)	0	(2,431)	配架換等(千葉SC分含)
	5,776	(665)	6,908	(69)	12,684	(734)	
2008(20)年度	-535	(-51)	-1,539	(-17)	-2,074	(-68)	△不用決定
	-163	(0)	163	(0)	0	(0)	配架換等
	5,523	(585)	7,204	(45)	12,727	(630)	
2009(21)年度	-4	(0)	-6,459	(-41)	-6,463	(-41)	△不用決定
	468	(-18)	-468	(21)	0	(3)	配架換等
	4,454	(518)	7,155	(159)	11,609	(677)	
2010(22)年度	-243	(-9)	-525	(-5)	-768	(-14)	△不用決定
	-137	(-4)	137	(2)	0	(-2)	配架換等
	4,369	(309)	8,671	(196)	13,040	(505)	
2011(23)年度	-251	(-5)	-28,977	(-492)	-29,228	(-497)	△不用決定
	1,132	(29)	-1,132	(-29)	0	(0)	配架換等
	4,782	(432)	6,468	(227)	11,250	(659)	
2012(24)年度	-847	(-13)	-1,095	(-24)	-1,942	(-37)	△不用決定
	-435	(-298)	435	(332)	0	(34)	配架換等
	5,774	(1,509)	6,787	(124)	12,561	(1,633)	
2013(25)年度	-389	(-4)	-566	(-9)	-955	(-13)	△不用決定
	-253	(-115)	253	(115)	0	(0)	配架換等
	5,867	(810)	6,262	(34)	12,129	(844)	
2014(26)年度	-275	(-27)	-1,615	(-54)	-1,890	(-81)	△不用決定
	23	(0)	-23	(0)	0	(0)	配架換等
	4,172	(682)	7,744	(344)	11,916	(1,026)	
2015(27)年度	-177	(-1)	-2,640	(-30)	-2,817	(-31)	△不用決定
	131	(22)	-131	(-22)	0	(0)	配架換等
	4,132	(675)	6,443	(318)	10,575	(993)	
2016(28)年度	-68	(-8)	-814	(-42)	-882	(-50)	△不用決定
	-75	(0)	75	(0)	0	(0)	配架換等
	3,795	(687)	8,100	(263)	11,895	(950)	
2017(29)年度	-107	(-12)	-4,992	(-28)	-5,099	(-40)	△不用決定
	21	(0)	-21	(0)	0	(0)	配架換等
	3,594	(501)	7,442	(142)	11,036	(643)	
2018(30)年度	0	(0)	-997	(-21)	-997	(-21)	△不用決定
	-32	(0)	32	(0)	0	(0)	配架換等
	3,479	(114)	5,149	(156)	8,628	(270)	
2019(31)年度	0	(0)	-20,881	(-182)	-20,881	(-182)	△不用決定
	-20	(0)	20	(0)	0	(0)	配架換等
	2,643	(456)	5,757	(16)	8,400	(472)	
2020(令和2)年度	-360	(-45)	-8,375	(-45)	-8,735	(-90)	△不用決定
	0	(0)	0	(0)	0	(0)	配架換等
	2,436	(106)	5,780	(98)	8,216	(204)	
2021(3)年度	-1,168	(-63)	-27,186	(-279)	-28,354	(-342)	△不用決定
	323	(4)	-323	(-4)	0	(0)	配架換等
	3,297	(582)	3,200	(81)	6,497	(663)	
2022(4)年度	-243	(-15)	-92,760	(-1,338)	-93,003	(-1,353)	△不用決定
	430	(11)	-430	(-11)	0	(0)	配架換等
	2,728	(354)	3,253	(157)	6,335	(511)	
累 計	373,294	(110,556)	314,692	(5,496)	687,986	(106,052)	

【13】奨学寄付金および科学研究費補助金の受入れ状況

(1) 奨学寄付金の受入れ実績

(単位：千円)

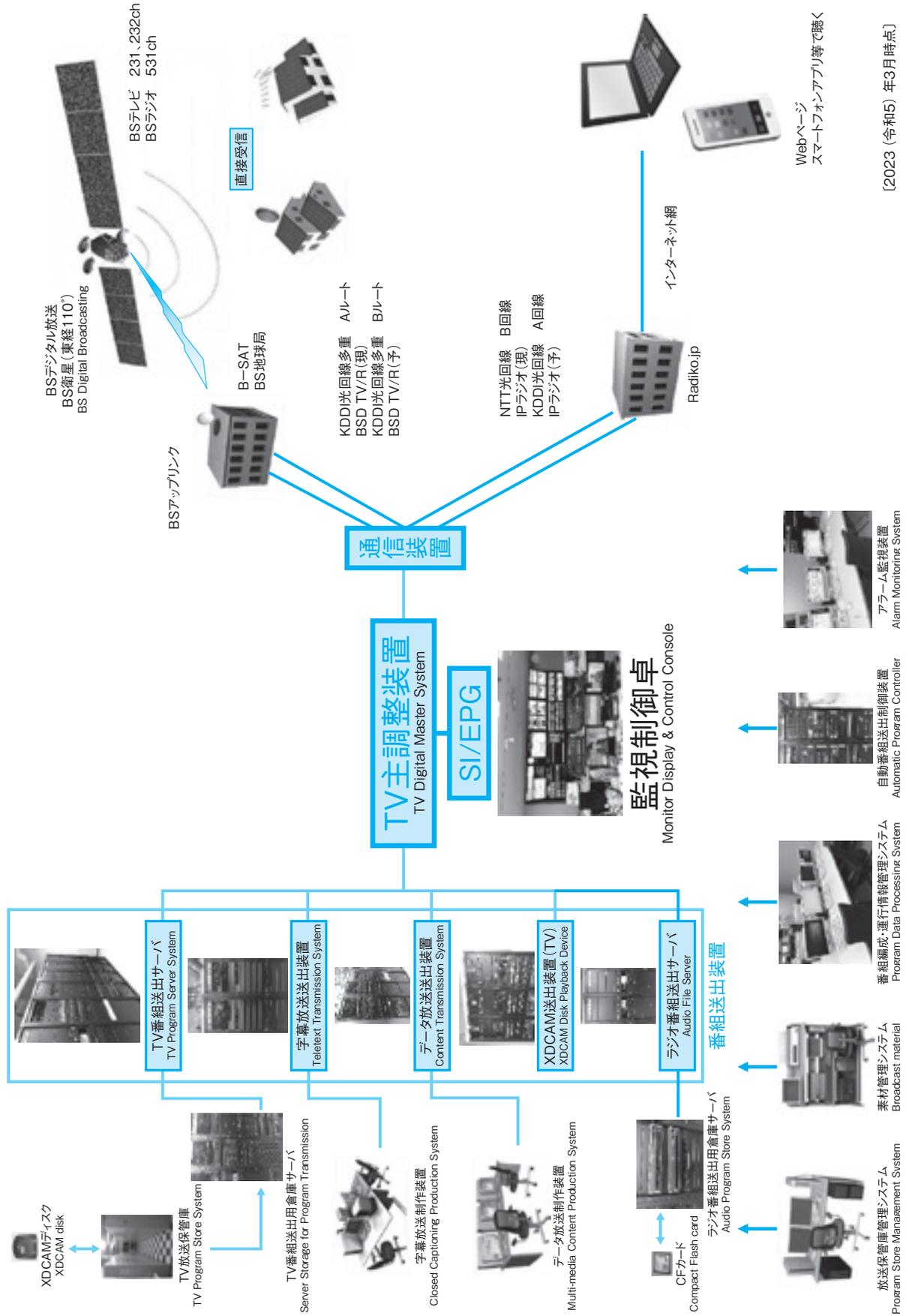
年度	件数	金額
1984 (59)	1	500
1985 (60)	3	3,500
1986 (61)	7	6,748
1987 (62)	4	2,500
1988 (63)	4	3,200
1989 (平成 元)	8	4,970
1990 (2)	9	7,820
1991 (3)	7	7,000
1992 (4)	7	7,300
1993 (5)	17	24,690
1994 (6)	5	12,200
1995 (7)	9	22,847
1996 (8)	6	12,171
1997 (9)	8	17,600
1998 (10)	7	8,400
1999 (11)	7	6,579
2000 (12)	5	6,221
2001 (13)	4	6,034
2002 (14)	5	5,833
2003 (15)	8	18,456
2004 (16)	8	26,635
2005 (17)	9	69,162
2006 (18)	7	46,773
2007 (19)	8	29,880
2008 (20)	10	40,344
2009 (21)	18	84,000
2010 (22)	15	55,800
2011 (23)	27	66,200
2012 (24)	22	81,009
2013 (25)	24	54,558
2014 (26)	28	59,543
2015 (27)	31	76,082
2016 (28)	31	57,552
2017 (29)	26	51,847
2018 (30)	26	53,524
2019 (令和 元)	21	36,108
2020 (2)	25	33,874
2021 (3)	9	18,025
2022 (4)	13	23,791
2023 (5)	6	18,839

(2) 科学研究費補助金の交付状況

(単位：千円)

年度	件数	金額
1984 (59)	3	9,500
1985 (60)	0	0
1986 (61)	0	0
1987 (62)	3	4,000
1988 (63)	5	12,700
1989 (平成 元)	6	15,766
1990 (2)	10	50,800
1991 (3)	10	89,700
1992 (4)	9	29,600
1993 (5)	10	28,400
1994 (6)	12	28,800
1995 (7)	9	16,300
1996 (8)	10	16,000
1997 (9)	7	7,900
1998 (10)	9	10,315
1999 (11)	5	5,600
2000 (12)	7	12,800
2001 (13)	11	20,060
2002 (14)	12	22,300
2003 (15)	14	22,600
2004 (16)	14	41,800
2005 (17)	16	33,600
2006 (18)	11	18,800
2007 (19)	10	44,230
2008 (20)	26	52,662
2009 (21)	57	126,380
2010 (22)	66	97,910
2011 (23)	73	114,405
2012 (24)	72	95,270
2013 (25)	79	106,765
2014 (26)	81	103,678
2015 (27)	81	103,678
2016 (28)	83	101,001
2017 (29)	92	113,394
2018 (30)	103	112,172
2019 (令和 元)	97	107,699
2020 (2)	80	102,838
2021 (3)	79	87,407
2022 (4)	79	122,275
2023 (5)	93	102,944

【14】放送システム概要



[2023 (令和5) 年3月時点]

【15】放送番組基準

放送大学学園放送番組基準

平成 15 年 10 月 1 日
常勤理事会決定第 55 号

改正 平成 24 年 3 月 14 日

放送大学学園は、放送を行うに当たっては、これが大学の授業として行われることに留意し、学問の自由・大学の自治と放送の公共性・公平性とをともに確保することを基本とする。この観点に立って、放送番組の編集の基準を次のように定める。

第1章 人権・人格

- 1 人権を守り、人格を尊重する。
- 2 学問的批判の範囲をこえて、個人や団体の名誉を傷つけるような取扱いはしない。
- 3 人種、民族、職業、信条、性、境遇、肉体的条件などに対する差別的な態度をもたせるような取扱いはしない。

第2章 宗教

信仰の自由を尊重し、公正に取り扱う。

第3章 法・政治・経済

- 1 法律を尊重し、その執行を妨げる言動を是認するような取扱いはしない。
- 2 政治上の諸問題は、公正に取り扱う。
- 3 経済上の諸問題で社会的に大きな混乱を与えるおそれのあるものについては、慎重に取り扱う。
- 4 国際的な事項については、慎重に取り扱う。

第4章 論争・裁判

- 1 意見が対立している公共の問題については、できるだけそれぞれの論点を明らかにするように十分配慮する。
- 2 国の機関が審理している問題については慎重に取り扱い、係争中の問題は学問的批判の範囲をこえてその審理を妨げないように十分配慮する。

第5章 社会生活

学問的批判の範囲をこえて、公序良俗をそこなう言動を是認するような取扱いはしない。

第6章 表現

- 1 人にいたずらに不安、恐怖、不快の念、嫌悪感などを与えないように配慮する。
- 2 国外の事情などを取り上げるときは、当該国の国情、伝統、慣習などに配慮する。

第7章 広告

- 1 営業の広告又は特定の団体や個人の売名的宣伝とならないよう慎重に取り扱う。
- 2 商号又は商品名が含まれる場合は、それがその講義内容の本質的要素であるか、また演出上学習上必要やむをえないものであるかについて慎重に配慮して取り扱う。

第8章 訂正

放送が事実と相違していることが明らかになったときは、すみやかに取り消し又は訂正する。

附 則

この決定は、平成 15 年 10 月 1 日から実施する。

附 則(平成 24 年 3 月 14 日)

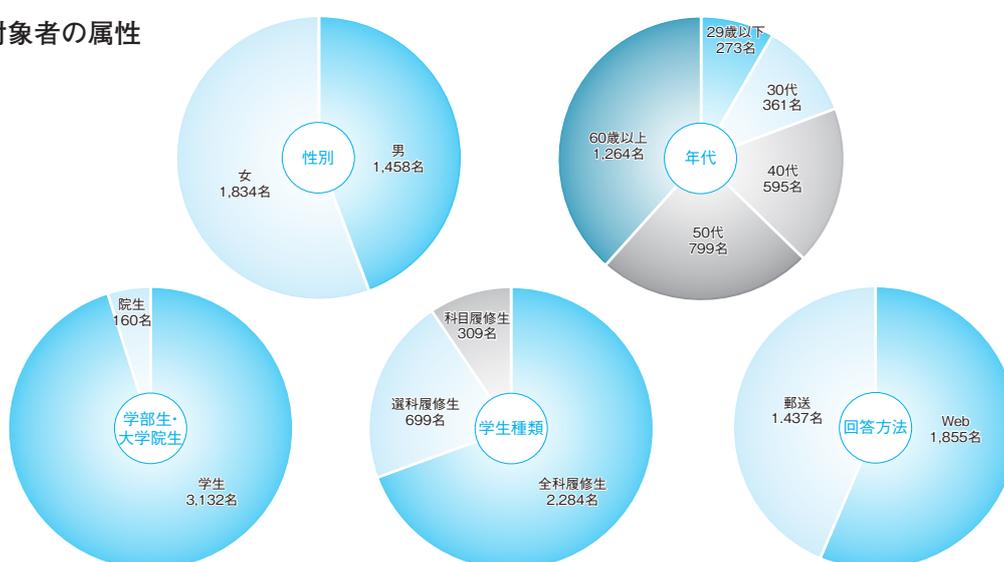
この決定は、平成 24 年 3 月 22 日から施行する。

【16】視聴状況調査

(1) ① 調査概要

- 調査目的：放送大学学生の授業番組視聴状況を把握し、
放送大学学園の将来の放送形態を考える上での検討資料とする。
- 調査対象：放送大学生（学部生・大学院生、全科履修生・選科履修生・科目履修生）
- 調査方法：対象者への協力依頼は郵送、回答方法はWeb/郵送調査を回答者が選択。
- 調査期間：2023年2月1日～2月28日
- 調査エリア：全47都道府県
- 有効回答数：3,292サンプル（発送数：6,000サンプル 有効回収率：54.9%）
（Web回答数：1,855、郵送1,437）
※2022年度2学期履修登録者の比率（学生種別・性別・年齢別）を基にサンプルを抽出している。

② 調査対象者の属性

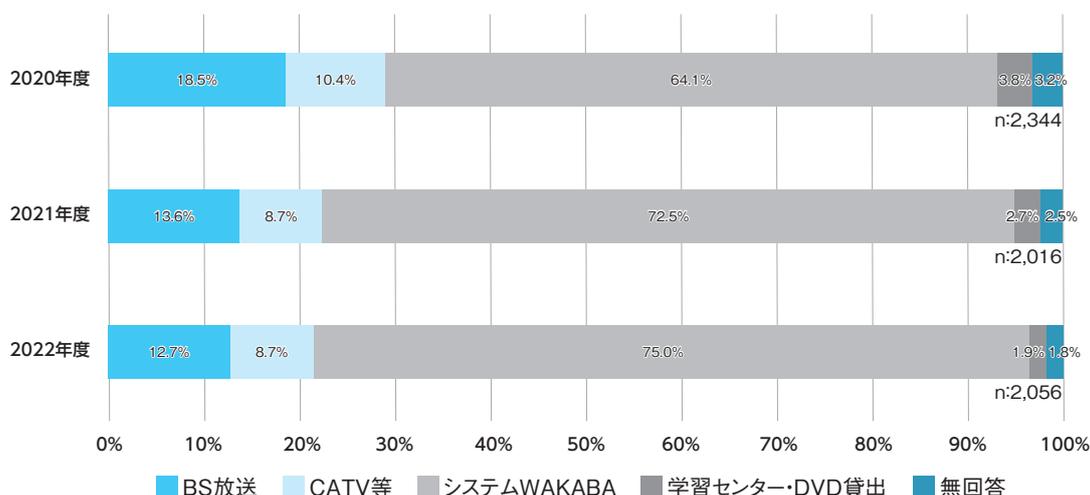


(2) テレビ授業番組（BSテレビ、CATV等、システムWAKABA、学習センター・DVD貸出等）について

① テレビ授業番組の主な視聴方法

※テレビ授業番組を聴取している学生数を母数にとった時の、最も利用頻度の高い聴取方法の割合

- テレビ授業視聴者の主な視聴方法（最も視聴頻度が高い視聴方法）について、インターネット配信（75.0%）が最も高く、続いて、BS放送（12.7%）、CATV等（8.7%）。



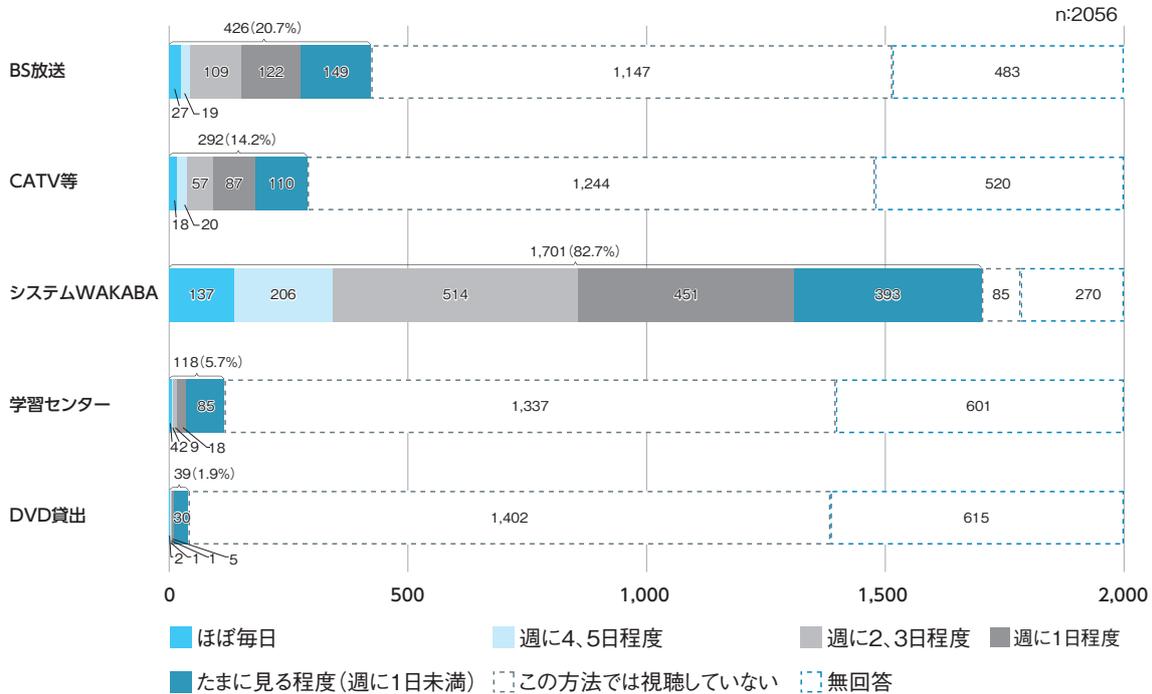
②テレビ授業番組の視聴方法の合算

※テレビ授業番組を視聴している学生数を母数にとった時の割合

○テレビ授業番組視聴者の視聴方法について、各視聴方法の視聴頻度を積み上げ棒グラフにまとめた。

○インターネット配信の割合は高いが、学習センター・DVD貸出についても、高くはないが利用がある。

※複数選択回答

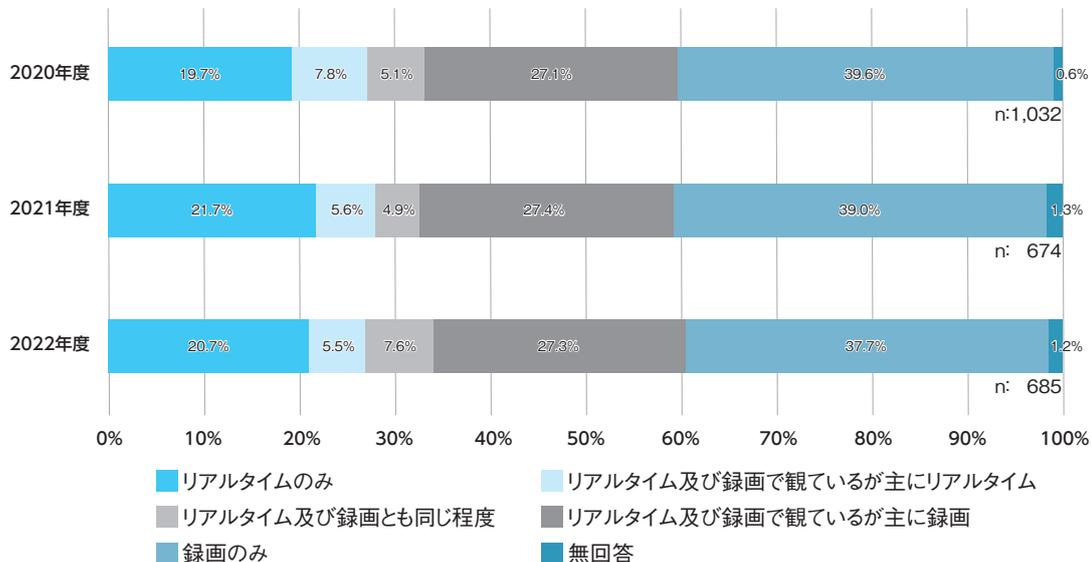


(3) BS232chテレビ授業番組について

①テレビ授業番組の録画視聴

○「テレビ授業科目」の視聴方法としては、「録画主体（「リアルタイム及び録画で観ているが主に録画」と「録画のみ」の合計）」が65.0%と、「リアルタイム主体（「リアルタイム及び録画で観ているが主にリアルタイム」と「リアルタイムのみ」の合計）」（26.2%）よりも多かった。

○どの学生種類でも、「録画主体」が「リアルタイム主体」よりも多い結果となった。

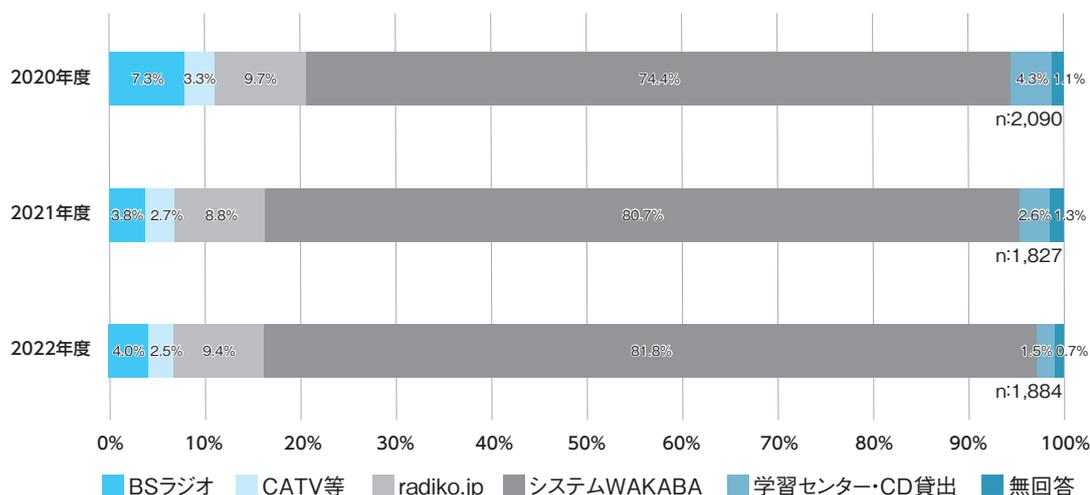


(4) ラジオ授業番組 (BSラジオ、CATV等、システムWAKABA、学習センター・DVD貸出等) について

① ラジオ授業番組の主な聴取方法

* ラジオ授業番組を聴取している学生数を母数にとった時の、最も利用頻度の高い聴取方法の割合

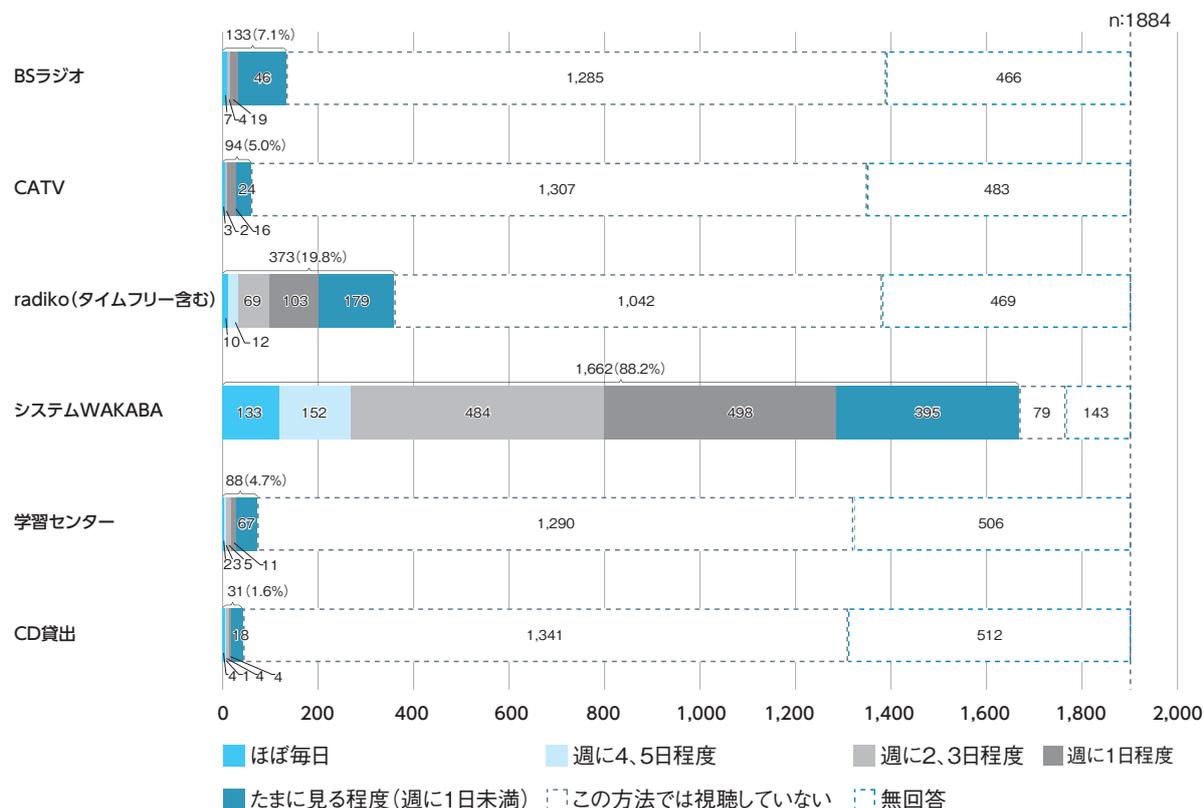
○ラジオ授業視聴者の主な聴取方法 (最も聴取頻度が高い視聴方法) について、インターネット配信 (81.8%) が最も高く、続いて、radiko (9.4%)、BSラジオ (4.0%)。



② ラジオ授業番組の聴取方法の合算

* ラジオ授業番組を聴取している学生数を母数にとった時の割合

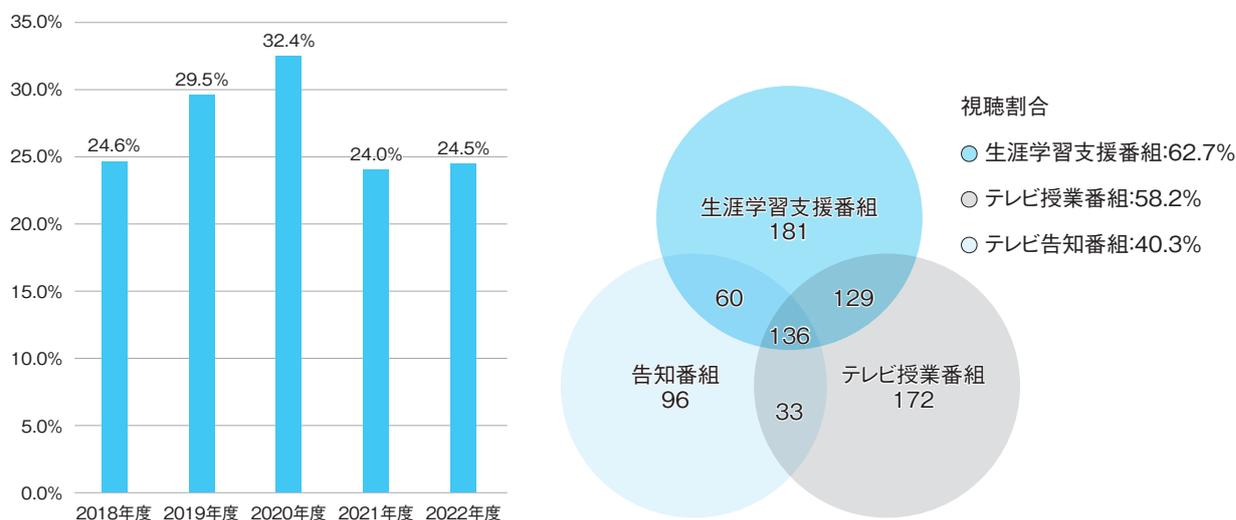
○ラジオ授業番組聴取者の利用方法について、各聴取方法の聴取頻度を積み上げ棒グラフにまとめた。



(5) BS231chの視聴状況について

① BS231chの視聴状況

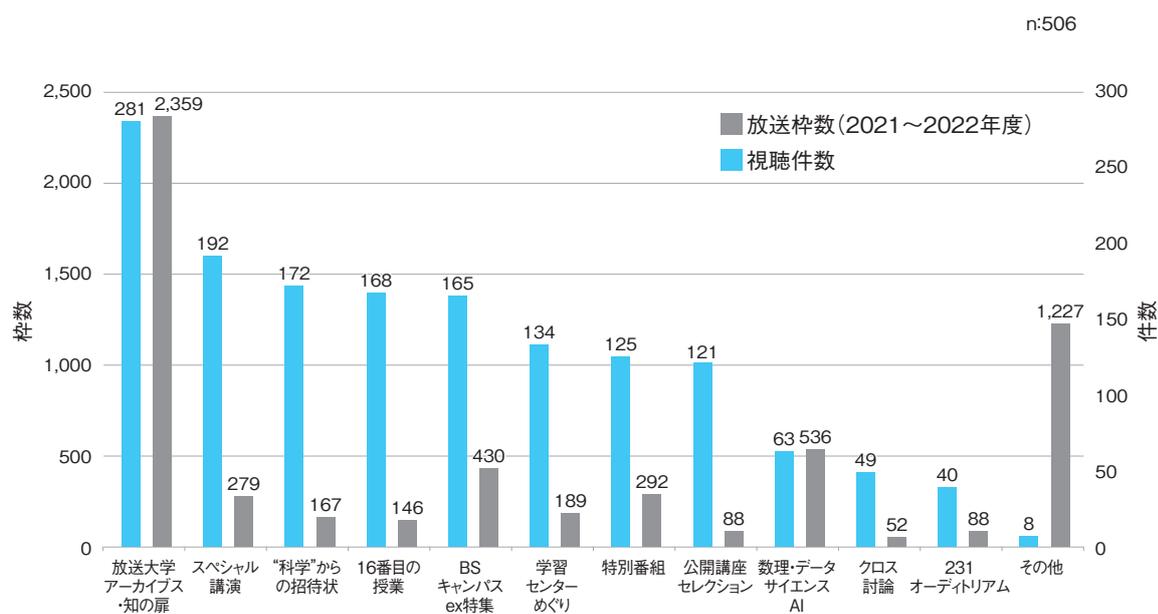
○BS231chの視聴番組の内訳をみると生涯学習支援番組、テレビ授業科目の割合はほぼ同じであった。(前回の調査：生涯学習支援番組：70.5%、テレビ授業科目：64.5%)



② 視聴した生涯学習支援番組

○学び直しの番組(生涯学習支援番組)のうちで、視聴したことがある番組は、放送枠の多寡も鑑みると、「公開講座セレクション」が最も高い。

以下、「16番目の授業」、「科学」からの招待状」と続く。



【17】アジア公開大学連合 (AAOU) 関係

(1) 理事校一覧

2023(令和5)年9月現在

	大学・機関名(和名)	大学・機関名	国名
1 会長	テルブカ大学	Universitas Terbuka	インドネシア
2	韓国放送通信大学校	Korea National Open University	韓国
3	香港メトロポリタン大学	Hong Kong Metropolitan University	中国
4	放送大学	The Open University of Japan	日本
5	アラマ・イクバル公開大学	Allama Iqbal Open University	パキスタン
6	フィリピン公開大学	The University of the Philippines Open University	フィリピン
7	マレーシア公開大学	Open University Malaysia	マレーシア
8	ワワサン公開大学	Wawasan Open University	マレーシア

(2) 年次会議の開催状況

	開催期間	開催場所(国名)	テーマ
第1回	1987(昭和62)年11月13日~14日	スコータイ・タマティラート公開大学(タイ)	(設立総会)
	1987(昭和62)年11月16日~17日	放送大学、放送教育開発センター(日本)	○アジア地域における遠隔高等教育機関の地域協力 ○アジア地域遠隔教育資料センターの実現に向かって ○各国遠隔高等教育機関の直面する三つの重要課題
第2回	都合により中止(開催予定地:インドネシア)		
第3回	1989(平成元)年11月10日~11日	アラマ・イクバル公開大学(パキスタン)	○遠隔教育における相互コミュニケーション
第4回	1990(平成2)年9月25日~26日	テルブカ大学(インドネシア)	○遠隔教育における相互コミュニケーションの概念と目的 ○アジア・太平洋地域の遠隔教育における相互コミュニケーションの中でのハイテクの利用 ○遠隔教育における相互コミュニケーションの伝統的技術の利用
第5回	1991(平成3)年9月17日~18日	スリランカ公開大学(スリランカ)	○遠隔教育における面接授業の現状と課題
第6回	1992(平成4)年9月21日~23日	韓国放送通信大学校(韓国)	○万人のための教育の推進にかかる遠隔教育の役割
第7回	1993(平成5)年11月21日~25日	香港公開学習センター(中国)	○費用効果の改善
第8回	1995(平成7)年2月20日~22日	国立インディラ・ガンディー公開大学(インド)	○公開学習システムの構造と運営
第9回	1995(平成7)年12月3日~5日	国立空中大学(台湾)	○地球規模の強制的遠隔教育
第10回	1996(平成8)年11月14日~16日	バヤム・ヌーア大学(イラン)	○公開遠隔教育における革新
第11回	1997(平成9)年11月11日~14日	マラ工科大学(マレーシア)	○遠隔公開学習における教育の質
第12回	1998(平成10)年11月4日~6日	香港公開大学(中国)	○アジアの遠隔学習者
第13回	1999(平成11)年10月14日~17日	中央広播電視大学(中国)	○21世紀の情報学習社会を見据えた公開遠隔教育システムとその規範
第14回	2000(平成12)年10月25日~27日	フィリピン公開大学(フィリピン)	○公開学習と遠隔教育:イデオロギー・教育・テクノロジー
第15回	2002(平成14)年2月21日~23日	国立インディラ・ガンディー公開大学(インド)	○アクセスと公平性-公開・遠隔学習にとっての挑戦
第16回	2002(平成14)年11月5日~7日	韓国放送通信大学校(韓国)	○デジタル時代の遠隔教育-生涯学習社会へ向けて
第17回	2003(平成15)年11月12日~14日	スコータイ・タマティラート公開大学(タイ)	○公開遠隔教育間における協調関係強化のためのネットワーク及びパートナーシップ
第18回	2004(平成16)年11月28日~29日	上海電視大学(中国)	○万人に向けた質の高い教育:公開大学の直面する新たな使命と挑戦
第19回	2005(平成17)年9月15日~17日	テルブカ大学(インドネシア)	○公開遠隔教育によって知を基盤とした社会建設
第20回	2006(平成18)年10月10日~16日	雲南広播電視大学(中国)	○公開・遠隔学習における新しい技術の選択と使用に関する振り返りと将来の展望-戦略、費用効果、及び影響
第21回	2007(平成19)年10月29日~31日	マレーシア公開大学(マレーシア)	○公開遠隔教育におけるパートナーシップによるアジアの強化
第22回	2008(平成20)年10月14日~16日	天津広播電視大学(中国)	○アジアと世界における公開遠隔教育の新しい進展、傾向、そして使命
第23回	2009(平成21)年11月3日~5日	バヤム・ヌーア大学(イラン)	○公開遠隔学習(ODL)システムの評価
第24回	2010(平成22)年10月26日~28日	ハノイ公開大学(ベトナム)	○持続可能なグローバル学習社会を築くための公開・遠隔教育活動
第25回	2011(平成23)年9月28日~30日	ワワサン公開大学(マレーシア)	○公開遠隔教育によるアジアの変容
第26回	2012(平成24)年10月16日~18日	放送大学(日本)	○変化する現代社会における公開・遠隔学習~知のフロンティアの拡大を目指して
第27回	2013(平成25)年10月1日~3日	アラマ・イクバル公開大学(パキスタン)	"Leveraging the Power of Open and Distance Education for Building a Divergent Asia Today's Solutions and Tomorrow's Vision"
第28回	2014(平成26)年10月28日~31日	香港公開大学(中国)	"Advancing Open and Distance Learning: Research and Practices"
第29回	2015(平成27)年11月30日~12月2日	マレーシア公開大学(マレーシア)	"New Frontiers in Open and Distance Learning (ODL) "
第30回	2016(平成28)年10月26日~28日	フィリピン公開大学(フィリピン)	"Open Education in Asia: Changing Perspectives"
第31回	2017(平成29)年9月26日~29日	テルブカ大学(インドネシア)	"Open University for inclusive and equitable quality education"
第32回	2018(平成30)年10月24日~26日	ハノイ公開大学(ベトナム)	"Open Education in Human Resource Development in ASIA's Period of Integration"
第33回	2019(平成31)年10月14日~16日	パキスタン・バーチャル大学(パキスタン)	"Open Distance Learning: 2020 and Beyond"
第34回	2021(令和3)年6月1日~3日	スリランカ公開大学(スリランカ) ※ハイブリット開催	"Opening minds for a sustainable future: Re-orienting ODL to surmount challenges"
第35回	2022(令和4)年11月2日~4日	韓国放送通信大学校(韓国)	"Opening a New Path to Open Universities: Responding to Global Issues"
第36回	2023(令和5)年9月28日~30日	アナドル大学(トルコ)	"The Future of Open Universities in the Age of Digitalized Higher Education"

(注)日本語表記については、放送大学が便宜的に付けたものである。

【18】国際遠隔教育会議 (ICDE)

(1) 理事校一覧

2023(令和5)年9月現在

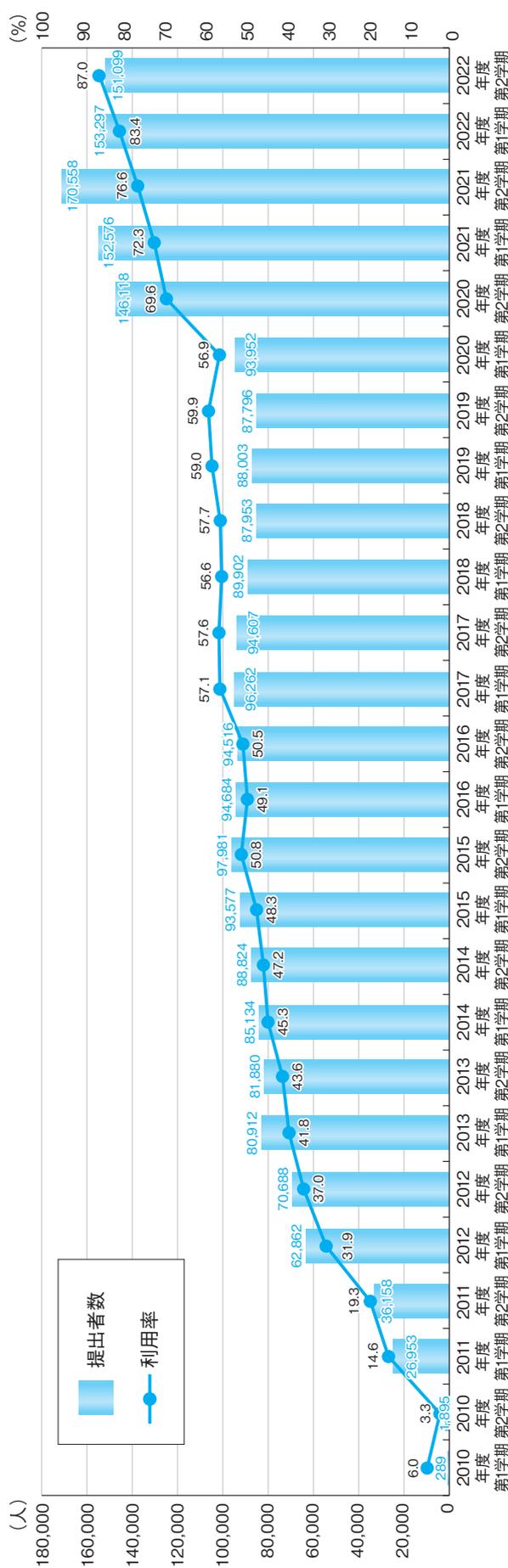
	氏名	所属・役職名(和名)	所属・役職名
1	Dr. Neil Fassina	オカナガンカレッジ学長(カナダ)	President, Okanagan College Canada
2	Dr. Melinda Bandalaria	フィリピン公開大学学長	Chancellor, University of the Philippines Open University, Philippines
3	Dr. Ebba Ossiannilsson	スウェーデン遠隔教育協会副学長	Vice President Swedish Association for Open, Flexible and Distance Education, Sweden
4	Prof. Carlos Alberto P. de Oliveira	リオデジャネイロ州立大学人間開発学部長	Head of the Department of Human Development with Technologies of IFHT at the UERJ, Brazil
5	Prof. Som Naidu	南太平洋大学フレキシブル・ラーニング・センター副学長兼ディレクター(フィジー)	Pro-Vice Chancellor Flexible Learning and Director, Center for Flexible Learning, The University of the South Pacific, Fiji
6	Dr. Mark Nichols	オープン・ポリテクニク・ニュージーランド、エグゼクティブディレクター	Executive Director, Open Polytechnic, New Zealand

(2) 国際遠隔教育会議 (ICDE) 関係の開催状況

開催期間	開催場所(国名)	備考
1999(平成11)年6月20日~24日	ウィーン(オーストリア)	第19回世界大会にオブザーバーとして出席
1999(平成11)年10月10日~12日	香港公開大学(中国)	機関長会議(SCOP)出席(香港ではSCOP開催なし)
2000(平成12)年8月13日~15日	ブラジル遠隔教育連合(ブラジル)	機関長会議(SCOP2000)出席
2001(平成13)年4月1日~5日	フェルン大学(ドイツ)	第20回世界大会出席 機関長会議(SCOP2001)出席
2002(平成14)年10月20日~22日	南アフリカ大学(南アフリカ)	機関長会議(SCOP2002)出席
2003(平成15)年10月29日~31日	カタロニア公開大学(スペイン)	機関長会議(SCOP2003)出席 (SCOP2004は非開催)
2004(平成16)年2月18日~21日	香港公開大学	第21回世界大会出席
2005(平成17)年6月19日~21日	フェルン大学(ドイツ)	機関長会議(SCOP2005)出席
2006(平成18)年6月11日~13日	リレハンメル大学(ノルウェー)	機関長会議(SCOP2006)出席
2007(平成18)年9月3日~5日	リオデジャネイロ(ブラジル)	第22回世界大会欠席
2008(平成19)年6月3日~5日	オランダ公開大学(マーストリヒト)	機関長会議(SCOP2007)出席
2009(平成20)年10月18日~19日	上海電視大学(上海)	機関長会議(SCOP2008)出席
2010(平成21)年6月7日~10日	オランダ公開大学(マーストリヒト)	第23回世界大会出席
2010(平成21)年11月20日~21日	カタール・ニャ・オベルタ大学(バルセロナ)	機関長会議(SCOP2009)欠席
2011(平成22)年9月14日~15日	南アフリカ大学(南アフリカ共和国)	機関長会議(SCOP2010)欠席
2011(平成23)年6月20日~22日	SUNY(ニューヨーク州立大学) Global Center(ニューヨーク)	機関長会議(SCOP2011)出席
2011(平成23)年10月2日~4日	テルブカ大学(インドネシア)	第24回世界大会出席
2012(平成24)年11月12日~15日	ハムダン・ビン・モハメッド・e-大学 (ドバイ・アラブ首長国連邦)	機関長会議(SCOP2012)出席
2013(平成25)年10月16日~18日	天津広播電視大学(天津市)	第25回世界大会
2013(平成25)年11月27日~30日	アベルタ大学(ポルトガル)	機関長会議(SCOP2013)出席
2014(平成26)年11月19日~21日	テルブカ大学(インドネシア)	機関長会議(SCOP2014)出席
2015(平成27)年10月13日~16日	南アフリカ大学(南アフリカ)	第26回世界大会欠席
2015(平成27)年10月14日~17日	南アフリカ大学(南アフリカ)	機関長会議(SCOP2015)欠席
2016(平成28)年11月20日~23日	チャールズスタート大学(オーストラリア)	ICDE学長サミット2016参加
2017(平成29)年5月22日~23日	UNIT、ロレーヌ大学(フランス)	ICDEリーダーシップサミット2017参加
2017(平成29)年10月16日~19日	コンタクト・ノース(カナダ)	第27回世界大会参加
2018(平成30)年12月3日~4日	オープン・エデュケーション・コンソーシアム、フランス国民教育・高等教育・研究省(フランス)	ICDEリーダーシップサミット2018参加
2019(平成31)年2月11日~13日	インランドノルウェー応用科学大学(ノルウェー)	生涯学習サミット参加
2019(令和元)年11月3日~7日	ダブリンシティ大学、国立デジタル学習研究所(アイルランド)	第28回世界大会参加
2021(令和3)年4月8日~9日	オープン・ポリテクニク(ニュージーランド) ※オンライン開催	ICDEリーダーシップサミット2021欠席
2021(令和3)年4月12日	※オンライン開催	ICDEプレジデントフォーラム2021欠席
2021(令和3)年10月25日~29日	※オンライン開催	バーチャルグローバルカンファレンスウィーク2021参加
2022(令和4)年1月20日~21日	韓国放送通信大学校(韓国) ※ハイブリット開催	ICDEリーダーシップサミット2022参加
2022(令和4)年11月15日	※オンライン開催	ICDEプレジデントフォーラム2022欠席
2023(令和5)年11月6日~10日	サンホセ(コスタリカ)	第29回世界大会出席

【19】Web通信指導実施科目数および利用率等の推移

	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度				
	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期			
科目数(科目)	27	26	36	32	37	36	36	36	39	39	41	35	35	40	36	40	33	41	32	39	35	41	36	42	40	53	42	49	44
提出者数(人)	187	211	724	621	1,418	1,394	1,823	1,715	2,103	2,063	2,558	2,214	2,209	1,894	2,129	1,871	2,088	1,867	1,888	1,586	2,048	2,823	3,280	3,317	3,280	3,317	2,949	2,769	
利用率(%)	4.8	4.6	14.7	14.0	28.9	31.2	33.2	34.2	38.2	39.9	42.4	44.0	42.0	41.5	49.0	48.0	50.0	51.4	52.9	52.5	43.1	54.3	62.6	63.9	68.8	68.8	72.5	72.5	
科目数(科目)	2	38	279	231	284	235	277	239	291	245	295	248	295	251	300	256	313	258	307	257	313	265	303	270	315	315	271	271	
提出者数(人)	102	1,684	26,229	35,537	61,444	69,294	79,089	80,165	83,031	86,761	91,019	95,767	92,475	92,622	94,133	92,736	87,814	86,086	86,115	86,210	91,904	143,295	149,296	167,241	150,348	148,330	148,330	148,330	
利用率(%)	10.9	3.2	14.6	19.5	32.0	37.1	42.1	43.8	45.5	47.4	48.5	51.0	49.3	50.7	57.3	57.9	56.8	57.9	59.1	60.1	57.3	70.0	72.6	76.9	76.9	83.7	83.7	87.3	
科目数(科目)	29	64	315	263	321	270	318	274	330	281	342	284	335	284	341	288	352	293	348	293	355	305	356	312	356	312	364	315	
提出者数(人)	289	1,895	26,953	36,158	62,862	70,688	80,912	81,880	85,134	88,824	93,577	97,981	94,684	94,516	96,262	94,607	89,902	87,953	88,003	87,796	93,952	146,118	152,576	170,558	153,297	151,099	151,099	151,099	
利用率(%)	6.0	3.3	14.6	19.3	31.9	37.0	41.8	43.6	45.3	47.2	48.3	50.8	49.1	50.5	57.1	57.6	56.6	57.7	59.0	59.9	56.9	69.6	72.3	76.6	76.6	83.4	83.4	87.0	



【20】授業形態別科目数（放送授業を除く）

(1) 面接授業科目数

年度	学期	開設科目数
1985		1,276
	1学期	421
	2学期	427
	3学期	428
1986		1,363
	1学期	463
	2学期	453
	3学期	447
1987		1,306
	1学期	439
	2学期	433
	3学期	434
1988		1,581
	1学期	519
	2学期	529
	3学期	533
1989		1,228
	1学期	603
	2学期	625
1990		1,482
	1学期	729
	2学期	753
1991		1,668
	1学期	825
	2学期	843
1992		1,787
	1学期	863
	2学期	924
1993		2,071
	1学期	1,005
	2学期	1,066

年度	学期	開設科目数
1994		2,214
	1学期	1,085
	2学期	1,129
1995		2,131
	1学期	1,043
	2学期	1,088
1996		2,094
	1学期	1,030
	2学期	1,064
1997		2,109
	1学期	1,038
	2学期	1,071
1998		2,116
	1学期	996
	2学期	1,120
1999		2,251
	1学期	1,086
	2学期	1,165
2000		2,500
	1学期	1,203
	2学期	1,297
2001		2,620
	1学期	1,296
	2学期	1,324
2002		2,820
	1学期	1,375
	2学期	1,445
2003		3,044
	1学期	1,470
	2学期	1,574

年度	学期	開設科目数
2004		3,101
	1学期	1,543
	2学期	1,558
2005		3,289
	1学期	1,659
	2学期	1,630
2006		3,359
	1学期	1,688
	2学期	1,671
2007		3,195
	1学期	1,648
	2学期	1,547
2008		2,997
	1学期	1,494
	2学期	1,503
2009		2,705
	1学期	1,390
	2学期	1,315
2010		2,646
	1学期	1,313
	2学期	1,333
2011		2,884
	1学期	1,386
	2学期	1,498
2012		3,039
	1学期	1,490
	2学期	1,549
2013		3,099
	1学期	1,532
	2学期	1,567

年度	学期	開設科目数
2014		3,038
	1学期	1,472
	2学期	1,566
2015		3,165
	1学期	1,564
	2学期	1,601
2016		3,199
	1学期	1,578
	2学期	1,621
2017		3,276
	1学期	1,645
	2学期	1,631
2018		3,274
	1学期	1,627
	2学期	1,647
2019		3,032
	1学期	1,549
	2学期	1,483
2020		1,337
	1学期	86※
	2学期	1,251
2021		2,412
	1学期	1,031
	2学期	1,381
2022		2,728
	1学期	1,333
	2学期	1,395
2023		2,723
	1学期	1,353
	2学期	1,370
統計		96,159

※全面閉講のため代替措置を実施

(2) オンライン授業科目数

	2015		2016		2017	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
学部	2	2	8	8	13	13
大学院	0	0	2	5	7	13
合計	2	2	10	13	20	26

	2018		2019		2020	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
学部	18	18	23	23	33	33
大学院	20	20	25	27	28	28
合計	38	38	48	50	61	61

	2021		2022		2023	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
学部	39	39	41	44	47	47
大学院	33	33	34	34	35	35
合計	72	72	75	78	82	82

(3) ライブWeb授業科目数

年度	学期	開設科目数
2021		9
	2学期	9
2022		30
	1学期	16
	2学期	14
2023		73
	1学期	31
	2学期	42

【21】公開講演会開催回数 (学習センター・本部主催)

年度	主催	
	学習センター	本部
2005	284	—
2006	290	—
2007	284	—
2008	265	—
2009	353	6
2010	374	9
2011	440	10
2012	505	21
2013	536	15
2014	573	30
2015	709	25
2016	706	22
2017	885	24
2018	719	20
2019	639	24
2020	313	11
2021	312	11
2022	412	11
2023	412	10

2 大学院博士後期課程設置関係

【1】大学院博士後期課程設置許可書

25文科高第504号

認 可 書

放送大学学園

平成25年5月25日付けで申請のあった放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻に係る課程の変更を、下記の通り認可します。

については、施設、設備、教員組織等に関する設置計画は、申請どおり確実に履行してください。

平成25年10月31日

文部科学大臣 下 村 博 文

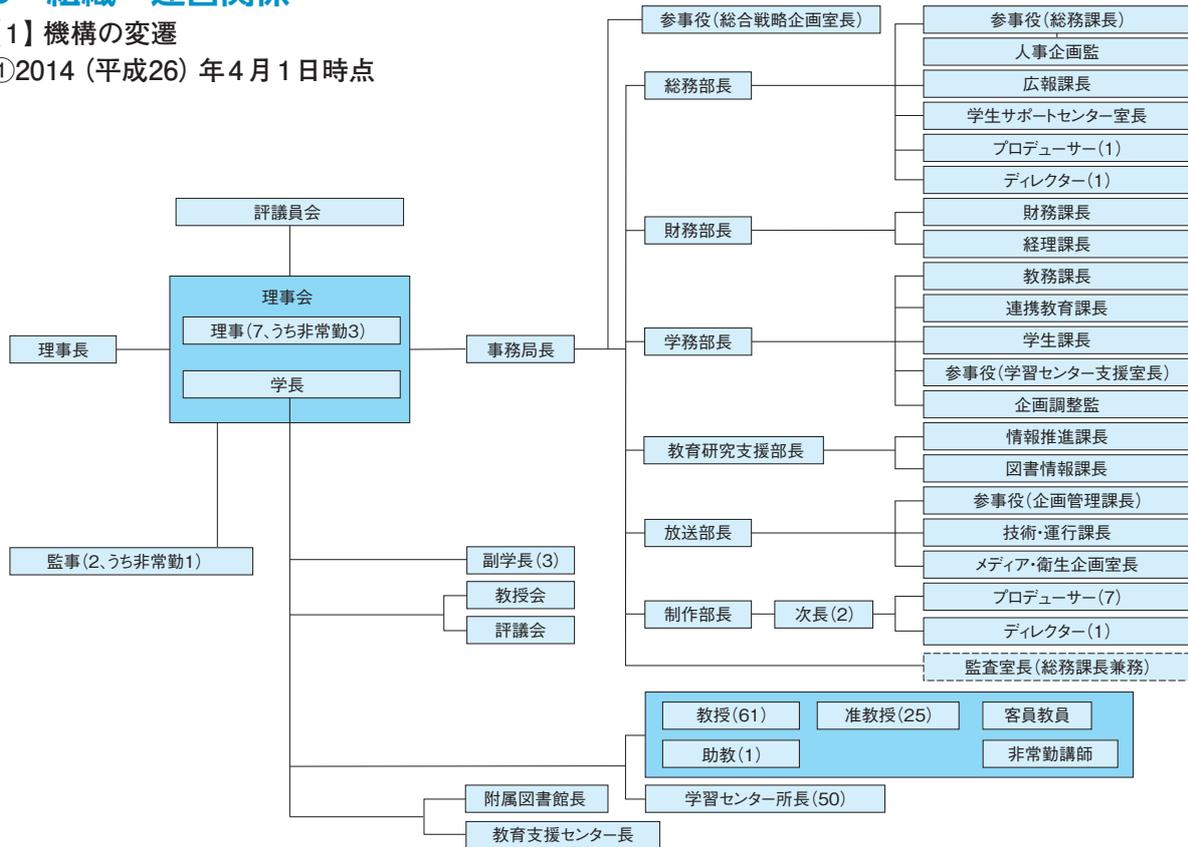
記

- 1 名称、学部及び学科、収容定員、位置
裏面記載のとおり
- 2 修業年限
3年
- 3 開設時期、開設年次
平成26年10月1日、1年次

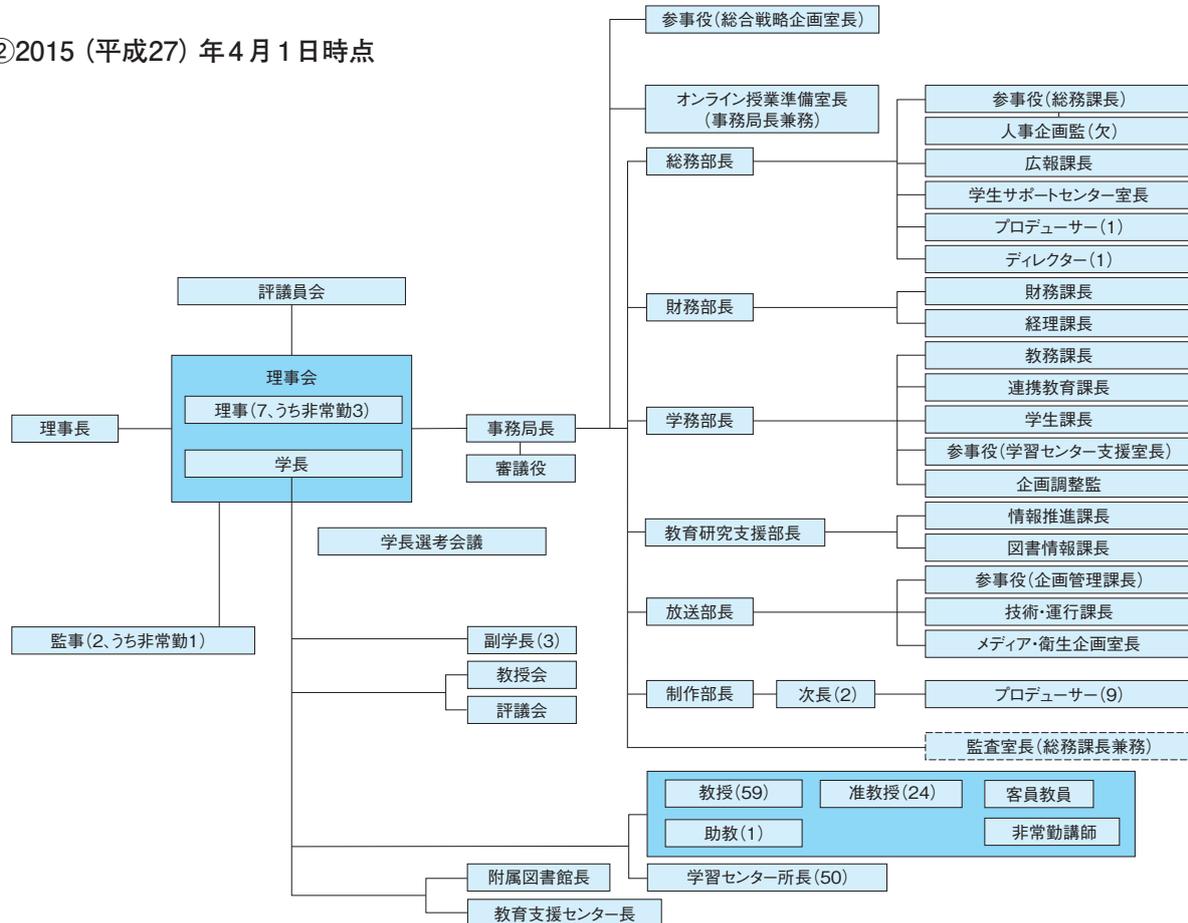
3 組織・運営関係

【1】 機構の変遷

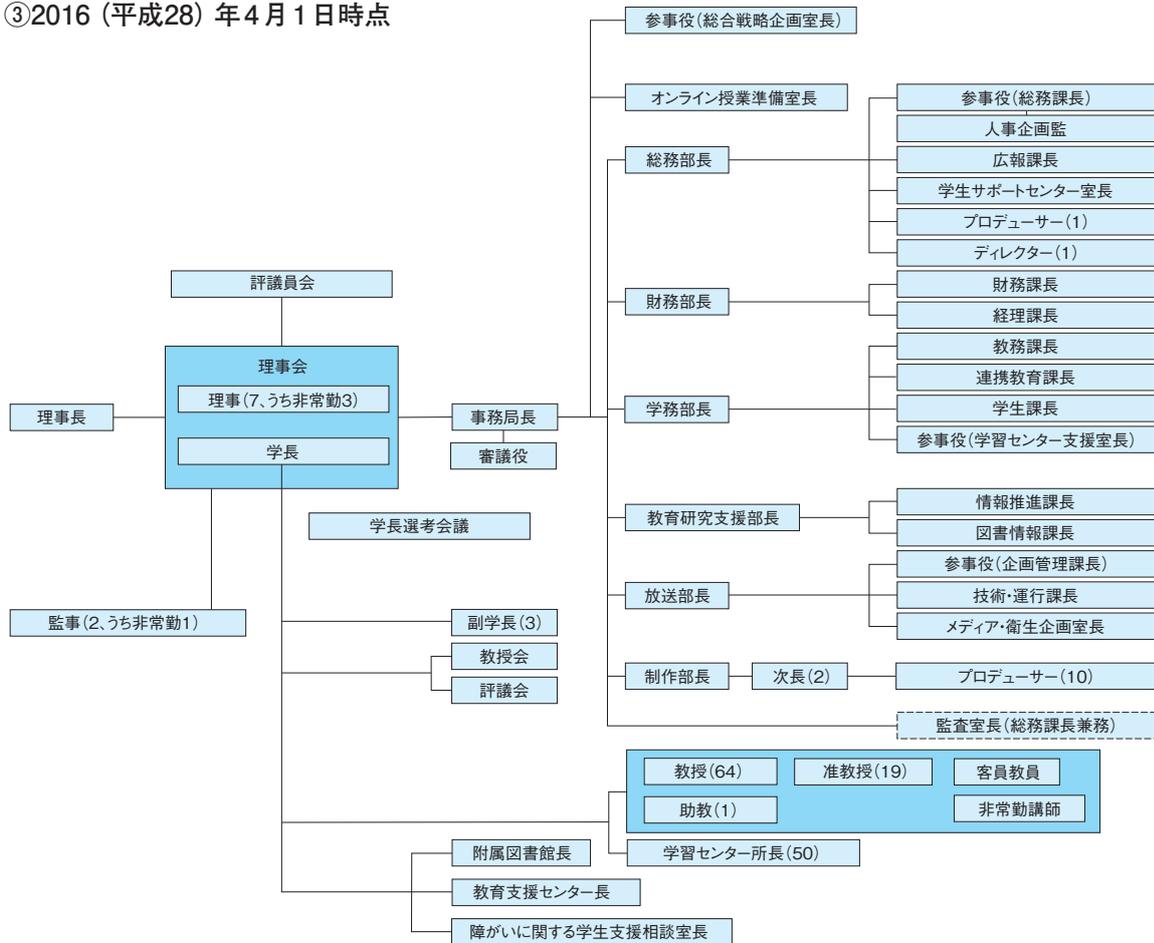
① 2014 (平成26) 年4月1日時点



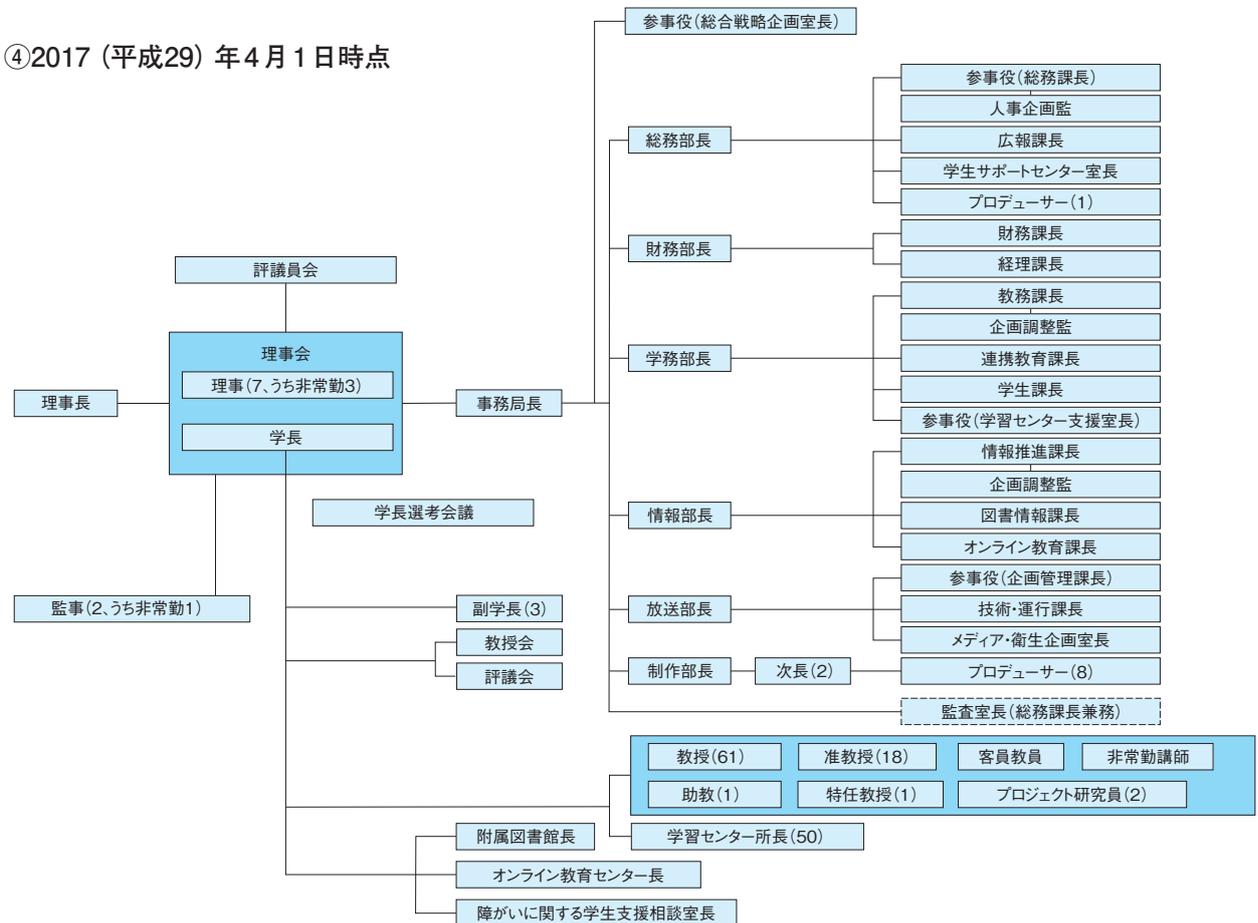
② 2015 (平成27) 年4月1日時点



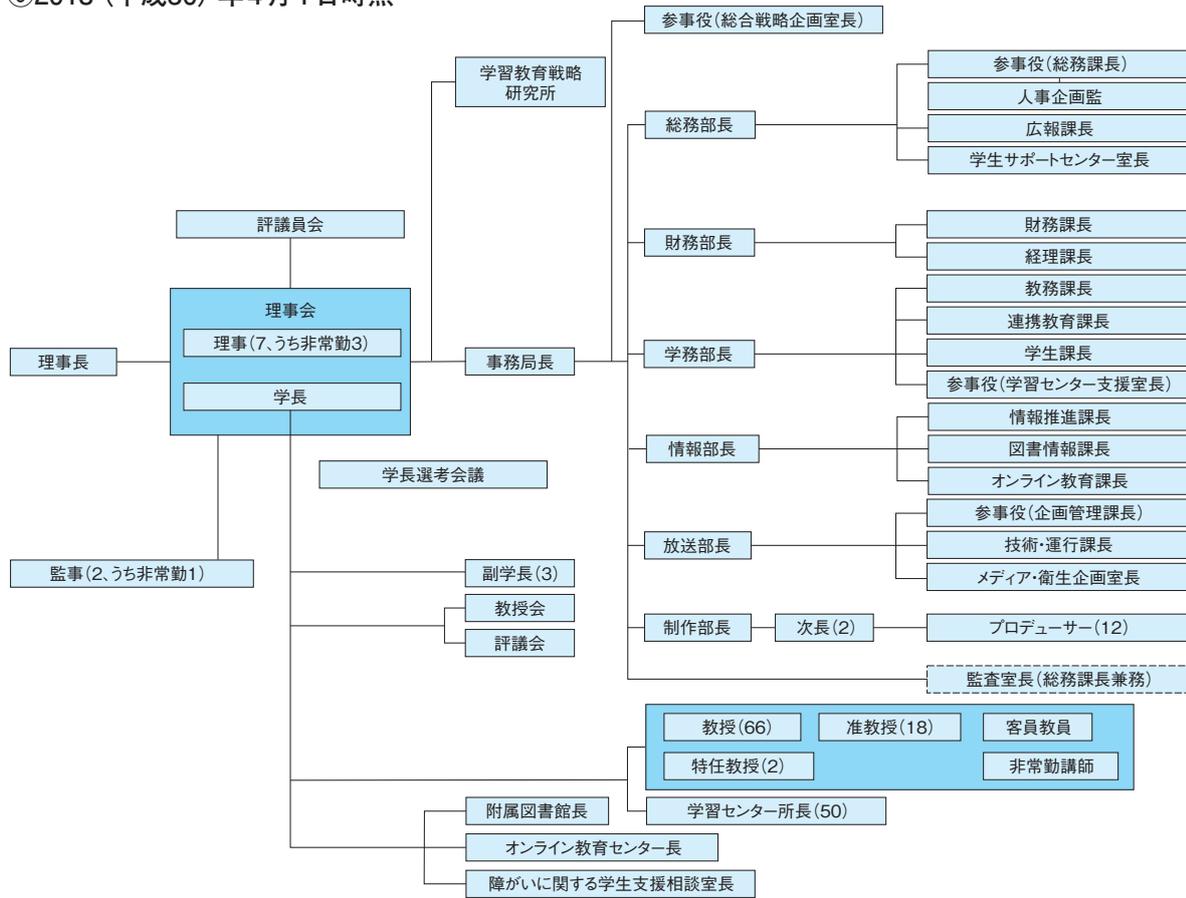
③2016 (平成28) 年4月1日時点



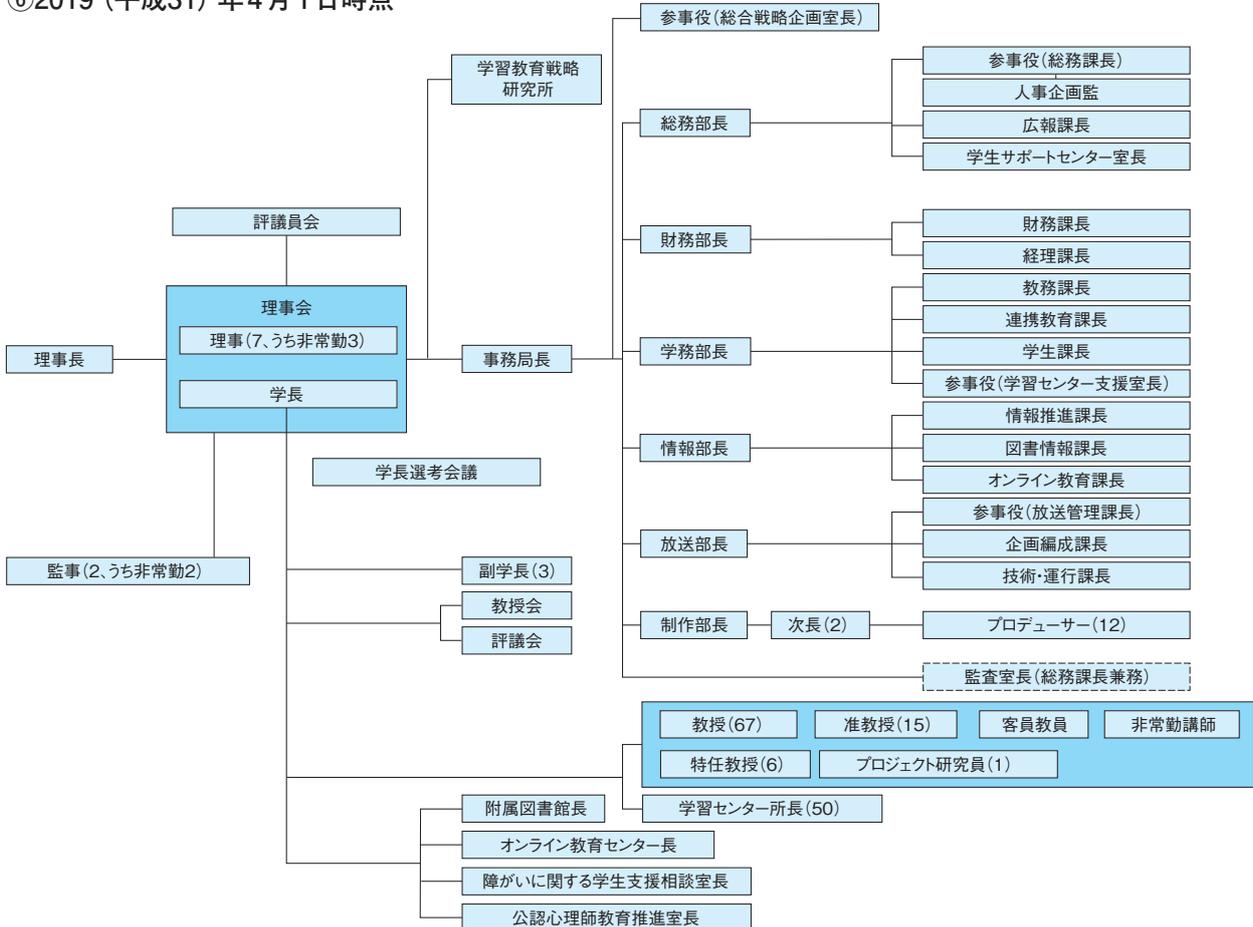
④2017 (平成29) 年4月1日時点



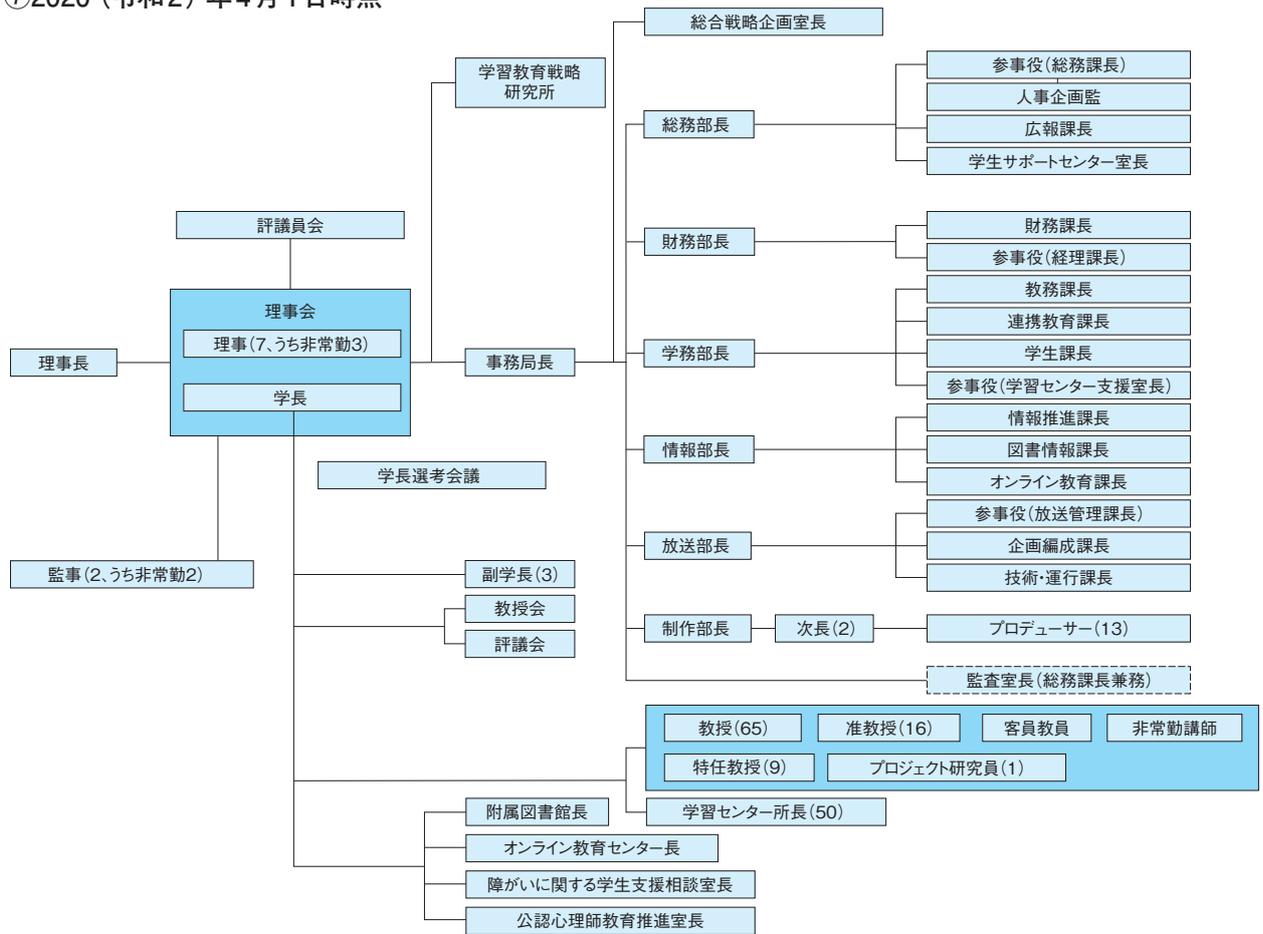
⑤2018 (平成30) 年4月1日時点



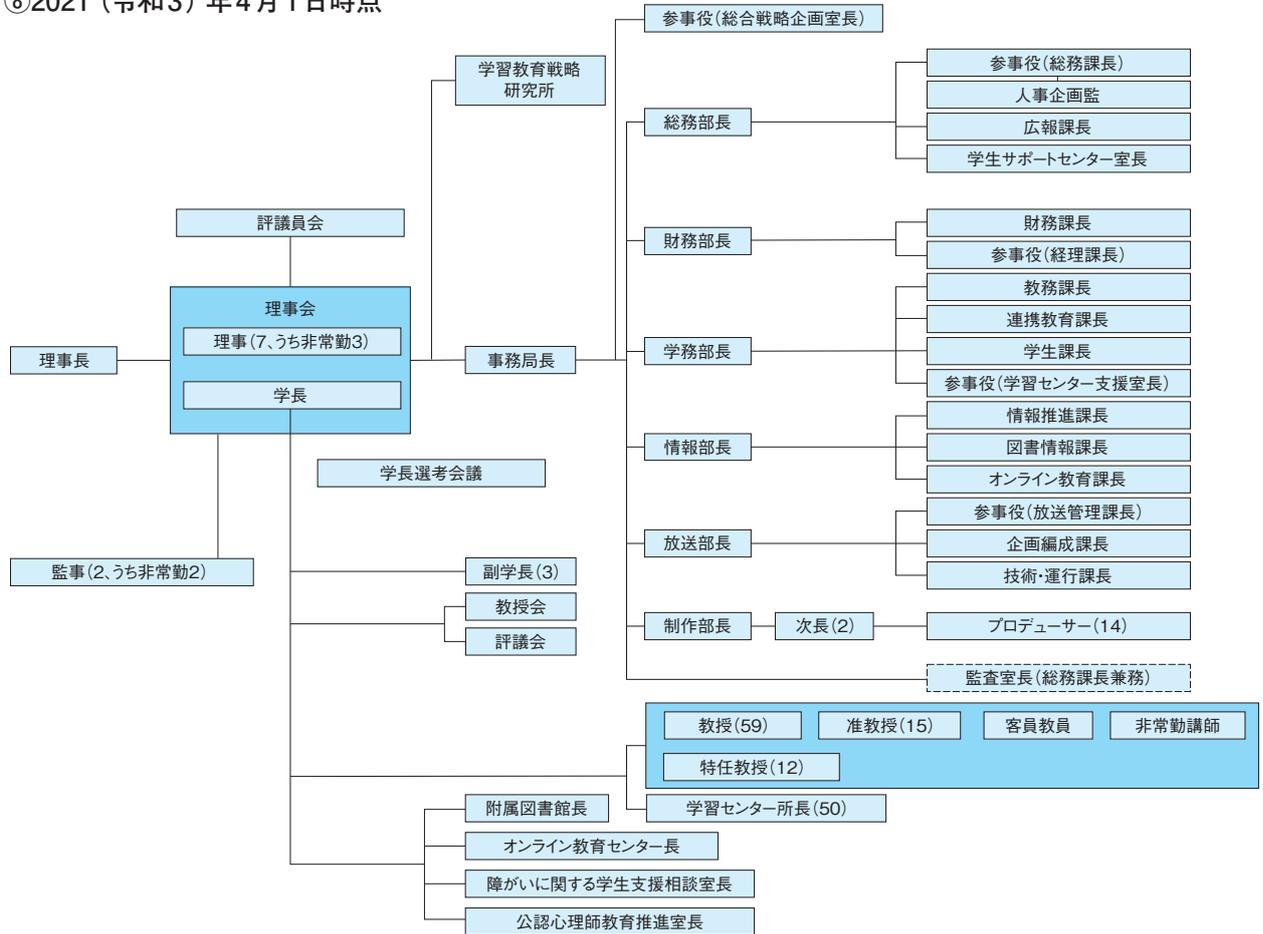
⑥2019 (平成31) 年4月1日時点



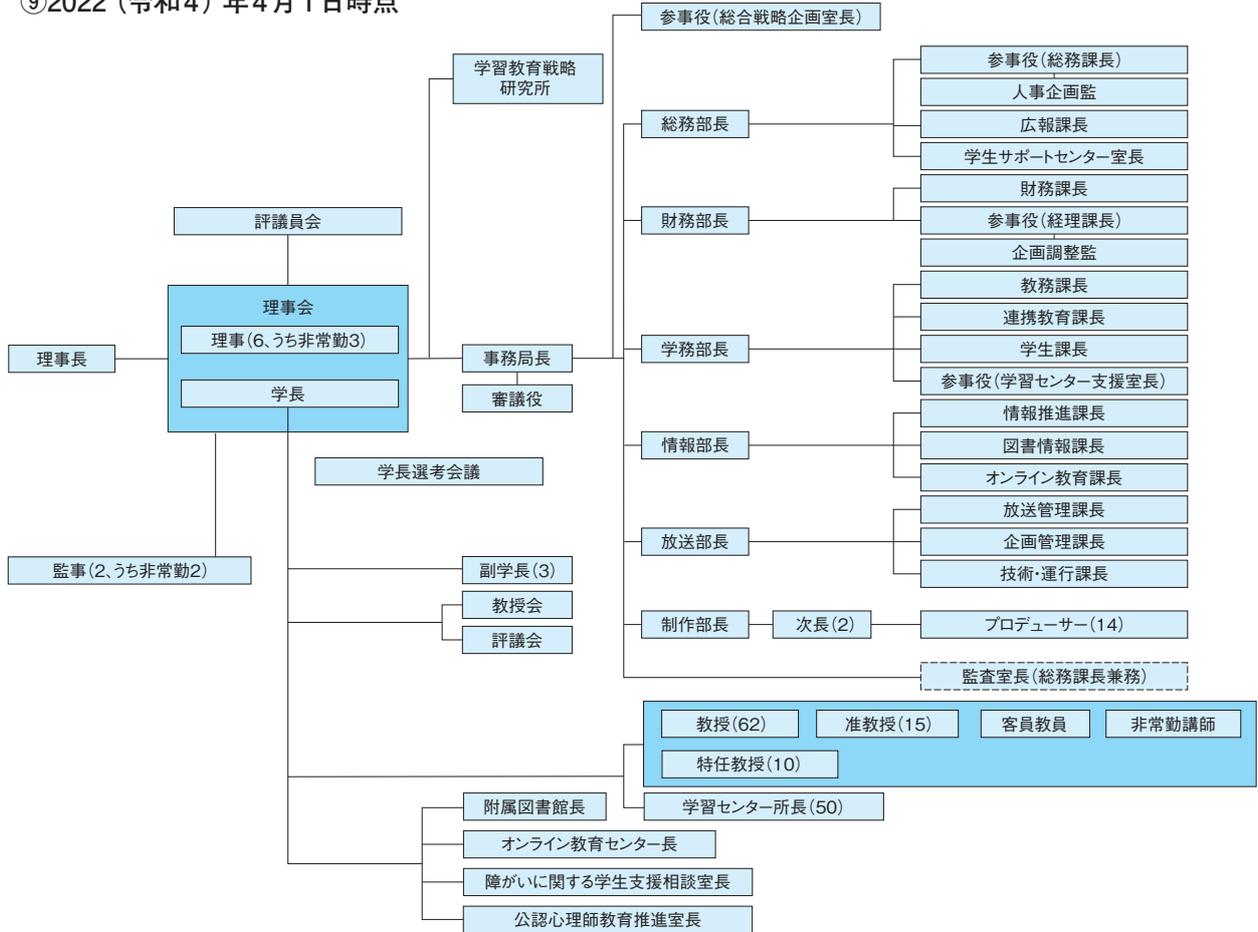
⑦2020 (令和2) 年4月1日時点



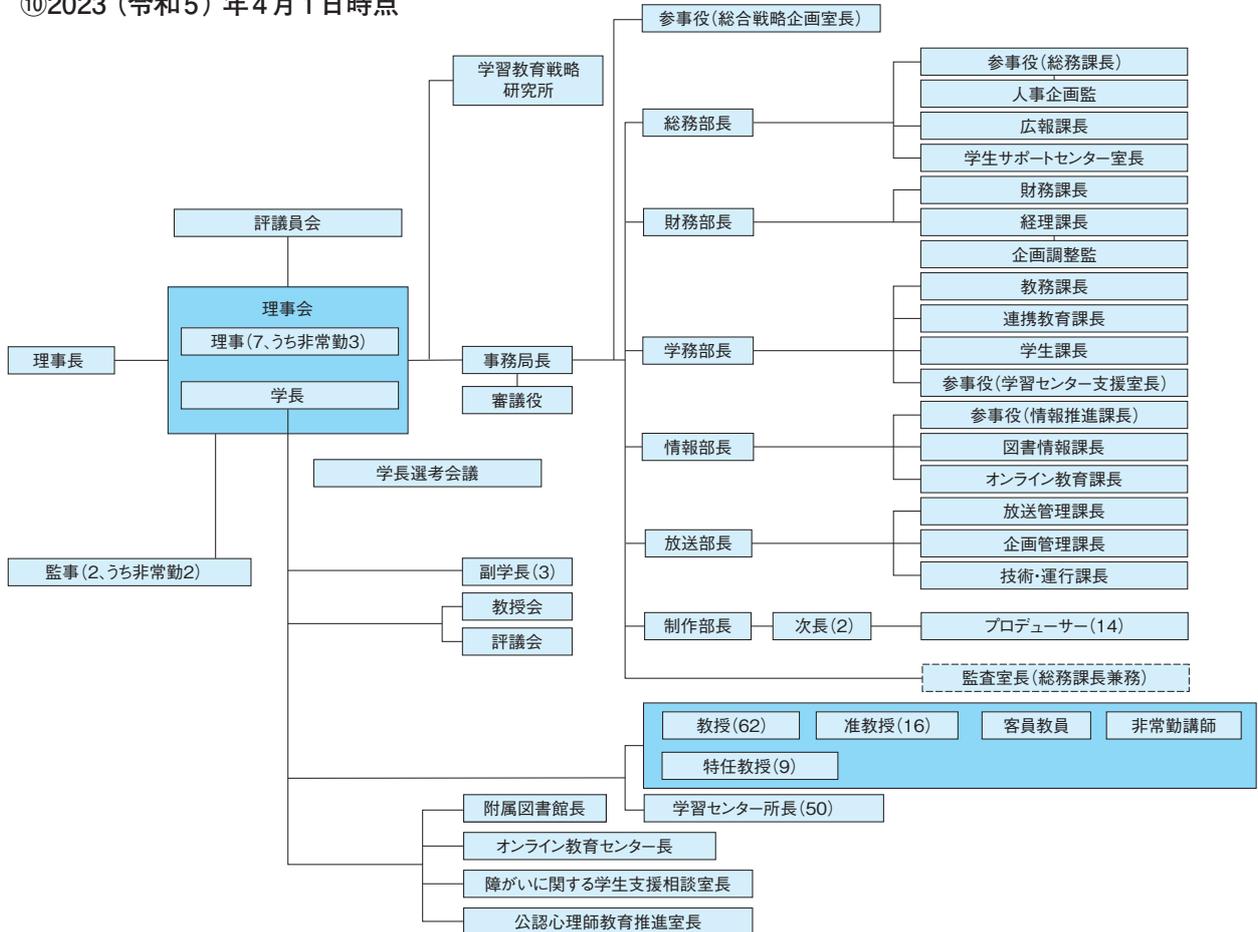
⑧2021 (令和3) 年4月1日時点



⑨2022 (令和4) 年4月1日時点



⑩2023 (令和5) 年4月1日時点



【2】役員・教職員数の推移

※特殊法人以前は定員数、特別な学校法人以後は現員数。(定員、単位：人)

(現員、単位：人)

年	区分	役員	教員 (学長含む)	事務職員	合計
1981 (昭和56)		5	1	8	14
1982 (57)		5	3	14	22
1983 (58)		5	15	47	67
1984 (59)		5	40	104	149
1985 (60)		5	58	162	225
1986 (61)		5	72	192	269
1987 (62)		5	78	200	283
1988 (63)		5	78	204	287
1989 (平成元)		5	78	208	291
1990 (2)		5	78	213	296
1991 (3)		5	78	218	301
1992 (4)		5	78	222	305
1993 (5)		5	78	228	311
1994 (6)		5	78	233	316
1995 (7)		5	78	239	322
1996 (8)		5	78	244	327
1997 (9)		5	78	249	332
1998 (10)		5	82	251	338
1999 (11)		5	85	252	342
2000 (12)		5	90	250	345
2001 (13)		5	91	251	347
2002 (14)		5	91	252	348
2003 (15)		5	91	252	348

年度	区分	役員	教員 (特任教授)	事務職員	合計
2004 (16)		6	80 (0)	246	332
2005 (17)		6	79 (8)	243	328 (8)
2006 (18)		6	89 (10)	242	337 (10)
2007 (19)		6	89 (12)	241	336 (12)
2008 (20)		5	89 (13)	234	328 (13)
2009 (21)		6	94 (50)	265	365 (50)
2010 (22)		7	89 (49)	254	350 (49)
2011 (23)		7	89 (50)	247	343 (50)
2012 (24)		7	89 (49)	245	341 (49)
2013 (25)		7	92 (50)	243	342 (50)
2014 (26)		7	89 (50)	243	339 (50)
2015 (27)		7	86 (50)	247	340 (50)
2016 (28)		7	86 (51)	246	339 (51)
2017 (29)		7	82 (51)	245	334 (51)
2018 (30)		7	86 (52)	245	338 (52)
2019 (令和元)		6	84 (56)	241	331 (56)
2020 (2)		6	83 (59)	247	336 (59)
2021 (3)		6	76 (62)	251	333 (62)
2022 (4)		5	79 (60)	248	332 (60)
2023 (5)		6	80 (59)	254	340 (59)

※役員欄の数字は、学長又は副学長たる理事を含む常勤のみ。
※教員は、常勤のみ。(特任教授は括弧書きで外数)

【3】予算額の推移

(単位：百万円)

区分	年度	1981 昭和56	1982 57	1983 58	1984 59	1985 60	1986 61	1987 62	1988 63	1989 平成元	1990 2	1991 3	1992 4	1993 5	1994 6	1995 7	1996 8	1997 9	1998 10
収入		233	348	1,569	4,321	6,335	7,669	7,778	8,045	8,886	8,709	9,584	10,150	10,793	11,318	11,948	12,793	13,641	14,590
自己収入		1	6	7	94	877	1,640	1,716	1,944	2,000	2,109	2,366	2,219	2,280	2,426	2,652	2,783	3,109	3,465
うち事業収入		0	0	0	84	749	1,467	1,588	1,815	1,867	2,013	2,216	2,071	2,130	2,259	2,496	2,630	2,948	3,323
負担金収入		0	0	0	0	0	0	0	0	371	15	15	15	15	15	15	0	0	0
放送大学学園補助および出資		232	342	1,562	4,227	5,458	6,028	6,062	6,101	6,516	6,584	7,203	7,916	8,497	8,877	9,280	10,010	10,531	11,125
うち出資		0	0	0	0	313	432	484	602	840	566	572	556	557	729	729	729	729	380
うち補助		232	342	1,562	4,227	5,145	5,596	5,579	5,499	5,676	6,018	6,631	7,359	7,940	8,148	8,552	9,281	9,803	10,745
支出		233	348	1,569	4,321	6,335	7,669	7,778	8,045	8,886	8,709	9,584	10,150	10,793	11,318	11,948	12,793	13,641	14,590
人件費		96	180	475	969	1,460	1,833	2,003	2,089	2,185	2,329	2,548	2,735	2,869	2,976	3,070	3,163	3,250	3,390
物件費		138	168	1,095	3,352	4,562	5,404	5,291	5,355	5,491	5,799	6,449	6,843	7,352	7,599	8,134	8,902	9,662	10,820
花見川固定局に係る経費		0	0	0	0	0	0	0	0	371	15	15	15	15	15	15	0	0	0
施設費		0	0	0	0	313	432	484	602	840	566	572	556	557	729	729	729	729	380
放送大学学園出資金		100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放送大学学園施設整備費(文部本省施設費)		20	313	1,824	4,747	206	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区分	年度	1999 平成11	2000 12	2001 13	2002 14	2003 15	旧法人	新法人	2004 16	2005 17	2006 18	2007 19	2008 20	2009 21	2010 22
収入		15,032	16,874	17,896	17,956	17,006	9,816	7,190	17,021	17,803	17,069	14,809	14,574	15,935	15,036
自己収入		3,707	4,759	6,316	7,874	7,445	3,990	3,455	7,226	6,543	6,484	6,685	6,278	6,175	5,744
うち事業収入		3,613	4,644	6,189	7,738	7,294	3,958	3,336	7,089	6,418	6,349	6,527	6,146	5,994	5,603
特別修繕準備金受入		—	—	—	—	—	—	0	0	0	235	434	366	187	—
受託収入		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	83	60
放送大学学園補助および出資		11,325	12,115	11,580	10,082	9,561	5,825	3,736	9,796	11,260	10,585	7,889	7,862	9,311	9,045
うち出資		208	922	583	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
うち運営費補助		11,117	11,192	10,997	10,082	9,561	5,825	3,736	8,793	8,297	7,965	7,889	7,862	8,911	8,647
うち施設整備費補助		0	0	0	0	0	0	0	1,002	2,963	2,620	0	0	400	398
支出		15,032	16,874	17,896	17,956	17,006	9,816	7,190	17,021	17,803	17,069	14,809	14,574	15,935	15,036
人件費		3,473	3,504	3,552	3,581	3,556	1,778	1,778	3,509	3,493	3,438	3,346	3,292	3,934	3,672
物件費		11,352	12,447	13,760	13,937	13,039	7,627	5,412	12,510	11,346	11,012	11,228	10,849	11,151	10,719
施設費		208	922	583	438	411	411	0	1,002	2,963	2,620	235	434	766	585
受託研究等事業費		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	83	60

区分	年度	2011 23	2012 24	2013 25	2014 26	2015 27	2016 28	2017 29	2018 30	2019 令和元	2020 2	2021 3	2022 4	2023 5
収入		15,313	14,452	14,101	14,207	13,880	14,400	14,435	14,726	14,346	14,084	14,411	13,960	13,235
自己収入		6,409	6,319	6,501	6,637	6,355	6,464	6,557	6,558	6,544	6,569	6,866	6,205	5,625
うち事業収入		6,147	6,095	6,271	6,406	6,144	6,271	6,332	6,333	6,334	6,335	6,663	5,975	5,447
特別修繕準備金受入		50	0	130	122	221	240	144	375	77	113	143	350	203
受託収入		38	35	31	28	11	9	9	8	9	16	16	15	15
放送大学学園補助および出資		8,815	8,098	7,440	7,420	7,294	7,687	7,725	7,784	7,716	7,386	7,386	7,389	7,392
うち出資		—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち運営費補助		8,420	8,098	7,440	7,420	7,294	7,390	7,425	7,643	7,631	7,386	7,386	7,389	7,392
うち施設整備費補助		395	0	0	0	0	296	300	142	85	0	0	0	0
支出		15,313	14,452	14,101	14,207	13,880	14,400	14,435	14,726	14,346	14,084	14,411	13,960	13,235
人件費		3,550	3,497	3,315	3,344	3,330	3,464	3,485	3,527	3,608	3,603	3,588	3,413	3,457
物件費		11,280	10,920	10,625	10,713	10,318	10,390	10,497	10,675	10,567	10,352	10,665	10,182	9,560
施設費		445	0	130	122	221	537	443	516	161	113	143	350	203
受託研究等事業費		38	35	31	28	11	9	9	8	9	16	16	15	15

※単位未満四捨五入のため、合計に符合しないことがある。

【4】施設概要 (2023 (令和5) 年4月現在)

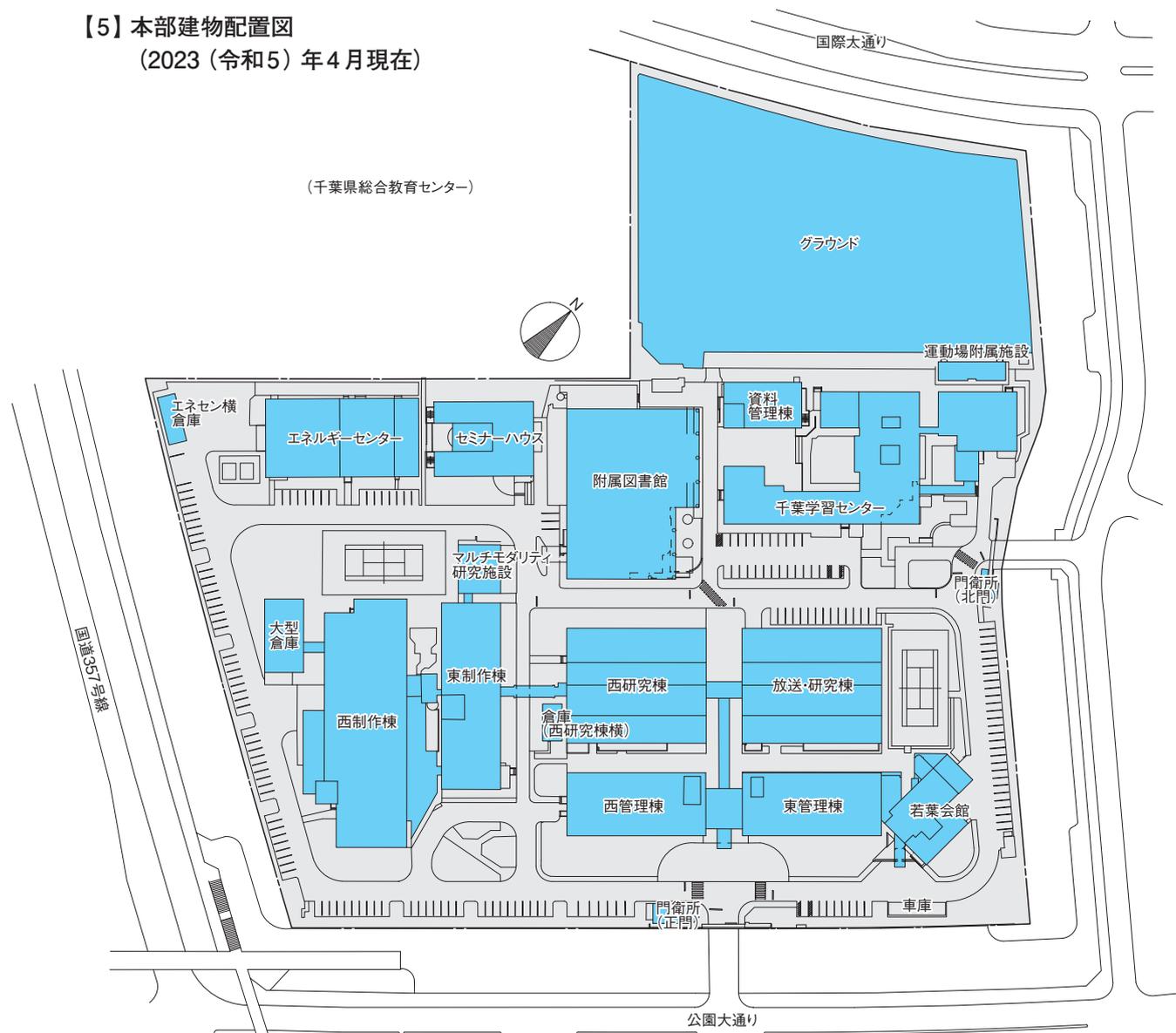
単位：㎡

区分	名称	土地			建物		
		所有	借用	計	所有	借用	計
本部	東管理棟	52,371.57		52,371.57	2,322.49		2,322.49
	西管理棟				2,176.00		2,176.00
	放送・研究棟				10,144.32		10,144.32
	資料管理棟				1,375.53		1,375.53
	制作棟				7,574.00		7,574.00
	西研究棟				8,685.00		8,685.00
	マルチモダリティ研究施設				353.00		353.00
	附属図書館				5,724.67		5,724.67
	セミナーハウス				1,570.47		1,570.47
	若葉会館				1,871.42		1,871.42
	エネルギーセンター				1,602.00		1,602.00
	門衛所(千葉SC側)				32.89		32.89
	門衛所(正門)				81.00		81.00
	運動場附属施設				114.80		114.80
	車庫				66.00		66.00
	車庫(SCS車載局)				99.00		99.00
	倉庫				290.00		290.00
学習センター等	千葉学習センター				3,431.70		3,431.70
	北海道学習センター		1,126.17	1,126.17	2,234.80		2,234.80
	旭川サテライトスペース			0.00		179.82	179.82
	青森学習センター		6.36	6.36		361.36	361.36
	八戸サテライトスペース			0.00		104.00	104.00
	岩手学習センター		860.39	860.39	1,719.91		1,719.91
	宮城学習センター		3.02	3.02		1,260.64	1,260.64
	秋田学習センター		525.35	525.35	1,046.92		1,046.92
	山形学習センター			0.00		320.40	320.40
	福島学習センター			0.00		546.05	546.05
	いわきサテライトスペース			0.00		105.17	105.17
	茨城学習センター		749.51	749.51	1,248.79		1,248.79
	栃木学習センター		967.93	967.93	1,506.57		1,506.57
	群馬学習センター		3,355.28	3,355.28	2,516.87		2,516.87
	埼玉学習センター		562.96	562.96	2,821.50		2,821.50
	東京渋谷学習センター			0.00		542.09	542.09
	東京文京学習センター		3,425.26	3,425.26	5,941.00		5,941.00
	東京足立学習センター			0.00		547.86	547.86
	東京多摩学習センター		1,127.50	1,127.50	2,127.05		2,127.05
	神奈川学習センター		3,673.26	3,673.26	3,209.49		3,209.49
	新潟学習センター		703.83	703.83	1,406.16		1,406.16
	富山学習センター			0.00		371.65	371.65
	石川学習センター			0.00		749.59	749.59
	福井学習センター			0.00		410.15	410.15
	山梨学習センター		650.91	650.91	1,365.93		1,365.93
	長野学習センター			0.00		411.89	411.89
	岐阜学習センター			0.00		499.00	499.00
	静岡学習センター		6.64	6.64		232.88	232.88
	浜松サテライトスペース			0.00		168.96	168.96
	愛知学習センター			0.00		715.78	715.78
	三重学習センター			0.00		318.80	318.80
	滋賀学習センター			0.00		495.30	495.30
	京都学習センター			0.00		759.10	759.10
	大阪学習センター		1,042.96	1,042.96	3,118.66		3,118.66
兵庫学習センター		900.95	900.95	1,838.28		1,838.28	
姫路サテライトスペース			0.00		204.85	204.85	
奈良学習センター			0.00		415.76	415.76	
和歌山学習センター			0.00		326.00	326.00	
鳥取学習センター			0.00		401.31	401.31	
島根学習センター			0.00		443.45	443.45	
岡山学習センター		729.84	729.84	1,452.47	0.68	1,453.15	
広島学習センター		1,282.13	1,282.13	2,413.40		2,413.40	
福山サテライトスペース			0.00		134.42	134.42	
山口学習センター			0.00		600.00	600.00	
徳島学習センター			0.00		434.00	434.00	

単位：㎡

区分	名称	土地			建物		
		所有	借用	計	所有	借用	計
学習センター等	香川学習センター		851.80	851.80	1,666.17		1,666.17
	愛媛学習センター		784.03	784.03	1,561.10	34.72	1,595.82
	高知学習センター		40.32	40.32		980.45	980.45
	福岡学習センター		38.78	38.78		1,319.56	1,319.56
	北九州サテライトスペース			0.00		168.80	168.80
	佐賀学習センター			0.00		189.52	189.52
	長崎学習センター		298.35	298.35	1,093.52		1,093.52
	熊本学習センター		723.95	723.95	1,112.58		1,112.58
	大分学習センター			0.00		614.28	614.28
	宮崎学習センター			0.00		413.00	413.00
	鹿児島学習センター		0.17	0.17		528.67	528.67
放送局施設等	沖縄学習センター		809.88	809.88	1,592.44		1,592.44
	東京テレビジョン・超短波放送局送信所			0.00			0.00
	前橋デジタルテレビジョン放送局			0.00			0.00
	前橋超短波放送局			0.00			0.00
	桐生固定局			0.00			0.00
	菖蒲・久喜中継局			0.00			0.00
	花見川固定(中継)局			0.00			0.00
合計		52,371.57	25,247.53	77,619.10	90,507.90	16,353.28	106,861.18

【5】本部建物配置図
(2023(令和5)年4月現在)



【6】学習センター等施設整備状況

2023(令和5)年4月1日現在

	センター等名	入居施設等	住所	実行面積 (㎡)	設置年度	備考
1	北海道	北海道大学札幌キャンパス 情報教育館5・6階	札幌市北区北17条西8丁目	1929	1990	2000年4月合築
2	青森	弘前大学コラボ弘大7階	弘前市文京町3番地	362	1993	1999年12月移転、 2009年10月移転
3	岩手	岩手大学図書館3・4階	盛岡市上田3丁目18番8号	1375	1993	2000年10月合築
4	宮城☆	東北大学片平キャンパス内	仙台市青葉区片平2丁目1番1号	1007	1991	1998年10月拡充、 2004年4月拡充、 2018年9月仮移転、 2020年10月移転
5	秋田	秋田大学手形キャンパス 地方創生センター2号館4階	秋田市手形学園町1番1号	822	1996	2001年4月合築
6	山形	霞城セントラル10階	山形市城南町1丁目1番1号	489	1995	2000年12月移転
7	福島	郡山女子大学もみじ館内	郡山市桑野1丁目22番21号	418	1997	2002年4月拡充
8	茨城	茨城大学水戸キャンパス 環境リサーチラボラトリー2・3階	水戸市文京2丁目1番1号	985	1997	2005年4月合築
9	栃木	宇都宮大学峰キャンパス 附属図書館1・2階	宇都宮市峰町350番地	1141	1995	2002年4月合築
10	群馬☆	群馬県立図書館北	前橋市若宮町1丁目13番2	2160	1985	
11	埼玉	JACK大宮ビル8・9・10階	さいたま市大宮区錦町682番地2	2721	1985	
12	千葉	放送大学本部敷地内	千葉市美浜区若葉2丁目11番地	2793	1985	
13	東京渋谷	五島育英ビル1階	渋谷区道玄坂1丁目10番7号	544	2011	
14	東京文京☆	筑波大学東京キャンパス内	文京区大塚3丁目29番1号	4743	1985	2010年3月仮移転、 2011年9月合築
15	東京足立	学びピア21 6階	足立区千住5丁目13番5号	1094	1993	2000年10月移転
16	東京多摩	一橋大学小平国際キャンパス 国際共同研究センター棟3・4階	小平市学園西町1丁目29番1号	1813	2001	2002年4月合築
17	神奈川	放送大学学園所有建物	横浜市南区大岡2丁目31番1号	2961	1985	2000年5月拡充 (増築)
18	新潟	新潟大学旭町キャンパス医歯学図書館4～6階	新潟市中央区旭町通1番町754番地	1076	1994	2000年5月合築
19	富山	富山県立大学 情報基盤センター3階	射水市黒河5180番地	517	1992	
20	石川	金沢工業大学扇が丘キャンパス9号館	野々市市扇が丘7番1号	1259	1991	1998年10月拡充、 2008年8月移転
21	福井	AOSSA 7階	福井市手寄1丁目4番1号	410	1997	2002年4月拡充、 2007年4月移転
22	山梨	山梨大学甲府キャンパス 総合研究棟Y号館隣接建物内	甲府市武田4丁目4番37号	1171	1988	2004年4月合築
23	長野	アーク諏訪3階	諏訪市諏訪1丁目6番1号	412	1987	2014年10月移転、 2019年4月移転
24	岐阜	OKBふれあい会館第2棟2階	岐阜市藪田南5丁目14番53号	499	1991	
25	静岡	静岡県立三島長陵高等学校2階	三島市文教町1丁目3番93号	598	1992	2002年4月拡充、 2008年4月移転
26	愛知☆	BiZrium名古屋5階	名古屋市西区則武新町三丁目1番17号	716	1992	1998年10月拡充、 2022年10月移転
27	三重	三重県総合文化センター 生涯学習棟4階	津市一身田上津部田1234番地	320	1994	2002年4月拡充
28	滋賀	龍谷大学瀬田キャンパス4号館1階	大津市瀬田大江町横谷1番5号	1374	1996	
29	京都	キャンパスプラザ京都3階	京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939番地	1099	1993	2000年9月移転
30	大阪☆	大阪教育大学天王寺キャンパス中央館内 6・7階	大阪市天王寺区南河堀町4丁目88番	2588	1991	2001年1月合築
31	兵庫	神戸大学六甲台第1キャンパスアカデミア館 6・7階	神戸市灘区六甲台町2番1号	1462	1993	2003年2月合築
32	奈良	奈良女子大学コラボレーションセンター3階	奈良市北魚屋東町	779	1996	2006年4月移転
33	和歌山	和歌山大学松下会館内	和歌山市西高松1丁目番7番20号	680	1998	
34	鳥取	鳥取市役所駅前庁舎5階	鳥取市富安2丁目138番地4	518	1997	2006年4月移転
35	島根	スティックビル4階	松江市白湯本町43番地	496	1996	2001年4月拡充
36	岡山	岡山大学津島キャンパス 文化科学系総合研究棟5・6階	岡山市北区津島中3丁目1番1号	1238	1995	2001年10月合築
37	広島☆	広島大学東千田キャンパス 東千田総合校舎3・4階	広島市中区東千田町1丁目1番89号	2242	1990	2000年7月合築
38	山口	山口大学吉田キャンパス大会館内	山口市吉田1677番地1	591	1997	2011年4月移転
39	徳島	徳島大学新蔵キャンパス日亜会館3階	徳島市新蔵町2丁目24番地	434	1998	2001年10月移転、 2006年4月移転
40	香川	香川大学幸町北キャンパス 研究交流棟7・8階	高松市幸町1番1号	1243	1991	2000年11月合築
41	愛媛	愛媛大学城北キャンパス 総合情報メディアセンター棟3・4階	松山市文京町3番	1256	1995	2003年9月合築
42	高知	高知大学朝倉キャンパスメディアの森内	高知市曙町2丁目5番1号	1038	1994	2000年10月移転
43	福岡☆	九州大学筑紫キャンパスE棟4・5階	春日市春日公園6丁目1番地	1197	1990	1998年12月移転、 2014年4月移転
44	佐賀	アバンセ4階	佐賀市天神3丁目2番11号	190	1998	2007年4月拡充、 2011年4月拡充、 2018年3月拡充、 2019年4月拡充
45	長崎	長崎大学文教キャンパス内	長崎市文教町1番14号	911	1992	2004年4月移転、 2007年4月合築
46	熊本	熊本大学附属図書館南棟2・3階	熊本中央区黒髪2丁目40番1号	1104	1991	2006年4月合築
47	大分	別府大学39号館2階	別府市北石垣82	551	1994	2018年4月移転
48	宮崎	日向市役所北隣	日向市本町11番11号	472	1996	
49	鹿児島	かごしま県民交流センター西棟4階	鹿児島市山下町14番50号	695	1998	2003年4月移転
50	沖縄	琉球大学地域国際学習センター棟4・5階	中頭郡西原町字千原1番地	1291	1990	2000年1月合築
51	旭川	旭川市常磐館内	旭川市常磐公園	180	1999	2005年10月移転
52	八戸	ユートリー4階	八戸市一番町1-9-22	104	2002	
53	いわき	いわき市社会福祉センター4階	いわき市平字菱川町1番地3	106	2004	2023年2月移転
54	浜松	クリエート浜松2・4階	浜松市中央区早馬町2番地1	688	2000	2014年3月拡充
55	姫路	イーグレひめじ地下2階	姫路市本町68番地290	242	2002	
56	福山	まなびの館ローズコム3階	福山市霞町1丁目10番地1号	134	2001	2008年7月移転
57	北九州	コムシティ3階	北九州市八幡西区黒崎3丁目15番3号	169	1999	2014年9月移転

☆拠点学習センター

4 放送大学学園関係

【1】放送大学学園法

①放送大学学園設立時

昭和五十六年六月十一日
法律第八十号

放送大学学園法

目次

- 第一章 総則（第一条—第七条）
- 第二章 役員及び職員（第八条—第十七条）
- 第三章 運営審議会（第十八条・第十九条）
- 第四章 業務（第二十条）
- 第五章 放送大学の組織等（第二十一条—第二十四条）
- 第六章 財務及び会計（第二十五条—第三十五条）
- 第七章 監督等（第三十六条—第三十九条）
- 第八章 雑則（第四十条—第四十三条）
- 第九章 罰則（第四十四条—第四十六条）

附則

第一章 総則

（目的）

第一条 放送大学学園は、放送等により教育を行う大学を設置し、当該大学における教育に必要な放送を行うこと等により、大学教育の機会に対する広範な国民の要請にこたえとともに、大学教育のための放送の普及発達を図ることを目的とする。

（法人格）

第二条 放送大学学園（以下「学園」という。）は、法人とする。

（事務所）

第三条 学園は、事務所を千葉県に置く。

（資本金）

第四条 学園の資本金は、一億円とし、政府がその全額を出費する。

2 政府は、必要があると認めるときは、学園に追加して出費することができる。

3 学園は、前項の規定による政府の出資があつたときは、その出費額により資本金を増加するものとする。

4 政府は、第二項の規定により学園に出資するときは、金銭以外の財産を出資の目的とすることができる。

5 政府が出資の目的とする金銭以外の財産の価格は、出資の日現在における時価を基準として評価委員が評価した価格とする。

6 評価委員はその他前項に規定する評価に関し必要な事項は、政令で定める。

（登記）

第五条 学園は、政令で定めるところにより、登記しなければならない。

2 前項の規定により登記しなければならない事項は、登記の後でなければ、これをもつて第三者に対抗することができない。

（名称の使用制限）

第六条 学園でない者は、放送大学学園という名称を用いてはならない。

（民法の準用）

第七条 民法（明治二十九年法律第八十九号）第四十四条及び第五十条の規定は、学園について準用する。

第二章 役員及び職員

（役員）

第八条 学園に、役員として、理事長一人、理事四人以内及び監事二人以内を置く。

2 学園に、役員として、前項の理事のほか、非常勤の理事三人以内を置くことができる。

(役員の職務及び権限)

第九条 理事長は、学園を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事（非常勤の理事を除く。）は、理事長の定めるところにより、理事長を補佐して学園の業務を掌理し、理事長に事故があるときはその職務を代理し、理事長が欠員のときはその職務を行う。
- 3 非常勤の理事は、理事長の定めるところにより、理事長を補佐して学園の業務を掌理する。
- 4 監事は、学園の業務を監視する。
- 5 監事は、監査の結果に基づき、必要があると認めるときは、理事長又は主務大臣に意見を提出することができる。

(役員の内命等)

第十条 理事長及び監事は、文部大臣が任命する。

- 2 理事は、理事長が文部大臣の認可を受けて任命する。
- 3 学園が設置する大学の学長は、前項の規定にかかわらず、理事となる。ただし、学長が理事長である場合は、この限りでない。
- 4 学長が理事長である間は、第八条第一項の理事の定数は、同項の規定にかかわらず、三人以内とする。

(役員の内命)

第十一条 役員の内命は、二年とする。ただし、補欠の役員の内命は、前任者の残任期間とする。

- 2 役員は、再任されることができる。

(役員の内格条項)

第十二条 次のいずれかに該当する者は、役員となることができない。

- 一 政府又は地方公共団体の職員（教育公務員で政令で定めるもの及び非常勤の者を除く。）
- 二 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）

第九条各号に掲げる者

- 三 放送法（昭和二五年法律第百三十二号）第十六条第四項第二号又は第五号から第七号まで掲げる者

(役員の内命)

第十三条 文部大臣又は理事長は、それぞれの任命に係る役員が前条の規定により役員となることができない者に該当するに至つときは、その役員を解任しなければならない。

- 2 文部大臣又は理事長は、それぞれの任命に係る役員が次のいずれかに該当するとき、その他役員たるに適しないと認めるときは、その役員を解任することができる。
 - 一 心身の故障のための職務の執行に堪えないと認められるとき。
 - 二 職務上の義務違反があるとき。
- 3 理事長は、前項の規定により理事を解任しようとするときは、あらかじめ、文部大臣の認可を受けなければならない。

(役員の内命禁止)

第十四条 役員（非常勤の者を除く。）は、営利を目的とする団体の役員となり、又は自ら営利事業に従事してはならない。ただし、文部大臣の承認を受けたときは、この限りでない。

(代表権の内命)

第十五条 学園と理事との利益が相反する事項については、理事長は、代表権を有しない。この場合には、監事が学園を代表する。

(職員の内命)

第十六条 学園の職員は、この法律に特別の定めがある者を除くほか、理事長が任命する。

(役員及び職員の内命たる性質)

第十七条 学園の役員及び職員は、刑法（明治四十年法律第四十五号）その他の罰則の適用については、法令により公務に従事する職員とみなす。

第三章 運営審議会

(運営審議会)

第十八条 学園に、運営審議会を置く。

- 2 運営審議会は、二十人以内の委員で組織する。
- 3 運営審議会は、理事長の諮問に応じ、学園の業務の運営に関する重要事項について審議する。
- 4 運営審議会は、学園の業務の運営につき、理事長に対して意見を述べるることができる。

(委員)

第十九条 委員は、学園の業務の適正な運営に必要な学識経験を有する者のうちから、文部大臣が任命する。

- 2 第十一条及び第十三条第二項の規定は、委員について準用する。

第四章 業務

(業務)

第二十条 学園は、第一条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 一 放送等により教育を行う大学を設置すること。
 - 二 全号の大学における教育に必要な放送を行うこと。
 - 三 前二号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。
- 2 学園は、前項各号に掲げる業務を行うほか、同項第一号の大学における教育及び研究に支障のない限り、その施設、設備（放送のための無線設備（電波法（昭和二十五年法律第百三十一号）第二条第四号に規定する無線設備をいう。）を除く。）及び教材を当該大学以外の大学における通信による教育その他の教育又は研究のための利用に供することができる。
- 3 学園は、主務大臣の認可を受けて、前二項に規定する業務のほか、第一条の目的を達成するため必要な業務を行うことができる。

第五章 放送大学の組織等

(学長、副学長及び教員の任免等)

第二十一条 学園が設置する大学（以下「放送大学」という。）に、学校教育法第五十八条に規定する学長、副学長、教授その他の職員を置く。

- 2 学長は、理事長の申出に基づいて、文部大臣が任命する。
- 3 副学長の定数は、二人以内とする。
- 4 副学長は、学長の申出に基づいて、理事長が任命する。
- 5 教員（教授、助教授、講師及び助手をいう。以下同じ。）は、学長の申出に基づいて、理事長が任命する。
- 6 第二項及び前項の申出は、評議会の議に基づいて行われなければならない。
- 7 第二項及び前項の規定は学長の免職について、第四項の規定は副学長の免職について、前二項の規定は教員の免職及び降任について準用する。

(人事の基準)

第二十二条 前条に定めるもののほか、学長、副学長及び教員の任免の基準、任期、停年その他人事の基準に関する事項は、評議会の議に基づいて、学長が定める。

(評議会)

第二十三条 放送大学に、評議会を置く

- 2 評議会は、次に掲げる評議員で組織する。
 - 一 学長及び副学長
 - 二 評議会が定めるところにより選出される教授 六人以上十二人以内
- 3 前項第二号の評議員は、学長の申出に基づいて理事長が、任命する。
- 4 評議会は、学長の諮問に応じ、放送大学の運営に関する重要事項について審議し、及びこの法律の規定によりその権限に属させられた事項を行う。

(他大学の教員等の参加)

第二十四条 放送大学においては、その教育及び研究の充実を図るため、他大学その他の教育研究機関と緊密に連携し、これらの機関の教員その他の職員の参加を求めよう努めなければならない。

第六章 財務及び会計

(事業年度)

第二十五条 学園の事業年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

(事業計画等の認可)

第二十六条 学園は、毎事業年度、事業計画、予算及び資金計画を作成し、当該事業年度の開始前に、主務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

(決算)

第二十七条 学園は、毎事業年度の決算を翌年度の五月三十一日までに完結しなければならない。

(財務諸表)

第二十八条 学園は、毎事業年度、財産目録、貸借対照表及び損益計算書（以下この条において「財務諸表」という。）を作成し、これに予算の区分に従い作成した当該事業年度の決算報告書を添え、監事の意見を付けて、決算完結後二月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 理事長は、財務諸表及び決算報告書に監事の意見を付けて、決算完結後一月以内に、これを運営審議会に提出しなければならない。
- 3 学園は、第一項の規定により主務大臣の承認を受けた財務諸表を事務所に備えて置かなければならない。

(利益及び損失の処理)

- 第二十九条 学園は、毎事業年度、損益計算において利益を生じたときは、前事業年度から繰り越した損失をうめ、なお残余があるときは、その残余の額は、積立金として整理しなければならない。
- 2 学園は、毎事業年度、損益計算において損失を生じたときは、前項の規定による積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理しなければならない。

(借入金)

- 第三十条 学園は、主務大臣の認可を受けて、長期借入金又は短期借入金をすることができる。
- 2 前項の規定による短期借入金は、当該事業年度内に償還しなければならない。ただし、資金の不足のため償還することができないときは、その償還することができない金額に限り、主務大臣の認可を受けて、これを借り換えることができる。
- 3 前項ただし書の規定により借り換えた短期借入金は、一年以内に償還しなければならない。

(償還計画)

- 第三十一条 学園は、毎事業年度、長期借入金の償還計画を立てて、主務大臣の認可を受けなければならない。

(余裕金の運用)

- 第三十二条 学園は、次の方法による場合を除くほか、業務上の余裕金を運用してはならない。

- 一 国債その他文部大臣の指定する有価証券の取得
- 二 銀行への預金又は郵便貯金
- 三 信託業務を営む銀行又は信託会社への金銭信託

(財産の処分等の制限)

- 第三十三条 学園は、主務省令で定める重要な財産を譲り受け、譲渡し、交換し、又は担保に供しようとするときは、主務大臣の認可を受けなければならない。

(給与及び退職手当の支給の基準)

- 第三十四条 学園は、その役員及び職員に対する給与及び退職手当の支給の基準を定めようとするときは、文部大臣の承認を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

(主務省令への委任)

- 第三十五条 この法律に規定するもののほか、学園の財務及び会計に関し必要な事項は、主務省令で定める。

第七章 監督等

(監督命令)

- 第三十六条 主務大臣は、この法律を施行するため必要があると認めるときは、学園に対して、その財務又は会計に関し監督上必要な命令をすることができる。

(報告書の提出)

- 第三十七条 文部大臣は、放送大学に対して、教育の調査、統計その他に関し必要な報告書の提出を求めることができる。

(報告及び検査)

- 第三十八条 主務大臣は、この法律を施行するため必要があると認めるときは、学園に対して、その財務若しくは会計に関し必要な報告をさせ、又はその職員に学園の事務所に立ち入り、財務若しくは会計の状況若しくは財務若しくは会計に関する帳簿、書類その他必要な物件を検査させることができる。

- 2 前項の規定により職員が立入検査をする場合には、その身分を示す証明書を携帯し、関係人にこれを提示しなければならない。

- 3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(補助金)

- 第三十九条 政府は、予算の範囲内において、学園に対し、第二十条に規定する業務に要する経費の一部を補助することができる。

第八章 雑則

(放送大学についての教育基本法の適用)

- 第四十条 放送大学は、教育基本法（昭和二十二年法律第二十五号）第九条第二項の適用については、国が設置する学校とみなす。

(解散)

- 第四十一条 学園の解散については、別に法律で定める。

(主務大臣及び主務省令)

- 第四十二条 この法律において主務大臣は、文部大臣及び郵政大臣とする。

- 2 この法律において主務省令は、主務大臣の発する命令とする。

(大蔵大臣との協議)

第四十三条 文部大臣は、次の場合には、あらかじめ、大蔵大臣に協議しなければならない。

一 第三十二条第一号の規定による指定をしようとするとき。

二 第三十四条の規定による承認をしようとするとき。

2 主務大臣は、次の場合には、あらかじめ、大蔵大臣に協議しなければならない。

一 第二十条第三項、第二十六条、第三十条第一項若しくは第二項ただし書、第三十一条又は第三十三条の規定による認可をしようとするとき。

二 第二十八条第一項の規定による承認をしようとするとき。

三 第三十三条又は第三十五条の規定により主務省令を定めようとするとき。

第九章 罰則

(罰則)

第四十四条 第三十八条第一項の規定による報告を求められて、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避した場合には、その違反行為をした学園の役員又は職員は、十万円以下の罰金に処する。

第四十五条 次の各号の一に該当する場合には、その違反行為をした学園の役員は、十万円以下の過料に処する。

一 この法律により文部大臣又は主務大臣の認可又は承認を受けなければならない場合において、その認可又は承認を受けなかつたとき。

二 第五条第一項の政令の規定に違反して登記することを怠つたとき。

三 第二十条に規定する業務以外の業務を行つたとき。

四 第三十二条の規定に違反して業務上の余裕金を運営したとき。

五 第三十六条の規定による主務大臣の命令に違反したとき。

第四十六条 第六条の規定に違反した者は、五万円以下の過料に処する。

附 則

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

(学園の設立)

第二条 文部大臣は、学園の理事長又は監事となるべき者を指名する。

2 前項の規定により指名された理事長又は監事となるべき者は、学園の成立の時にあって、この法律の規定により、それぞれ理事長又は監事に任命されたものとする。

第三条 文部大臣は、教育委員を命じて、学園の設立に関する事務を処理させる。

2 設立委員は、学園の設立の準備を完了したときは、遅滞なく、政府に対し、出資金の払込みを請求しなければならない。

3 設立委員は、出資金の払込みがあつた日において、その事務を前条第一項の規定により指名された理事長となるべき者に引き継がなければならない。

第四条 附則第二条第一項の規定により指名された理事長となるべき者は、前条第三項の規定による事務の引継ぎを受けたときは、遅滞なく、政令で定めるところにより、設立の登記をしなければならない。

第五条 学園は、設立の登記をすることによつて成立する。

(経過措置)

第六条 この法律の施行の際現に放送大学学園という名称を使用している者については、第六条の規定は、この法律の施行後六月間は、適用しない。

第七条 学園の最初の事業年度は、第二十五条の規定にかかわらず、その成立の日に始まり、昭和五十七年三月三十一日に終わるものとする。

第八条 学園の最初の事業年度の事業計画、予算及び資金計画については、第二十六条中「当該事業年度の開始前に」とあるのは、「学園の成立後遅滞なく」とする。

第九条 放送大学の設置後最初の学長の任命及び放送大学の設立後六月間における教授の任命については、第二十一条第六項の規定は、適用しない。

2 放送大学の設置後六月間は、第二十三条第二項及び第三項の規定にかかわらず、評議会は、学長、副学長及び教授全員で組織する。放送大学の設置後六月を経過した場合において、教授の数が六人に満たないときも、同様とする。

(学校教育法の一部改正)

第十条 学校教育法の一部を次のように改正する。

第二条に次の一項を加える。

第一項の規定にかかわらず、放送大学学園は、大学を設置することができる。

第五十四条の二に次の一項を加える。

大学には、通信による教育を行う学部を置くことができる。

第六十四条中「又は私立の」を「若しくは私立の大学又は放送大学学園の設置する」に改める。

第六十九条の二第四項中「及び第五十四条」を「、第五十四条及び第五十四条の二第二項」に改め、同条第六中「行なう学科」を「行う学科又は通信による教育を行う学科」に改める。

第七十六条中「第五十四条の二」を「第五十四条の二第一項」に改める。

(放送法の一部改正)

第十一条 放送法の一部を次のように改正する。目次中「第二章 日本放送協会（第七条―第五十条）」を「第二章 日本放送協会（第七条―第五十条）第二章の二 放送大学学園（第五十条の二）」に改める。

第九条第二項第七号中「必要な資料を」の下に「放送大学学園（以下「学園」という。）若しくは」を加える。

第二章の次に次の一章を加える。

第二章の二 放送大学学園

(学園の放送等についての協会の規定の準用)

第五十条の二 第四十三条及び第四十八条の規定は、学園の放送局の廃止及び放送の休止について準用する。

2 第四十四条第三項及び第五項並びに第四十六条の規定は、学園の放送番組の編集及び放送について準用する。

3 第四十四条の七及び第四十九条の二の規定は、学園に準用する。

第五十一条「協会」の下に「及び学園」を加える。

第五十五条中「協会」の下に「又は学園」を加え、同条第二号中「第四十三条第一項」の下に「(第五十条の二第一項において準用する場合を含む。)」を加える。

第五十八条中「協会」の下に「又は学園」を、「第四十三条第二項」の下に「(第五十条の二第一項において準用する場合を含む。)」を加える。

第五十九条中「第五十三条」を「第五十条の二第三項及び第五十三条」に改める。

(文部省設置法の一部改正)

第十二条 文部省設置法（昭和二十四年法律第四百十六号）の一部を次のように改正する。

第九条第二号の次に次の一号を加える。

二の二 放送大学学園に関すること。

(郵政省設置法の一部改正)

第十三条 郵政省設置法（昭和二十三年法律第二百四十四号）の一部を次のように改正する。

第十条の三第一項第十六号の三の次に次の一号を加える。

十六の四 放送大学学園に関すること。

第十条の三第二項第二号中「第十六号」の下に「及び第十六号の四」を加える。

(地方税法の一部改正)

第十四条 地方税法（昭和二十五年法律第二百二十六号）の一部を次のように改正する。

第七十二条の四第一項第三号中「国立劇場」の下に「、放送大学学園」を加える。

(地方財政再建促進特別措置法の一部改正)

第十五条 地方財政再建促進特別措置法（昭和三十年法律第九十五号）の一部を次のように改正する。

第二十四条第二項中「日本学術振興会」の下に「、放送大学学園」を加える。

(所得税法の一部改正)

第十六条 所得税法（昭和四十年法律第三十三号）の一部を次のように改正する。

別表記第一第一号の表貿易研修センターの項の次に次のように加える。

放送大学学園 放送大学学園法（昭和五十六年法律第八十号）

(法人税法の一部を改正)

第十七条 法人税法（昭和四十年法律第三十四号）の一部を次のように改正する。

別表記第一第一号の表阪神高速道路公団の項の次に次のように加える。

放送大学学園 放送大学学園法（昭和五十六年法律第八十号）

(印税法の一部改正)

第十八条 印紙税法（昭和四十二年法律第二十三号）の一部を次のように改正する。

別表記第二の表阪神高速道路公団の項の次に次のように加える。

放送大学学園 放送大学学園法（昭和五十六年法律第八十号）

(登記免許税法の一部改正)

第十九条 登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）の一部を次のように改正する。

別表記第二の表阪神高速道路公団の項次に次のように加える。

放送大学学園 放送大学学園法（昭和五十六年法律第八十号）

②特別な学校法人に移行時

平成十四年十二月十三日
法律第百五十六号

放送大学学園法

放送大学学園法（昭和五十六年法律第八十号）の全部を改正する。

目次

- 第一章 総則（第一条・第二条）
- 第二章 放送大学学園（第三条―第十一条）
- 第三章 雑則（第十二条―第十九条）
- 第四章 罰則（第二十条・第二十一条）

附則

第一章 総則

（目的）

第一条 この法律は、放送大学の設置及び運営に関し必要な事項を定めることにより、大学教育の機会に対する広範な国民の要請にこたえとともに、大学教育のための放送の普及発達を図ることを目的とする。

（定義）

第二条 この法律において、「放送大学」とは、放送大学学園が設置する大学をいう。

2 この法律において、「放送等」とは、放送及び放送法（昭和二十五年法律第百三十二号）第二条第三号の五に規定する委託放送業務をいう。

第二章 放送大学学園

（目的）

第三条 放送大学学園は、大学を設置し、当該大学において、放送等による授業を行うとともに、全国各地の学習者の身近な場所において面接による授業等を行うことを目的とする学校法人（私立学校法（昭和二十四年法律第二百七十号）第三条に規定する学校法事をいう。）とする。

（業務）

第四条 放送大学学園は、次に掲げる業務を行う。

- 一 放送大学を設置し、これを運営すること。
- 二 放送大学における教育に必要な放送等を行うこと。
- 三 前二号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

2 放送大学学園は、前項に規定する放送等以外の放送等を行うことはできない。

（役員）

第五条 次の各号のいずれかに該当する者は、放送大学学園の役員となることができない。

- 一 国家公務員（教育公務員で政令で定めるもの及び非常勤の者を除く。）
- 二 放送法第十六条第四項第二号又は第五号から第七号までに掲げる者
- 三 電波法（昭和二十五年法律第百三十一号）第五条第三項各号に掲げる者

2 電波法第五条第一項第一号及び第二号に掲げる者は、放送大学学園の理事となることができない。

（補助金）

第六条 国は、予算の範囲内において、放送大学学園に対し、第四条第一項に規定する業務に要する経費について補助することができる。

2 前項の規定により国が放送大学学園に対し補助する場合には、私立学校振興助成法（昭和五十年法律第六十一号）第十二条から第十三条までの規定の適用があるものとする。

（事業計画）

第七条 放送大学学園は、毎会計年度の開始前に、主務省令で定めるところにより、その会計年度の事業計画を作成し、主務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときは、同様とする。

（借入金）

第八条 放送大学学園は、弁済期限が一年を超える資金を借り入れようとするときは、主務大臣の認可を受けなければならない。

（重要な財産の譲渡等）

第九条 放送大学学園は、主務省令で定める重要な財産を譲り受け、譲渡し、交換し、又は担保に供しようとするときは、主務大臣の認可を受けなければならない。

(書類の作成等)

第十条 放送大学学園は、文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成し、主務大臣に届け出なければならない。

2 前項に掲げる書類を届け出るときは、文部科学大臣の指定する事項に関する公認会計士又は監査法人の監査報告書を添付しなければならない。

(私立学校教職員共済法の長期給付に関する特例)

第十一条 私立学校教育共済法(昭和二十八年法律第二百四十五号。以下「共済法」という。)の長期給付に関する規定は、国家公務員共済組合法(昭和三十二年法律第二百二十八号)第二百二十四条の二又は地方公務員等共済組合法(昭和三十七年法律第五十二号)第四十条の規定の適用を受ける放送大学学園の職員については適用しない。ただし、当該職員が、国家公務員共済組合法第二百二十四条の二第二項第一号の規定に該当するに至ったときは、この限りではない。

2 前項の規定により共済法の長期給付に関する規定を適用しないこととされた放送大学学園の職員の共済法による掛金の標準給与の月額及び標準給与の額に対する割合は、政令で定める範囲内において、共催規程(共済法第四十条第一項に規定する共済規程をいう。)で定める。

第三章 雑則

(報告及び検査)

第十二条 主務大臣は、この法律を施行するため必要があると認めるときは、放送大学学園に対して、その財務若しくは会計に関し必要な報告をさせ、又はその職員に放送大学学園の事務所に立ち入り、財務若しくは会計の状況若しくは財務若しくは会計に関する帳簿、書類その他必要な物件を検査させることができる。

2 前項の規定により職員が立入検査をする場合には、その身分を示す証明書を携帯し、関係人にこれを提示しなければならない。

3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(解散等)

第十三条 放送大学学園の解散に関する私立学校法第五十条第二項及び第四項の規定の適用については、同条第二項中「前項第一号及び第三号」とあるのは「前項第一号から第三号まで」と、同条第四項中「第一項第二号又は第五号」とあるのは「第一項五号」とする。

2 文部科学大臣は、放送大学学園に対し、私立学校法第五十条第二項の認可若しくは認定若しくは同法第五十二条第二項の認可をしようとするとき、又は同法第六十二条第一項に基づき解散を命じようとするときには、あらかじめ、総務大臣及び財務大臣に協議しなければならない。

(残余財産の帰属の特例)

第十四条 放送大学学園が解散した場合において、残余財産があるときは、私立学校法第三十条第三項及び第五十一条の規定にかかわらず、当該残余財産は国に帰属する。

(主務大臣及び主務省令)

第十五条 この法律における主務大臣は、文部科学大臣及び総務大臣とする。

2 この法律における主務省令は、主務大臣の発する命令とする。

(財務大臣との協議)

第十六条 主務大臣は、次の場合には、あらかじめ、財務大臣に協議しなければならない。

一 第七条から第九条までの規定による認可をしようとするとき。

二 第七条又は第九条の規定により主務省令を定めようとするとき。

(他の法律の適用除外)

第十七条 次に掲げる法律の規定は、放送大学学園については、適用しない。

一 産業教育振興法(昭和二十六年法律第二百二十八号)第十九条の規定

二 理科教育振興法(昭和二十八年法律第八十六号)第九条の規定

三 私立大学の研究設備に対する国の補助に関する法律(昭和三十二年法律第十八号)第二条の規定

四 スポーツ振興法(昭和三十六年法律第四十一号)第二十条第三項の規定

五 激甚災害に対処するための特別の財務援助等に関する法律(昭和三十七年法律第五十号)第十七条の規定

六 私立学校振興助成法第四条の規定

(放送大学学園が設置する学校についての教育基本法の準用)

第十八条 教育基本法(昭和三十二年法律第二十五号)第九条第二項の規定は、放送大学学園が設置する学校について準用する。

(文部科学省令等への委任)

第十九条 この法律に定めるもののほか、この法律の実施のため必要な事項は、文部科学省令又は主務省令で定める。

第四章 罰則

第二十条 第十二条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避した場合には、その違反行為をした放送大学学園の役員又は職員は、三十万円以下の罰金に処する。

第二十一条 次の各号のいずれかに該当する場合には、その違反行為をした放送大学学園の役員は、二十万円以下の過料に処する。

- 一 この法律により主務大臣の認可を受けなければならない場合において、その認可を受けなかったとき。
- 二 第四条第二項の規定に違反して放送等を行ったとき。

附 則

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十五年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 次条第一項から第四項までの規定 交付の日
- 二 附則第十七条の規定 平成十五年十月一日又は独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十九号）の施行の日のいずれか遅い日

(放送大学学園の設立)

第二条 文部科学大臣は、設立委員を命じ、放送大学学園の設立に関する事務を処理させる。

- 2 設立委員は、寄附行為を作成し、私立学校法第三十条第一項の規定による文部科学大臣の認可を申請しなければならない。
- 3 設立委員会から前項の規定による申請があった場合に関する私立学校法第三十一条第一項の規定の適用については、同項中「当該申請に係る学校法人の資産が第二十五条の要件に該当しているかどうか、その寄附行為」とあるのは、「その寄附行為」とする。この場合において、同条第二項の規定は、適用しない。
- 4 設立委員は、放送大学学園の設立の準備を完了したときは、遅滞なく、その旨を文部科学大臣に届け出るとともに、私立学校法第三十条第二項の規定により、第二項の寄附行為に定められた理事長となるべき者に引き継がなければならない。
- 5 放送大学学園は、私立学校法第三十三条の規定にかかわらず、この法律の施行の時に成立する。
- 6 第四項の理事長となるべき者は、放送大学学園の成立後遅滞なく、設立の登記をしなければならない。

(旧学園の解散等)

第三条 この法律の施行の際限に存する放送大学学園（以下「旧学園」という。）は、この法律の規定による放送大学学園（以下「新学園」という。）の成立の時に限って解散するものとし、その一辺の権利及び義務は、その時において、次項の規定により国が継承する資産を除き、新学園が継承する。

- 2 新学園の成立の際限に旧学園が有する権利のうち、新学園がその業務を確実に実施するために必要な資産以外の資産は、新学園の成立の時に限って国が継承する。
- 3 前項の規定により国が継承する資産の範囲その他当該資産の国への承継に関し必要な事項は、政令で定める。
- 4 旧学園の解散の日の前日を含む事業年度は、同日に終わるものとする。
- 5 旧学園の解散の日の前日を含む事業年度に係る決算並びに財産目録、貸借対照表及び損益計算書については、なお従前の例による。この場合において、当該決算の完結の期限は、その解散の日から起算して二月を経過する日とする。
- 6 第一項の規定により新学園が旧学園の権利及び義務を継承したときは、その承継の際、新学園が継承する資産の価額（旧学園の解散の日の前日までに政府以外の者から出えんされた金額を除く。）から負債の金額を控除した額に相当する金額は、政府から新学園に対し拠出されたものとする。
- 7 前項の資産の価額は、新学園の成立の日現在における時価を基準として評価委員が評価した価額とする。
- 8 前項の評価委員その他評価に関し必要な事項は、政令で定める。
- 9 第一項の規定により旧学園が解散した場合における解散の登記については、政令で定める。

(行政財産の貸付け)

第四条 国は、当分の間、国有財産法（昭和二十三年法律第七十三号）第十八条第一項の規定にかかわらず、新学園の成立の際限に国が旧学園に貸し付けている行政財産である土地を、新学園の用に供するため、新学園に貸し付けることができる。

(旧学園が設置する大学に関する経過措置)

第五条 この法律の施行の際限に旧学園が設置している放送大学は、新学園の成立の時に限って、第四条第一項第

一号の規定により新学園が設置する放送大学となるものとする。この場合において、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第四条第一項に規定する設置者の変更の認可があったものとみなす。

（旧学園の放送義務に関する経過措置）

第六条 旧学園が電波法第四条の規定により受けた免許及び放送法第五十二条の十三の規定により受けた認定は、新学園の成立の時ににおいて、新学園がそれぞれの規定により受けた免許及び認定とみなす。

（健康保険の被保険者に関する経過措置）

第七条 この法律の施行の日（以下「施行日」という。）の前日において健康保険法（大正十一年法律第七十号）による保険給付を受けることができる者であった旧学園の職員で、施行日に私立学校教職員共済制度の加入者となった者（新学園の職員となった者に限る。次項において「旧学園の職員であった加入者」という。）に対する施行日以後の給付に係る共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第六十一条第二項、第六十六条第三項、第六十七条第二項及び第三項並びに第二百二十六条の五第一項の規定の適用については、その者は、施行日前の健康保険法による保険給付を受けることができる者であった間私立学校教職員共済制度の加入者であったものとみなす。

2 旧学園の職員であった加入者に対する施行日以後の給付に係る共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第六十六条第二項及び第六十七条第一項の規定の適用については、その者が施行日前に健康保険法による傷病手当金及び出産手当金を受けていた場合におけるこれらの給付は、共済法に基づく傷病手当金及び出産手当金とみなす。

（厚生年金保険の被保険者に関する経過措置）

第八条 施行日の前日において厚生年金保険の被保険者であった旧学園の職員で、施行日に私立学校教職員共済制度の加入者となった者（新学園の職員となった者に限る。以下「旧学園の職員であった加入者」という。）のうち、一年以上の引き続き加入者期間（新学園の職員である期間に係るものに限る。以下同じ。）を有しない者であり、かつ、施行日前の厚生年金保険の被保険者期間（旧学園の職員であった期間に係るものに限る。以下「厚生年金保険期間」という。）と当該期間に引き続き加入者期間とを合算した期間が一年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第七十七条第二項の規定の適用については、その者は、一年以上の引き続き加入者期間を有するものとみなす。

2 旧学園の職員であった加入者のうち、加入者期間が二十年未満であり、かつ、当該加入者期間と厚生年金保険期間とを合算した期間が二十年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第七十七条第二項の規定の適用については、その者は、加入者期間が二十年以上である者とみなす。

3 旧学園の職員であった加入者のうち、加入者期間が二十年未満であり、かつ、当該加入者期間と厚生年金保険期間とを合算した期間が二十年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第八十九条第一項第二号の規定の適用については、その者は、加入者期間が二十年以上である者とみなす。

第九条 旧学園の職員であった加入者のうち、厚生年金保険期間及び加入者期間がいずれも二十年未満であり、かつ、これらの期間を合算した期間が二十年以上となるものに係る退職共済年金については、その年金額の算定の基礎となる加入者期間が二十年以上であるものとみなして、共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第七十八条の規定を適用する。この場合において、同条第一項中「六十五歳未満の配偶者」とあるのは「配偶者」と、同条第四項中「次の各号」とあるのは「次の各号（第四号を除く。）」とする。

2 前項に規定する者に係る遺族共済年金については、その年金額の算定の基礎となる加入者期間が二十年以上であるものとみなして、共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第九十条の規定を適用する。

第十条 旧学園の職員であった加入者のうち、加入者期間が一年未満であり、かつ、当該加入者期間と厚生年金保険期間とを合算した期間が一年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第十二条の三の規定の適用については、その者は、一年以上の加入者期間を有する者とみなす。

（事業計画に関する経過措置）

第十一条 新学園の最初の会計年度の事業計画については、第七条中「毎会計年度の開始前に」とあるのは、「放送大学学園の成立後遅滞なく」とする。

（罰則に関する経過措置）

第十二条 この法律の施行前にした行為及び附則第三条第五項の規定によりなお従前の例によることとされる事項に係るこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（学校教育法の一部改正）

第十三条 学校教育法の一部を次のように改正する。

第二条第三項を削る。

第四条第一項第一号及び第十五条第一項中「並びに放送大学学園の設置する大学」を削る。第六十四条中「若しくは私立の大学又は放送大学学園の設置する」を「又は私立の」に改める。

(放送法の一部改正)

第十四条 放送法の一部を次のように改正する。

第二条第三号の三中「放送大学学園」を「放送大学学園法（平成十四年法律第百五十六号）第三条に規定する放送大学学園」に改める。

第五十条の二第一項中「第五十二条の十八」を「第五十二条の十八第一項」に改める。

(地方財政再建促進特別措置法の一部改正)

第十五条 地方財政再建促進特別措置法（昭和三十年法律第百九十五号）の一部を次のように改正する。

第二十四条第二項中「、放送大学学園」を削る。

(独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律の一部改正)

第十六条 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成十三年法律第百四十号）の一部を次のように改正する。

別表第一放送大学学園の項中「放送大学学園法（昭和五十六年法律第八十号）」を「放送大学学園法（平成十四年法律第百五十六号）」に改める。

(独立行政法人等の保有する個人情報保護に関する法律の一部改正)

第十七条 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の一部を次のように改正する。

別表放送大学学園の項中「放送大学学園法（昭和五十六年法律第八十号）」を「放送大学学園法（平成十四年法律第百五十六号）」に改める。

(政令への委任)

第十八条 この法律に規定するもののほか、新学園の設立に伴い必要な経過措置その他この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

放送大学学園法

放送大学学園法(昭和五十六年法律第八十号)の全部を改正する。

目次

- 第一章 総則(第一条・第二条)
- 第二章 放送大学学園(第三条―第十一条)
- 第三章 雑則(第十二条―第十九条)
- 第四章 罰則(第二十条・第二十一条)

附則

第一章 総則

(目的)

第一条 この法律は、放送大学の設置及び運営に関し必要な事項を定めることにより、大学教育の機会に対する広範な国民の要請にこたえとともに、大学教育のための放送の普及発達を図ることを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において、「放送大学」とは、放送大学学園が設置する大学をいう。

2 この法律において、「放送」とは、放送法(昭和二十五年法律第百三十二号)第二条第一号に規定する放送(同条第二十号に規定する放送局を用いて行われるものに限る。)をいう。

第二章 放送大学学園

(目的)

第三条 放送大学学園は、大学を設置し、当該大学において、放送による授業を行うとともに、全国各地の学習者の身近な場所において面接による授業等を行うことを目的とする学校法人(私立学校法(昭和二十四年法律第二百七十号)第三条に規定する学校法人をいう。)とする。

(業務)

第四条 放送大学学園は、次に掲げる業務を行う。

- 一 放送大学を設置し、これを運営すること。
- 二 放送大学における教育に必要な放送を行うこと。
- 三 前二号に掲げる業務に附随する業務を行うこと。

2 放送大学学園は、前項に規定する放送以外の放送を行うことはできない。

(役員)

第五条 次の各号のいずれかに該当する者は、放送大学学園の役員となることができない。

- 一 国家公務員(教育公務員で政令で定めるもの及び非常勤の者を除く。)
- 二 放送法第三十一条第三項第二号又は第五号から第七号までに掲げる者
- 三 電波法(昭和二十五年法律第百三十一号)第五条第三項各号に掲げる者

2 電波法第五条第一項第一号及び第二号に掲げる者は、放送大学学園の理事となることができない。

(補助金)

第六条 国は、予算の範囲内において、放送大学学園に対し、第四条第一項に規定する業務に要する経費について補助することができる。

2 前項の規定により国が放送大学学園に対し補助する場合においては、私立学校振興助成法(昭和五十年法律第六十一号)第十二条から第十三条までの規定の適用があるものとする。

(事業計画)

第七条 放送大学学園は、毎会計年度の開始前に、主務省令で定めるところにより、その会計年度の事業計画を作成し、主務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

(借入金)

第八条 放送大学学園は、弁済期限が一年を超える資金を借り入れようとするときは、主務大臣の認可を受けなければならない。

(重要な財産の譲渡等)

第九条 放送大学学園は、主務省令で定める重要な財産を譲り受け、譲渡し、交換し、又は担保に供しようとするときは、主務大臣の認可を受けなければならない。

(主務大臣への書類の提出)

第十条 放送大学学園は、主務省令で定めるところにより、毎会計年度終了後三月以内に、その終了した会計年度に係る私立学校法第百三条第二項に規定する計算書類及びその附属明細書に同法第八十六条第二項の会計監査報告を添付して、主務大臣に提出しなければならない。

(私立学校教職員共済法の特例)

第十一条 私立学校教職員共済法(昭和二十八年法律第二百四十五号。以下この条において「共済法」という。)の退職等年金給付に関する規定は、国家公務員共済組合法(昭和三十二年法律第二百二十八号)第二百二十四条の二又は地方公務員等共済組合法(昭和三十七年法律第五十二号)第四百十条の規定の適用を受ける放送大学学園の職員については、適用しない。ただし、当該職員が国家公務員共済組合法第二百二十四条の二第二項第一号又は地方公務員等共済組合法第四百十条第二項第一号の規定に該当するに至ったときは、この限りでない。

2 前項の規定により共済法の退職等年金給付に関する規定を適用しないこととされた放送大学学園の職員の共済法による掛金の標準報酬月額及び標準賞与額に対する割合は、政令で定める範囲内において、共済規程(共済法第四条第一項に規定する共済規程をいう。)で定める。

3 前項の放送大学学園の職員に関する共済法の規定の適用については、共済法第二十七条第一項中「掛金及び加入者保険料(厚生年金保険法(昭和二十九年法律第百十五号)第八十二条第一項の規定により加入者たる被保険者及び当該被保険者を使用する学校法人等が負担する厚生年金保険の保険料をいう。次項において同じ。)」とあり、同条第二項中「掛金及び加入者保険料(以下「掛金等」という。)」とあり、並びに共済法第二十八条第二項、第三項、第五項及び第六項、第二十九条第一項、第二十九条の二、第三十条第一項及び第三項から第六項まで、第三十一条第一項、第三十二条、第三十三条並びに第三十四条第三項中「掛金等」とあるのは「掛金」と、共済法第二十九条第二項中「及び厚生年金保険法による標準報酬月額に係る掛金等」とあり、及び同条第三項中「及び厚生年金保険法による標準賞与額に係る掛金等」とあるのは「に係る掛金」とする。

第三章 雑則

(報告及び検査)

第十二条 主務大臣は、この法律を施行するため必要があると認めるときは、放送大学学園に対して、その財務若しくは会計に関し必要な報告をさせ、又はその職員に放送大学学園の事務所に立ち入り、財務若しくは会計の状況若しくは財務若しくは会計に関する帳簿、書類その他必要な物件を検査させることができる。

2 前項の規定により職員が立入検査をする場合には、その身分を示す証明書を携帯し、関係人にこれを提示しなければならない。

3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(解散等)

第十三条 放送大学学園の解散に関する私立学校法第百九条第三項及び第五項の規定の適用については、同条第三項中「第一項第一号及び第三号」とあるのは「第一項第一号から第三号まで」と、同条第五項中「第一項第二号又は第五号」とあるのは「第一項第五号」とする。

2 文部科学大臣は、放送大学学園に対し、前項の規定により読み替えて適用する私立学校法第百九条第三項若しくは同法第二百二十六条第三項の認可をしようとするとき、又は同法第三百三十五条第一項に基づき解散を命じようとするときは、総務大臣及び財務大臣に協議しなければならない。

(残余財産の帰属の特例)

第十四条 放送大学学園が解散した場合において、残余財産があるときは、私立学校法第二十三条第三項及び第二百二十五条の規定にかかわらず、当該残余財産は国に帰属する。

(主務大臣及び主務省令)

第十五条 この法律における主務大臣は、文部科学大臣及び総務大臣とする。

2 この法律における主務省令は、主務大臣の発する命令とする。

(財務大臣との協議)

第十六条 主務大臣は、次の場合には、財務大臣に協議しなければならない。

一 第七条から第九条までの規定による認可をしようとするとき。

二 第七条又は第九条の規定により主務省令を定めようとするとき。

(他の法律の適用除外)

第十七条 次に掲げる法律の規定は、放送大学学園については、適用しない。

一 産業教育振興法(昭和二十六年法律第二百二十八号)第十九条の規定

二 理科教育振興法(昭和二十八年法律第八十六号)第九条の規定

- 三 私立大学の研究設備に対する国の補助に関する法律（昭和三十二年法律第十八号）第二条の規定
- 四 スポーツ基本法（平成二十三年法律第七十八号）第三十三条第二項の規定
- 五 激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律（昭和三十七年法律第五十号）第十七条の規定
- 六 私立学校振興助成法第四条の規定

（放送大学学園が設置する学校についての教育基本法の準用）

第十八条 教育基本法（平成十八年法律第二十号）第十五条第二項の規定は、放送大学学園が設置する学校について準用する。

（文部科学省令等への委任）

第十九条 この法律に定めるもののほか、この法律の実施のため必要な事項は、文部科学省令又は主務省令で定める。

第四章 罰則

第二十条 第十二条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避した場合には、その違反行為をした放送大学学園の役員又は職員は、三十万円以下の罰金に処する。

第二十一条 次の各号のいずれかに該当する場合には、その違反行為をした放送大学学園の役員は、二十万円以下の過料に処する。

- 一 この法律により主務大臣の認可を受けなければならない場合において、その認可を受けなかったとき。
- 二 第四条第二項の規定に違反して放送を行ったとき。

附 則 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成十五年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 次条第一項から第四項までの規定 公布の日

（旧学園の解散等）

第三条 この法律の施行の際現に存する放送大学学園（以下「旧学園」という。）は、この法律の規定による放送大学学園（以下「新学園」という。）の成立の時に解散するものとし、その一切の権利及び義務は、その時において、次項の規定により国が承継する資産を除き、新学園が承継する。

2 新学園の成立の際現に旧学園が有する権利のうち、新学園がその業務を確実に実施するために必要な資産以外の資産は、新学園の成立の時に国が承継する。

3 前項の規定により国が承継する資産の範囲その他当該資産の国への承継に関し必要な事項は、政令で定める。

4 旧学園の解散の日の前日を含む事業年度は、同日に終わるものとする。

5 旧学園の解散の日の前日を含む事業年度に係る決算並びに財産目録、貸借対照表及び損益計算書については、なお従前の例による。この場合において、当該決算の完結の期限は、その解散の日から起算して二月を経過する日とする。

6 第一項の規定により新学園が旧学園の権利及び義務を承継したときは、その承継の際、新学園が承継する資産の価額（旧学園の解散の日の前日までに政府以外の者から出えんされた金額を除く。）から負債の金額を控除した額に相当する金額は、政府から新学園に対し抛出されたものとする。

7 前項の資産の価額は、新学園の成立の日現在における時価を基準として評価委員が評価した価額とする。

8 前項の評価委員その他評価に関し必要な事項は、政令で定める。

9 第一項の規定により旧学園が解散した場合における解散の登記については、政令で定める。

（旧学園が設置する大学に関する経過措置）

第五条 この法律の施行の際現に旧学園が設置している放送大学は、新学園の成立の時に、第四条第一項第一号の規定により新学園が設置する放送大学となるものとする。この場合において、学校教育法（昭和三十二年法律第二十六号）第四条第一項に規定する設置者の変更の認可があったものとみなす。

（旧学園の放送業務に関する経過措置）

第六条 旧学園が電波法第四条の規定により受けた免許及び放送法第五十二条の十三の規定により受けた認定は、新学園の成立の時に、新学園がそれぞれの規定により受けた免許及び認定とみなす。

（健康保険の被保険者に関する経過措置）

第七条 この法律の施行の日（以下「施行日」という。）の前日において健康保険法（大正十一年法律第七十号）による保険給付を受けることができる者であった旧学園の職員で、施行日に私立学校教職員共済制度の加入者となった者（新学園の職員となった者に限る。次項において「旧学園の職員であった加入者」という。）に対する施行日以後の給付に係る共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第六十一条第二項、第六十六条第三項、第六十七条第二項及び第三項並びに第二百二十六条の五第一項の規定の適用については、その者は、施行日前の健

康保険法による保険給付を受けることができる者であった間私立学校教職員共済制度の加入者であったものとみなす。

- 2 旧学園の職員であった加入者に対する施行日以後の給付に係る共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第六十六条第二項及び第六十七条第一項の規定の適用については、その者が施行日前に健康保険法による傷病手当金及び出産手当金を受けていた場合におけるこれらの給付は、共済法に基づく傷病手当金及び出産手当金とみなす。

(厚生年金保険の被保険者に関する経過措置)

第八条 施行日の前日において厚生年金保険の被保険者であった旧学園の職員で、施行日に私立学校教職員共済制度の加入者となった者

(新学園の職員となった者に限る。以下「旧学園の職員であった加入者」という。)のうち、一年以上の引き続き加入者期間(新学園の職員である期間に係るものに限る。以下同じ。)を有しない者であり、かつ、施行日前の厚生年金保険の被保険者期間(旧学園の職員であった期間に係るものに限る。以下「厚生年金保険期間」という。)と当該期間に引き続き加入者期間とを合算した期間が一年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第七十七条第二項の規定の適用については、その者は、一年以上の引き続き加入者期間を有するものとみなす。

- 2 旧学園の職員であった加入者のうち、加入者期間が二十年未満であり、かつ、当該加入者期間と厚生年金保険期間とを合算した期間が二十年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第七十七条第二項の規定の適用については、その者は、加入者期間が二十年以上である者とみなす。
- 3 旧学園の職員であった加入者のうち、加入者期間が二十年未満であり、かつ、当該加入者期間と厚生年金保険期間とを合算した期間が二十年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第八十九条第一項及び第二項の規定の適用については、その者は、加入者期間が二十年以上である者とみなす。

第九条 旧学園の職員であった加入者のうち、厚生年金保険期間及び加入者期間がいずれも二十年未満であり、かつ、これらの期間を合算した期間が二十年以上となるものに係る退職共済年金については、その年金額の算定の基礎となる加入者期間が二十年以上であるものとみなして、共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第七十八条の規定を適用する。この場合において、同条第一項中「六十五歳未満の配偶者」とあるのは「配偶者」と、同条第四項中「次の各号」とあるのは「次の各号(第四号を除く。)」とする。

- 2 前項に規定する者に係る遺族共済年金については、その年金額の算定の基礎となる加入者期間が二十年以上であるものとみなして、共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法第九十条の規定を適用する。

第十条 旧学園の職員であった加入者のうち、加入者期間が一年未満であり、かつ、当該加入者期間と厚生年金保険期間とを合算した期間が一年以上となるものに対する共済法第二十五条において準用する国家公務員共済組合法附則第十二条の三の規定の適用については、その者は、一年以上の加入者期間を有する者とみなす。

(事業計画に関する経過措置)

第十一条 新学園の最初の会計年度の事業計画については、第七条中「毎会計年度の開始前に」とあるのは、「放送大学学園の成立後遅滞なく」とする。

(罰則に関する経過措置)

第十二条 この法律の施行前にした行為及び附則第三条第五項の規定によりなお従前の例によることとされる事項に係るこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)

第十八条 この法律に規定するもののほか、新学園の設立に伴い必要な経過措置その他この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成一五年七月一六日法律一一七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十六年四月一日から施行する。

(罰則に関する経過措置)

第七条 この法律の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(その他の経過措置の政令への委任)

第八条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成一六年六月一八日法律一二六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、協定の効力発生の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一及び二 略

三 附則第四十二条の規定 国家公務員共済組合法等の一部を改正する法律（平成十六年法律第百三十号）の公布の日又は公布日のいずれか遅い日

附 則（平成一六年六月二三日法律第一三〇号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、平成十六年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一から四まで 略

五 第五条、第八条、第十二条、第十六条、第十九条及び第二十条並びに附則第十六条から第二十一条まで、第三十七条、第七十七条、第七十八条、第八十条、第八十二条及び第八十三条の規定 平成十九年四月一日

附 則（平成一七年六月一七日法律第六四号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、協定の効力発生の日から施行する。ただし、附則第四十条から第四十四条までの規定は、公布の日から施行する。

附 則（平成一七年六月一七日法律第六五号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、協定の効力発生の日から施行する。ただし、附則第四十条から第四十四条までの規定は、公布の日から施行する。

附 則（平成一八年三月三十一日法律第一八号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則（平成一八年二月二二日法律第一二〇号）抄
（施行期日）

1 この法律は、公布の日から施行する。

附 則（平成一九年二月二八日法律第一三六号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。

附 則（平成二二年二月三日法律第六五号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。

附 則（平成二三年六月二四日法律第七八号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（平成二四年八月二二日法律第六三号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十七年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一 次条並びに附則第三条、第二十八条、第一百五十九条及び第一百六十条の規定 公布の日
（その他の経過措置の政令への委任）

第一百六十条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

附 則（平成二四年一月二六日法律第九八号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十七年十月一日から施行する。

附 則（令和二年六月五日法律第四〇号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、令和四年四月一日から施行する。

附 則（令和三年六月一日法律第六六号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、令和四年一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第六条中国民健康保険法附則第二十五条の改正規定並びに第八条中生活保護法第五十五条の八、第八十五条の二及び別表第一の三の項第三号の改正規定並びに次条第一項、附則第八条及び第十条の規定、附則第十五条中地方公務員等共済組合法（昭和三十七年法律第五十二号）第四百四十六条の改正規定、附則第二十一条中住民基本台帳法（昭和四十二年法律第八十一号）別表第一の十九の項及び別表第二から別表第五までの改正規定、附則第二十三条中租税条約等の実施に伴う所得税法、法人税法及び地方税法の特例等に関する法律（昭和三十四年法律第四十六号）第三条の二の三第一項の改正規定（「第七百三条の四第十一項第一号」を「第七百三条の四第十項第一号」に改める部分に限る。）並びに附則第二十九条、第三十一条及び第三十二条の規定 公布の日

二 略

三 第一条中健康保険法第五十九条及び第二百四条第一項第十二号の改正規定、第二条中船員保険法第一百八条及び第一百五十三条第一項第七号の改正規定並びに第三条及び第四条の規定並びに附則第三条第三項、第四条第二項、第五条及び第六条の規定、附則第十一条中私立学校教職員共済法（昭和三十八年法律第二百四十五号）第二十五条の改正規定（同条の表第七十五条の三第一項の項中「第百条の二の規定」を「第百条の二第一項の規定」に、「第二十八条第四項及び第五項」を「第二十八条第五項及び第六項」に改める部分及び同表附則第十二条第九項の項中「第四項」を「第五項」に改める部分に限る。）及び同法第二十八条の改正規定、附則第十二条の規定、附則第十三条中国国家公務員共済組合法（昭和三十二年法律第二百二十八号）第七十五条の三第一項第五号、第百条の二及び第二百二条第一項の改正規定、附則第十四条の規定、附則第十五条中地方公務員等共済組合法第七十九条第一項第五号、第百十四条の二、第百十六条第一項及び第百四十四条の十二第一項の改正規定並びに附則第十六条、第二十六条及び第二十七条の規定 令和四年十月一日

（政令への委任）

第三十二条 附則第三条から第十条まで、第十二条、第十四条及び第十六条に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 （令和五年五月八日法律第二一号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、令和七年四月一日から施行する。

（放送大学学園法の一部改正に伴う経過措置）

第二十二條 前条の規定による改正後の放送大学学園法第十条の規定は、施行日以後に開始する会計年度について適用し、施行日前に開始した会計年度に係る貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類及び監査報告書の作成及び届出については、なお従前の例による。

【2】放送大学学園法施行令

平成十五年政令第三百六十五号

改正 平成15政483、平成27政348、令和4政267

放送大学学園法施行令

内閣は、放送大学学園法（平成十四年法律第五十六号）第五条第一項第一号及び第十一条第二項並びに附則第三条第三項、第八項及び第九項並びに第十八条の規定に基づき、放送大学学園法施行令（昭和三十八年政令第二百三十号）の全部を改正するこの政令を制定する。

（教育公務員の範囲）

第一条 放送大学学園法（以下「法」という。）第五条第一項第一号の政令で定める教育公務員は、国立教育政策研究所の長及びその職員のうち専ら研究又は教育に従事する者で学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）の規定による大学の学長、副学長、学部長又は教授に準ずるものとする。

（私立学校教職員共済法の退職等年金給付に関する規定の適用を受けない職員の掛金の割合）

第二条 法第十一条第二項の政令で定める範囲は、私立学校教職員共済法施行令（昭和三十八年政令第四百二十五号）第十三条第三項に規定する範囲とする。

附 則

（施行期日）

第一条 この政令は、平成十五年十月一日から施行する。

（国が承継する資産の範囲）

第二条 法附則第三条第三項の規定により国が承継する資産は、文部科学大臣及び総務大臣が財務大臣に協議して定める。

2 前項の規定により国が承継する資産は、一般会計に帰属する。

（放送大学学園が承継する資産に係る評価委員の任命等）

第三条 法附則第三条第七項の評価委員は、次に掲げる者につき文部科学大臣が任命する。

一 総務省の職員 一人

二 財務省の職員 一人

三 文部科学省の職員 一人

四 放送大学学園の役員 一人

五 学識経験のある者 一人

2 法附則第三条第七項の規定による評価は、同項の評価委員の過半数の一致によるものとする。

3 法附則第三条第七項の規定による評価に関する庶務は、文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課において処理する。

（旧学園の解散の登記の嘱託等）

第四条 法附則第三条第一項の規定により法の施行の際現に存する放送大学学園が解散したときは、文部科学大臣及び総務大臣は、遅滞なく、その解散の登記を登記所に嘱託しなければならない。

2 登記官は、前項の規定による嘱託に係る解散の登記をしたときは、その登記用紙を閉鎖しなければならない。

附 則（平成一五年一二月三日政令第四八三号）抄

（施行期日）

第一条 この政令は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則（平成二七年九月三〇日政令第三四八号）抄

（施行期日）

1 この政令は、平成二十七年十月一日から施行する。

附 則（令和四年八月三日政令第二六七号）

この政令は、令和四年十月一日から施行する。

【3】放送大学学園法施行規則

(平成十五年十月一日 総務省・文部科学省令第二号)
改正 平成23年省1

放送大学学園法施行規則

放送大学学園法(平成十四年法律第百五十六号)第七条、第九条及び第十九条の規定に基づき、放送大学学園法施行規則を次のように定める。

(事業計画の作成)

第一条 放送大学学園法(以下「法」という。)第七条に規定する事業計画には、次に掲げる事項に関する計画を示さなければならない。

- 一 法第四条第一項第一号に規定する放送大学を設置し、これを運営することに関する事項
- 二 法第四条第一項第二号に規定する放送大学における教育に必要な放送の実施に関する事項
- 三 法第四条第一項第三号に規定する業務に関する事項
- 四 前三号に掲げるもののほか、放送大学学園(以下「学園」という。)の行う業務に関する事項

(事業計画の認可の申請)

第二条 学園は、法第七条前段の規定により事業計画の認可を受けようとするときは、申請書に次に掲げる書類を添付して、主務大臣に提出しなければならない。

- 一 当該会計年度末における予定貸借対照表及び当該会計年度の予定損益計算書
- 二 前会計年度末における予定貸借対照表、前会計年度の予定損益計算書及び前会計年度における業務の実施状況を記載した書類(認可の申請の日から当該前会計年度の末日までの間に行おうとする業務があるときは、その概要を記載した書類を含む。)
- 三 学園が他の団体等に対して出資を行う場合における当該団体等の名称、当該会計年度末及び前会計年度末における出資予定額並びに当該会計年度におけるその増減その他の出資に係る明細
- 四 当該会計年度の収支予算書
- 五 その他当該事業計画の参考となる書類

2 学園は、法第七条後段の規定により事業計画の変更について認可を受けようとするときは、変更しようとする理由及び事項を記載した申請書を主務大臣に提出しなければならない。この場合において、当該変更が前項各号の書類の変更を伴うときは、当該変更後の書類を添付しなければならない。

(借入れの認可の申請)

第三条 学園は、法第八条の規定により、弁済期限が一年を超える資金の借入れの認可を受けようとするときは、次に掲げる事項を記載した申請書を主務大臣に提出しなければならない。

- 一 借入れを必要とする理由
- 二 借入金の額
- 三 借入先
- 四 借入金の利率
- 五 償還の方法及び期限
- 六 利息の支払の方法及び期限
- 七 その他必要な事項

(重要な財産の範囲)

第四条 法第九条に規定する主務省令で定める重要な財産は、土地及び建物並びに主務大臣が指定するその他の財産とする。

(重要な財産の譲渡等の認可の申請)

第五条 学園は、法第九条の規定により重要な財産を譲り受け、譲渡し、交換し、又は担保に供すること(以下「譲渡等」という。)について認可を受けようとするときは、次に掲げる事項を記載した申請書に、譲渡等を証する書面を添付して、主務大臣に提出しなければならない。

- 一 譲渡等の相手方の氏名又は名称及び住所
- 二 譲渡等に係る財産の内容及び評価額

- 三 譲渡等に係る財産が不動産の場合には、その所在地及び地番
- 四 譲渡等に係る財産が所有権以外の権利の目的となっているときは、その権利の種類及び内容
- 五 譲渡等の時期、対価の額、その支払又は受領の時期及び方法その他譲渡等の条件
- 六 担保に供しようとするときは、担保される債権の額及びその権利の種類
- 七 譲渡等の理由

附 則

(施行期日)

第一条 この省令は、公布の日から施行する。

(放送大学学園の財務及び会計に関する省令の廃止)

第二条 放送大学学園の財務及び会計に関する省令(昭和五十六年文部省・郵政省令第一号)は、廃止する。

(事業計画の認可の申請に関する経過措置)

第三条 学園の最初の会計年度の事業計画の認可の申請については、第二条第一項第二号及び第三号中「前会計年度」とあるのは、「法の施行の際現に存する放送大学学園の解散の日の前日を含む事業年度」とする。

附 則 (平成二三年六月二九日総務省・文部科学省令第一号)

この省令は、放送法等の一部を改正する法律(平成二十二年法律第六十五号)の施行の日(平成二十三年六月三十日)から施行する。

【4】放送大学学園寄附行為

放送大学学園寄附行為

平成15年9月19日 文部科学大臣認可
改正 平成17年4月1日、平成21年3月31日、
平成23年6月30日、平成24年10月15日、
平成26年8月12日、平成30年4月26日、
令和2年3月25日、令和6年1月11日

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、放送大学学園法(平成14年法律第156号。以下「法」という。)第3条に規定する学校法人とし、その名称を放送大学学園とする。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を千葉県千葉市美浜区若葉2丁目11番地に置く。

第2章 目的

(目的)

第3条 この法人は、大学を設置し、当該大学において、法第2条第2項に規定する放送(以下「放送」という。)による授業を行うとともに、全国各地の学習者の身近な場所における面接による授業、インターネットの利用による授業等を行うことを目的とする。

(設置する大学)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる大学を設置する。

放送大学 教養学部
大学院 文化科学研究科

第3章 役員及び理事会

(役員)

第5条 この法人に、次の役員を置く。

- 一 理事長 1人
- 二 理事 7人以上9人以内(理事長1人を含む。6人以内を常勤とする。)
- 三 監事 2人

2 理事長は、理事会において、理事総数の過半数による議決により、選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

3 役員の内命は、理事長が行う。

(理事の選任)

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 学長 1人
- 二 評議員のうちから評議員会において選任した者 1人以上3人以内
- 三 学識経験者のうち理事会において選任した者 5人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失う。

(監事の選任)

第7条 監事は、この法人の理事、職員(学長、教員その他の職員を含む。以下同じ。)、評議員又は役員配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任するものとする。

(役員の内命)

第8条 理事長の内命は4年とし、再任されることができる。ただし、再任の場合の内命は2年とし、引き続き6年を超えることはできない。

2 役員(理事長及び第6条第1項第1号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。)の内命は2年とし、再任されることができる。ただし、引き続き6年を超えることはできない。

3 前項本文の内命の規定にかかわらず、補欠の役員の内命は、前任者の残任期間とする。

4 理事長又は役員は、任期満了の後でも、後任の理事長又は役員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(役員)の補充)

第9条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1を超えるものが欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。

(役員)の欠格条項)

第10条 次の各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員となることができない。

- 一 国家公務員(放送大学学園法施行令(平成15年政令第365号)第1条に規定する教育公務員及び非常勤の者を除く。)
 - 二 私立学校法(昭和24年法律第270号)第38条第8項第1号又は第2号に掲げる事由に該当する者
 - 三 放送法(昭和25年法律第132号)第31条第3項第2号又は第5号から第7号までに掲げる者
 - 四 電波法(昭和25年法律第131号)第5条第3項各号に掲げる者
- 2 電波法第5条第1項第1号及び第2号に掲げる者は、この法人の理事となることができない。

(役員)の解任及び退任)

第11条 理事長は、役員が前条の規定により役員となることができない者に該当するに至ったときは、その役員を解任しなければならない。

2 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上の理事が出席した理事会において、理事総数の4分の3以上の多数による議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

- 一 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき。
- 二 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。
- 三 職務上の義務に著しく違反したとき。
- 四 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。

3 役員は、次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了
- 二 辞任
- 三 死亡
- 四 私立学校法第38条第8項第1号又は第2号に掲げる事由に該当するに至ったとき。

(監事の兼職)の禁止)

第12条 監事は、理事、評議員又は職員と兼ねてはならない。

(理事長)の職務)

第13条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

(理事)の代表権)の制限)

第14条 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長)職務)の代理等)

第15条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において定めた順位に従い、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(監事)の職務)

第16条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 この法人の業務を監査すること。
 - 二 この法人の財産の状況を監査すること。
 - 三 この法人の理事の業務執行の状況を監査すること。
 - 四 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
 - 五 第1号から第3号までの規定による監査の結果、この法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣及び総務大臣(以下「主務大臣」という。)並びに理事会及び評議員会に報告すること。
 - 六 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会及び評議員会の招集を請求すること。
 - 七 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、理事会に出席して意見を述べること。
- 2 前項第6号の請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の召集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。
- 3 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(責任)の免除)

第17条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

（理事会）

第18条 この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。
- 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
- 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。
- 9 第16条第2項及び前項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 10 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の3分の2以上の理事が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。ただし、第13項の規定による除斥のため3分の2に達しないときは、この限りでない。
- 11 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 12 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 13 理事会の議事について特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない。

（業務の決定の委任）

第19条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

（議事録）

第20条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には、議長及び出席した理事のうちから互選された理事2人以上が署名押印し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。
- 3 利益相反取引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録に記載しなければならない。

第4章 評議員会及び評議員

（評議員会）

第21条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、20人以上27人以内の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の評議員が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。

10 評議員会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

12 評議員会の議事について特別の利害関係を有する評議員は、議決に加わることができない。

(議事録)

第22条 第20条第1項及び第2項の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第2項中「理事のうちから互選された理事」とあるのは、「評議員のうちから互選された評議員」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

第23条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聴かななければならない。

- 一 予算及び事業計画
- 二 事業に関する中期的な計画
- 三 借入金(弁済期限が1年を超えない借入金を除く。)及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
- 四 役員に対する報酬等(報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。)の支給の基準
- 五 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- 六 寄附行為の変更
- 七 合併
- 八 目的たる事業の成功の不能による解散
- 九 寄附金品の募集に関する事項
- 十 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

第24条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第25条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 この法人の職員で理事会において選任した者 5人
- 二 この法人の設置する大学を卒業した者で年齢25歳以上のもののうちから、理事会において選任した者 1人
- 三 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 14人以上21人以内

2 前項第1号に規定する評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは、評議員の職を失う。

(任期)

第26条 評議員の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

(評議員の解任及び退任)

第27条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員会において、評議員総数の3分の2以上の多数による議決により、これを解任することができる。

- 一 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。
- 二 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。

2 評議員は、次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了
- 二 辞任
- 三 死亡

第5章 放送大学の組織等

(学長及び副学長の任免手続)

第28条 放送大学に学長及び3人以内の副学長を置く。

2 学長の任命は、学長選考・監察会議の申出により理事長が行う。

3 副学長の任命は、学長の申出により理事長が行う。

4 前2項の規定は、学長及び副学長の免職について、それぞれ準用する。

(人事の基準)

第29条 前条及び第31条に規定するもののほか、学長の任免の基準、任期、定年その他人事の基準に関する事項は、別にこれを定める。

2 前条に規定するもののほか、教員の人事の基準に関する事項は、評議員会の議を経て、別にこれを定める。

(評議会)

第30条 放送大学に、学長の諮問に応じてこの大学の教育研究に関する重要事項について審議し、及び前条第2項の規定によりその権限に属させられた事項を行うため、評議会を置く。

2 評議会の組織及び運営に関する事項は、学長がこれを定める。

第6章 学長選考・監察会議

(学長選考・監察会議)

第31条 この法人に、学長選考・監察会議を置く。

2 学長選考・監察会議は、第28条に規定する申出に係る選考を行うほか、学長の任免に関し必要な事項を審議する。

3 学長選考・監察会議は、第一号に掲げる委員及び第二号に掲げる委員各同数をもって組織する。

一 第30条に規定する評議会を構成する者のうちから評議会において選任した者

二 第25条第1項第3号に掲げる者のうちから評議員会において選任した者

4 学長選考・監察会議の委員の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前項の規定にかかわらず、前項の委員の任期は、評議会の構成員又は評議員としての任期を超えないものとする。

6 学長選考・監察会議の運営その他学長選考・監察会議に関し必要な事項は、別にこれを定める。

第7章 放送番組委員会

(放送番組委員会)

第32条 この法人に、理事長の諮問に応じ、放送番組について審議し、その向上適正を図るため、放送番組委員会を置く。

2 放送番組委員会の組織及び運営に関する事項は、別にこれを定める。

第8章 財務及び会計

(会計)

第33条 この法人は、文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行う。

(予算、事業計画及び事業に関する中期的な計画等)

第34条 この法人の予算、資金計画及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において出席した理事の3分の2以上の多数により議決し、事業計画は主務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

2 この法人の事業に関する中期的な計画は、理事会で定める期間ごとに、理事長が編成し、理事会において出席した理事の3分の2以上の多数により議決しなければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(決算及び実績の報告)

第35条 この法人は、毎会計年度終了後2月以内に、財産目録、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成し、監事の意見を求めるものとする。

2 理事長は、毎会計年度終了後2月以内に、前項に掲げる書類及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

3 この法人は、第1項に掲げる書類を主務大臣に届け出なければならない。

4 前項の書類を届け出るときは、文部科学大臣の指定する事項に関する公認会計士又は監査法人の監査報告書を添付しなければならない。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

第36条 この法人は、毎会計年度終了後2月以内に、事業報告書及び役員等名簿(理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。)を作成しなければならない。

2 この法人は、前条第1項及び前項に掲げる書類、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を事務所に備えて置き、請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について同項の請求があった場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除外して、同項の閲覧をさせることができる。

(情報の公表)

第37条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。

一 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届出をしたとき 寄附行為の内容

二 監査報告書を作成したとき 当該監査報告書の内容

三 財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿(個人の住所に係る記載の部分を除く。)を

作成したとき これらの書類の内容

四 役員に対する報酬等の支給の基準を定めたとき 当該報酬等の支給の基準
(役員の報酬)

第38条 役員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。
(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第39条 この法人は、予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の多数により議決しなければならない。

(資産)

第40条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第41条 この法人の資産は、これを分けて基本財産及び運用財産とする。

2 基本財産は、この法人の設置する大学及びこの法人が行う放送の業務に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。

3 運用財産は、この法人の設置する大学の経営及びこの法人が行う放送の業務に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。

4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

(借入金)

第42条 この法人は、理事会における理事総数の3分の2以上の多数による議決により、借入金をする事ができる。

2 この法人は、弁済期限が1年を超える資金を借り入れようとするときは、償還計画を立てて、主務大臣の認可を受けなければならない。

(重要な財産の譲渡等)

第43条 この法人は、放送大学学園法施行規則(平成15年総務省・文部科学省令第2号)第4条に規定する重要な財産を譲り受け、譲渡し、交換し、又は担保に供しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の多数により議決し、主務大臣の認可を受けなければならない。

(積立金の保管)

第44条 基本財産及び運用財産中の積立金は、国債等の確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な金融機関への預金、若しくは郵便貯金として理事長が保管する。

(出資の制限)

第45条 この法人は、次の者に出資することができない。

- 一 放送法第2条第23号に規定する基幹放送事業者又は同法第2条第24号に規定する基幹放送局提供事業者
- 二 放送法第126条第1項の登録を受けた者(電気通信事業法(昭和59年法律第86号)第2条第4号に規定する電気通信事業を営む者が提供する同条第3号に規定する電気通信役務を利用して放送を行う者に限る。)

(余裕金の運用)

第46条 この法人は、次の方法による場合を除くほか、業務上の余裕金を運用してはならない。

- 一 国債等の確実な有価証券の取得
- 二 確実な金融機関への預金又は郵便貯金
- 三 信託業務を営む確実な銀行又は信託会社への金銭信託

(経費の支弁)

第47条 この法人の設置する大学の経営及びこの法人が行う放送の業務に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学収入、検定料収入、補助金収入その他運用財産をもって支弁する。

(資産総額の変更登記)

第48条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後2月以内に登記しなければならない。

(剰余金)

第49条 決算において剰余金があるときは、利益処分により積立金を計上し、又は次会計年度に繰り越すものとする。
(会計年度)

第50条 この法人の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

第9章 解散及び合併

(解散)

第51条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- 一 理事会における理事総数の3分の2以上の多数による議決及び評議員会の議決

二 この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席した理事の3分の2以上の多数による議決

三 合併

四 破産

五 文部科学大臣の解散命令

2 前項第1号に掲げる事由による解散にあっては文部科学大臣の認可を、同項第2号に掲げる事由による解散にあっては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属)

第52条 この法人が解散した場合における残余財産は、すべて国に帰属する。

(合併)

第53条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の多数により議決し、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第10章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第54条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の多数により議決し、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則(昭和25年文部省令第12号)第4条の3第1項に規定する届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席した理事の3分の2以上の多数により議決し、文部科学大臣に届け出なければならない。

第11章 雑則

(宗教教育等の制限)

第55条 この法人は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。

第12章 補則

(書類及び帳簿の備付け)

第56条 この法人は、第36条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に事務所に備えて置かななければならない。

一 役員及び評議員の履歴書

二 収入及び支出に関する帳簿及び証ひょう書類

三 その他必要な書類及び帳簿

(情報の公開)

第57条 この法人は、独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)に基づき、情報の公開を行わなければならない。

2 情報の公開に関する事項は、別にこれを定める。

(公告の方法)

第58条 この法人の公告は、第2条に規定する事務所の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第59条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及び第4条に規定する大学の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

1 平成15年9月19日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、この法人の設立の日(平成15年10月1日)から施行する。

2 この法人の設立当初の会計年度は、第43条の規定にかかわらず、その設立の日に始まり、平成16年3月31日に終わるものとする。

3 放送大学学園法の施行の際に現に存する放送大学学園の一切の権利及び義務は、国が承継する資産を除き、この法人の設立の時において、この法人が承継する。

4 この法人の設立の時における役員は、第6条及び第7条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

理事(理事長) 井上孝美

理事 石原秀昭

理事 遠藤利男

理事 大澤幸夫

理事 後藤敬三

理事 後藤祥子

理事 丹保憲仁

理事 長 尾 真
監事 北 尾 美 成
監事 西 垣 昭

附 則 (平成17年4月1日)

この寄附行為は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年3月31日)

平成21年3月31日文科科学大臣認可のこの寄附行為は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成23年6月30日)

この寄附行為は、平成23年6月30日から施行する。

附 則 (平成24年10月15日)

平成24年10月15日文科科学大臣認可のこの寄附行為は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成26年8月12日)

- 1 平成26年8月12日文科科学大臣認可のこの寄附行為は、平成26年8月12日から施行する。
- 2 改正後の第25条第2項の規定にかかわらず、第27条の2第3項各号に規定する最初の委員が選任されるまでの間における学長の任免手続については、なお従前の例による。
- 3 この寄附行為の施行の日において、現に在職する学長の任期については、その任期の残任期間と同一の期間とする。

附 則 (平成30年4月26日)

この寄附行為は、文科科学大臣認可の日(平成30年4月26日)から施行する。

附 則 (令和2年3月25日)

- 1 令和2年3月25日文科科学大臣認可のこの寄附行為は、令和2年4月1日から施行する。ただし、改正後の第29条第2項及び第30条第1項の規定は、令和2年10月1日から施行する。
- 2 この寄附行為の施行の日において、現に在職する理事長の任期については、その任期の残任期間と同一の期間とする。

附 則 (令和6年1月11日)

- 1 この寄附行為は、文科科学大臣認可の日(令和6年1月11日)から施行する。
- 2 施行日の前日において改正前の寄附行為第31条第3項第3号に掲げる学長選考会議の委員である者の任期は、改正前の寄附行為第31条第5項の規定にかかわらず、その日に満了する。

5 政府の計画および本学のビジョン

【1】第1期教育振興基本計画

第1期教育振興基本計画(抜粋)

(平成20年7月1日閣議決定)

第3章今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

(3) 基本的方向ごとの施策

基本的方向1 社会全体で教育の向上に取り組む

④ いつでもどこでも学べる環境をつくる

【施策】

◇「学び直し」の機会の提供と学習成果を社会で生かすための仕組みづくり

だれもが生涯のいつでも必要な時に学び、また、何度でも新たな挑戦を行うことができる社会の実現に向けて、情報通信技術も活用しつつ、大学・短期大学、高等専門学校、専修学校等において社会人をはじめとする幅広い学習者の要請に対応するための取組を促す。また、放送大学について、全国の受講者の要請を一層踏まえた授業内容の充実や放送のデジタル化を活かした学習環境の整備等を支援する。

さらに、学習した成果が社会で適切に評価され、活用されるよう、学習成果の評価の仕組みについて検討する。

【2】第2期教育振興基本計画

第2期教育振興基本計画(抜粋)

(平成25年6月14日閣議決定)

第2部 今後5年間に実施すべき教育上の方策

1. 社会を生き抜く力の養成

(4) 生涯の各段階を通じて推進する取組

成果目標4 (社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成等)

<5年間における具体的方策>

基本施策13 キャリア教育の充実、職業教育の充実、社会への接続支援、産学官連携による中核的専門人材、高度職業人の育成の充実・強化

【主な取組】

13-5 社会人の学び直しの機会の充実

・スキルアップ・職種転換などのキャリアアップや再就職(出産等により一度離職した女性の再就職など)などの再チャレンジを目指す社会人の学び直しをはじめ、多様なニーズに対応した教育の機会を充実するなど、大学・大学院・専門学校等の生涯を通じた学びの場としての機能を強化する。このような観点から、イノベーションの創出を支えるプログラムや、就職や円滑な転職等につながるような実践的なプログラムを教育機関と産業界等との協働により開発することを通じて、大学・大学院・専門学校等における社会人の受入れ等を推進する。また、社会人の大学等での学習については、時間的・経済的制約が課題となっている状況を踏まえ、企業等の理解の促進を含め、環境整備を行う。さらに、時間的・空間的制約がなく学ぶことが可能な放送大学をはじめとした通信教育を行う大学における科目の充実等を一層進める。

4. 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

成果目標8 (互助・共助による活力あるコミュニティの形成)

<5年間における具体的方策>

基本施策20 絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習環境・協働体制の整備推進

【主な取組】

20-4 地域における学び直しに向けた学習機能の強化

・大学等の高等教育機関は、本来、地域における生涯学習の拠点としての機能を有しており、その自主的な判断の下、生涯学習センター等も活用しながら、地域支援人材等を養成する人材認証制度の整備や学び直しの場としての公開講座の充実等、機能強化を促進する。
・また、テレビ・ラジオ放送による授業を実施し、各都道府県に学習センターを設置している等の特性を有する放送大学が、地方公共団体や他大学等と連携した授業科目や公開講演会等の充実を図り、社会人等が学びやすい学習環境を整備することを促進する。

【3】第3期教育振興基本計画

第3期教育振興基本計画（抜粋）

（平成30年6月15日閣議決定）

第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

3. 生涯学び、活躍できる環境を整える

目標（12）職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進

刻々と変化する社会に対応し、職業に関して必要な知識やスキルを身に付けて、「学び」と「労働」の循環につなげることができるよう、社会人が大学等で学べる環境の整備を推進する。

○ 社会人が働きながら学べる学習環境の整備

・放送大学において放送授業等に加えてオンライン授業の充実を図るとともに、放送大学を学び直しの機会を提供する先導的役割を果たす高等教育機関として位置付け、そのノウハウや技術を生かした、他大学・大学院、企業、行政等との連携によるプログラムの提供や各大学・大学院のプログラム開発への協力を促進する。

目標（13）障害者の生涯学習の推進

障害者権利条約の批准や障害者差別解消法の施行等も踏まえ、障害者が、学校卒業後も含めたその一生を通じて、自らの可能性を追求しつつ、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じた教育やスポーツ、文化等の様々な学習機会の整備に関する関係施策を横断的かつ総合的に推進する。

○ 大学等における学生支援の充実

・障害のある学生の在籍者数が急激に増加している高等教育段階の状況を踏まえ、各大学等における修学支援・就労支援体制の整備を促進するとともに、大学等と関係機関（福祉や労働行政機関、障害当事者団体、企業等）とが連携した取組を促進することにより、各大学等における障害のある学生の修学を支援する。また、放送大学において、テレビ授業への字幕の付与や点字試験問題の作成など、障害のある学生への学習支援を一層充実する。

5. 教育政策推進のための基盤を整備する

目標（17）ICT利活用のための基盤の整備

高等教育段階について、教育の質向上の観点からICTの利活用を積極的に推進する。また、ICTの活用による生涯を通じた学習機会の提供を推進する。

○ ICTの活用による生涯を通じた学習の推進

・放送大学におけるオンライン授業の充実など、ICTの活用による生涯を通じた学習機会の提供の推進を図る。

【4】アクションプランの変遷

	2008 (平成20) 年度 「放送大学アクション・プラン2008」	2010 (平成22) 年度 「放送大学アクション・プラン2010」	2012 (平成24) 年度 「放送大学アクション・プラン 2012」	2017 (平成29) 年度 「Vision'17ー放送大学新時代ー」	2022 (令和4) 年度 「教学Vision2027 ひとりひとりに最適な学びを放送大学から」
基本理念(抜粋)	<p>世界に羽ばたく遠隔教育の殿堂を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送大学は、すべての人びとに対して開かれた生涯学習のための大学 ・学問の知識と学習者の経験を融合させる「知識循環のプラットフォーム(共通基盤)」としての教養教育を中核に据えた高等教育研究機関を目指す。 ・多様な教育手段を使い、他大学などの教育機関や公共・民間機関との連携を促進して、質の高い生涯学習社会の実現に貢献する。 	<p>学生と大学との円滑なインターフェイスを構築し、教育を中心に据えた大学を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送大学は、すべての人びとに対して開かれた、生涯学習のための大学 ・学習者の経験と学問の知識を融合させる「知識循環のプラットフォーム(共通基盤)」としての教養教育を中核に据えた高等教育研究機関を目指していく。 ・キャリアアップ支援にも力を注ぎ、資格取得を目指す学生に対するサポート体制を強化する。 ・多様な教育手段を活用することによって、世界的な水準の生涯学習機関として確立し、質の高い生涯学習社会の実現に貢献していく。 ・放送大学は、教育研究組織の充実を図りつつ、遠隔教育の手段を活用して、すべての生涯学習者に大学教育の機会を提供できるよう最大限に努力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送大学は、テレビ・ラジオ・インターネットによって学ぶことができる遠隔教育大学 ・テレビの完全地デジ化およびBSデジタル放送の開始によるアクセスしやすい環境整備と国民一般への知名度向上を踏まえ、インターネット配信等の情報通信技術の補完的利用により、さらに一層充実した教育をめざす。 	<p>Vision'17における教育理念ーGrade-up Learningの実践</p> <ol style="list-style-type: none"> ①長寿化とグローバル化の中で、地域、所得、障がい等に起因して様々な格差が拡大し、多様化する日本社会の再活性化のために、教育格差を解消しうる高度な公開性を持つ、高等教育のセーフティネットたるべきこと ②国際的な環境における競争の激化の中で、学部のみならず博士課程を含む大学院レベルでの先端的分野での教育にも、放送大学が持つ遠隔地に点在する主体間を結ぶネットワーク形成能力と単位互換・連携教育等の経験を生かして貢献すること ③総ての国民の障害を通じての教育水準の向上に貢献しうる障がい教育機関のリーダーたるべきこと 	<p>ひとりひとりに最適な学びを放送大学から</p> <p>社会的使命：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人生100年時代における生涯学習を広汎かつ多様に支援する ②職能開発・キャリアアップのための多様なリカレント教育機会を提供する ③人々に広く学位取得への道を開放する ④学術研究の推進と教育イノベーションにより高等教育の内容的および方法的進歩に寄与する
マスタープラン	<ol style="list-style-type: none"> (1)開かれた生涯学習社会への貢献 (2)知識循環型教育研究の推進 (3)多様な教育手段の活用 (4)学生の視点からの教育改革 (5)国内外の諸機関との連携 	<ol style="list-style-type: none"> (A)学生の満足度向上を目指した改革 (B)時代に即した教育改革・組織改革 (C)国際化のより一層の展開 	<ol style="list-style-type: none"> (1)卓越した教育型大学を目指す (2)多様な学生の多様なニーズに応える 	<ol style="list-style-type: none"> (1)教養教育の新時代(教育内容) (2)教育方法の新時代 (3)学習センターの新時代(教育組織) 	<ol style="list-style-type: none"> I 社会と時代の要請に応える教育改革 II 教育DXの推進とデジタルデバイドの解消 III 研究する大学としての機能の充実 IV 連携機能の充実と社会貢献
アクション・プラン	<ol style="list-style-type: none"> (1)学内ネットワークの活性化 (2)回塊世代の受け入れ (3)他大学への教育サービスの拡充 (4)教員の教育力の向上 (5)TA(Teaching Assistant) およびチューター制度の創設 (6)放送大学叢書(仮称)の発刊 (7)教員免許更新ならびに、資格取得への体制整備 (8)大学院博士課程の創設 (9)全国的な同窓会組織の確立 (10)広報活動の一層の促進 (11)放送大学基金の整備と募金活動 (12)国際社会における連携 	<ol style="list-style-type: none"> (1)教育の質の向上 (2)教養教育の広がりや資格取得教育の充実 (3)学習センターの機能の明確化と強化 (4)学びのコミュニティの創造 (5)新しい教材コンテンツの開発 (6)印刷教材の質の向上 (7)情報リテラシー教育の実施 (8)大学院課程の改組および新しいプログラム／コースの新設 (9)知識循環型教育研究の展開 (10)国際社会における連携推進 	<ol style="list-style-type: none"> (1)カリキュラムの改善 (2)よりよい教材の提供 (3)電子媒体による学習支援の充実 (4)新しい教育手法の蓄積と再利用 (5)大学院の充実と質保証 (6)「開かれた大学」を積極的に活かす弾力的な機会の提供 (7)学習センターの機能の拡充と充実 (8)学習センターの地域リーダー育成支援と地域貢献 (9)図書情報サービスの充実 (10)国際化の推進 	<ol style="list-style-type: none"> (1)新しい教養教育体系の構築 (2)教育内容の多様化と柔軟な積み重ねの深化 (3)新しい科目提供方法及び制作方法の開発 (4)高等教育機関及び社会的諸組織との連携の強化 (5)放送メディアの多様化への対応 (6)オンライン授業委及び電子化のいっそうの展開 (7)学生参加と学びの共同体の実質化 (8)学習センターの機能強化 (9)国際化の促進 (10)IRシステムの整備と活用 	<ol style="list-style-type: none"> ①リカレント教育の拡充による学び直し支援 ②数理・データサイエンス・AI関連の教育強化 ③カリキュラム体系の再構築および科目制作方法の改革 ④ニーズに応じたメディア授業の拡充と多様化 ⑤単位認定試験のIBT化による科目受講の柔軟化 ⑥デジタルデバイドの解消推進 ⑦研究者および大学院教育のための研究環境整備 ⑧メディア教育研究開発機能の充実 ⑨IRの組織的体系化による教育調査研究の質向上 ⑩学び合いと地域連携の場としての学習センター ⑪他大学等との連携・単位互換方式の推進 ⑫国際化と社会貢献

6 名簿

【1】歴代役員

職名	氏名	在職期間	備考
理事長	藤田 健治	1981年7月1日～1983年6月30日	
	香月 秀雄	1983年7月1日～1986年7月15日	
	宮地 貴一	1986年7月16日～1991年6月30日	
	阿部 充夫	1991年7月1日～1997年6月30日	
	井上 孝美	1997年7月15日～2005年9月30日	
	御手洗 康	2005年10月1日～2011年3月31日	
	白井 克彦	2011年4月1日～2017年3月31日	
	有川 節夫	2017年4月1日～2022年1月31日	
	高橋 道和	2022年4月1日～	
理事（学長）	香月 秀雄	1983年4月1日～1989年4月30日	
	甲田 和衛	1989年5月1日～1992年3月31日	
	小尾 信彌	1992年4月1日～1998年3月31日	
	吉川 弘之	1998年4月1日～2001年4月30日	
	丹保 憲仁	2001年5月1日～2007年4月30日	
	石 弘光	2007年5月1日～2011年4月30日	
	岡部 洋一	2011年5月1日～2017年3月31日	
	來生 新	2017年4月1日～2021年3月31日	
岩永 雅也	2021年4月1日～		
理事（総務）	大塚 喬清	1981年7月1日～1987年6月30日	
	久保庭信一	1987年10月16日～1989年6月30日	
	齊藤 諦淳	1989年7月1日～1994年6月30日	
	福田 昭昌	1994年7月1日～1997年11月16日	
	泊 龍雄	1997年11月17日～2001年1月18日	
	大澤 幸夫	2001年1月19日～2005年12月31日	
	梶野 慎一	2006年1月1日～2008年7月11日	
	樋口 修資	2008年7月12日～2009年3月30日 2009年4月1日～2009年7月13日	非常勤
	惣脇 宏	2009年7月14日～2010年7月30日	
	大西 珠枝	2010年8月1日～2013年9月30日	
	石野 利和	2013年10月1日～2017年1月11日	
	永山 賀久	2017年1月13日～2018年10月15日	
	山下 和茂	2018年10月16日～2021年3月30日	
	内藤 敏也	2022年5月1日～	
理事（財務）	石井 直一	1982年7月1日～1986年6月30日	
	西澤 裕	1987年7月16日～1992年7月14日	
	兵藤 廣治	1992年7月15日～1996年7月25日	
	野田 政昭	1996年7月26日～2002年6月30日	
	後藤 敬三	2002年7月23日～2005年6月23日	
	二宮 洋二	2005年6月28日～2008年9月30日	
	山本 勝彦	2008年10月1日～2011年9月30日	
	栗山 芳孝	2011年10月1日～2015年9月30日	
	多田 誠一	2015年10月1日～2017年9月30日	
	平井 光夫	2017年10月1日～2019年6月29日	
	鵜田 晋幸	2019年6月30日～2021年7月1日	
	高野 寿也	2021年7月2日～2023年6月30日	
	樽川 流	2023年7月1日～	
理事（放送）	平野 正雄	1986年7月1日～1987年6月30日	
	森島 展一	1987年7月1日～1990年6月15日	
	中津川英雄	1990年8月1日～1996年6月17日	
	岡井 元	1996年7月16日～1999年6月30日	
	麩 昭男	1999年8月1日～2001年7月31日	
	田中 征治	2001年8月1日～2003年7月31日	
	石原 秀昭	2003年8月15日～2005年8月1日	
	鬼頭 達男	2005年9月1日～2007年8月31日	
松井 房樹	2007年9月1日～2009年7月13日		

職名	氏名	在職期間	備考
	吉室 誠	2009年7月14日～2010年7月26日	
	河内 正孝	2010年7月27日～2013年6月27日	
	児玉 俊介	2013年6月28日～2015年7月30日	
	奥 英之	2015年7月31日～2017年7月16日	
	田中 宏	2017年7月17日～2019年3月31日	
理事(放送・情報)	森 孝	2019年4月1日～2021年6月30日	2019年10月1日より理事(放送・情報)
	久恒 達宏	2021年7月1日～2023年7月6日	
	中西 悦子	2023年7月7日～	
理事(学務)	岡部 洋一	2009年4月1日～2011年3月31日	
	本間 博文	2011年4月1日～2011年4月30日	
	二宮 皓	2011年5月30日～2013年3月31日	
	吉田 光男	2013年4月1日～2014年3月31日	
	來生 新	2014年4月1日～2017年3月31日	
	岡田 光正	2017年4月1日～2021年3月31日	
	近藤 智嗣	2021年4月1日～	
監事	肥後 昭一	1982年7月1日～1988年6月30日	
	久保庭信一	1989年7月1日～1990年9月30日	
	阿部 充夫	1990年10月1日～1991年6月30日	
	菱村 幸彦	1991年7月1日～1993年6月30日	
	前畑 安弘	1993年7月15日～1994年8月9日	
	内田 弘保	1994年8月10日～1995年7月14日	
	泊 龍雄	1995年8月1日～1997年11月16日	
	藤田不二男	1997年11月17日～2002年8月13日	
	北尾 美成	2002年8月14日～2005年3月31日	
	御手洗 康	2005年4月1日～2005年9月30日	
	杉浦 哲郎	2005年10月16日～2008年3月31日	
	上條 哲男	2008年5月1日～2013年12月31日	
	関口 一材	2014年1月1日～2018年4月30日	
	三島 良直	2018年6月1日～2020年5月31日	
理事(非常勤)	香月 秀雄	1981年7月1日～1983年3月31日	千葉大学長
	高梨 公之	1981年7月1日～1987年6月30日	日本大学総長
	川上 行蔵	1981年7月1日～1987年6月30日	日本放送協会顧問
	向坊 隆	1983年4月16日～1987年6月30日	元東京大学総長
	石井 直一	1986年7月1日～1987年9月4日	元大蔵省印刷局長
	青木 生子	1987年7月1日～1993年6月30日	日本女子大学長
	田中 武志	1987年7月1日～1993年6月30日	日本放送協会顧問
	大塚 喬清	1987年7月1日～1987年10月15日	元京都大学事務局長
	田中 郁三	1987年10月16日～1990年6月30日	東京工業大学長
	前川 正	1990年7月1日～1992年6月30日	群馬大学長
	井村 裕夫	1992年7月1日～1998年6月30日	京都大学総長
	宮本美沙子	1993年7月1日～2001年6月30日	日本女子大学長
	堀井 良殷	1993年7月1日～1994年12月15日	株式会社NHK文化センター専務取締役
	阿部 博之	1998年7月1日～2000年6月30日	東北大学総長
	長尾 眞	2000年7月1日～2004年3月31日	前国立大学協会会長 京都大学総長
	遠藤 利男	2001年7月1日～2007年9月30日	NHKエンタープライズ顧問
	後藤 祥子	2001年7月1日～2009年9月30日	学校法人日本女子大学理事長・日本女子大学学長
	植田 豊	1999年1月1日～2001年6月30日	株式会社NHK文化センター代表取締役社長
	梶山 千里	2004年6月1日～2009年5月25日	社団法人国立大学協会副会長 国立大学法人九州大学総長
	井上 明久	2009年5月26日～2012年8月30日	社団法人国立大学協会副会長 国立大学法人東北大学総長
	香川 征	2012年8月31日～2013年9月30日	一般社団法人国立大学協会副会長 国立大学法人徳島大学長
	里見 進	2013年10月1日～2015年9月30日	一般社団法人国立大学協会副会長 国立大学法人東北大学長
	蟻川 芳子	2009年10月1日～2013年9月30日	学校法人日本女子大学理事長・日本女子大学学長
	佐藤 和人	2013年10月1日～2017年9月30日	学校法人日本女子大学理事長・日本女子大学学長
	山村 裕義	2007年10月1日～2013年9月30日	株式会社NHK文化センター経営主幹

職名	氏名	在職期間	備考
	原田 豊彦	2013年10月1日～2017年9月30日	日本放送協会学園特別経営主幹
	永田 恭介	2015年10月1日～2021年9月30日	一般社団法人国立大学協会会長 国立大学法人筑波大学長
	田中 優子	2017年10月1日～2021年3月31日	法政大学総長
	太田 文雄	2017年10月1日～2019年9月30日	前学校法人日本放送協会学園理事長
	中山 俊憲	2021年10月1日～2023年9月30日	国立大学法人千葉大学長
	高橋 裕子	2021年10月1日～	津田塾大学長
	浜田 泰人	2019年10月1日～2021年9月30日	学校法人NHK学園理事長
	佐々木泰子	2023年10月16日～	国立大学法人お茶の水女子大学長
	篠原 朋子	2021年10月1日～2023年8月30日	学校法人NHK学園理事長
	等々力 健	2023年8月31日～	学校法人NHK学園理事長
監事（非常勤）	中山 素平	1981年7月1日～1983年6月20日	日本興業銀行特別顧問
	松田 道夫	1983年7月1日～1989年6月30日	元関東管区行政監察局長
	荒木 義朗	1988年7月1日～1989年6月3日	株式会社富士銀行代表取締役会長
	大倉 真隆	1989年9月1日～1990年1月26日	株式会社横浜銀行頭取代表取締役頭取
	橋口 収	1990年5月1日～1998年6月30日	株式会社広島銀行頭取
	西垣 昭	1998年7月1日～2009年9月30日	元海外経済協力基金総裁
	清水 幹裕	2009年10月1日～2015年9月30日	弁護士
	石井 尚子	2015年10月1日～2021年9月30日	弁護士
	出口 利定	2020年6月1日～	前国立大学法人東京学芸大学長
	大河原遼平	2021年10月1日～	弁護士

※非常勤役員については、就任時における所屬または旧所屬を備考欄に記載。

【2】歴代学長・副学長

職名	氏名	在職期間
理事 (学長)	香月 秀雄	1983年4月1日～1989年4月30日
	甲田 和衛	1989年5月1日～1992年3月31日
	小尾 信彌	1992年4月1日～1998年3月31日
	吉川 弘之	1998年4月1日～2001年4月30日
	丹保 憲仁	2001年5月1日～2007年4月30日
	石 弘光	2007年5月1日～2011年4月30日
	岡部 洋一	2011年5月1日～2017年3月31日
	來生 新	2017年4月1日～2021年3月31日
	岩永 雅也	2021年4月1日～
副学長	小林 靖雄	1983年4月3日～1989年4月30日
	大森 莊蔵	1983年4月1日～1985年3月31日
	甲田 和衛	1985年4月1日～1989年4月30日
	小尾 信彌	1989年5月1日～1992年3月31日
	嘉治 元郎	1989年5月1日～1999年3月31日
	毛利 秀雄	1992年4月1日～1995年3月31日
	阿部 龍蔵	1995年4月1日～1999年3月31日
	麻生 誠	1999年4月1日～2004年3月31日
	渡邊 守章	1999年4月1日～2004年3月31日
	大橋 英寿	2004年4月1日～2007年4月30日

職名	氏名	在職期間
	中島 尚正	2004年4月1日～2005年4月30日
	柏倉 康夫	2005年5月1日～2007年4月30日
	岡部 洋一	2007年5月1日～2011年3月31日
	荻野 博	2007年5月1日～2011年3月31日
	本間 博文	2009年4月1日～2011年4月30日
	濱田 嘉昭	2011年4月1日～2011年4月30日
		2011年4月1日～2011年4月30日
	二宮 皓	2011年5月2日～2013年3月31日
	吉田 光男	2011年5月2日～2014年3月31日
	來生 新	2011年5月2日～2017年3月31日
	小寺山 亘	2013年4月1日～2017年3月31日
	宮本みち子	2014年4月1日～2018年3月31日
	岡田 光正	2017年4月1日～2021年3月31日
	池田 龍彦	2017年4月1日～2021年3月31日
	隈部 正博	2021年4月1日～2023年3月31日
	菊川 律子	2021年4月1日～2023年3月31日
	加藤 和弘	2023年4月1日～
	林 徹	2023年4月1日～

編集後記

本学は、日本における生涯学習・遠隔教育の最高学府として設立されてから、2023（令和3）年4月で40周年をむかえ、同年10月には記念式典が挙行された。本学ではこれまで10年ごとに年史を刊行してきたが、本書は2015年3月刊行の『放送大学30年史』に体裁を倣い、その記述も生かしながら、その後の10年間の動きを補う方針で編纂された。

この10年間の動きをみると、2009（平成21）年に放送衛星を利用したBSデジタル放送が採用されたことにより、2018（平成30）年9月に地上デジタル放送とラジオFM放送を終了したが、同年10月からBS231チャンネルにより生涯学習支援番組を、BS232チャンネルによりテレビ授業番組を、BS531チャンネルによりラジオ授業番組を全国で視聴できる体制になった。2023（令和5）年4月からは、テレビ授業番組と生涯学習支援番組をBS231チャンネルに集約し、すべての番組をハイビジョン画質で視聴可能とした。

2009（平成21）年にメディア教育開発センターの業務と教員を引き継いで本学に設置されたICT活用・遠隔教育センターは、2013（平成25）年4月に教育支援センターに改組され、教育支援センターは2017（平成29）年4月にオンライン教育センターに改組され、オンライン教育センターは2024（令和6）年4月に次世代教育研究開発センターに改組された。また2013年度に学部情報コース、大学院修士課程に情報学プログラムが置かれたが、2018年度には大学院博士後期課程にも情報学プログラムが置かれた。

また、2020（令和2）年からのコロナ禍に本学も真剣に向き合ってきたが、その成果として、ライブWeb授業が創設され、単位認定試験のIBT化が進められた。

本書の編纂を進めるために、2022（令和4）年6月に編纂委員会が発足した。全学協力体制の下に編纂事業を遂行した。編纂委員会の定めた章立てに従って、編纂委員が章単位で執筆を分担したが、各章の執筆にあたっては、その章のテーマに関係の深い教職員の協力をいただいた場合も多い。全体としての調整と校正は編纂主幹と編纂室のメンバーが行い、また理事長・学長・総務担当理事（編纂委員長）による校閲もいただいたが、内容の最終的な責任は、編纂主幹が負うものである。

本書の編纂にあたって、学内外の多くの方々からご協力・ご支援をいただいたことについて、あらためて深い感謝の意を表したい。

2025年2月

放送大学40年史編纂委員会編纂主幹 近藤成一

■記述編執筆分担

	執筆担当者	執筆協力者
第1章	橋本 鉦市 教授	
第2章	山田 恒夫（広瀬 洋子）教授	岩永 雅也 学長、中谷 多哉子 教授、 青木 久美子 教授、森 津太子 教授、 大西 仁 教授、柳沼 良知 教授
第3章	奈良 由美子 教授	大橋 理枝 教授
第4章	二河 成男 教授	
第5章	杉森 哲也 教授	近藤 智嗣 副学長、野崎 歆 附属図書館長、 広瀬 洋子 特任教授、角田 哲哉 教授
第6章	石井 潔 静岡学習センター所長	
第7章	齋藤 正章 准教授	
第8章	羽鳥 政男（淵上 孝 土生木 茂雄）事務局長	

（ ）内は当初または編纂途中までの執筆担当者

■編纂委員

◎里見 朋香 (内藤 敏也) 理事 近藤 智嗣 理事・副学長 ○近藤 成一 特任教授
奈良 由美子 教授 橋本 敏市 教授 齋藤 正章 准教授 杉森 哲也 教授
山田 恒夫 (広瀬 洋子) 教授 二河 成男 教授 石井 潔 静岡学習センター所長
辰 己 丈夫 教授 羽鳥 政男 (淵上 孝 土生木 茂雄) 事務局長
石田 裕美 (伊藤 嘉規 田中 聡明) 審議役 北原 文幸 (丸山 和伯) 財務部長
高橋 慶匡 (金澤 哲哉) 学務部長 荒井 幸男 (伊藤 元業) 情報部長
斉藤 康弘 (住友 貴広) 放送部長 足立 圭介 (大塚 秋人) 制作部長
山本 学 参事役・総務課長 松本 裕史 広報課長
杉江 達也 (田村 卓也) 総合戦略企画室長
()内は当初または編纂途中までの委員名 ◎編纂委員長 ○編纂主幹

■放送大学40年史編纂室等

(持永 新) (山田 雄也) (上妻 賢太郎) (松本 雄一) (梶原 佳奈子) (筒井 友恵)
河村 香保 川村 千夏 谷平 泰晃 相良 たまみ 関根 玲奈 市橋 照子
()内は当初または編纂途中までの担当者名

放送大学40年史

The 40-year History of the Open University of Japan

発行日 2025年2月28日

編集 放送大学40年史編纂委員会

発行 放送大学学園

〒261-8586

千葉県美浜区若葉2-11

電話 043-276-5111 (代表)

デザイン・印刷 電算印刷株式会社

・本書掲載記事の無断転載を禁じます。

 放送大学学園